

館山市長須賀条里制遺跡・北条条里制遺跡

——国道410号（北条）埋蔵文化財調査報告書1——

平成16年3月

千葉県土木部

財団法人 千葉県文化財センター

たて やま なが す か じょう り せい
館山市長須賀条里制遺跡・北条条里制遺跡

— 国道410号（北条）埋蔵文化財調査報告書1 —





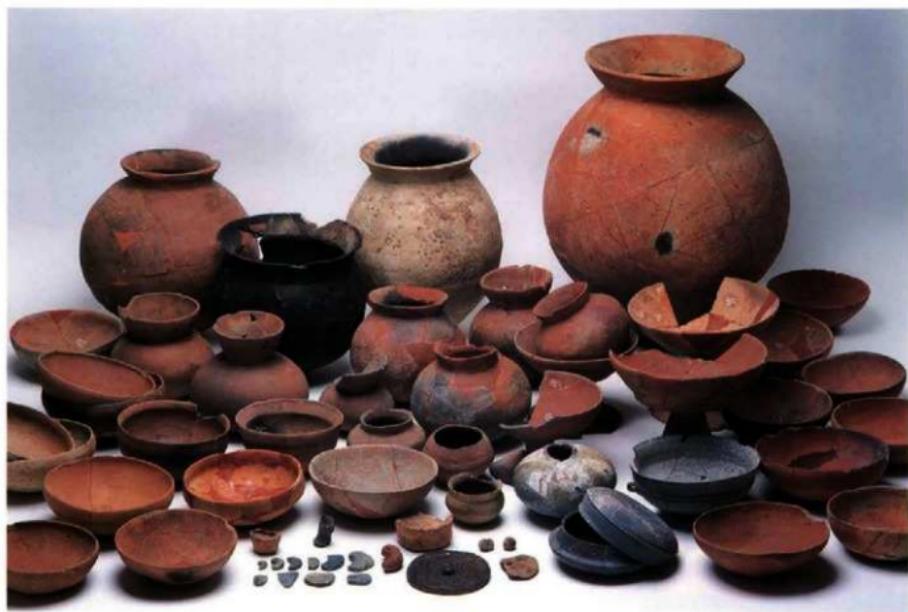
DSD-1 出土遺物



DSD-1 出土 子持勾玉



ESD-1 (K1・D1)



ESD-1 出土遺物



ESD-1 出土 銅鏡



出土貿易陶磁器

序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第474集として、千葉県土木部の国道410号建設事業に伴って実施した館山市長須賀条里制遺跡・北条条里制遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、古墳時代の水田跡や水際祭祀跡、古代の条里型水田などが発見されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また地域の歴史解明の資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成16年3月25日

財団法人千葉県文化財センター

理 事 長 清 水 新 次

凡　例

1 本書は、千葉県土木部による国道410号（北条）建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2 本書は下記の遺跡を収録したものである。

長須賀条里制遺跡 千葉県館山市下真倉字舞台105ほか (遺跡コード 205-002)

北条条里制遺跡 千葉県館山市北条951ほか (遺跡コード 205-004)

本書で報告する北条条里制遺跡の調査区は、「千葉県埋蔵文化財分布地図(4)一君津・夷隅・安房地区（改訂版）」（財団法人千葉県文化財センター 2000）においては長須賀条里制遺跡の範囲に含まれるが、本書では発掘調査時の遺跡名で報告する。

3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県土木部の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。

4 発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は本文中に記載した。

5 本書の執筆は、副所長兼主席研究員 上屋治雄が第1章第2節2を、研究員 城田義友が第1章第1節・第2節1を担当し、その他は研究員 高梨友子が担当した。

6 木製品の樹種同定及び保存処理については財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所と株式会社東都文化財保存研究所にそれぞれ委託した。また、土壤の自然科学分析はパリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、その成果を付章に掲載した。

7 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、千葉県館山土木事務所、館山市教育委員会、県立安房博物館、藍澤正宏氏、大野努氏、生貝正徳氏、大谷弘幸氏、大原正義氏、岡田茂弘氏、神野信氏、笛生衛氏、白井久美子氏、杉江敬氏、竹内順一氏、永嶋正春氏、平川南氏、宮本長二郎氏、山田敏史氏、渡辺修一氏の御指導・御協力を得た。

8 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。

第1図 国土地理院発行 1/25,000地形図「館山」 (NI-54-26-3)

国土地理院発行 1/25,000地形図「千倉」 (NI-54-26-3-1)

第2図・第155図 館山市役所発行 1/2,500地形図No.26 (C5-0063-0065)

館山市役所発行 1/2,500地形図No.27 (C5-0061-0063)

- 9 周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による昭和42年撮影のものを使用した。
- 10 本書で使用した図面の方位はすべて座標北である。測量値については日本測地系を使用した。
- 11 遺構名については原則的に発掘調査時の名称の先頭に調査区名をつけて呼称することとしたが、整理段階で遺構名を変えたものもある。新旧遺構名の対応関係は第2表のとおりである。また、発掘調査時に暫定的に使用された調査区名は、以下のように振り替えた。
- E 0 区→1 Y グリッド E 2 区→1 A A グリッド
- なお、遺物への注記は全て旧遺構名・旧調査区名で行っている。
- 12 遺物計測表（第4表～第12表）中の()付き数値は、完形でない場合の現存値である。ただし、砥石・火打石に限っては、全て()無しで現存値とした。
- 13 遺物実測図の黒塗りの断面は、須恵器を表している。
- 14 転用磁石の実測図において、矢印は、使用されている破断面の部分を表している。矢印のないものは、破断面全てが使用されていることを表す。
- 15 木製品実測図の断面に表現した年輪は、木取りを模式的に表現したもので、実際の年輪を表したものではない。
- 16 掃団に使用したスクリーントーン及び記号の用例は、特に指示のない限り以下のとおりである。



本文目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 遺跡の位置と環境	1
1 地理的環境	1
2 歴史的環境	1
第3節 調査の方法と経過	3
第4節 基本層序	8
第2章 長須賀条里制遺跡	13
第1節 A区	13
1 概要	13
2 条里型水田	13
3 溝状遺構	13
4 犬状遺構	13
5 出土遺物	15
第2節 B区	17
1 概要	17
2 小区画水田	17
3 溝状遺構	19
4 出土遺物	19
第3節 確認調査AB区	21
1 出土遺物	23
第4節 C区	24
1 概要	24
2 溝状遺構	24
3 土坑	37

4 ピット群	44
5 遺構外出土遺物	45
第5節 D区	46
1 概要	46
2 旧河道	46
3 溝状遺構	61
4 土坑	61
5 遺構外出出土遺物	62
第6節 確認調査CD区	63
1 出上遺物	63
第7節 E区	65
1 概要	65
2 溝状遺構	66
3 土坑	94
4 旧河道	102
5 ピット群	111
6 水田面	111
7 遺構外出出土遺物	113
第8節 F区	114
1 概要	114
2 捜立柱建物跡	114
3 溝状遺構	117
4 土坑	120
5 ピット群	124
6 中世遺物包含層	124
7 遺構外出出土遺物	126
第9節 確認調査EF区	126
1 出土遺物	126
第10節 金属生産関連遺物	127

第3章 北条条里制遺跡	142
第1節 概要	142
第2節 出土遺物	142
第4章 まとめ	143
第1節 弥生時代以前	143
第2節 古墳時代	143
第3節 古代以降	145
付章 長須賀条里制遺跡の稻作について	146
報告書抄録	卷末

挿図目次

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡	2	第23図 CSD-1出土遺物(2)	29
第2図 調査区割と調査年次	4	第24図 CSD-2a・2b・3	30
第3図 確認トレンチ・本調査区配置図(1)	5	第25図 CSD-2a・2b・3上層断面図	31
第4図 確認トレンチ・本調査区配置図(2)	6	第26図 CSD-2a・2b・3出土遺物(1)	32
第5図 確認トレンチ・本調査区配置図(3)	7	第27図 CSD-2a・2b・3出土遺物(2)	33
第6図 基本層序	9	第28図 CSD-4	34
第7図 土層柱状図	10	第29図 CSD-5	35
第8図 A区遺構配置図	14	第30図 CSD-4出土遺物	36
第9図 A区断面図	15	第31図 CSD-5出土遺物	36
第10図 A区出土遺物(1)	16	第32図 CSD-7出土遺物	36
第11図 A区出土遺物(2)	17	第33図 CSD-8出土遺物	36
第12図 B区遺構配置図	18	第34図 CSD-10出土遺物	37
第13図 B区断面図	19	第35図 CSK-1と出土遺物	38
第14図 B区出土遺物	20	第36図 CSK-2と出土遺物	39
第15図 AB区出土遺物(1)	21	第37図 CSK-4	39
第16図 AB区出土遺物(2)	22	第38図 CSK-5	40
第17図 AB区出土遺物(3)	23	第39図 CSK-8	40
第18図 C区遺構配置図(1)	25	第40図 CSK-11	40
第19図 C区遺構配置図(2)	26	第41図 CSK-13	40
第20図 CSD-1	27	第42図 CSK-16と出土遺物	41
第21図 CSD-1土層断面図	28	第43図 CSK-17・CSK-18・CSK-19・CSK-20と 出土遺物	41
第22図 CSD-1出土遺物(1)	28		

第44 図 CSK-21	42	第81 図 ESD-1(K1・D1)木棧蓋板除去状況	74
第45 図 CSK-23	42	第82 図 ESD-1出土遺物(1)	75
第46 図 CSK-24	42	第83 図 ESD-1出土遺物(2)	76
第47 図 CSK-22と出土遺物	42	第84 図 ESD-1出土遺物(3)	77
第48 図 C区ピット群とCSD-8・CSD-9・ CSD-10	43	第85 図 ESD-1出土遺物(4)	78
		第86 図 ESD-1出土遺物(5)	79
第49 図 C区ピット群出土遺物	44	第87 図 ESD-1出土遺物(6)	80
第50 図 C区遺構外出土遺物	45	第88 図 ESD-1出土遺物(7)	81
第51 図 D区遺構配置図	47	第89 図 ESD-1出土遺物(8)	82
第52 図 DSD-1(1)	48	第90 図 ESD-1出土遺物(9)	83
第53 図 DSD-1(2)	49	第91 図 ESD-1出土遺物(10)	84
第54 図 DSD-1出土遺物(1)	50	第92 図 ESD-1出土遺物(11)	85
第55 図 DSD-1出土遺物(2)	51	第93 図 ESD-1出土遺物(12)	86
第56 図 DSD-1出土遺物(3)	52	第94 図 ESD-1出土遺物(13)	87
第57 図 DSD-1出土遺物(4)	53	第95 図 ESD-1出土遺物(14)	88
第58 図 DSD-1出土遺物(5)	54	第96 図 ESD-1出土遺物(15)	89
第59 図 DSD-1出土遺物(6)	55	第97 図 ESD-1出土遺物(16)	90
第60 図 DSD-1出土遺物(7)	56	第98 図 ESD-1(D4)・(K1・D1)・(K2)・(K4)	
第61 図 DSD-1出土遺物(8)	57	出土遺物	92
第62 図 DSD-1出土遺物(9)	58	第99 図 ESD-2出土遺物	92
第63 図 DSD-1出土遺物(10)	59	第100 図 ESD-6出土遺物	92
第64 図 DSD-1出土遺物(11)	60	第101 図 ESD-10出土遺物	92
第65 図 DSD-1出土遺物(12)	61	第102 図 ESD-7出土遺物	92
第66 図 DSD-2出土遺物	61	第103 図 ESD-8出土遺物	93
第67 図 DSK-1	62	第104 図 ESK-1と出土遺物	95
第68 図 DSK-2	62	第105 図 ESK-2・ESK-4	95
第69 図 D区遺構外出土遺物	62	第106 図 ESK-3	96
第70 図 CD区出土遺物(1)	63	第107 図 ESK-5	97
第71 図 CD区出土遺物(2)	64	第108 国 ESK-6	97
第72 国 CD区出土遺物(3)	65	第109 国 ESK-7	98
第73 国 E区遺構配置図(1)	66	第110 国 ESK-9	98
第74 国 E区遺構配置図(2)	67	第111 国 ESK-10と出土遺物	98
第75 国 ESD-1(1)	69	第112 国 ESK-11と出土遺物	99
第76 国 ESD-1(2)・ESD-2	70	第113 国 ESK-12と出土遺物	99
第77 国 ESD-1(3)・ESD-7・ESD-8	71	第114 国 ESK-13と出土遺物	100
第78 国 ESD-1土層断面図	72	第115 国 ESK-14と出土遺物	100
第79 国 ESD-1(K1・D1)	73	第116 国 ESK-15と出土遺物	101
第80 国 ESD-1(K1・D1)木棧	74	第117 国 ESK-16	101

第118図 ESK-18	101	第139図 FSK-1・FSK-2	121
第119図 ESK-17・ESK-19	101	第140図 FSK-3と出土遺物	121
第120図 ESK-20	102	第141図 FSK-4	121
第121図 ESK-21	102	第142図 FSK-6と出土遺物	122
第122図 ESX-1	103	第143図 FSK-8	122
第123図 ESX-1土層断面図	104	第144図 FSK-9	122
第124図 ESX-1塚	104	第145図 FSK-11と出土遺物	123
第125図 ESX-1出土遺物(1)	106	第146図 FSK-13	123
第126図 ESX-1出土遺物(2)	107	第147図 FSK-16	123
第127図 ESX-1出土遺物(3)	108	第148図 FSK-15・FSK-18	125
第128図 ESX-1出土遺物(4)	109	第149図 F区ピット群出土遺物	125
第129図 ESX-1出土遺物(5)	110	第150図 FSX-1出土遺物	125
第130図 E区ピット群出土遺物	111	第151図 FF区遺構外出土遺物	126
第131図 E区遺構外出土遺物(1)	112	第152図 EF区出土遺物	126
第132図 E区遺構外出土遺物(2)	113	第153図 金属生産関連遺物	128
第133図 F区遺構配置図(1)	115	第154図 北条条里制遺跡出土遺物	142
第134図 F区遺構配置図(2)	116	第155図 弥生時代～古代の遺構	144
第135図 F区遺構配置図(3)	117	第156図 土サンプル採取地点土層柱状図	146
第136図 FSB-1・FSB-2・FSB-4	118	第157図 各層の植物珪酸体組成	147
第137図 FSD-3出土遺物	119	第158図 植物珪酸体	149
第138図 FSD-8出土遺物	119		

表 目 次

第1表 長須賀条里制遺跡・北条条里制遺跡 発掘・整理の作業内容と担当一覧表	7
第2表 長須賀条里制遺跡 遺構一覧表	11
第3表 長須賀条里制遺跡 金属生産関連遺物出土数量表	128
第4表 長須賀条里制遺跡 掘載石器一覧表	129
第5表 長須賀条里制遺跡 掘載木製品一覧表	130
第6表 長須賀条里制遺跡 掘載土製品一覧表	130
第7表 長須賀条里制遺跡 石製品一覧表	132
第8表 長須賀条里制遺跡 小玉類一覧表	132
第9表 長須賀条里制遺跡 掘載金属製品一覧表	135
第10表 長須賀条里制遺跡 掘載骨製品一覧表	135
第11表 長須賀条里制遺跡 掘載錢貨一覧表	135
第12表 長須賀条里制遺跡 掘載上鍤一覧表	136
第13表 長須賀条里制遺跡 中世陶磁器破片数・重量表	137
第14表 長須賀条里制遺跡 非掲載遺物重量表	140
第15表 長須賀条里制遺跡の植物珪酸体分析結果	147

図版目次

卷頭図版 1	DSD-1 出土遺物	ESD-1上層断面
	DSD-1 出土 子持勾玉	ESD-1遺物出土状況
卷頭図版 2	ESD-1 (K1・D1)	ESD-1銅鏡出土状況
	ESD-1 出土遺物	ESD-1(K1・D1)
卷頭図版 3	ESD-1 出土 銅鏡	図版15 ESD-1(K1・D1) (北西から)
	出土貿易陶磁器	ESD-1(K1・D1)と水田城 (北東から)
		ESD-1(K1・D1)木桶本体 (北東から)
図版 1	遺跡周辺航空写真	図版16 ESD-5・ESD-6 (南東から)
図版 2	A区全景	ESD-7・ESD-8 (東から)
図版 3	A区全景 (南から)	ESD-8 (東から)
	A区条里型水田畦畔 (南から)	図版17 ESX-1 (西から)
	A区条里型水田畦畔 (西から)	ESX-1遺物出土状況 (北西から)
図版 4	B区全景	ESX-1最下層遺物出土状況
図版 5	B区全景 (南東から)	図版18 ESX-1堰 (北から)
	B区小区画水田 (北から)	ESX-1堰部分 (北西から)
	B区小区画水田 (南西から)	ESX-1完掘状況 (北東から)
図版 6	C区 1次全景	図版19 ESK-1,ESK-3,ESK-5,ESK-10,ESK-11,ESK-12, ESK-13,E区 ピット群
図版 7	C区 1次全景 (南東から)	図版20 FSB-1,FSB-2,FSB-4,FSD-6,FSD-8,FSD-8, FSF-9,FSD-10
	CSD-1 (東から)	図版21 FSK-1,FSK-2,FSK-3,FSK-4,FSK-6,FSK-8, FSK-10,FSK-11,FSK-15
	CSD-1 (西から)	図版22 出土土器(1)
図版 8	CSD-2a杭列 (南東から)	図版23 出土土器(2)
	CSD-2a・2b・3 (南東から)	図版24 出土土器(3)
	CSD-2a・2b・3 (北西から)	図版25 出土土器(4)
図版 9	CSD-4 (北東から)	図版26 出土土器(5)
	CSD-5 (南東から)	図版27 出土土器(6)
	CSD-5 (北西から)	図版28 出土土器(7)
図版10	CSK-2,CSK-4とCSD-7,CSK-5,	図版29 出土土器(8)
	CSK-13土層断面,CSK-13,	図版30 出土土器(9)
	CSK-22検出状況,C区 ピット群	出土手捏類(1)
図版11	DSD-1西側 (西から)	図版31 出土手捏類(2)
	DSD-1中央部 (北東から)	出土手捏類(3)
	DSD-1中央部 (南東から)	図版32 A区出土土器・陶磁器
図版12	ESD-1 (北東から)	B区出土土器・陶磁器
	ESD-1新段階遺物出土状況 (北東から)	図版33 AB区出土土器・陶磁器(1)
	ESD-1旧段階遺物出土状況 (北から)	
図版13	ESD-1東側 (南から)	
	ESD-1西側 (東から)	

AB区出土土器・陶磁器(2)	図版44	出土木製品(2)
図版34 C区出土土器・陶磁器(1)	図版45	出土木製品(3)
C区出土土器・陶磁器(2)	図版46	出土木製品(4)
図版35 C区出土土器・陶磁器(3)	図版47	出土木製品(5)
D区出土土器	図版48	出土木製品(6)・金属製品・骨製品類・石器
図版36 DSD-1出土弥生土器	図版49	出土土製品(1)
図版37 C区, D区遺構外出土土器・陶磁器		出土土製品(2)
CD区出土土器・陶磁器		
図版38 ESX-1出土弥生土器(1)	図版50	出土小玉類(1)
図版39 ESX-1出土弥生土器(2)	図版51	出土小玉類(2)
図版40 E区出土土器・陶磁器	図版52	出土石製品
F区, EF区出土土器・陶磁器	図版53	出土軒用砥石
図版41 出土火打石・剥片石器類	図版54	出土土錘
AB区, C区, D区出土石器		出土銭貨
図版42 CD区, E区出土石器		北条条里制遺跡出土遺物
E区, EF区出土石器	図版55	金属器生産資料
図版43 出土木製品(1)		粘土質滓・黑色緻密質滓

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

千葉県土木部は、館山市街地の混雑緩和のため、国道410号のバイパス建設事業を計画した。この事業に当たって千葉県土木部は、事業予定地内の「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会を提出し、千葉県教育委員会から、事業地内に遺跡が所在する旨の回答を得た。その後、遺跡の取扱いについて両者の間で協議が重ねられ、発掘による記録保存の措置を講ずることになった。調査は財団法人千葉県文化財センターが実施することとなり、千葉県と委託契約を締結して発掘調査を実施した。

第2節 遺跡の位置と環境（第1図）

1 地理的環境

房総半島南部に位置する館山平野は、北・東・南の三方を房総丘陵に囲まれ、西側には館山湾に面した弧状の海岸線をもつ海岸平野である。平野の北部では平久里川、南部では沙入川という二級河川が館山湾に注いでいるが、この他にもいくつかの小河川が存在する。平久里川と沙入川は古来より氾濫の著しい河川であったようで、現在でもその旧河道の痕跡を見ることができる。またこの平野には海岸線に平行する大小さまざまな砂丘列が存在しているが、平久里川や沙入川の氾濫によって形成された自然堤防などと合わせ複雑な様相を呈している。

長須賀条里制遺跡と北条条里制遺跡は、このような館山平野の南部に位置し、南側を沙入川、北側を小河川（境川）、西を砂丘列、東を丘陵に囲まれた後背湿地内に立地している。

2 歴史的環境

長須賀条里制遺跡(1)・北条条里制遺跡(15)周辺には、千葉県教育委員会の埋蔵文化財分布調査により多くの遺跡の所在が確認されている。また、近年開発に伴う発掘調査が増加し貴重な成果が得られており、各時代の様相が徐々に明らかになってきている。

縄文時代は、出野尾貝塚(2)¹⁾、宮原貝塚(3)²⁾、鈍切洞穴³⁾、大塚貝塚、西ノ原貝塚、稻原貝塚、大寺山洞穴遺跡(7)⁴⁾が所在する。出野尾貝塚は海蝕洞穴遺跡である。鈍切洞穴は奥行きが37mあり県内の海蝕洞穴中もっとも深い。県指定史跡であり昭和31年に調査が行われ後期の土器や骨角製漁労具が大量に出土している。大寺山洞穴でも、千葉大学の調査により後期の洞窟利用に関する多くの貴重な知見が得られている。

弥生時代は、萱野遺跡(4)がある。弥生～奈良・平安時代の複合遺跡であり、財団法人千葉県文化財センターによる発掘調査(平成11・14年)で弥生時代、古墳時代の竪穴住居跡と、集落をめぐる環濠や多くの方形周溝墓が検出されるなど大規模な集落遺跡・墓域であることが明らかとなり、安房地域の弥生・古墳時代の様相を知る上で貴重な資料が得られている。

古墳時代は、萱野遺跡のほか館山市唯一の前方後円墳である上御狩大塚山古墳、峯古墳(5)、熊野横穴群(37基)(6)⁵⁾、大寺山洞穴遺跡(7)⁶⁾、岩井作横穴群(40基)⁷⁾、角田横穴群(50基)⁸⁾が所在する。横穴群に比べ



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡 (1:25,000)

出典: 田野原

古墳の数は比較的小ない。峯古墳は円墳で竪鈴玉、大刀の出土が確認されている。市指定史跡の大寺山洞穴遺跡では、短甲や青銅製鉢が出土しており、舟葬墓の存在が注目される。東田遺跡(8)¹⁴⁾は平成8・9年に財團法人千葉県文化財センターが発掘調査を行い古墳時代の竪穴住居跡や水路が検出され、鍛形や剣形などの土製模造品が多く出土し集落・祭祀跡であることが明らかとなった。館ノ前遺跡(9)、大戸入(沼つとるば)遺跡(10)、小網坂遺跡(11)、谷遺跡(12)も同時代の祭祀跡である。

奈良・平安時代は、県指定の安房国分寺跡(13)¹⁵⁾が所在する。条里制遺跡では本遺跡のほか亀ヶ原条里跡(14)、下の台条里跡(16)、腰越条里跡(17)、上真倉条里跡(18)をはじめ12か所の条里遺跡が所在している。館山市条里遺跡調査会により調査が行われ報告されている¹⁷⁾。

中・近世では、やぐらの分布が多く確認されている地域であるが、立地上から周辺には少ない。稻村城跡¹⁸⁾、戦国大名里見氏の居城である館山城跡(館山市指定史跡)(19)¹⁹⁾が所在し発掘調査も行われ報告されている。

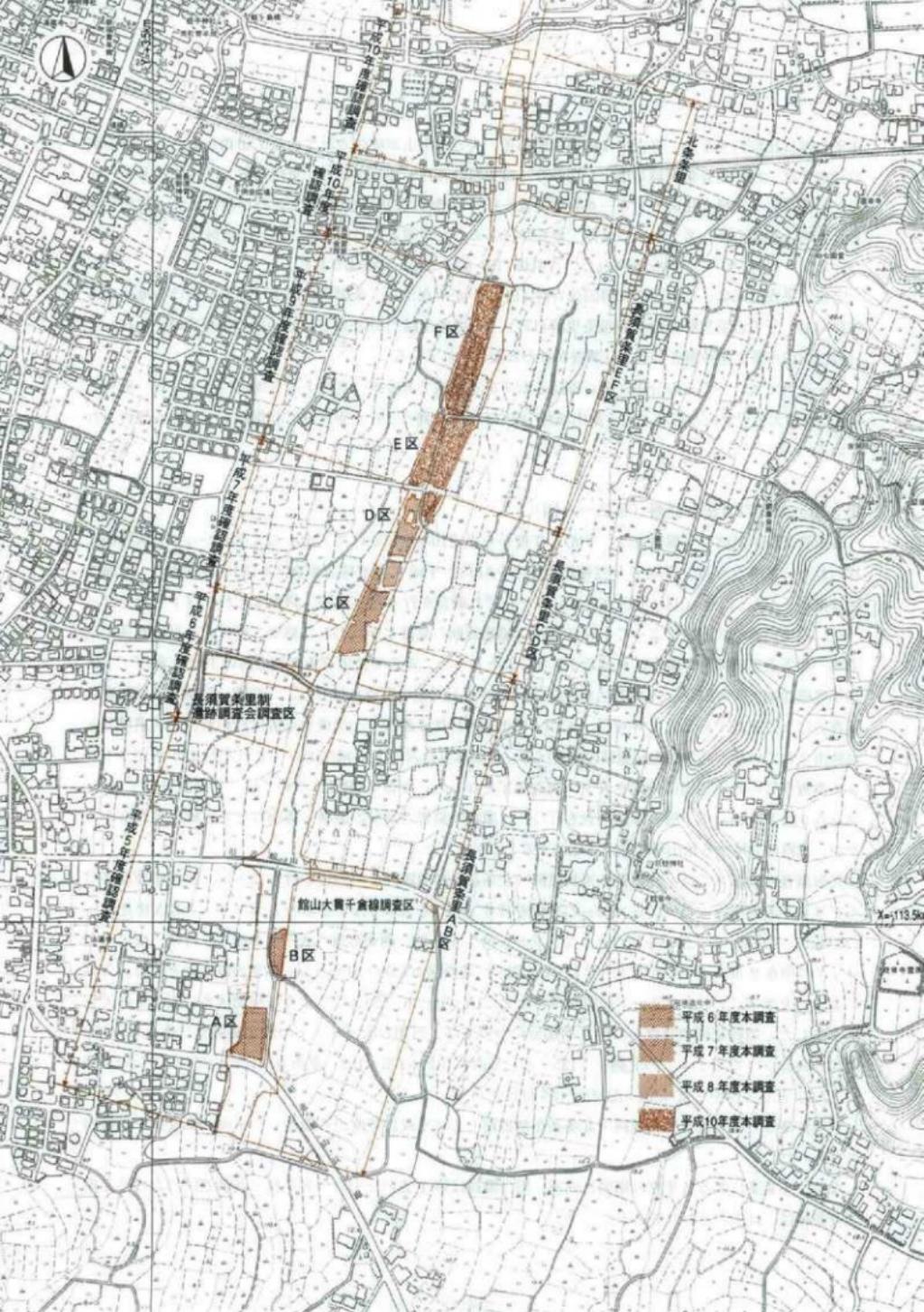
第3節 調査の方法と経過（第2～5図）

長須賀条里制遺跡の発掘調査は、平成5年度から平成10年度にかけて、南から北へ向かって、断続的に行われた。平成5年度・平成6年度確認調査区をAB区、平成7年度確認調査区をCD区と呼称し、本調査区は南からA区・B区・C区・D区と設定してそれぞれ調査を行った。当初、調査はそれで終了予定であったが、遺構の検出状況等によって平成9年度に遺跡範囲の見直しが行われた結果、更に北へ長須賀条里制遺跡・北条条里制遺跡の調査区が設定されることになった。そこで長須賀条里制遺跡の平成9年度・平成10年度確認調査区をEF区、本調査区をE区・F区と呼称して更に調査を行った。この間、長須賀条里制遺跡調査会による調査²⁰⁾が平成6年度に、館山大貫千倉線に伴う調査²¹⁾が平成11年度に行われ、溝状遺構などが検出されている。北条条里制遺跡の調査区は、橋脚部分のみの5か所であり、それぞれ1か所ずつトレンチ調査を行ったが遺構は検出されず、調査終了となった。なお、AB区については、上層調査終了後に、クラムシェルを使って下層の確認調査も行った。調査の結果、下層の遺構・遺物はともに検出されなかつたが、遺跡の立地する地山層の様子を確認することができた。

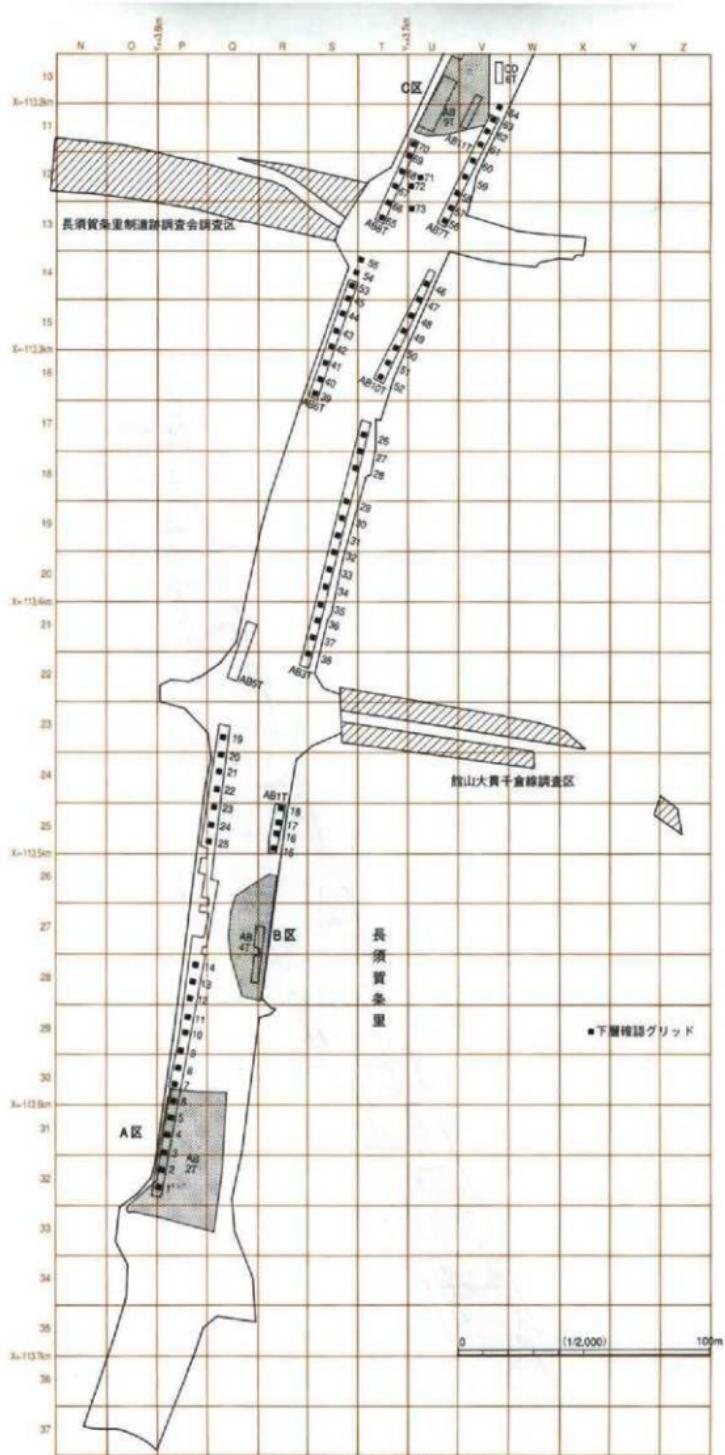
発掘調査に当たっては、長須賀条里制遺跡・北条条里制遺跡とその周辺を含むように、公共座標に基づくグリッド設定を行った。20m×20mの方眼を被せ、それを大グリッドとした。大グリッドはX座標=−113.0km、Y座標=+3.5kmを起点として、北から南へ1～33、西から東へA～Zの記号を付け、更に大グリッドの中を2m×2mの小グリッドに100分割し、北西隅から00・01…とし、南東の隅を99とした。これにより、大グリッドと小グリッドの組み合わせで、1A・01、2C・55というように小地区名の表示を行えるようにした。遺跡範囲の見直しに伴う増加分については、当初の大グリッドの設定範囲外にあたるため、南北方向については「1」の北側を「125」として南から北へ125～103、東西方向については「Z」の東側を「AA」として西から東へAA～AEの記号を付けた。

整理作業は、長須賀条里制遺跡・北条条里制遺跡とともに平成11年度から開始し、平成15年度まで断続的に行われた。

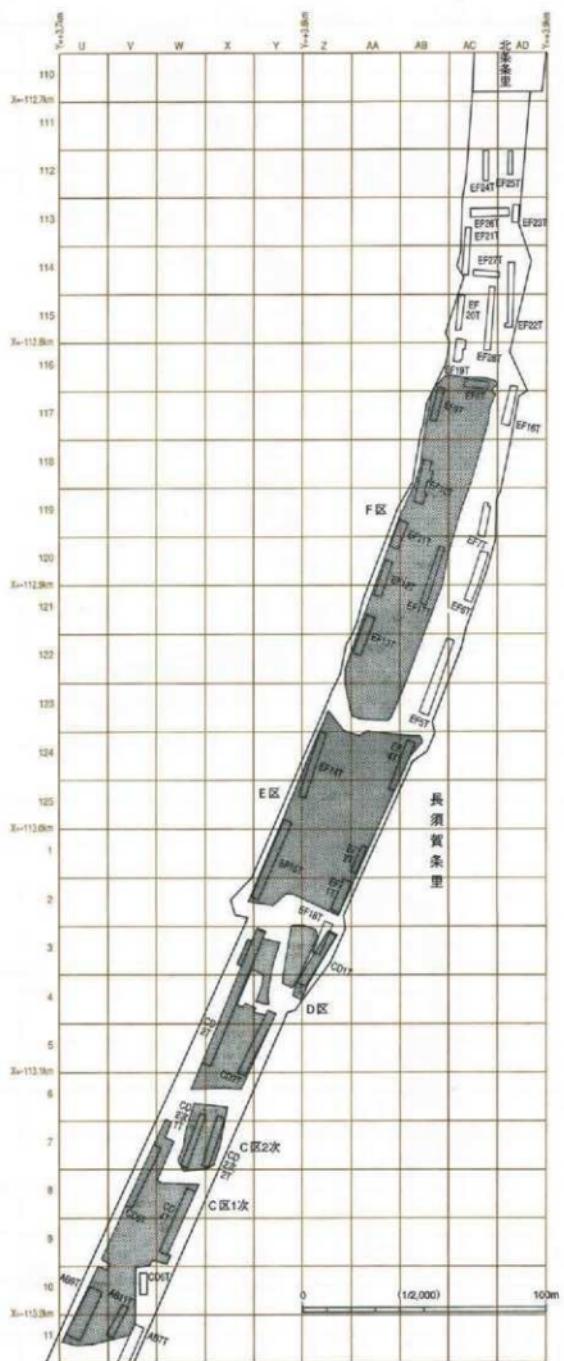
なお、本事業に係る各年度の期間と内容、担当職員は第1表のとおり、各年度・各調査区における発掘調査面積は、以下のとおりである。



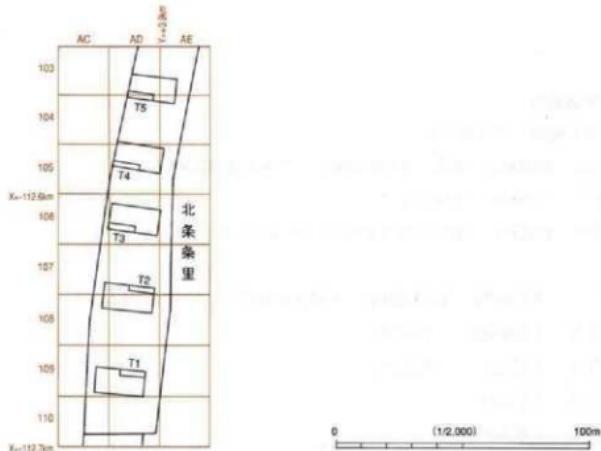
第2図 調査区割と調査年次 (1:5,000)



第3図 確認トレンチ・本調査区配置図(1)



第4図 確認トレンチ・本調査区配置図(2)



第5図 確認トレンチ・本調査区配置図(3)

第1表 長須賀条里制遺跡・北条条里制遺跡 発掘・整理の作業内容と担当一覧表

遺跡	年 度	期 間	内 容	組織と担当者
長須賀条里制	平成5年度	H5.11.1～H5.12.24	確認調査 上層1,648 m ² /12,800 m ² 下層512 m ² /12,800 m ² (AB1T～ST)	市原調査事務所長 石田廣美 技師 高梨俊夫
	平成6年度	H6.12.1～H7.1.31 (公共)	確認調査 上層624 m ² /5,000 m ² 下層132 m ² /5,000 m ² (AB6T～11T) 本調査 上層1,000 m ² (B区)	市原調査事務所長 石田廣美 技師 高梨俊夫
		H7.2.1～H7.3.20 (県単)	本調査1,500 m ² (A区)	市原調査事務所長 石田廣美 技師 高梨俊夫
	平成7年度	H7.12.1～H8.2.26	確認調査 上層550 m ² /5,500 m ² (CD1T～6T, CD2次1T～2T) 本調査2,500 m ² (C区1次)	市原調査事務所長 森尚登 技師 城田義友
	平成8年度	H8.10.1～H8.12.27	本調査 上層2,100 m ² (C区2次、D区の一部)	南部調査事務所長 高田博 主任技師 田島新
	平成9年度	H9.4.1～H9.4.30	確認調査 上層880 m ² /8,800 m ² (EF区1T～18T)	南部調査事務所長 高田博 技師 条原清
	平成10年度	H10.4.1～H10.9.30	確認調査 上層375 m ² /3,750 m ² (EF区19T～23T) 本調査 上層6,850 m ² (D区の一部、E区、F区)	南部調査事務所長 高田博 技師 城田義友
北条条里制	平成10年度	H10.10.1～H10.10.30	確認調査 上層100 m ² /1,000 m ²	南部調査事務所長 高田博 技師 城田義友
長須賀条里制	平成11年度	H11.6.1～H11.7.31	水洗・注記・復元の一部	南部調査事務所長 高田博 木更津調査室長 小林清隆 研究員 城田義友
	平成12年度	H12.11.1～H13.3.31	復元の一部～実測の一部	南部調査事務所長 高田博 上席研究員 鈴木良征 上席研究員 渡邊昭宏 研究員 城田義友
	平成13年度	H13.8.1～H13.9.30 H13.11.1～H14.1.31	実測の一部 挿図・図版作成の一部	南部調査事務所長 高田博 上席研究員 渡邊昭宏 研究員 城田義友 研究員 吉野健一
	平成14年度	H14.10.1～H15.3.31	実測の一部～原稿執筆の一部	南部調査事務所長 鈴木定明 研究員 高梨友子
	平成15年度	H15.7.1～H15.8.31	原稿執筆の一部～報告書刊行	南部調査事務所長 鈴木定明 副所長兼主席研究員 土屋治雄 研究員 高梨友子
北条条里制	平成11年度	H11.6.1～H11.7.31	水洗・注記～原稿執筆	南部調査事務所長 高田博 研究員 城田義友
	平成15年度	H15.7.1～H15.8.31	報告書刊行	南部調査事務所長 鈴木定明 副所長兼主席研究員 土屋治雄 研究員 高梨友子

長須賀条里制遺跡

確認調査対象範囲 合計35,850m²

A区 17,800m² (平成5年度12,800m²+平成6年度5,000m²)

CD区 5,500m² (平成7年度)

EF区 12,550m² (平成9年度8,800m²+平成10年度3,750m²)

確認調査トレンチ総面積 合計4,721m² (上層合計4,077m², 下層合計644m²)

平成5年度 上層1,648m², 下層512m²

平成6年度 上層624m², 下層132m²

平成7年度 上層550m²

平成9年度 上層880m²

平成10年度 上層375m²

本調査区 合計13,950m²

A区 1,500m² (平成6年度)

B区 1,000m² (平成6年度)

C区 3,250m² (平成7年度1次調査区2,500m²+平成8年度2次調査区750m²)

D区 1,500m² (平成8年度1,350m²+平成10年度150m²)

E区 3,000m² (平成10年度)

F区 3,700m² (平成10年度)

北条条里制遺跡

確認調査対象範囲 1,000m²

確認調査トレンチ総面積 上層100m²

本調査区 0m²

第4節 基本層序 (第6・7図)

長須賀条里制遺跡の基本層序は、1層から4層までの4層に大きく分けることができる (第6図)。

1層は暗褐色土で、現代における水田耕作土を主体とする。2層は黒色土を含む暗灰褐色粘質土で、近世以降の耕作土を主体とする。3層は主に黒色土で、弥生時代中期から中世までの遺物を多く含んでいる。4層は地山層で黄褐色砂質土、地点によってはグライ化して青灰色を呈する部分も認められる。

これらの層のうち、1・2・4層には酸化鉄の散布が顕著である。また、4層の黄褐色砂質土については、鋤による巻上げ痕跡が土層断面で明瞭に観察される。弥生時代～中世の遺構を検出したのは、4層上面である。

さらに、AB区については、クラムシェルを使った下層確認調査により、下層の地山層の土層も観察することができた (第7図)。

それによると、黄褐色又は青灰色砂質土の4層の下には、貝の混入する青灰色砂質土層 (5層) が、更

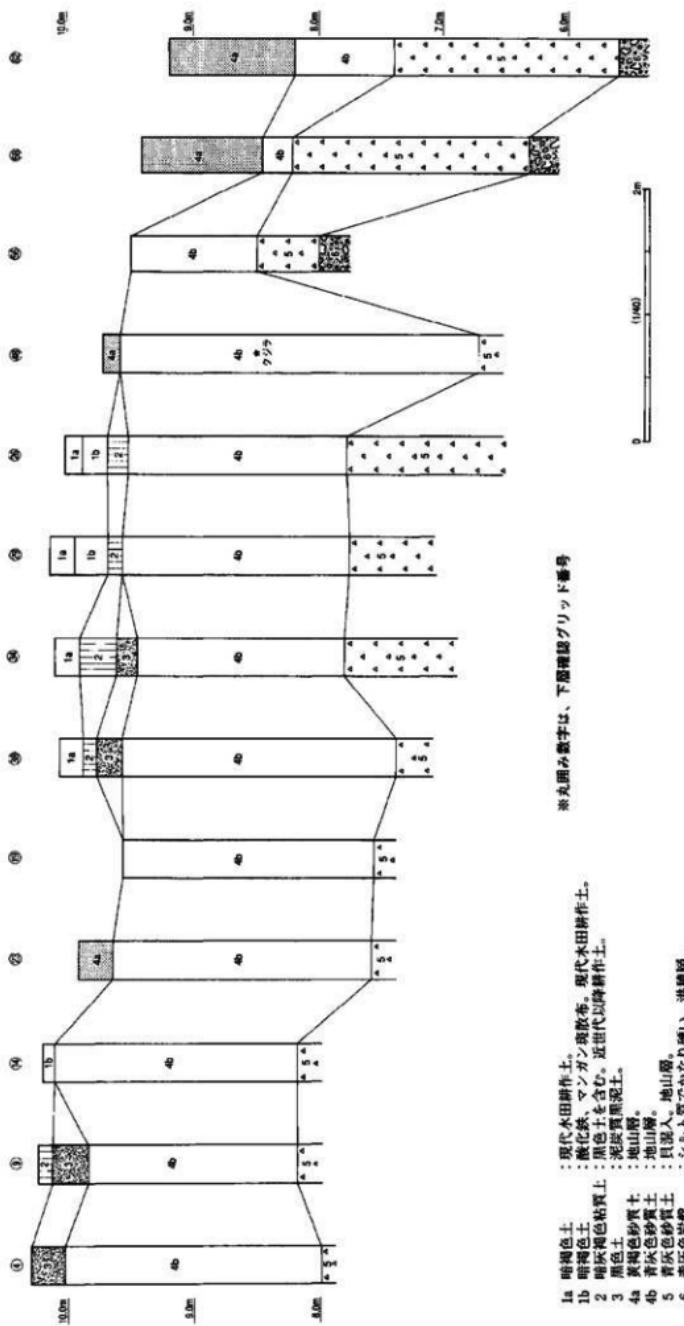
にその下には青灰色岩盤（6層）が存在していることが明らかになった。岩盤はC区に近い地点で高まるようである。

5層を構成する貝としては、B区に近い地点（No14）ではタマキガイ、ウバガイ、イボキサゴ、ウミニナ科、アカニシ、ツメタガイ類、バカガイ、ハマグリ、シオフキなど、B区とC区の中間付近（No34）ではイボキサゴ、ツメタガイ類、ウミニナ科など、C区に近い地点（No62）ではイタボガキ、フジツボ類などがそれぞれ多く認められた。これらの貝は大きさ・種類ともバラエティに富んでおり、合わせ貝も多く含まれるため、5層は自然貝層であると考えられる。4層及び5層には、クジラの骨も含まれていた。



第6図 基本層序

第7図 土壌柱状図



*丸固め数字は、下層地盤グリッド番号

1a 前褐色土
1b 暗褐色土
2 暗灰褐色粘質土
3 黒色土
4a 黄褐色砂質土
4b 青灰色砂質土
5 青灰色粘質土
6 青灰色粘土

1 現代水田耕作土。
2 腐化鉄、マンガン鉱脈有。
3 黑色土を含む。
4a 黄褐色砂質土。

5 黒色土。

6 地山層。

1 山麓入。地山層。
2 色土質でかななり硬い。洪積層。
3 シルト質でかななり柔らかい。洪積層。

第2表 長須賀条里制遺跡 遺構一覧表

所在地	報告番号	調査時遺構名	遺構種類	時代	平面形	大きさ(m)	深さ(m)	所在グリッド	備考
A区	ASD-1	SD-1	溝状遺構	中世					
A区	条里型水田	条里型水田遺構	水田	古代					
A区	帆状遺構	SX-1・SX-2	帆状遺構	中世以降					
B区	小区域水田	小区域水田遺構	水田	古墳					
B区	BSD-1	SD-1	溝状遺構	中世	0.3×12.5	0.1	27Q		
B区	BSD-2	SD-2	溝状遺構	中世	0.2×7.5	0.2	27Q		
B区	BSD-3	SD-3	溝状遺構	中世	0.7×4	0.2	27Q		
B区	BSD-4	SD-4	溝状遺構	中世	0.4×9.5	0.2	27Q		
B区	BSD-5	SD-5	溝状遺構	中世	1.2×15	0.2	27Q		
B区	BSD-6	SD-6	溝状遺構	中世	0.4×12.5	0.1	27Q		
B区	BSD-7	SD-7	溝状遺構	中世	0.4×6	0.2	27Q		
B区	BSD-8	SD-8	溝状遺構	中世	0.4×9.5	0.3	27Q		
B区	BSD-9	SD-9	溝状遺構	中世	0.5×8	0.2	28Q		
C区	CSD-1	SD-1	溝状遺構	古墳中期	2×21	0.15	9V-9W-10V-10W		
C区	CSD-2a	SD-2	溝状遺構	古墳中期	2.5×24.5	0.5	7W-7X		
C区	CSD-2b	SD-3	溝状遺構	古墳中期	2.5×19	0.4	7W-7X		
C区	CSD-3	SD-4	溝状遺構	古墳中期	2.5×6	0.65	7W-7X		
C区	CSD-4	SD-5	溝状遺構	古墳中期	1.5×23	0.2	7V-7W-8V-8W		
C区	CSD-5	SD-6	溝状遺構	古墳中期	2×25	0.45	8V-8W-9V-9W		
C区	CSD-6	SD-7	溝状遺構	古墳中期	1×11		8V-8W		
C区	CSD-7	SD-8	溝状遺構	古墳中期	3×13	0.1	8V-8W		
C区	CSD-8	AB区9TS-1	溝状遺構	古墳中期	1.2×6		11U		
C区	CSD-9	AB区9TS-2	溝状遺構	古墳中期	2.5×5.3		10U-10V-11U-11V		
C区	CSD-10	SE-1	溝状遺構	古墳中期	5×30		10U-10V-11U-11V		
C区	CSK-1	SK-1	土坑	中世	不定形	7.5×5.5	0.8	10U-10V-11U-11V	
C区	CSK-2	SK-2	土坑	古墳中期	不定形	2.6×2	0.25	10V	
C区	欠番	SK-3							近世
C区	CSK-4	SK-4	土坑	古墳中期	円形	2.5×2.5	0.55	8W	
C区	CSK-5	SK-5	土坑	中世	円形	3×3	0.8	8W	
C区	欠番	SK-6							近世
C区	欠番	SK-7							近世
C区	CSK-8	SK-8	土坑		卵形	1×0.65	0.35	8W	
C区	欠番	SK-9							近世
C区	CSK-11	SK-11	土坑		不整円形	0.9×0.9	0.25	8W	
C区	欠番	SK-12							位置不明
C区	CSK-13	SK-13	土坑		椭円形	2.1×1.5	0.5	9W	
C区	CSK-15	AB区7TSK-3	土坑		円形	2.9×1.2	0.2	10U	
C区	CSK-16	2次P-1	土坑		溝状	0.8×3.5	0.15	6X	
C区	CSK-17	2次P-2	土坑		不整円形	0.8×0.8	0.03	6X	
C区	CSK-18	2次P-3	土坑		不整格円形	0.8×0.6	0.05	6X	
C区	CSK-19	2次P-4	土坑		不整格円形	0.9×0.7	0.15	6X	
C区	CSK-20	2次P-5	土坑		溝状	0.35×1.1	0.15	6X	
C区	CSK-21	2次P-6	土坑		円形	0.75×0.75	0.15	6W	
C区	CSK-22	2次P-7	土坑		円形	2.7×2.7	0.55	7X	
C区	CSK-23	2次P-8	土坑		円形	0.7×0.7	0.1	7W	
C区	CSK-24	2次P-9	土坑		椭円形	1×0.65	0.1	7X	
C区	C区ピット群	ピット群	ピット群	中世					各ピット番号をふって記載
D区	DSD-1	SD-1E	溝状遺構	古墳前期～古墳中期		33×30	0.7	3X-3Y-3Z-4X-4Y-4Z-5X-5Y	3次に分けて調査
D区		SD-2	溝状遺構	古墳中期		1×7.6	0.1	4Y	
D区	DSK-1	SD-2	溝状構内土坑A	古墳中期	椭円形	0.7×0.6	0.15	3Y	
D区	DSK-2	SD-2	溝状構内土坑B	土坑	椭円形	0.75×0.65	0.4	3Y	
E区	ESD-1	SD-1M	溝状遺構	古墳前期～古墳中期		2~4×90	0.3~0.7	124AA-124AB-125Z-125AA-1Y-1Z	3区に分けて調査
E区		SD-1W							
E区	ESD-1(K1-D1)	SD-1(K1-D1)	木樋	古墳中期		3.7×6	0.2	125Z	ESD-1付帯施設
E区	ESD-1(K2)	SD-1(K2)	溝状遺構	古墳中期		0.7×12	0.1	125AA	ESD-1付帯施設
E区	ESD-1(K3)	SD-1(K3)	土坑	古墳中期	不整格円形	2.9×1.9	0.3	125AA	ESD-1付帯施設
E区	ESD-1(K4)	SD-1(K4)	土坑	古墳中期	不整格円形	1.7×1.3	0.6	125AA	ESD-1付帯施設
E区	ESD-1(K5)	SD-1(K5)	土坑	古墳中期	8の字状	1.6×0.8	0.2	125AA	ESD-1付帯施設
E区	ESD-1(K6)	SD-1(K6)	土坑	古墳中期	円形	1.2×1.2	0.45	125AA	ESD-1付帯施設
E区	ESD-1(K7)	SD-1(K7)	土坑	古墳中期	不整格円形	1.4×0.8	0.2	125AA	ESD-1付帯施設
E区	ESD-2	SD-2	溝状遺構	古墳中期		0.8×8.5	0.1	125AA-1AA	
E区	欠番	SD-3							位置不明
E区	欠番	SD-4							位置不明
E区	ESD-5	SD-5	溝状遺構	中世		0.7×25	0.2	124Z-124AA	
E区	ESD-6	SD-6	溝状遺構	中世		1×10	0.1	124AA-125AA	
E区	ESD-7	SD-7	溝状遺構	古墳中期～古墳		1.8×7	0.1	1Y	自然流路でESD-1と 繋がる可能性大
E区	ESD-8	SD-8	溝状遺構	古墳中期～古墳		1.5×13	0.25	1Y	自然流路でESD-1と 繋がる可能性大
E区	ESD-10	SD-10	溝状遺構	中世		1×10	0.2	124Z	
E区	ESD-11	SD-11	溝状遺構	中世		0.8×9.5	0.15	124Z	

所在地区	報告書遺構名	調査時遺構名	遺構種類	時代	平面形	大きさ(m)	深さ(m)	所在グリッド	備考
E区	ESK-1	SK-1	土坑	—	円形	2.5×2.5	—	125AA	
E区	ESK-2	SK-2	土坑	—	不整縁円形	1.6×1.6	0.5	125AA	
E区	ESK-3	SK-3	土坑	—	不整縁円形	3.3×2.9	0.65	125AA	
E区	ESK-4	SK-4	土坑	—	不整縁円形	0.8×0.8	0.3	125AA	
E区	ESK-5	SK-5	土坑	中世	内凹円形	4.5×3.5	1.3	124Z	
E区	ESK-6	SK-6	土坑	—	不整縁円形	2.6×2.1	1	125Z	
E区	ESK-7	SK-7	土坑	—	不整縁円形	0.95×0.95	0.5	125Z	
E区	ESK-9	SK-9	土坑	—	不整縁円形	1.9×1.6	0.65	124Z	
E区	ESK-10	SK-10	土坑	古墳中期	溝付円形	1.4×3.2	0.25	1Y	
E区	ESK-11	SK-11	土坑	古墳中期	卵形	2.2×1.5	0.8	1Y	
E区	ESK-12	SK-12	土坑	古墳中期	不整縁円形	2.7×2.1	0.8	125Z	
E区	ESK-13	SK-13	土坑	古墳中期	長角円形	2.1×0.95	0.35	1Y	
E区	ESK-14	SK-14	土坑	中世	不整縁円形	2.1×2.1	0.75	125AA	
E区	ESK-15	SK-15	土坑	古墳中期	不整縁円形	1.1×1.1	0.4	124Z	
E区	ESK-16	SK-16	土坑	—	円形	0.8×0.8	0.3	124AA	
E区	ESK-17	SK-17	土坑	—	不整縁円形	1.3×1	0.2	124Z	
E区	ESK-18	SK-18	土坑	—	不整縁円形	1.3×1.3	0.25	124Z	
E区	ESK-19	SK-19	土坑	—	不整縁円形	1×0.8	0.2	124Z	
E区	ESK-20	SK-20	土坑	—	不整縁円形	1.3×0.8	0.3	124Z	
E区	ESK-21	SK-21	土坑	—	円形	1×1	0.3	123Y	
E区	E区ピット群	ピット群	—	古墳時代～中世	—	—	—	—	
E区	ESX-1	SX-1	日向道	—	—	10×19	0.4～1.0	1Z・1AA・2Z	
E区	欠番	第1水田面	水田	近世以降	—	—	—	—	近世
E区	第2水田面	第2水田面	水田	古墳中期～後期	—	—	—	125Z	
E区	第3水田面	第3水田面	水田	古墳中期～後期	—	—	—	125Z	
F区	FSR-1	SB-1	遺物	中世	—	—	—	122AA	
F区	FSB-2	SB-2	遺物	中世	—	—	—	119AB	
F区	FSB-4	EFK11T検出建物跡	新文化建物跡	中世	—	—	—	119AB	
F区	FSD-1	SD-1	溝状造構	中世	—	1.5×15	0.7	123AA	
F区	FSD-2	SD-2	溝状造構	中世	—	1.7×33	0.2	122AB・123AA	
F区	FSD-3	SD-3	溝状造構	中世	—	1.5×16.5	0.25	122AA・123AA	
F区	FSD-6	SD-6	溝状造構	中世	—	1.5×28	0.3	120AA・120AB	
F区	FSD-7	SD-7	溝状造構	中世	—	1.5×5.3	0.3	120AB	
F区	FSD-8	SD-8	溝状造構	中世	—	2.3×45	0.4	117AB・118AB・118AC	
F区	FSD-9	SD-9	溝状造構	中世	—	0.9×23	—	119AB	
F区	FSD-10	SD-10	溝状造構	中世	—	2×23.5	0.45	122AA・122AB	
F区	FSK-1	SK-1	土坑	中世	円形	0.9×0.9	0.35	123AA	
F区	FSK-2	SK-2	土坑	中世	円形	1×1	0.25	123AA	
F区	FSK-3	SK-3	土坑	中世	円形	2.8×2.8	0.7	122AA	
F区	FSK-4	SK-4	土坑	中世	円形	1.3×1.3	0.65	123AA	
F区	FSK-6	SK-6	土坑	中世	円形	2.5×2.5	0.95	121AA	
F区	FSK-8	SK-8	土坑	中世	不定形	2.3×2.3	0.3	121AB	
F区	FSK-9	SK-9	土坑	中世	不整縁円形	0.85×0.75	0.3	121AB	
F区	FSK-10	SK-10	土坑	中世	不整縁円形	2.5×2.3	—	121AA	
F区	FSK-11	SK-11	土坑	中世	円形	2.2×2.2	0.8	121AB	
F区	FSK-13	SK-13	土坑	中世	椭円形	1.2×1	0.6	120AB	
F区	FSK-15	SK-15	土坑	中世	円形	3×2.4	0.4	119AB	
F区	FSK-16	SK-16	土坑	中世	椭丸形	3×3	0.85	118AB・119AB	
F区	欠番	SK-17	土坑	—	円形	—	—	—	位置不明
F区	FSK-18	SK-18	土坑	—	円形	1×1	0.2	119AB	
F区	F区ピット群	ピット群	—	中世	—	—	—	122AA	
F区	FSX-1	SK-1・3・4	包含層	中世	—	—	—	123AA	
F区	FSX-2	SK-2	包含層	中世	—	—	—	123AA	

注1 財団法人千葉県文化財センター 2003 「千葉県所在洞穴遺跡・横穴墓詳細分布調査報告書」

2 千葉県教育委員会 1997 「館山市大寺山洞穴遺跡発掘調査報告書」

3 館山市教育委員会 1998・1999 「館山市大寺山洞穴遺跡発掘調査報告書Ⅰ、Ⅲ」

4 城田義友・吉野健一 1998 「安房の古墳時代祭祀」『研究連絡誌』第53号 財団法人千葉県文化財センター

5 市毛 煉ほか 1977・1978・1979 「安房国分寺第一～三次調査概報」千葉県教育委員会

6 滝口 宏 1980 「安房国分寺」館山市教育委員会

7 玉口時雄ほか 1975 「千葉県館山市条里遺跡調査報告書」館山市条里遺跡調査会

8 千葉県教育委員会 1983 「千葉県中世城館跡研究報告書第4集－稻村城跡・臼井城跡発掘調査報告書」

9 菊池眞太郎ほか 1978・1979・1980 「館山城跡調査概報（第一～三次）」館山城跡調査会

10 山武考古学研究所編 1995 「長須賀条里遺跡発掘調査報告書」長須賀条里遺跡調査会

11 財団法人千葉県文化財センター編 2000 「千葉県文化財センター年報」No25

第2章 長須賀条里制遺跡

第1節 A区

1 概要（第8図、図版2・3）

A区は、最も南端に位置する調査区である。調査面積は1,500m²、検出面の標高は調査区北西端で10.208m、北東端で10.450m、南西端では10.375m、南東端では10.278mであり、調査区内にはほとんど傾斜は認められない。

検出された遺構は、古代の条里型水田畦畔と中世の溝状遺構・畝状遺構である。条里型水田畦畔では、やや軸の異なる古段階の畦畔も検出することができた。

遺物は、ロクロ土師器の破片と中・近世の陶磁器が目立って多く出土している。ただし、ロクロ土師器と考えたものの中には、中・近世のカワラケが相当数含まれている可能性が高いが、いずれも器面の磨耗が激しい小破片であり、判別は難しい。

2 条里型水田（第8・9図、図版2・3）

地山層の黄褐色砂質土層上面で、暗褐色粘質土の部分として条里型水田の畦畔を検出した。中世以降の畝状遺構によって縦横に切られ、更に近世以降の耕作によって削平を受けているため遺存状態は悪いが、畦畔の幅は約70cm～2mを測る。畦畔方位は、南北方向がN-5°-E、東西方向がN-77°-Eである。

検出された水田の形は、東西約20m、南北約50mの長方形で、半折形の坪内地割りとみられる。推定される坪境に近いものの、この成果のみでは坪境の畦畔か坪内地割り畦畔か確定することは難しい。

なお、調査区北側では、ほぼ同じ幅と考えられる古段階の畦畔も検出された。古段階畦畔の方位は、N-83°-Eである。

このほか、遺構としてははっきり検出されなかったが、AB区8Tの同一検出面で砂層の盛り上がった部分とグライ化した部分が認められた。これは位置的に、条里型畦畔と水田部分の痕跡を示しているものと推定できる。

3 溝状遺構

ASD-1（第8・9図）

調査区の北部を東西方向に走る溝状遺構である。幅40cm～70cm程度で、検出面からの深さは約8cmである。土師器の破片が少量出土しているが、条里型水田の畦畔を切っており、中世頃の所産と考えられる。

4 畝状遺構（第8・9図）

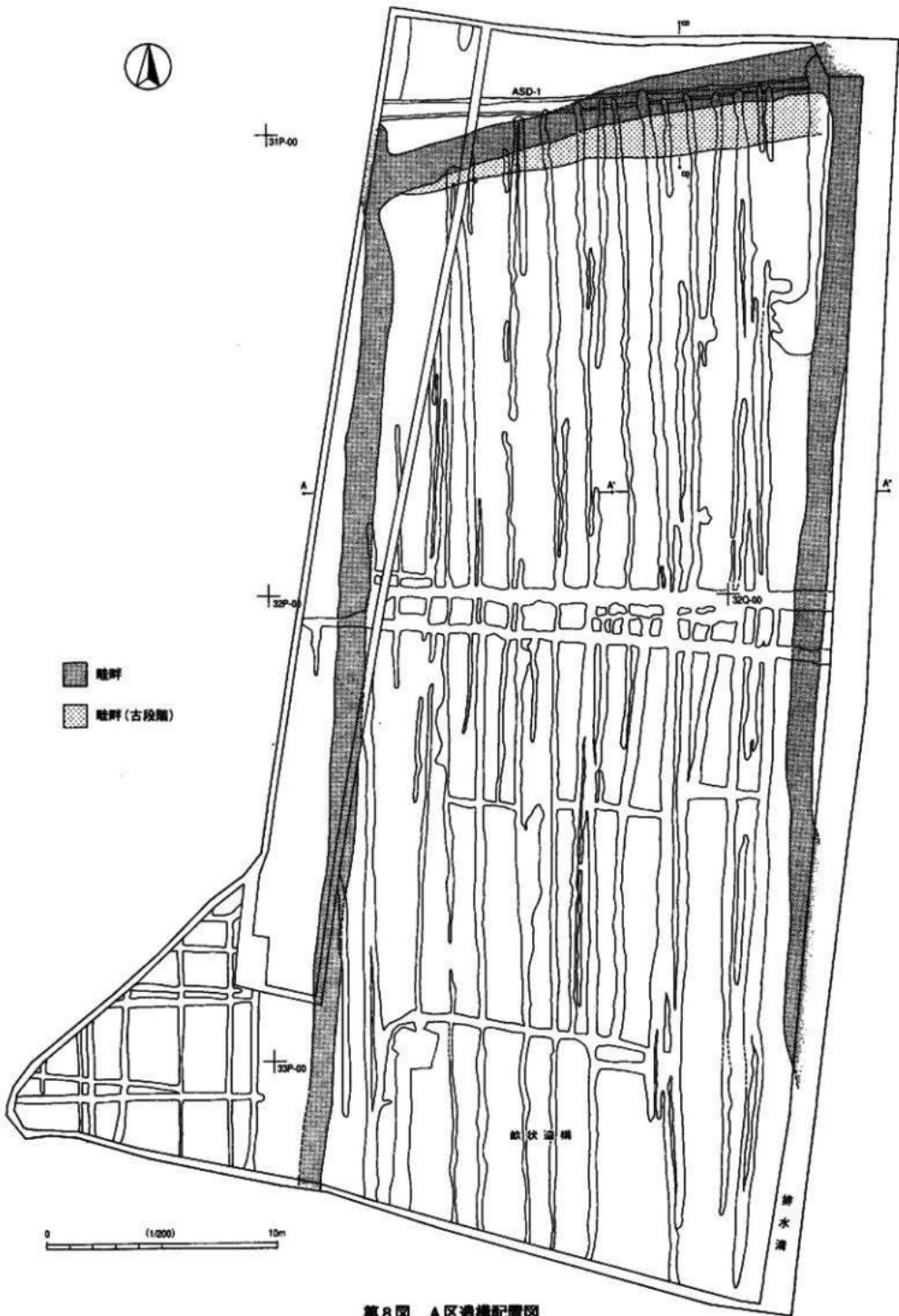
調査区全体に、縦横に走る溝として検出された。条里型畦畔、ASD-1を切る。中世以降の耕作に関連する遺構と考えられる。



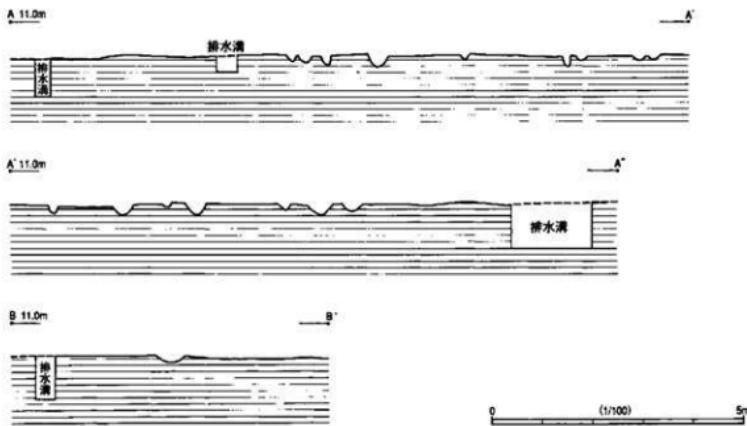
+31P.00

ASD-1

10m



第8図 A区造構記図



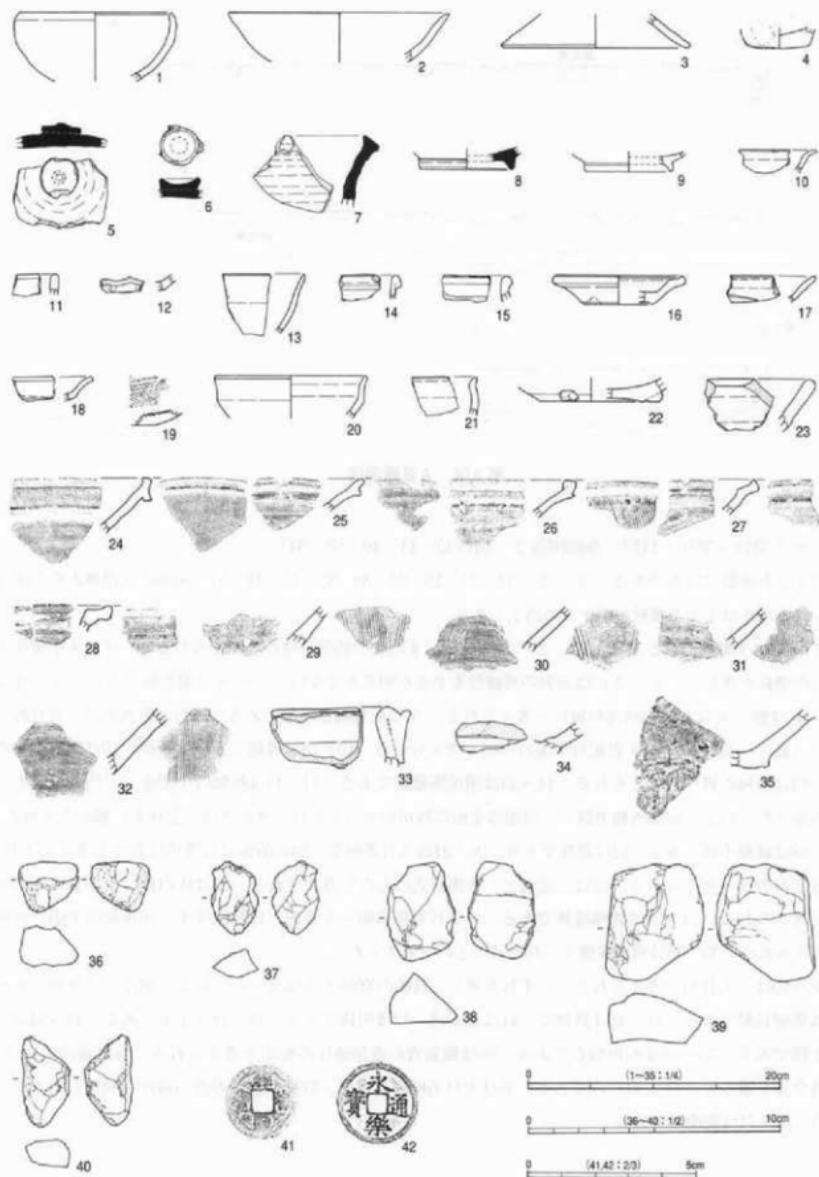
第9図 A区断面図

5 出土遺物 (第10・11図、巻頭図版3、図版32・41・49・53・54)

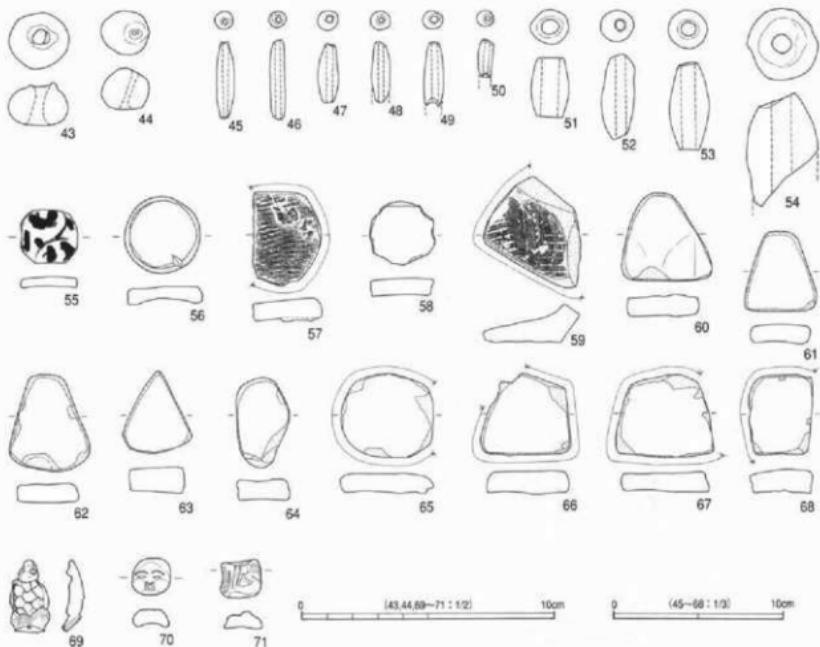
図示した遺物は71点である。3・5・11・13・19・23・30・32・41・42・52・60が畝状遺構からの出土で、そのほかは全て遺構検出面からの出土である。

1～4は土師器である。1は杯、2・3は高杯、4は甕の底部の破片と考えられる。いずれも小破片で器面の磨耗が著しく、1～3には赤彩の可能性もあるが明らかでない。5～8は須恵器である。5・6は蓋、7は甕、8は杯の高台部の破片と考えられる。9は灰釉陶器の皿である。高台の断面形が三日月形を呈しており、K30窯式、9世紀後半頃の所産と考えられる。10～13は青磁で、11は香炉、12は錦蓮弁文の碗、13は稜碗の破片と考えられる。14～35は国産陶磁器である。14・15は鉄釉の小型壺で、内外面ともに釉が施されている。16は灰釉小皿で、内面は全面に釉がかかっており、外面もほぼ全体的に釉がみられる。17・18は緑釉小皿である。19は鉢皿である。20・21は天目茶碗で、20の断面には漆の付着する部分があり、漆接ぎの痕跡と考えられる。22は三足盤で、後期様式のものと考えられる。23は片口鉢で、13世紀代の所産と考えられる。24～32は鉄釉擂鉢である。いずれも宿窯期～大窯期、15世紀後半～16世紀前半頃の所産と考えられる。33～35は常滑産甕で、10型式のものと考えられる。

36～40は、火打石と考えられる。いずれも著しく稜線の磨滅する部分がみられる。36はメノウ製、37～40は黒曜石製である。41・42は錢貨で、41は北宋錢、42は明錢である。43・44は土玉である。45～54は管状土錐である。55～68は転用砥石である。55は釉裏青の壺類破片の転用と考えられる。釉裏青の破片は、遺跡全体を通してこの1点のみである。56は天目茶碗の高台部、57は須恵器の甕の破片を利用したものである。69～71は泥面子である。



第10図 A区出土遺物(1)



第11図 A区出土遺物(2)

第2節 B区

1 概要 (第12図、図版4・5)

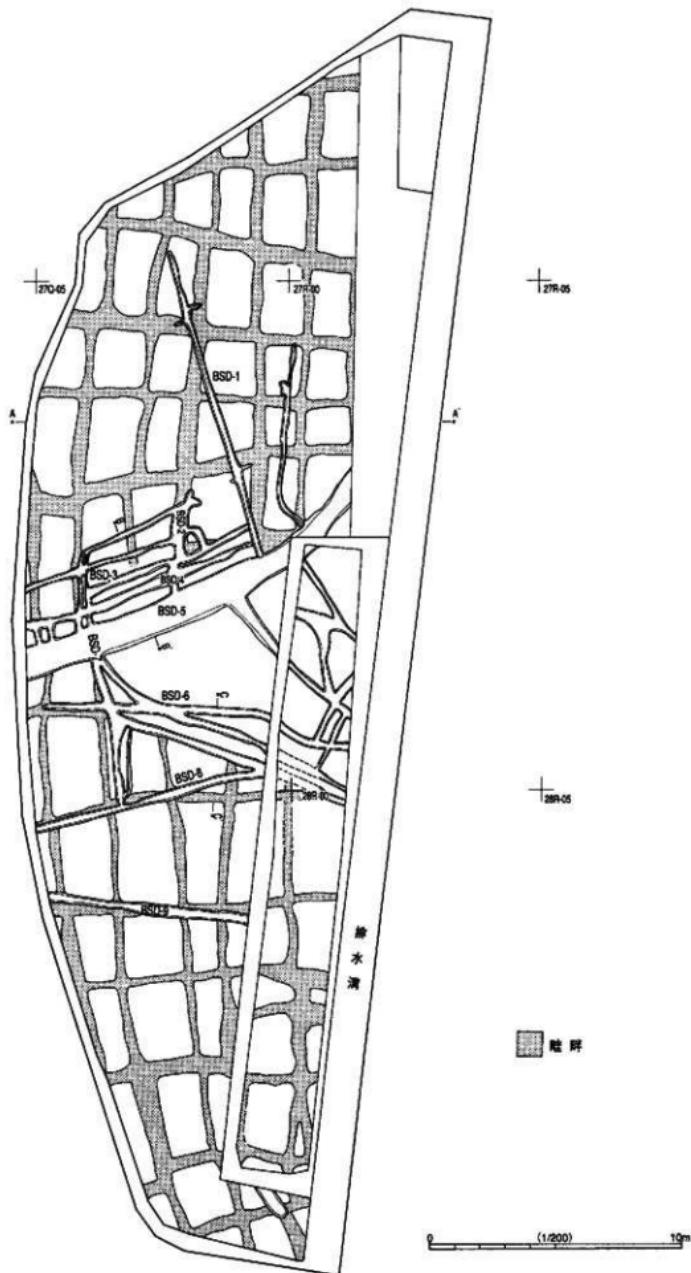
B区は、A区の北に位置する調査区である。調査面積は1,000m²、検出面の標高は調査区北西端で10.460m、北東端で10.430m、南西端では10.550m、南東端では10.570mであり、調査区内にはほとんど傾斜は認められない。

検出された遺構は、弥生時代～古墳時代前期のものと考えられる小区画水田畦畔と、中世の溝状遺構である。

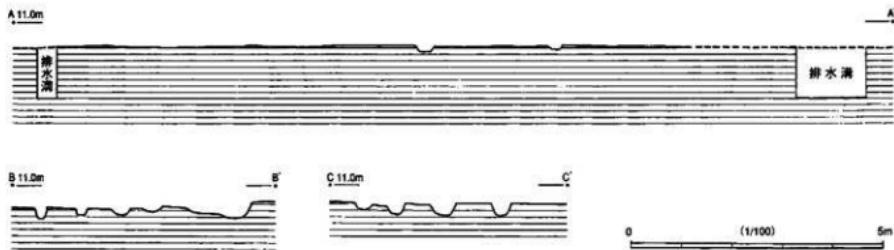
遺物は、全体量としてはそれほど多くはないが、割合的には土師器の破片と中・近世の陶磁器が多くを占める。これらのうちロクロ土師器と考えたものの中には、中・近世のカワラケが相当数含まれている可能性があるが、いずれも器面の磨耗が激しい小破片であり、判別は難しい。

2 小区画水田 (第12・13図、図版4・5)

近世以降の耕作によって遺存状態は悪いが、地山層である黄褐色砂質土層上面で、灰色粘質土の部分として小区画水田の畦畔を検出した。畦畔の幅は40cm～80cm程度である。畦畔の高まりはほとんど残されて



第12図 B区造構配置図



第13図 B区断面図

いない状態であるが、一部、最大10cm程度確認できる所もある。水田の1枚の大きさは3m×2m程度で、長方形を基調とするが、変形したものもみられる。小区画水田というあり方から発掘調査時には弥生時代の水田と考えたが、出土遺物を検討した結果、弥生土器はほとんど皆無に近い状態であり、古墳時代に入るものと考えるのが妥当であろう。

なお、27R-00グリッドで土壤をサンプリングしてプラントオバール分析を行ったところ、稻作の積極的な証拠は得られなかった（付章参照）が、遺存状態等が影響していると考えられる。

3 溝状遺構

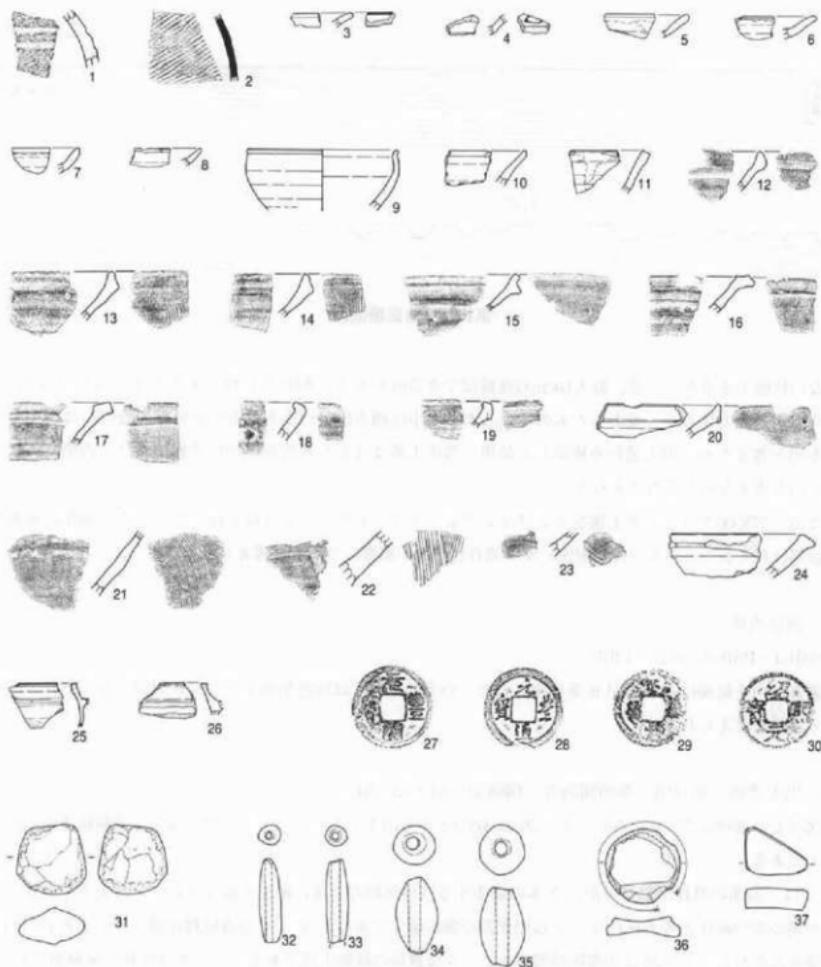
BSD-1～BSD-9（第12・13図）

調査区内を縦横に走る溝が9条検出された。いずれも覆土は灰色粘質土で、中世以降の畑の耕作に関連する遺構と考えられる。

4 出土遺物（第14図、巻頭図版3、図版32・41・53・54）

図示した遺物は37点である。1・30はBSD-2から出土したもので、そのほかは全て遺構検出面からの出土である。

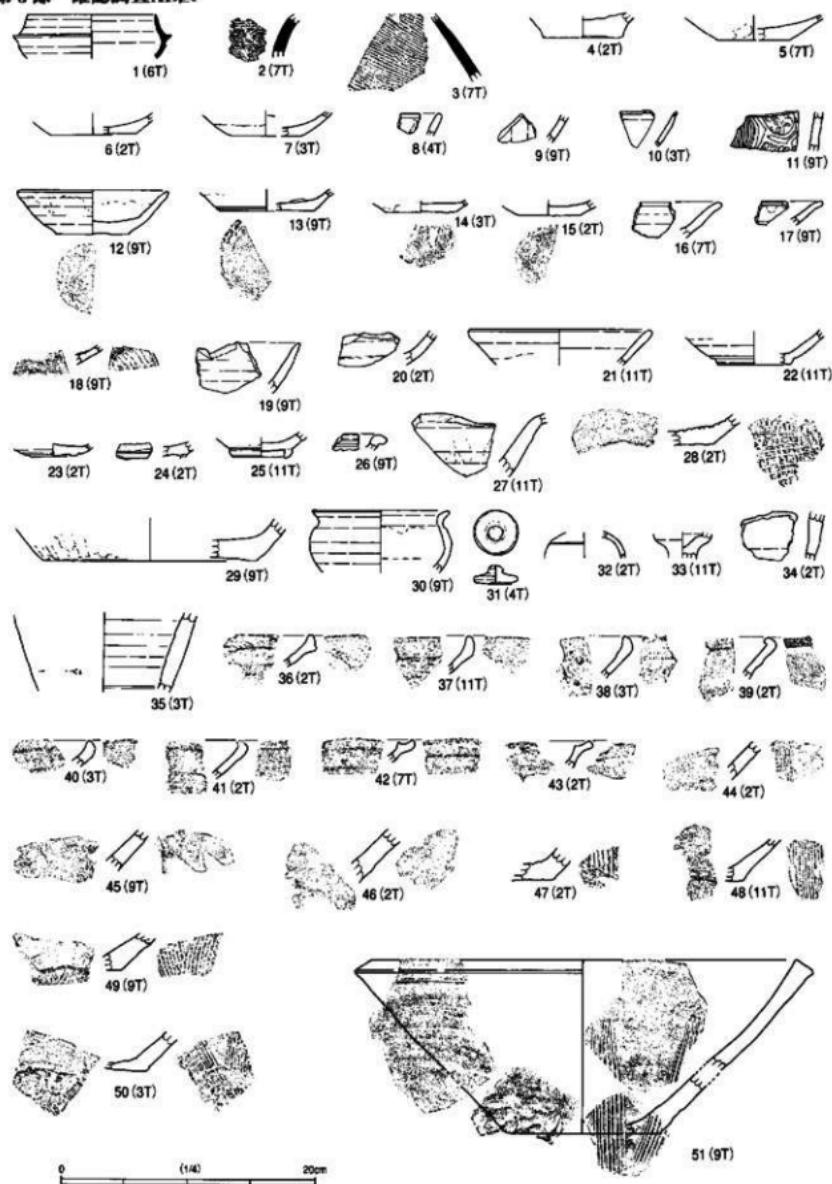
1は、器面の磨耗が激しいが、2本の横走する浅い沈線の下部に繩文が施文されているようである。弥生中期の壺の破片と考えられる。2は須恵器の壺の破片である。3・4は青磁稜花皿で、いずれも内面に文様がみられる。5～26は国産陶磁器である。5は鉄釉の縁軸小皿である。6～8は灰釉の縁軸皿である。9は天目茶碗である。10は内外面とも灰釉が施され、大型の鉢と考えられる。11も灰釉が施されるが、器種は不明である。12～22は鉄釉擂鉢である。23は外面はケズリ調整、内面はハケ調整とみられる。灰釉が施されるが、器種は不明である。24は片口鉢である。25・26は東海系羽釜である。25の下端にはハケ目が観察される。27～30は銭貨で、27～29は北宋錢、30は南宋錢である。29は文字が潰れて明らかでないが、聖宋元宝の可能性がある。31は稜線の潰れが著しく、火打石と考えられる。メノウ製である。32～35は管状土錘である。36・37は転用砥石で、いずれも破断面は擦れている。36は天目茶碗の底部、37は常滑産甕の破片を利用したものである。



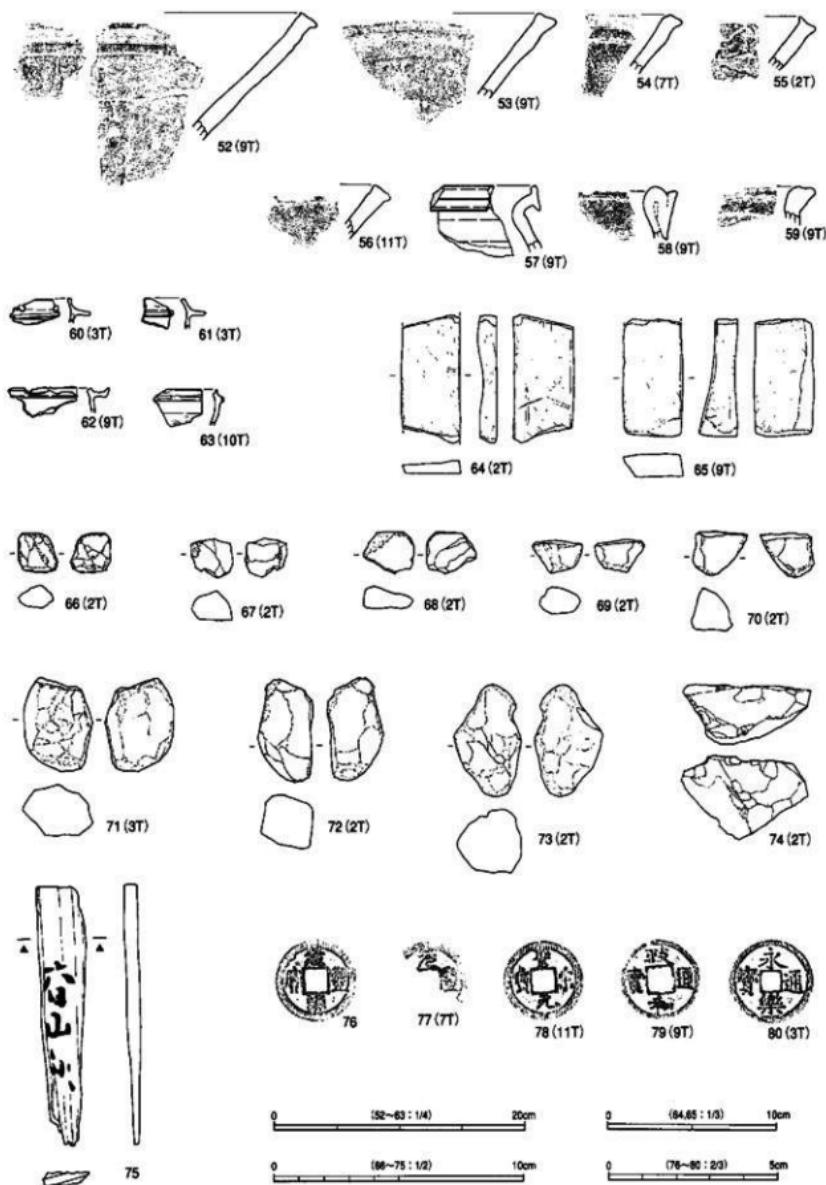
Scale bars:
 (1-28 : 1/4)
 (29-30 : 2/3)
 (31 : 1/2)
 (32-37 : 1/3)

第14図 B区出土遺物

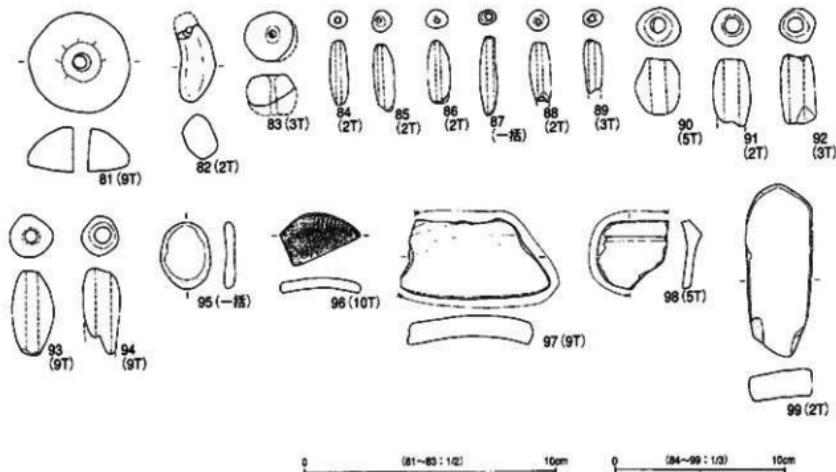
第3節 確認調査AB区



第15図 AB区出土遺物(1)



第16図 AB区出土遺物(2)



第17図 AB区出土遺物(3)

1 出土遺物 (第15~17図、巻頭図版3、図版33・41・43・49・53・54)

1~3は須恵器である。2の遺存部下端には櫛描波状文が施されており、甕の颈部と考えられる。4・5は土師器の壺あるいは甕の底部、6・7はロクロ土師器の杯底部と考えられる。いずれも器面の磨耗が著しく調整ははっきりしないものの、底部外面は手持ちヘラケズリとみられる。8~10は青磁である。8・9は舎蓮弁文の碗で、10は端反椀である。11は青白磁の梅瓶で、牡丹文と思われる文様が刻されている。12~63は国産陶磁器である。12~17は灰釉の縁脚小皿である。13の内面は灰釉が全面に施され、重ね焼きの痕跡が2か所確認できる。15の内面は露胎だが、黒色に変色し磨耗している。碗などに転用されたと考えられる。18は鉢である。19・20は天目茶碗である。21~23・25は灰釉の平碗である。22・23は削出高台で、25は貼付高台である。24は内外面とも釉が施され、大窯期に属する丸皿か端反皿と考えられる。26は灰釉の施された小破片であるが、縁折皿と考えられる。27も灰釉が施される。三足盤と考えられる。28は鉢目付きの三足盤と考えられる。29は縁折皿か三足盤と考えられる。30は香炉である。外面は全面的に灰釉が施され、内面にも口縁部と下半部に灰釉が施されている。31は蓋で、全面に灰釉が施される。完形である。32は瀬戸産鉄釉の茶入れである。断面に漆接ぎの痕跡が観察される。33は瀬戸産灰釉の花瓶である。内面にも一部釉が付着している。34・35は灰釉の梅瓶である。36~50は鉄釉擂鉢で、46は転用砥石として使用されている。ほとんどが15世紀代の所産と考えられる。51は備前産の擂鉢で、同一個体の破片がCSD-9、CSD-10、CSK-1、ピット群(P197)でも出土している。表面は灰色~灰褐色、断面は肌色~赤褐色を呈している。15世紀の所産と考えられる。52~56は片口鉢と考えられる。52は瀬戸産で、色調は明褐色を呈する。9型式と考えられる。53は常滑産で、色調は褐色を呈する。15世紀前半の所産と考えられる。57・58は常滑産甕で、57は5型式、13世紀の所産と考えられる。58は15世紀半ば~後半の所産と考えられる。59は常滑産壺の口縁と思われる。60~63は東海系羽釜である。60には焼成前穿孔が2か所認められる。

63の下端部にはハケ目が観察される。64・65は砥石である。66～74は火打石である。66・74は黒曜石製、67～73はメノウ製である。75は木簡で、図の上部右角は欠損している。また、下部も折れている。上部の断面は、左右方向に刃物で切断されたとみられ、面が若干波打っているのが観察される。表面には「六日山（荻）」の墨書きが認められるが、裏面には墨書きはない。「山荻」とすると、遺跡東方に現在も「山荻」の地名があり、関連が指摘される。ただし、遺構に伴っての出土ではなく、詳しい時期が明らかにならない。近世以降の耕作土と考えられる2層からの出土であるが、状況から中世頃とするのが妥当と思われる。76～79は北宋銭、80は明銭である。81～83は土製品で、81は紡錘車形、82は勾玉形、83は土玉である。84～94は管状土錘である。95～99は転用砥石で、95は土師器甕、96は鉄釉陶器、97は三足盤、98は鉄釉擂鉢、99は常滑産甕の転用である。

第4節 C区

1 概要（第18・19図、図版6・7）

C区は、B区の北約300mに位置する調査区である。調査面積は3,250m²、検出面の標高は調査区北西端で8.479m、北東端で8.643m、南西端では9.046m、南東端では9.171mであり、調査区内は東から西へ向かって、また南から北へ向かって傾斜して低くなる。

検出された遺構は、古墳時代の水路と考えられる溝状遺構・土坑、中世の土坑・ピット群である。古墳時代の水路からは多量の土器と祭祀遺物などが出土しており、水際祭祀が行われていたと考えられる。中世ピット群は、柱痕跡や柱根がそのまま遺存するものもみられ、建物があったものと考えられる。

2 溝状遺構

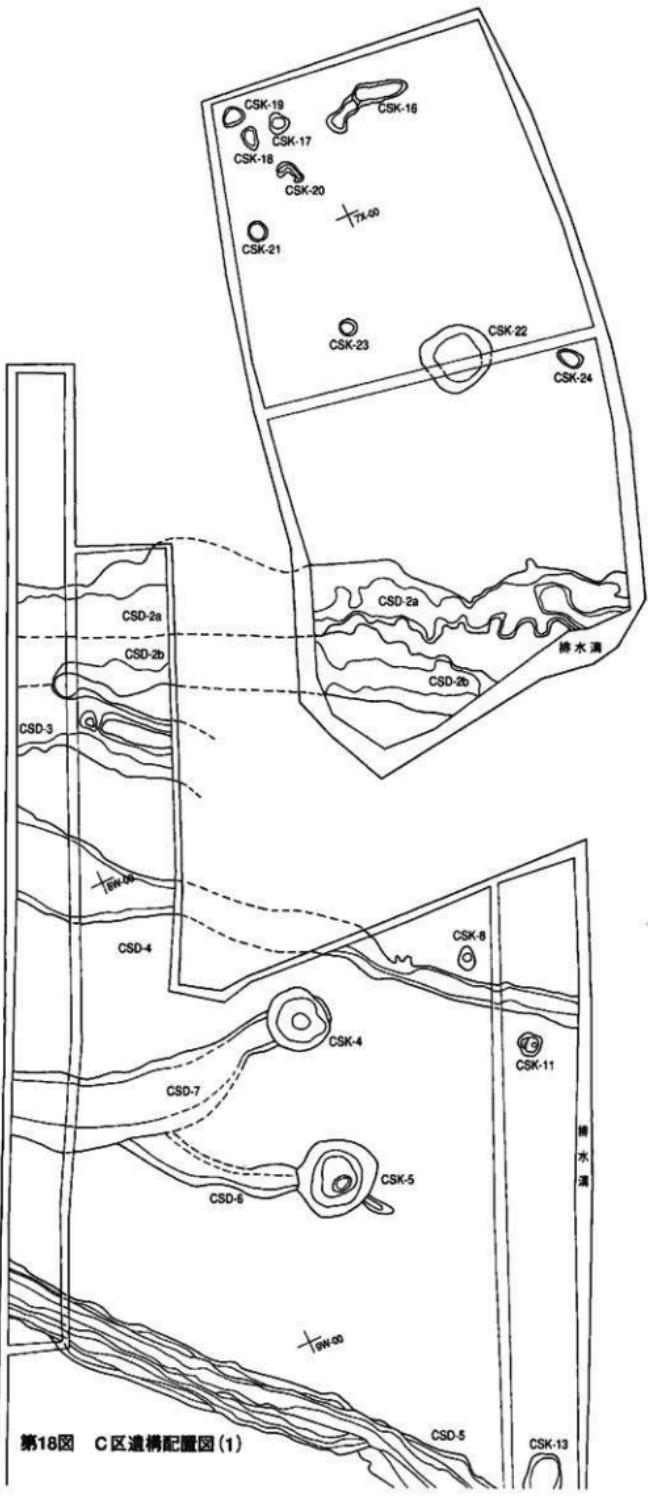
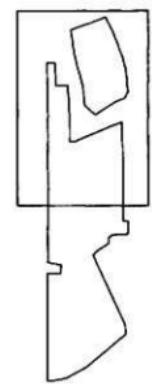
CSD-1（第20～23図、図版7・30・34・41・48・50・52）

ややカーブを描きながら、東西方向に軸をとる溝状遺構である。東端は後代の削平により確認できない。多量の土器のほか、土製品・石製品などの祭祀遺物が多く出土し、特に西半部で顕著である。水際祭祀を伴う水路と考えられる。隣接するCSK-2はほぼ同時に存在した溜井戸と考えられる。

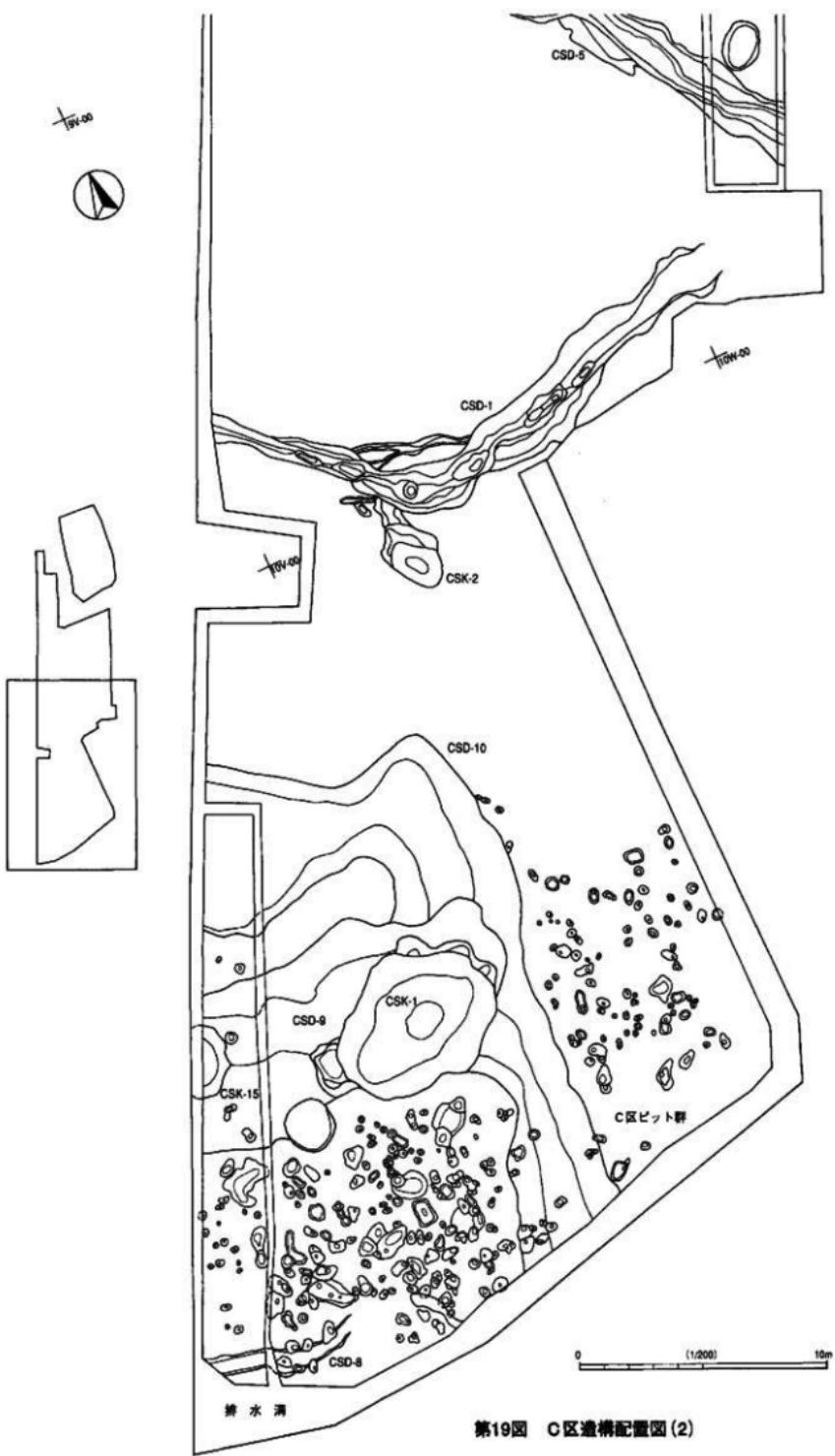
図示した遺物は67点である。出土した遺物の中では土師器が圧倒的多数を占めるが、石製模造品や小玉類が、他遺構に比して顕著に認められる。8の内面の赤彩は、器面が磨耗しており、口縁部以外ははつきりしない。13（図版48）は砂岩製で、図の左側縁は刃部状である。素材や形状等から石庵丁状石器と考えられるものであるが、穂摘具としての使用痕は観察されない。18は稜線が著しく潰れており、火打石と考えられる。19・20は手捏土器である。当遺構では手捏土器などの土製品類も多く出土したが、いずれも小破片ばかりで図示に耐えない。19は口唇部に刻みが施される。21～53・55は滑石製白玉である。54は黒色で光沢のある小玉だが、材質は明らかでない。砂岩製か土玉である可能性もある。56・57はガラス玉である。58は磨って形状が整えられており、勾玉形と考えられる。59～67は滑石製模造品である。62は穿孔が1か所であるが、鏡形と考えられる。63～65も鏡形の一部と考えられる。

CSD-2a・2b・3（第24～27図、図版8・22・30・31・34・43・49・52）

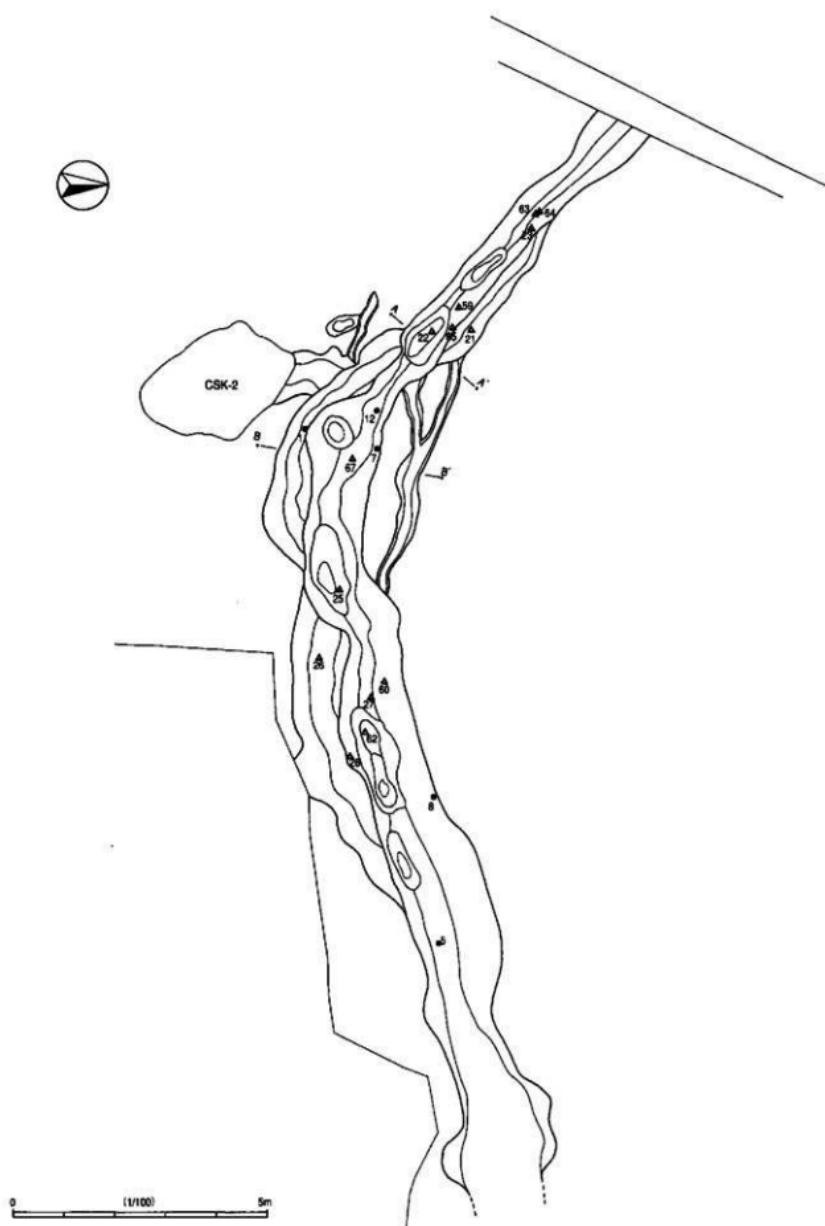
北西～南東方向に軸をとる溝状遺構である。CD区5TからC区1次調査区・2次調査区にかけて位置しており、各調査時に「SD-2」「SD-3」の2つの遺構番号がつけられたが、それぞれで遺構名の混亂がみられたため、整理時に検討を加えた結果3条の溝として報告する事とした。ただし、実際はいずれも同じ水路

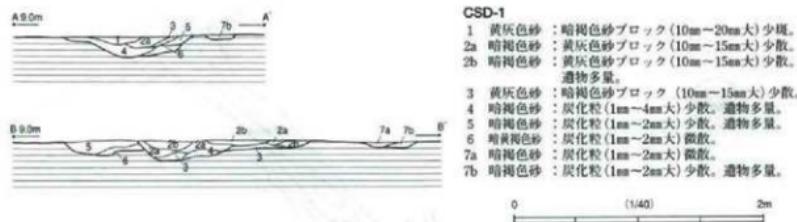


第18図 C区造構配図(1)

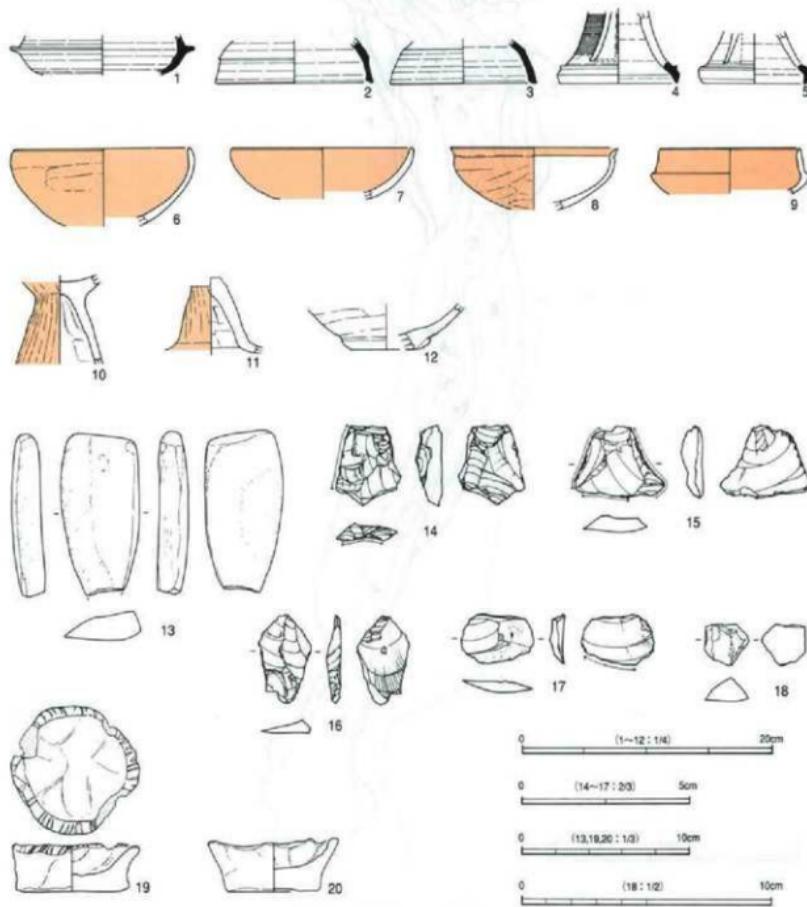


第19図 C区造構配置図(2)

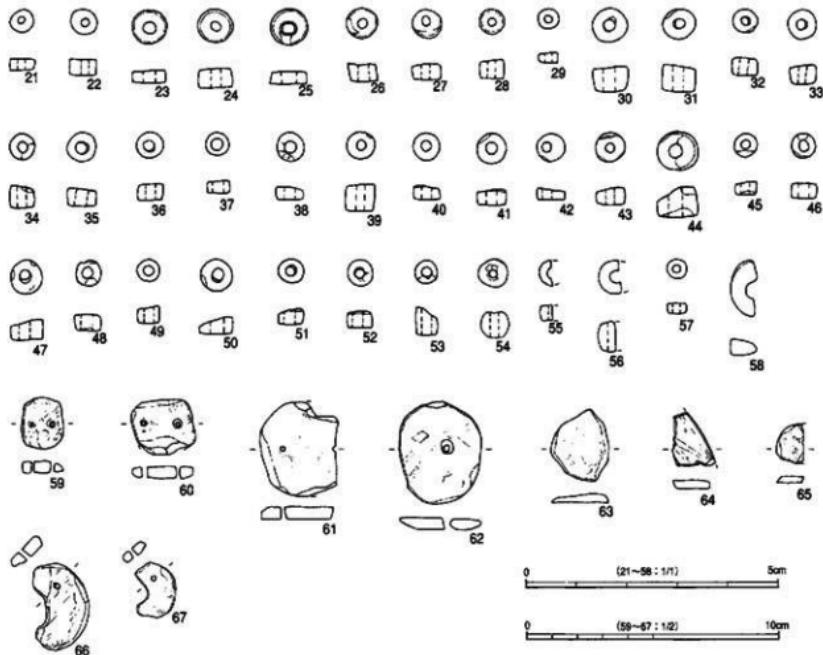




第21図 CSD-1 土層断面図



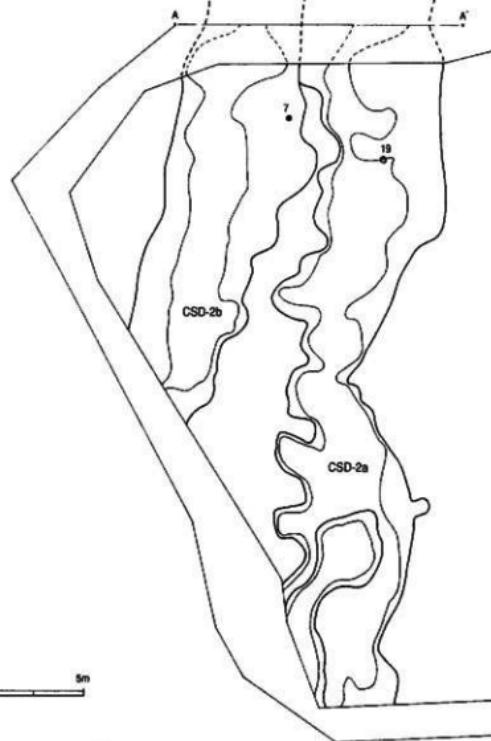
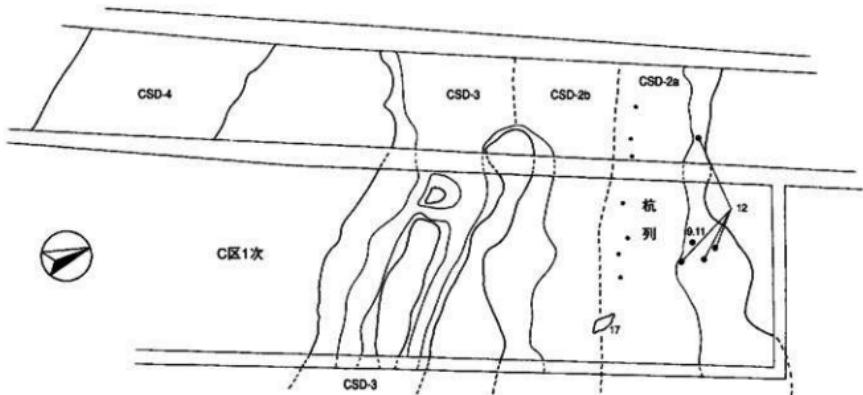
第22図 CSD-1 出土遺物 (1)



第23図 CSD-1 出土遺物(2)

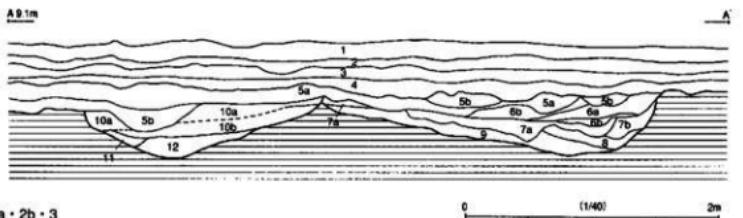
の流路変更の痕跡と考えられ、一括して「CSD-2a・2b・3」と呼称することとした。新旧関係は、断面の観察からCSD-2bがCSD-2aより新しいといえるが、CSD-3との関係は明らかにならなかった。調査区西側のCSD-2aとCSD-2bの境界付近では、遺構に沿うように杭列が検出された。

図示した遺物は38点である。当遺構からは、CSD-1同様土器類や祭祀遺物が多量に出土したが、いずれも調査区西半部(CD区5T, C区1次調査区)から偏って出土しており、そこで水際祭祀が行われたと考えられる。なお、CD区2次1Tからふるい出した滑石製白玉は、便宜上CD区出土遺物(第72図64~100)として掲載したが、実際は当遺構に伴うものと考えられる。12は、ほぼ完形の壺で、口縁部がほぼ直立する。13~16は中世の遺物で、混入品と思われる。13は口禿の白磁皿である。14~16は常滑産片口鉢で、14は13世紀、16は14世紀の所産と考えられる。15は13世紀代の渥美産瓈と思われる。17は木製品で、鍼である。18~21は手捏土器で、20の底部には木葉痕が残されている。22~33は土玉であるが、28~33には貫通孔があけられていない。34~36は上製模造品で、36は紡錘車形と考えられる。37~38は滑石製模造品で、37は勾玉形であるが、鏡形を転用した可能性もある。



0 (1/100) 5m

第24図 CSD-2a・2b・3



CSD-2a・2b・3

- 1 淡灰色粘質土 : 現代耕作土。
 2 淡黄灰色粘質土 : 現代圃地。
 3 淡茶灰色粘質土 : 中・近世耕作土。
 4 暗灰褐色粘質土 : 中・近世耕作土。
 5a 淡灰色粘質土
 5b 淡灰色粘質土
 6a 赤褐色砂質土 : 酸化鉄をマーブル状に含み、多層に分かれ。水流の痕跡。黒灰色粘質土を少量含む。
 6b 赤褐色砂質土 : 穢を中量含む。6a層より粒子は粗い。
 6c 淡青灰色砂質土 : 砂の質は6a層と同じだが、酸化鉄含まない。
 7a 暗褐色砂質土 : 小繩を多量に含む。黒色粘質土ブロック(5cm～10cm大)を少量含む。
 7b 灰色砂質土 : 暗褐色粘質土ブロック(5cm～10cm大)を少量含む。
- 8 赤褐色砂質土 : 暗灰色粘質土を少量含む。
 9 灰色砂 : 酸化鉄をマーブル状に含む。水流の痕跡。粗砂を多量に含む。穢・黑色粘質土ブロック(5mm～10mm大)を含む。
 10a 灰色砂 : 9層より粗い。穢・黑色砂ブロックを少量含む。
 10b 灰色砂 : 10a層よりやや粒子が粗い。
 11 黑色粘質土 : 灰色粗砂を含む。
 12 暗褐色砂 : 10b層より更に粒子が粗い。下半に酸化鉄が沈殿する。

第25図 CSD-2a・2b・3 土層断面図

CSD-4 (第28・30図、図版9・22・34)

北西—南東方向に軸をとる、水路と考えられる溝状遺構である。土師器や土製品が比較的多く出土している。

図示した遺物は6点である。3は縫の穿孔部の破片と考えられる。5は最大径6.5cmの小型の無頸壺で、内外面に赤彩が施される。遺存度は約60%である。焼成前穿孔が、対面方向で2か所認められる。6は接合しない2破片から復元した壺である。つまみは貼り付けられている。

CSD-5 (第29・31図、図版9・30・34・41・50・52)

北西—南東方向に軸をとる、水路と考えられる溝状遺構である。土師器や土製品が多量に出上しているが、石製模造品も少量ある。

図示した遺物は11点である。1は高杯である。破片下端部に櫛描波状文が施される。2は壺の口縁部で、2本の横走する隆線の間に櫛描波状文が施される。3は器面が磨耗し、赤彩の有無は明らかでない。4は土製模造品で臼形と考えられる。指頭圧痕が観察される。5は常滑産の片口鉢である。6～10は滑石製品である。11は黒曜石製の石鎌である。左基部を欠損していると考えられる。5・11は混入品と考えられる。

CSD-6 (第18図)

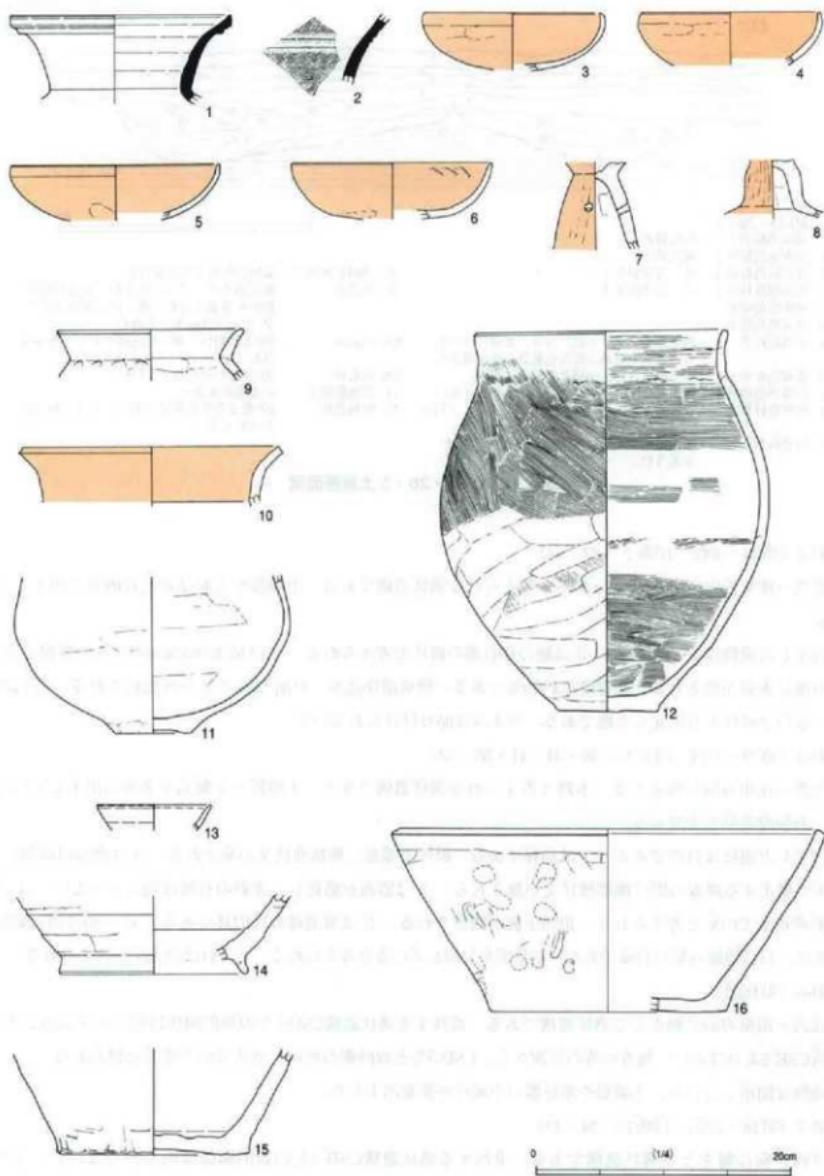
北西—南東方向に軸をとる溝状遺構である。重複する溝状遺構CSD-7との新旧関係は明らかではないが、土坑CSK-5よりは古い。軸方向等の状況から、CSD-5等と同時期の所産と考えるのが妥当と思われる。

遺物は図示しないが、土師器や須恵器の小破片が微量出土した。

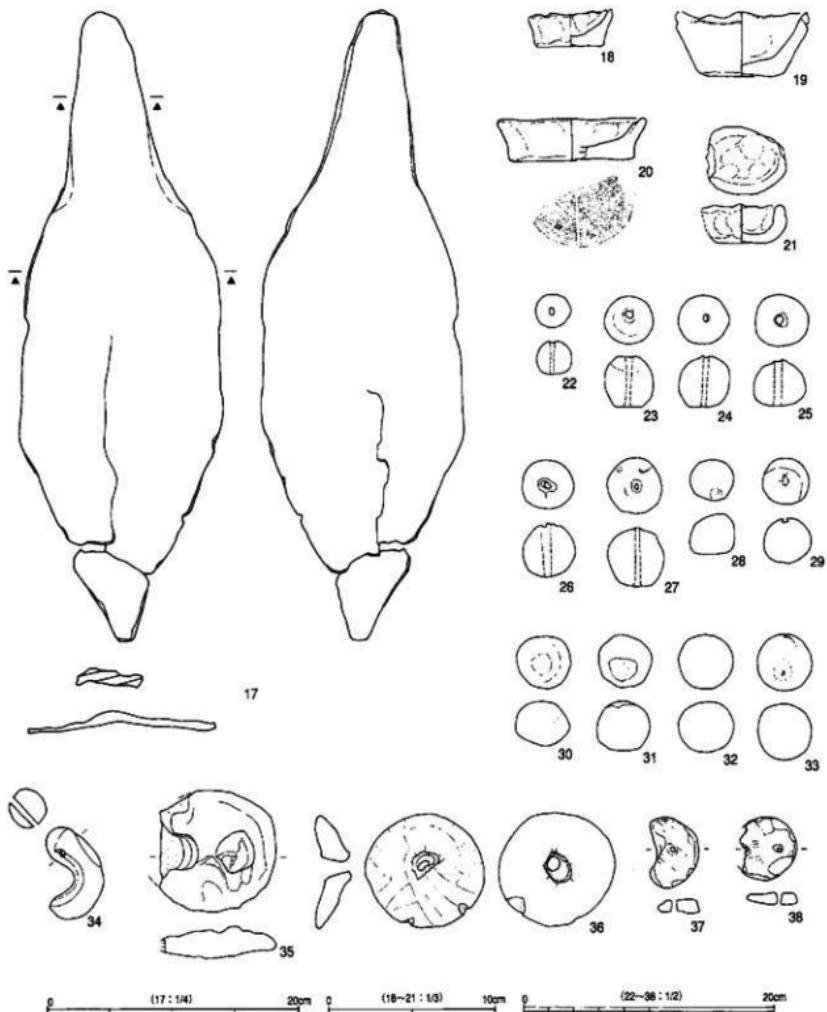
CSD-7 (第18・32図、図版10・34・49)

東西方向に軸をとる溝状遺構である。重複する溝状遺構CSD-6との新旧関係は明らかでないが、土坑CSK-4よりは古い。

図示した遺物は3点である。2は杯だが、底部には木葉痕が残されている。3は七玉の破片である。



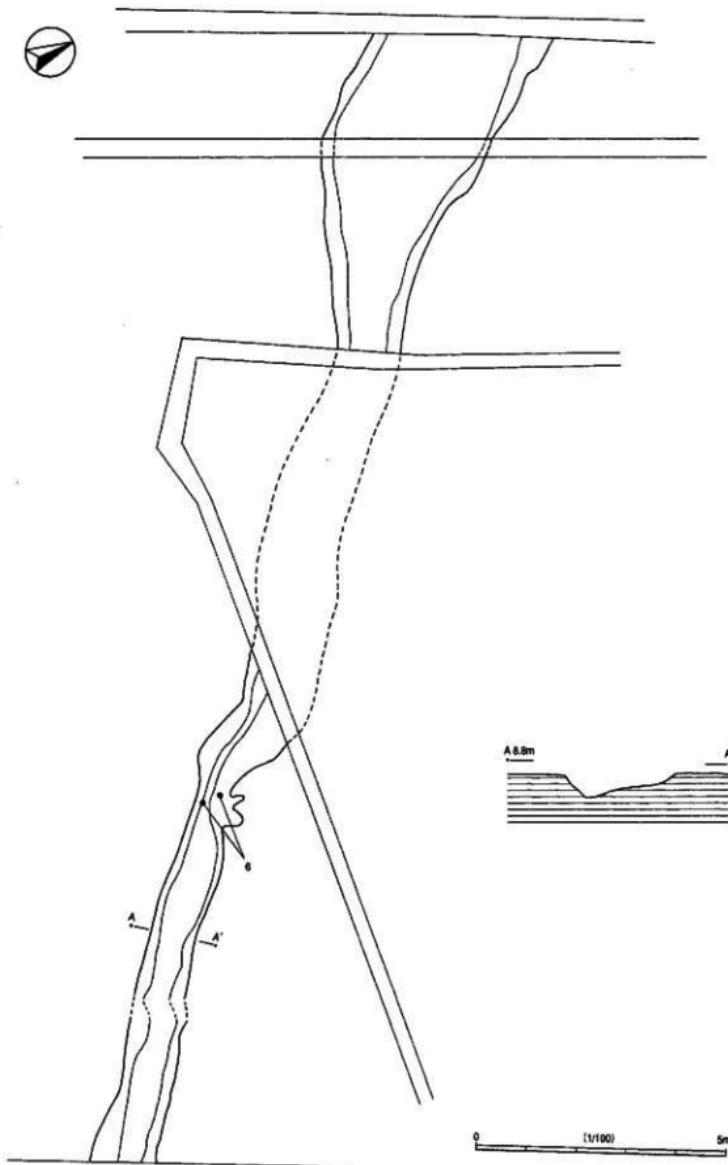
第26図 CSD-2a・2b・3出土遺物(1)



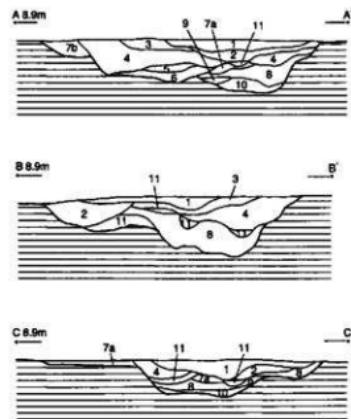
第27図 CSD-2a・2b・3出土遺物(2)

CSD-8 (第33・48図、図版52)

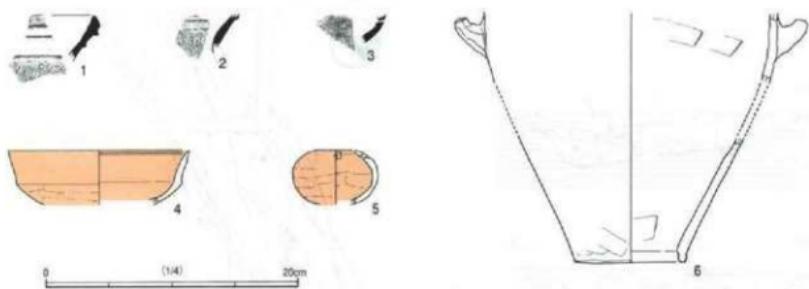
東西方向に軸をとる溝状造構で、東端は削平されて確認できない。また、重複するピット群に切られている。覆土は褐色砂質土である。状況から古墳時代中期頃の所産と考えられる。遺物は、メノウ製の勾玉が1点出土した(第33図1)。そのほかは土師器と須恵器の小破片が微量出土したのみである。



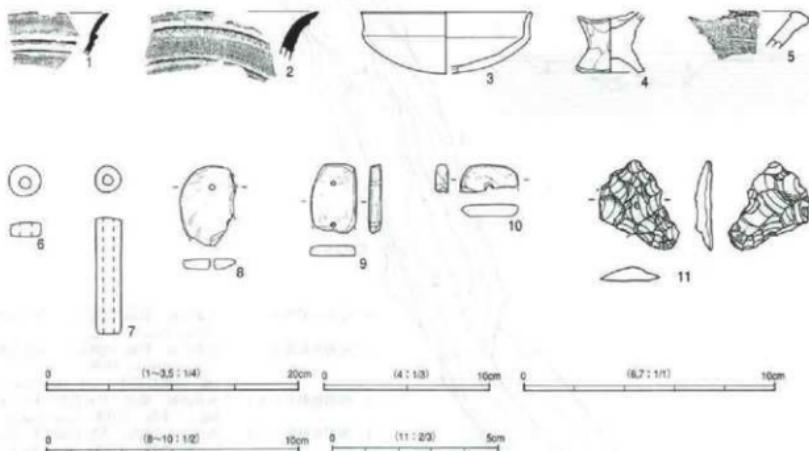
第28図 CSD-4



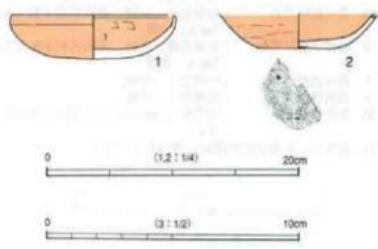
第29図 CSD-5



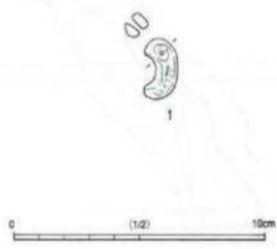
第30図 CSD-4 出土遺物



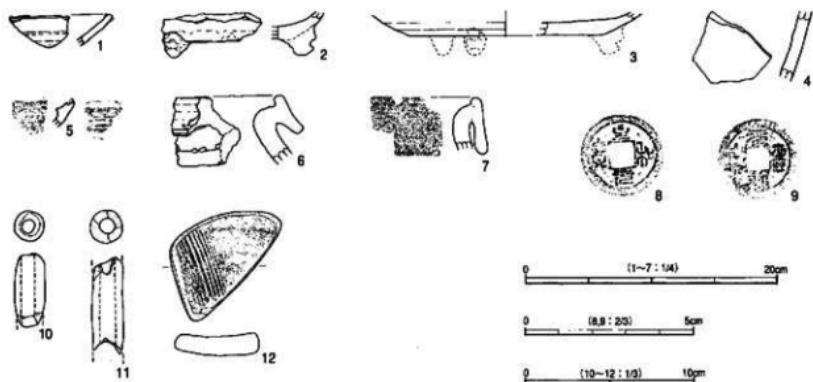
第31図 CSD-5 出土遺物



第32図 CSD-7 出土遺物



第33図 CSD-8 出土遺物



第34図 CSD-10 出土遺物

CSD-9 (第19図)

東西方向に軸をとる溝状遺構で、土坑CSK-1に切られ、溝状遺構CSD-10とはほぼ同時期と考えられる。遺物は図示しないが、土師器片が多く出土しており、古墳時代の所産と考えられる。

CSD-10 (第19・34図、図版34・53・54)

南北方向～東西方向に屈曲する溝状遺構である。ピット群と土坑CSK-1に切られ、溝状遺構CSD-9とはほぼ同時期と考えられる。古墳時代の所産と考えられる。

図示した遺物は中世のものばかりであるが、周辺のピット群などからの混入品と考えられる。全体としては、土師器小片が多量に出土している。1は鉄軸の卸皿である。破片左端は注口と考えられる。2・3は瀬戸産三足盤で、2は脚部が1か所遺存する。4は灰軸の瓶子である。5は鉄軸擂鉢である。6・7は常滑産と考えられる甕で、6は14世紀の所産である。8・9は北宋銭である。10・11は管状土錠、12は鉄軸擂鉢の転用砥石である。

3 土坑

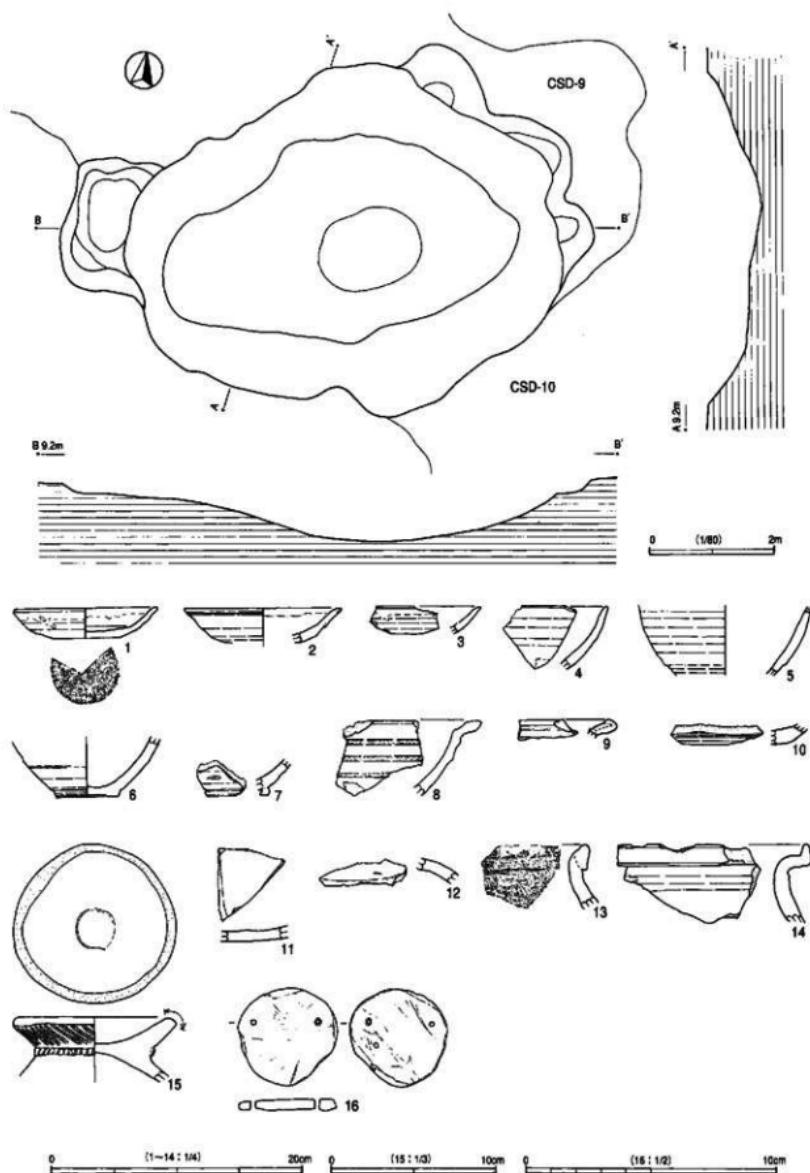
CSK-1 (第35図、図版30・35・52)

重複するCSD-9・10より新しい、中世の井戸と考えられる。周辺のピット群とともに、屋敷を構成するものとも考えられる。覆土は炭化粒や焼土粒を含む灰褐色粘質土を主体とするものであった。

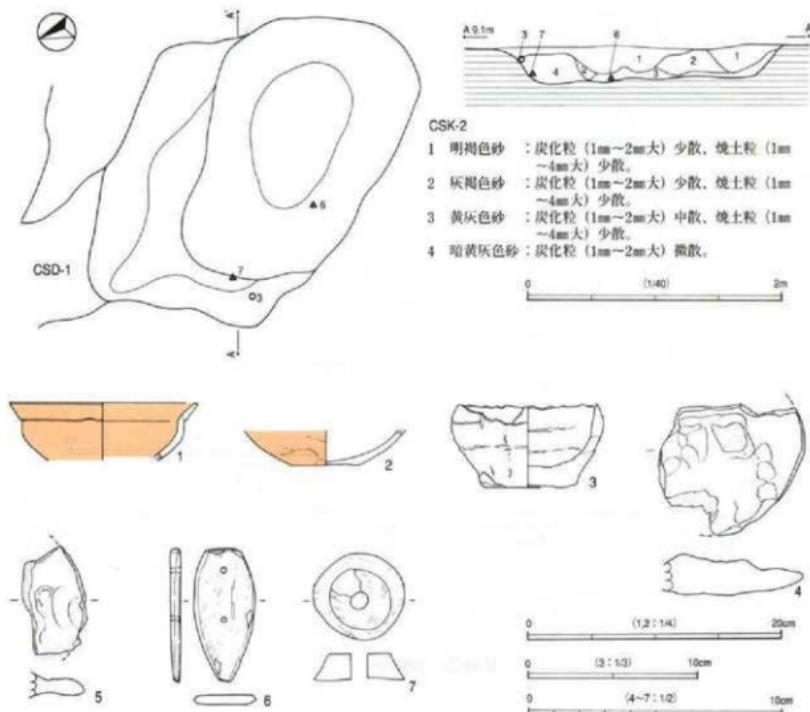
図示した遺物は16点である。1～3は縦軸小皿である。4～6は天目茶碗、7は灰釉碗である。7の高台は貼付高台である。8～11は三足盤で、11は内面のみ、8～10は内外面とも全面に灰釉が施される。12は瀬戸産瓶子である。13・14は常滑産甕で、14は5型式、13世紀の所産である。15は脚付土器の転用砥石である。器面が磨耗し詳細は明らかにならないが、繩文が施文されており、刻みの施された陣帶に沿って上下が沈線でなぞられているかもしれない。16は滑石製の鏡形で、混入品と思われる。

CSK-2 (第36図、図版10・30・35・49・52)

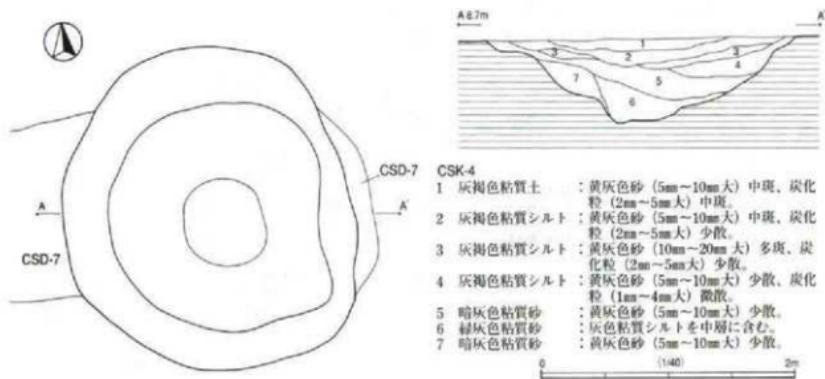
覆土は重複するCSD-1からの流入堆積で、CSD-1と同時に存在したとみられる。古墳時代中期の溜井戸と



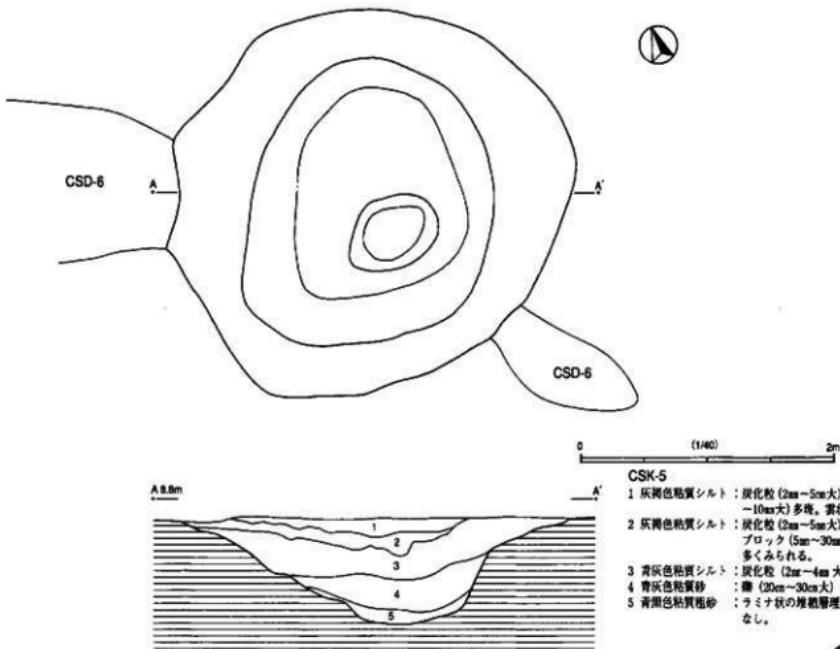
第35図 CSK-1 と出土遺物



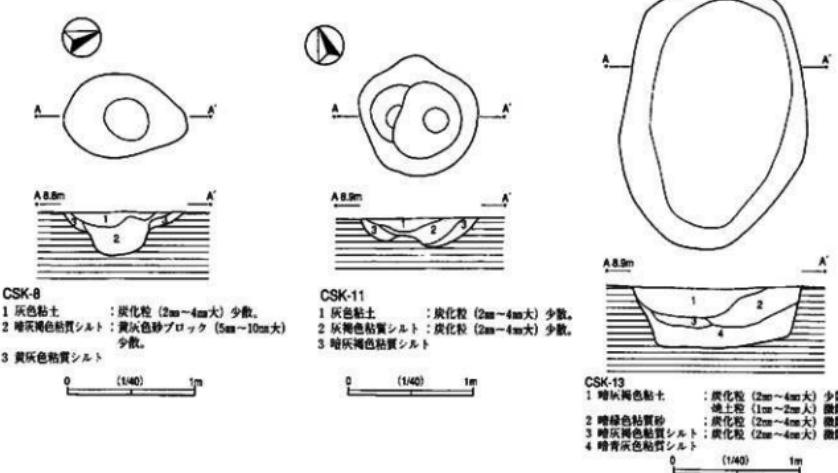
第36図 CSK-2 と出土遺物



第37回 CSK-4



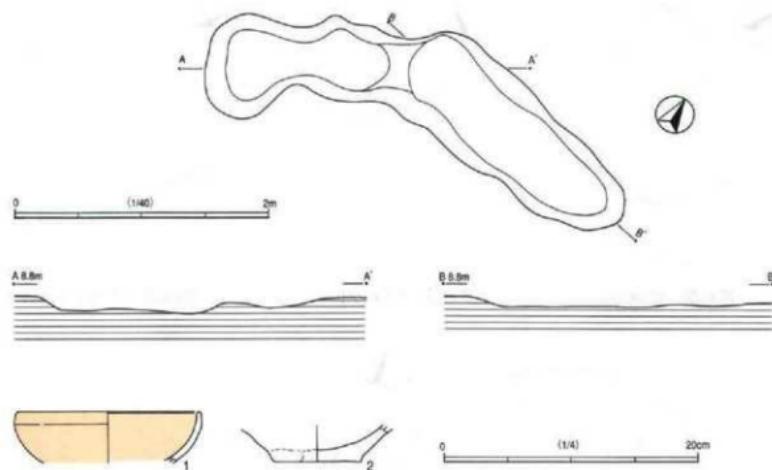
第38図 CSK-5



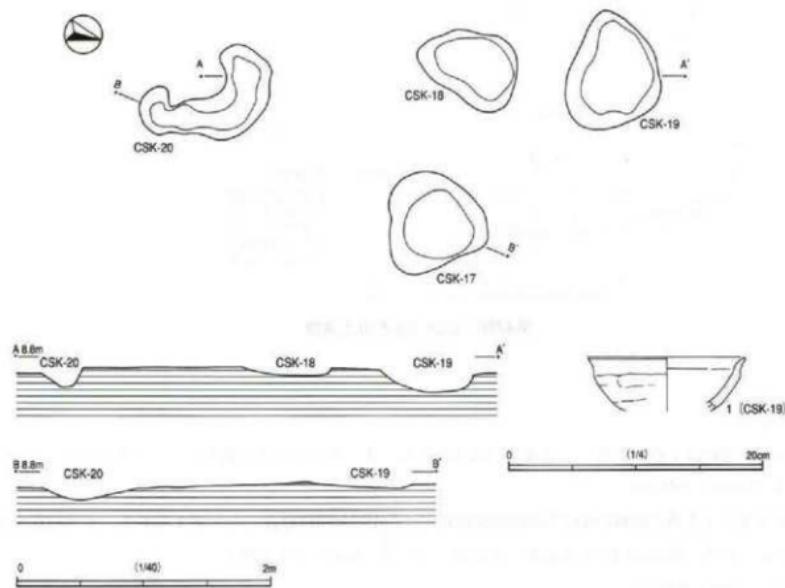
第39図 CSK-8

第40図 CSK-11

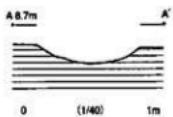
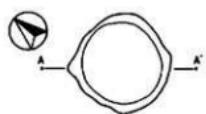
第41図 CSK-13



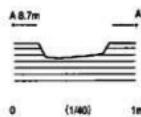
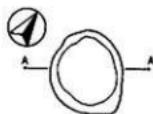
第42図 CSK-16と出土遺物



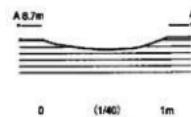
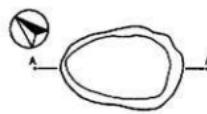
第43図 CSK-17・CSK-18・CSK-19・CSK-20と出土遺物



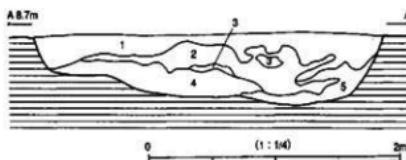
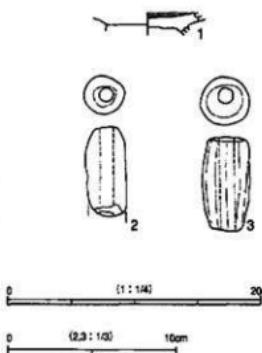
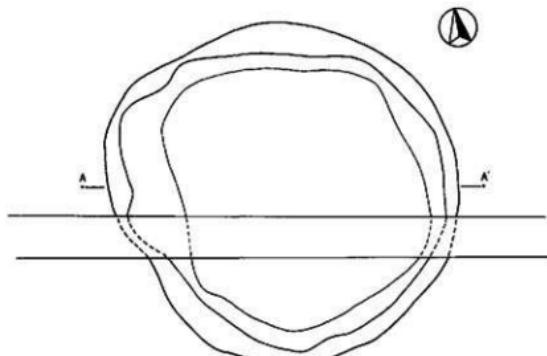
第44図 CSK-21



第45図 CSK-23



第46図 CSK-24



- CSK-22
1 増灰色砂質粘土
2 細灰色砂質土
3 砂質ブロック
4 黒灰色粘質土
5 灰色砂質粘土

第47図 CSK-22 と出土遺物

考えられる。

図示した遺物は7点である。2は壺、3は手捏土器、4・5は上製品で鏡形、7は石製劔鉤車である。

CSK-4（第37図、図版10）

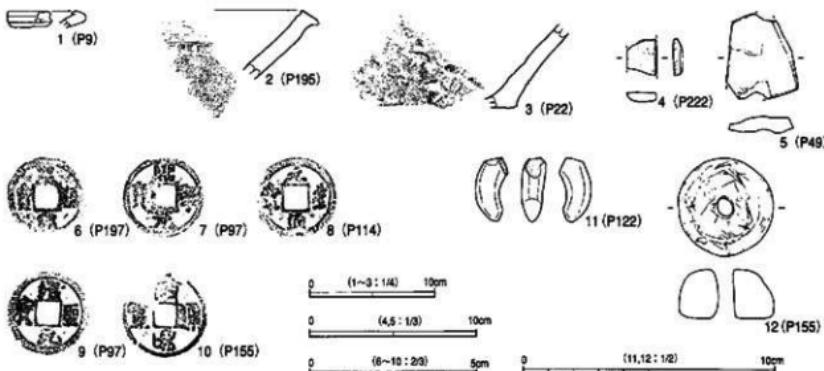
覆土は重複する溝状遺構CSD-7からの流入堆積で、CSD-7と同時存在したと考えられる。古墳時代の溜井戸と考えられる。遺物は図示しないが、土師器と須恵器の小破片が少量出土した。

CSK-5（第38図、図版10）

土層の観察から、重複する溝状遺構CSD-6より新しい井戸と考えられる。径20cm～30cmほどの大型疊が

図48 C区ヒット群とCSD-8・CSD-9・CSD-10





第49図 C区ピット群出土遺物

数個、覆土下層から出土した。遺物は、図示しないが土師器や須恵器の小破片が少量出土している。

CSK-8・11・15（第19・39・40図）

遺物は皆無で、時期や用途等は不明である。

CSK-13（第41図、図版10）

径20cm～30cmほどの大型の礫や木片が出土したが、土器は皆無で、時期や用途等は不明である。

CSK-16～20（第42・43図、図版35）

いずれも土師器や須恵器、土製品類の小破片が少量出土した土坑だが、時期や用途等は明らかでない。

CSK-21・23・24（第44～46図）

遺物は皆無で、時期や用途等は不明である。

CSK-22（第47図、図版10・35・53）

土師器や須恵器、土製品の破片が出土した土坑である。時期ははっきりしないが井戸である可能性が高い。図示した遺物は3点である。1はロクロ土師器で、内黒の高台付杯である。2・3は管状土錘である。

4 ピット群（第48・49図、図版10・35・41・49・52・54）

C区の南端部を中心に、ピット群を検出した。検出面からの深さは数cm～30cm程度のピットがほとんどである。覆土は炭化物を含む灰褐色土が主体で、柱の痕跡や、柱そのものの遺存するものもみられる。貝が出上したピットもあるがいずれも微量で、カキ類、イタヤガイ、フジツボ類、ウニ類、タニシ類などの貝種が認められる。ピット群は掘立柱建物跡を構成するものと思われるが、建物の推定は困難であった。北宋銭や中世の遺物が多く出土することや、井戸（CSK-1）の存在などを考え合わせると、中世の屋敷地を構成するものであった可能性が高い。

図示した遺物は12点である。1は三足盤である。2・3は片口鉢と考えられる。4・5は砾石、6～10は北宋銭である。11は土製品で、勾玉形の破片と考えられる。12は紡錘車である。11・12は混入品と考えられる。

5 遺構外出土遺物（第50図、巻頭図版3、図版37・41・49・53）

1・2は白磁で、1は口禿皿で、2は割高台皿である。3～5は縁軸小皿で、3は底部外面に墨書きがみられる。6は灰釉の鉢皿、7は丸皿、8は三足盤、9は瓶子である。10・11は鉄軸擂鉢である。12・13は常滑産片口鉢で、12は転用砥石でもある。14・15は甕と考えられる。16は黒曜石の剥片で、17～21は砥石である。22はメノウ製の火打石である。23は貫通孔のない土玉である。24は管状土錐、25は鉄軸擂鉢の転用砥石である。



第50図 C区遺構外出土遺物

第5節 D区

1 概要（第51図）

D区は、C区の北に隣接する調査区である。調査面積は1,500m²、検出面の標高は調査区北西端で約8.7mである。検出された遺構は、弥生時代から古墳時代にかけての旧河道と考えられる遺構で、東海系土器や5世紀半ば～後半頃の陶邑産須恵器を含む多量の土器のほか、子持勾玉はじめ祭祀遺物が多く出土し、水際祭祀を行っていたものと考えられる。

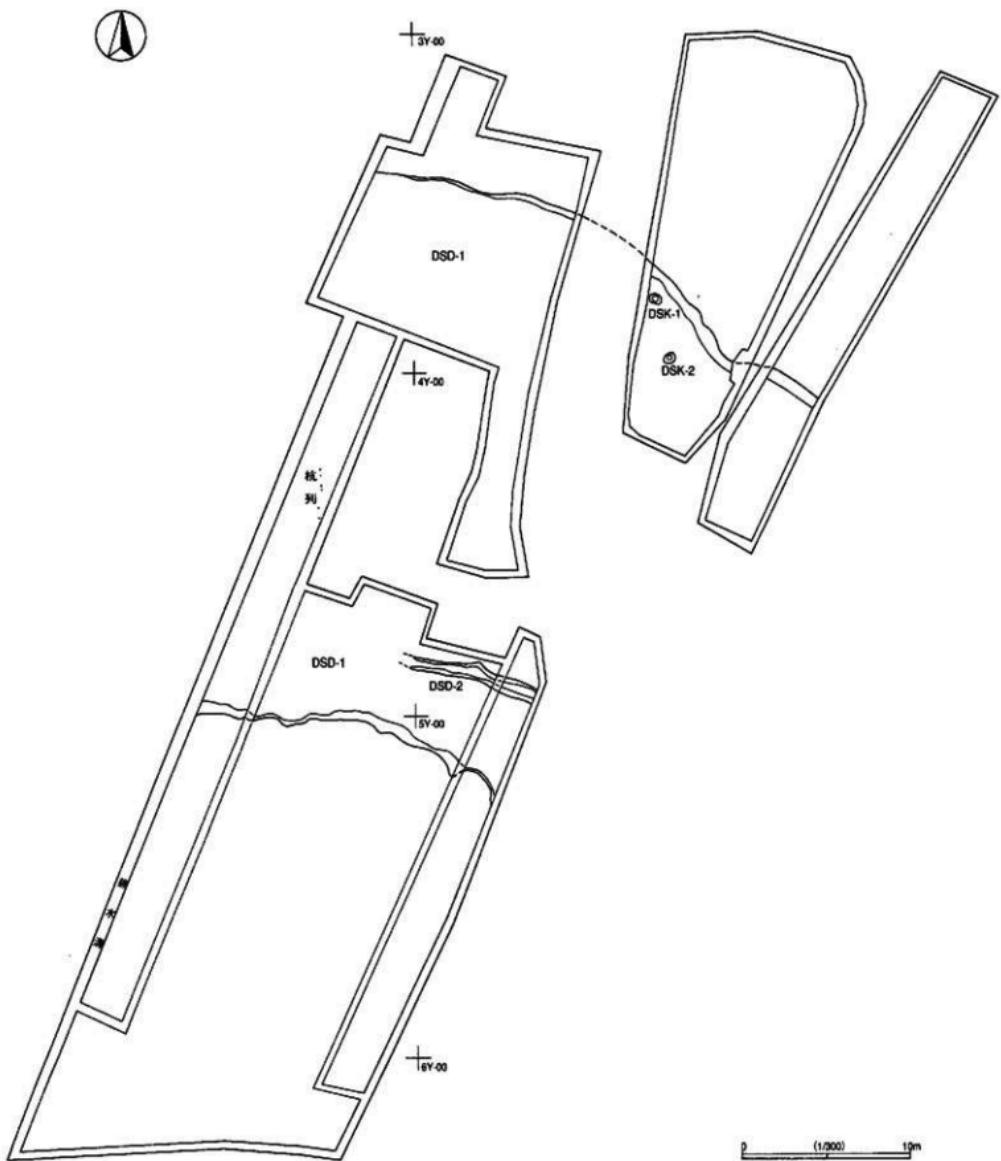
2 旧河道

DSD-1（第52～65図、巻頭図版1、図版11・22・23・30・31・35・36・41・43・48～50・52）

西区（SD-1W）、東区（SD-1E）、西区と東区との間（SX-2）と、3区に分けて調査が行なわれた遺構である。幅約33mで調査区内を横断する。立上がり部付近の標高は、北側の西部で上端約8.7m、下端約8.5m、東部で上端約8.9m、下端約8.5mである。南側の立上がり部については、上端約8.8m、下端約8.6mである。中間部の底面レベルは、調査区東側で約8.5m、西側の杭列付近で約8.1mで、東から西に向かって低くなる。検出面から底面までの比高差は、最も大きいところで約80cmである。覆土は黒色砂質土・黒色粘質土・木質を含む黒色泥炭層であった。両岸の立上がり部付近には主に黒色砂質土が堆積し、中間部へいくほど粘性が強くなり、泥炭層がみられるようになる。規模や方向などから、旧河道と考えることができるが、調査区西側では杭列が検出されており（第51図）、これが堰のようなものであったとすると、必ずしも常時水が流れていたとは限らない。また、土層の様子を見ても、激しい流れを推定することはできない状況であったので、旧河道とはいえ、水の流れは緩やかであったか、あるいはほとんど沼地状を呈していた可能性が高い。

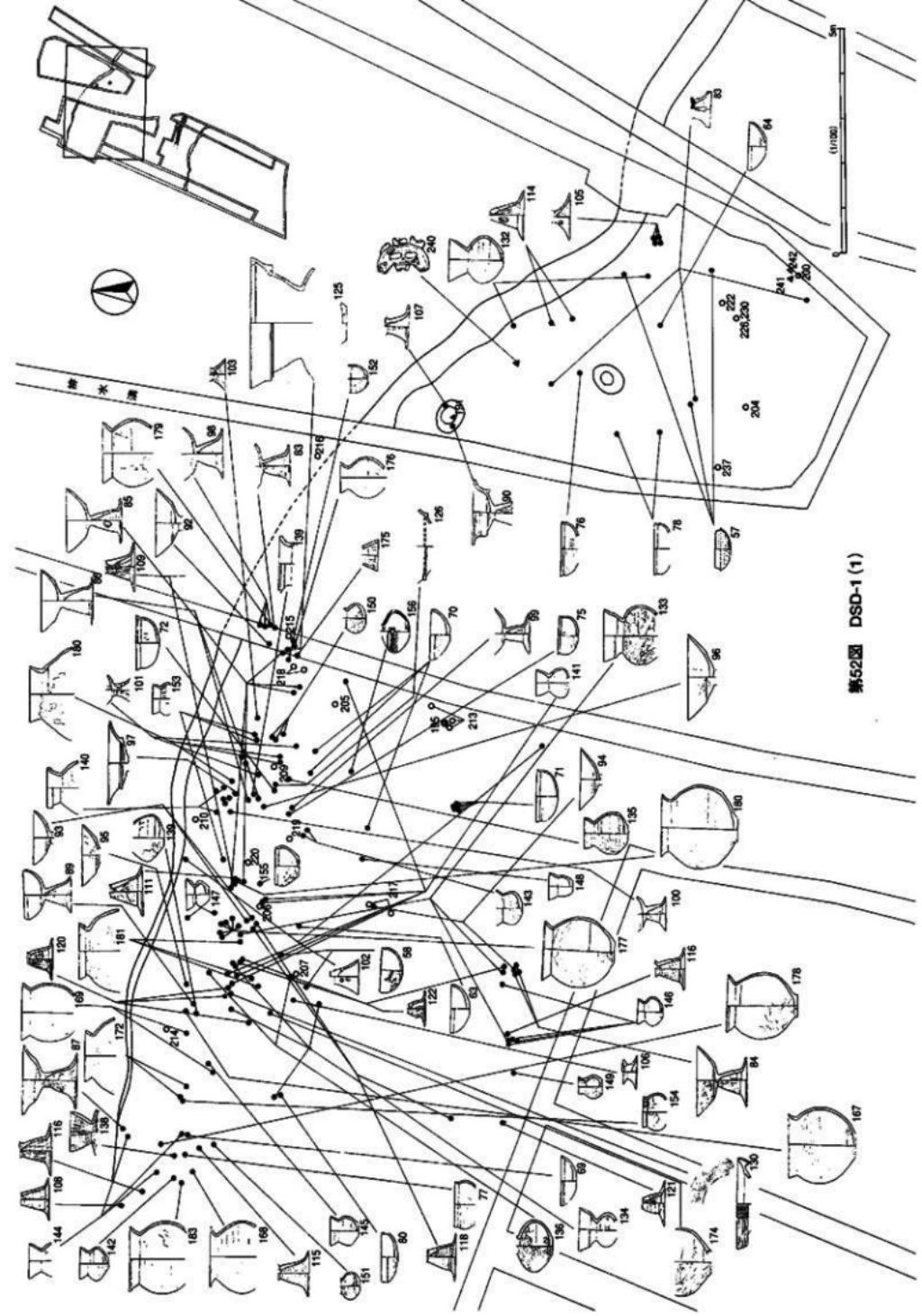
遺物は、弥生土器・土師器・須恵器をはじめ土製品、石製品、木製品などが極めて多量に出土した。また、シカやイノシシ、イルカ・クジラ類の歯・骨、剣形を呈するカジキの吻（図版48）や、モモを主とする種子類など、自然遺物も多く出土した。遺物は調査区北西部の立ち上がり部付近に集中して出土しており、ここで水際祭祀が行われていたものと考えられる。なお、完形に近い個体は結果的に少なかったものの、調査時の所見として高杯が目立って多く出土していたことが指摘できる。また、破片数の関係で便宜的に「ESD-7出土遺物」として報告している須恵器の棒形甌（第102図1）は、このDSD-1でもほぼ同数の破片が出土しており、巻頭図版1では「DSD-1出土遺物」として掲載している。

図示した遺物は250点である。1～52は弥生土器である。いずれも磨耗が著しく、赤彩の有無など詳細が明らかでないものが多い。2はS字状結節文が4段観察され、3と同一個体と考えられる。4～7は口唇部に縄文が施される。8～16は、縄文の上に沈線を施すものである。9と11、15と16はそれぞれ同一個体と考えられる。17は、羽状縄文の上部に、櫛描波状文とみられる文様が施されている。18は上から沈線区画縄文、S字状結節文、羽状縄文が施されるようである。18と19は他と比べ胎土が粗く器厚が厚い。同一の大型個体と考えられる。20は浅く細い沈線で、幾何学的な文様が描かれる。21～26は、沈線区画縄文による文様意匠をもつ。27は磨耗が著しく文様の有無もはっきりしないが、右上端に円形浮文とみられるものがある。28は上端部に沈線が横走する。29～31は羽状縄文が施される。32は下端部にハケ目のようなものが観察できる。33～36はハケ調整の甌で、同一個体と思われる。口縁部は指頭による調整である。37もハケ調整の甌で、口縁部は棒状工具による正面からの刻み列である。38～41は無文である。42の口唇部



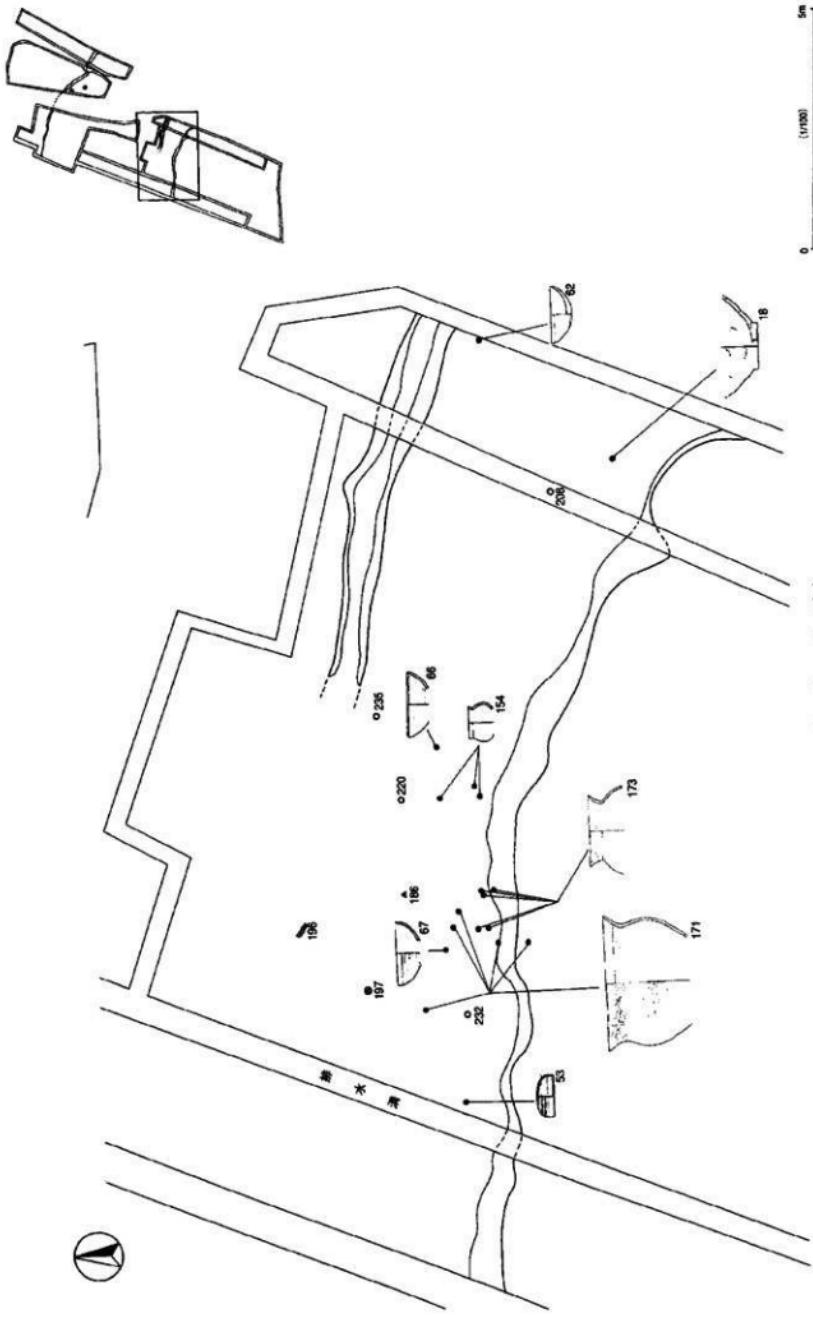
第51図 D区造溝配置図

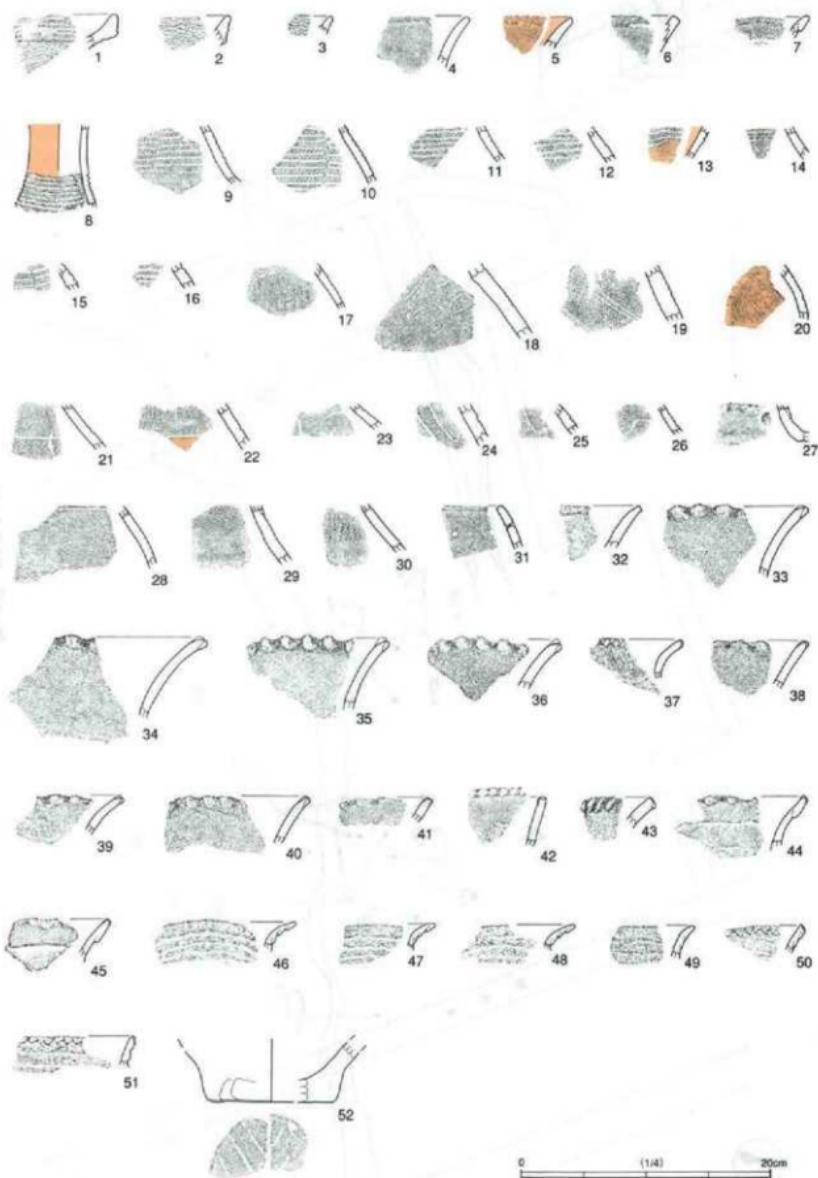
図52 DSD-1 (1)



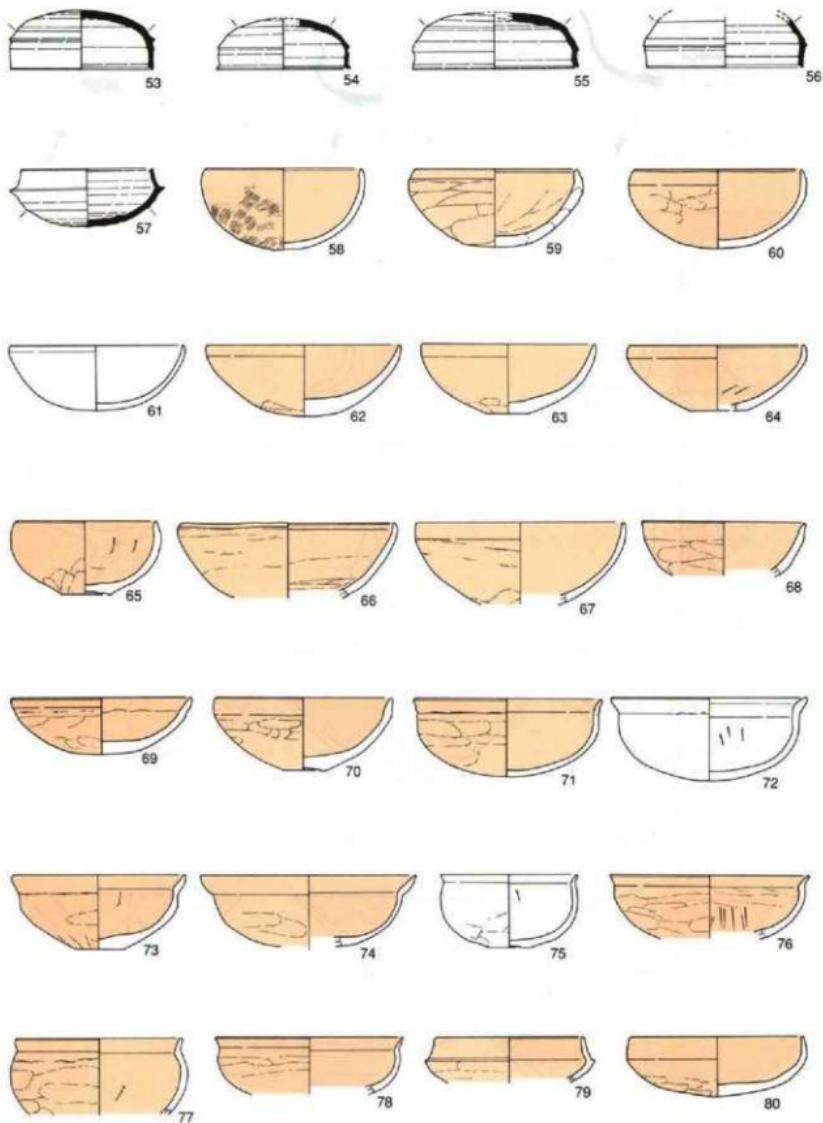
5m (1000)

第53回 DSD-1 (2)

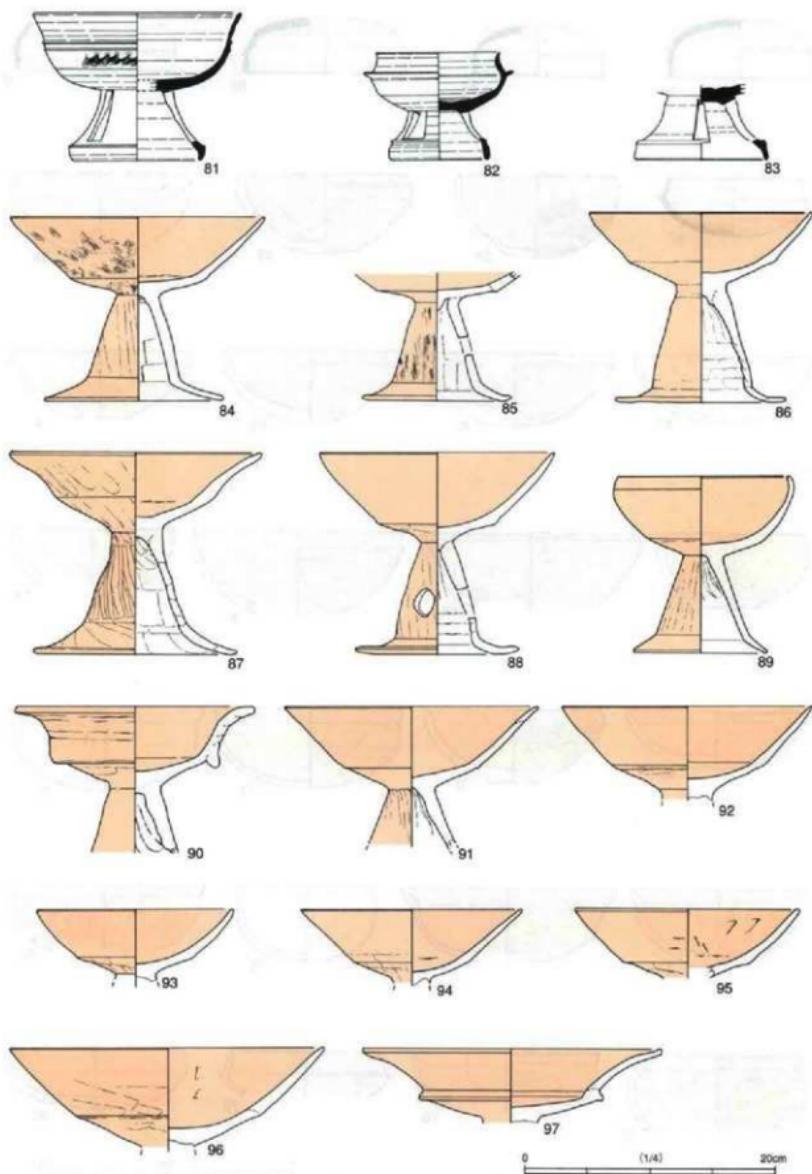




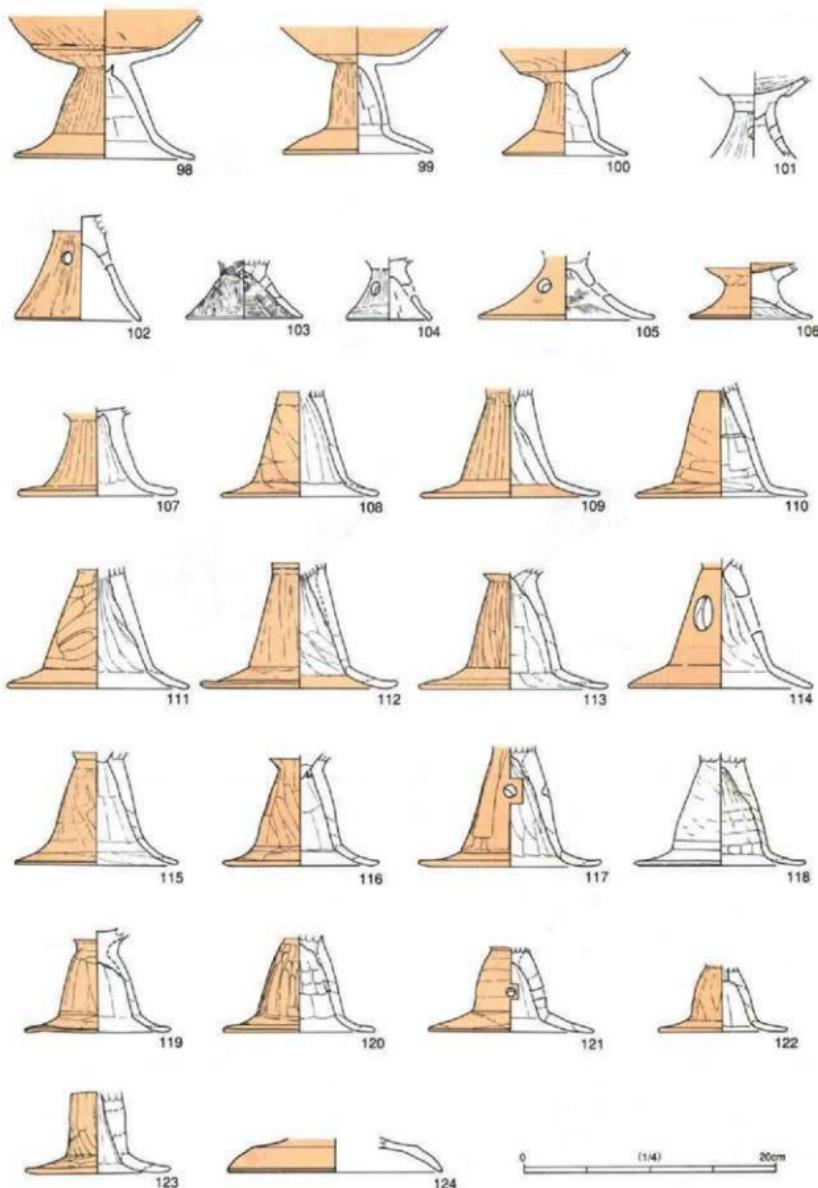
第54図 DSD-1 出土遺物(1)



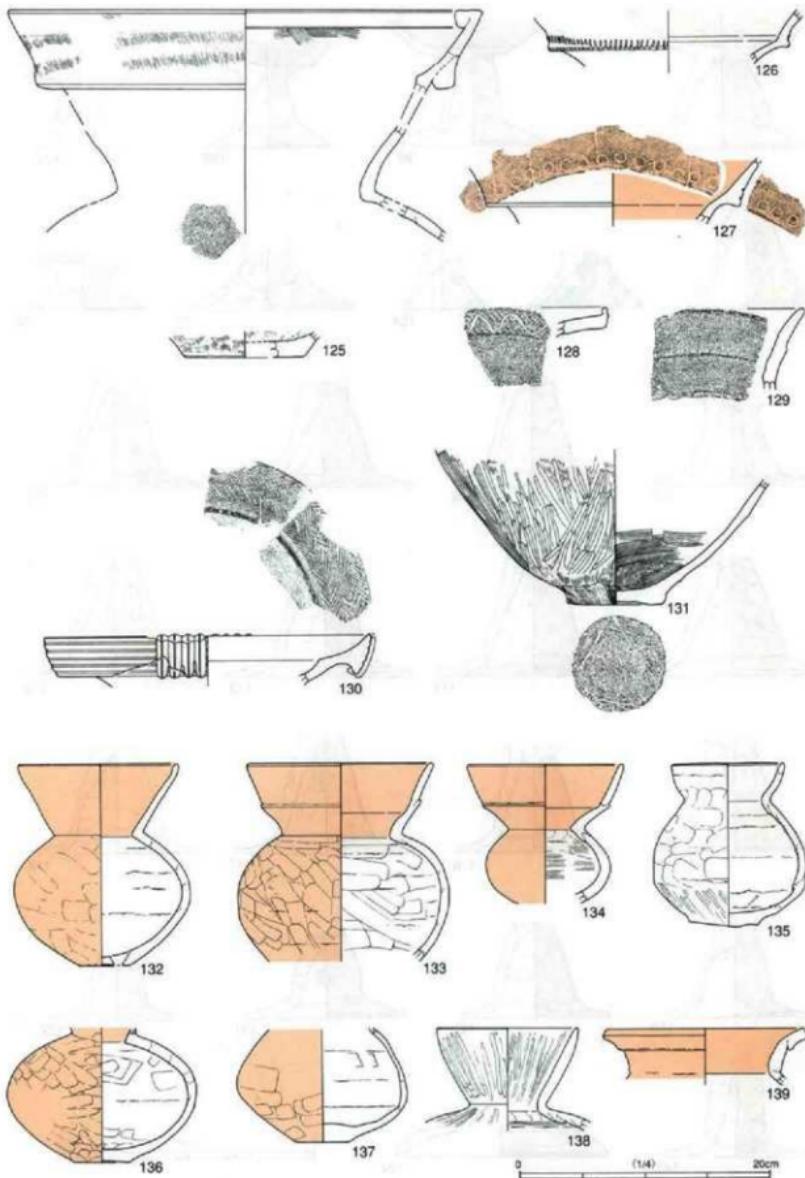
第55図 DSD-1 出土遺物 (2)



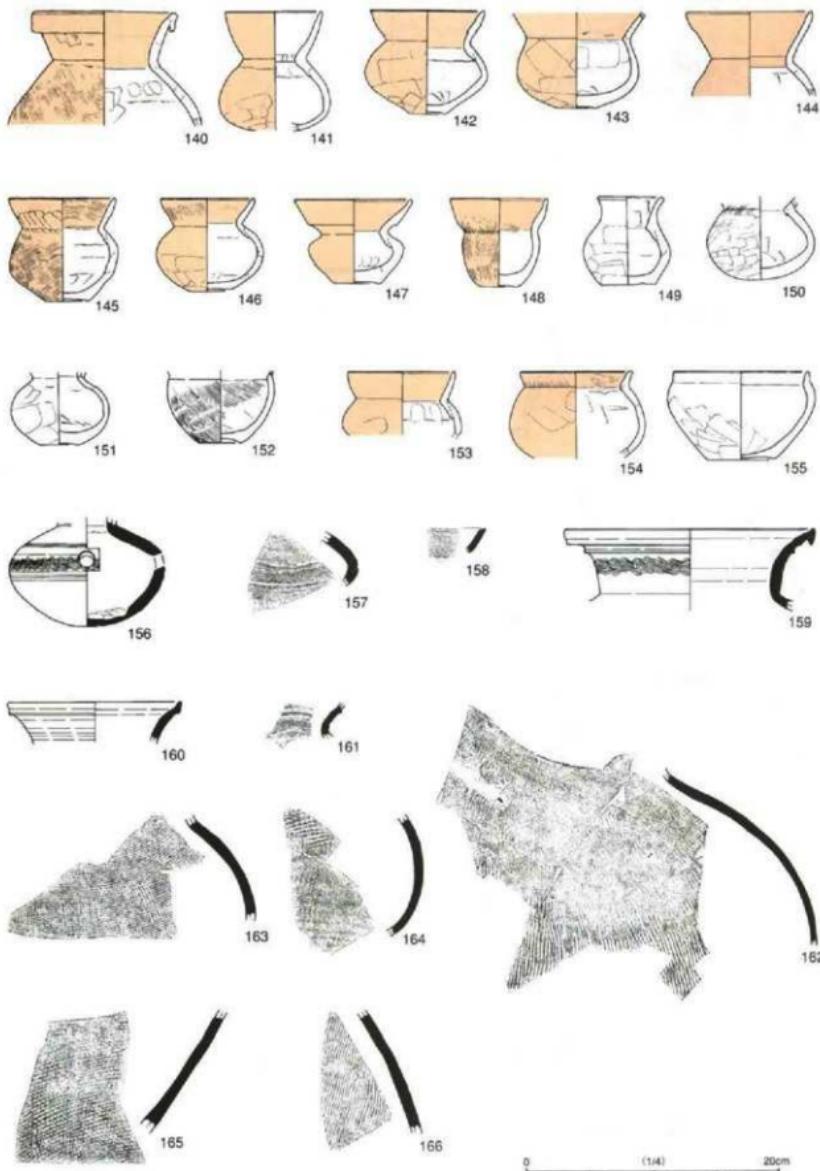
第56図 DSD-1 出土遺物(3)



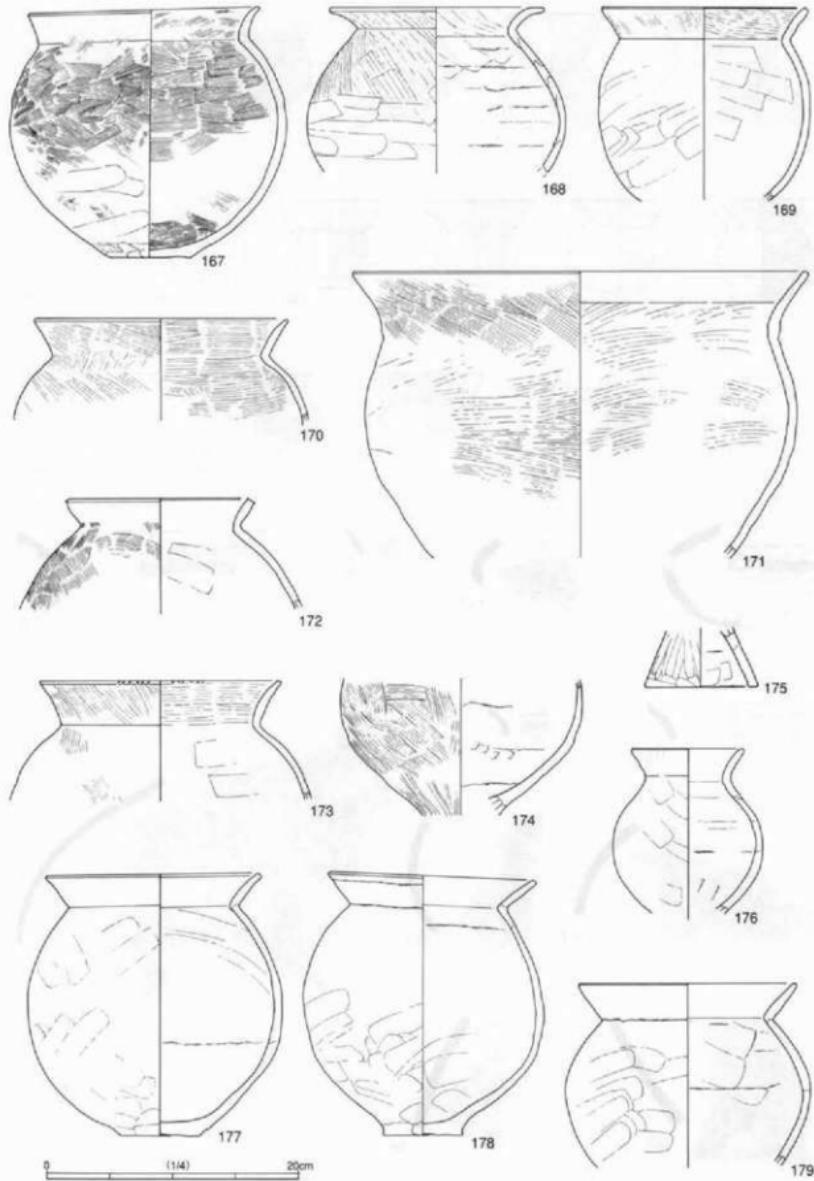
第57図 DSD-1 出土遺物(4)



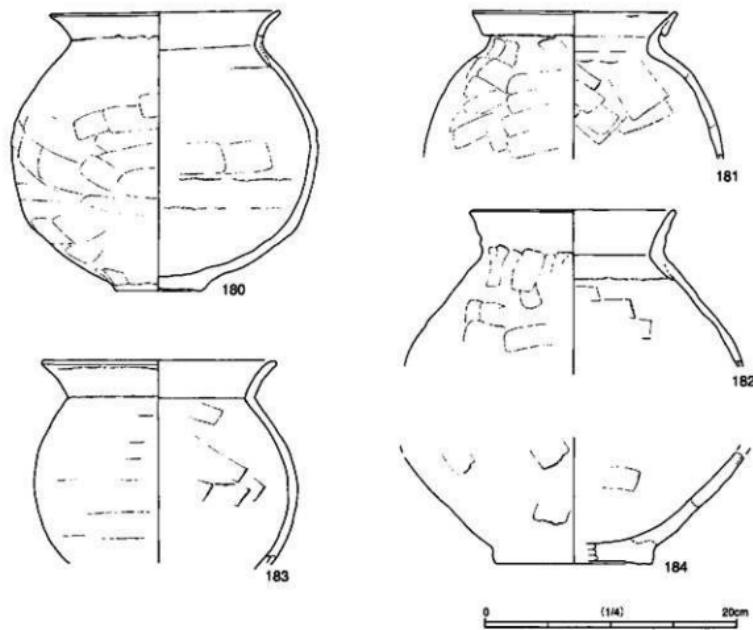
第58図 DSD-1 出土遺物(5)



第59図 DSD-1 出土遺物(6)

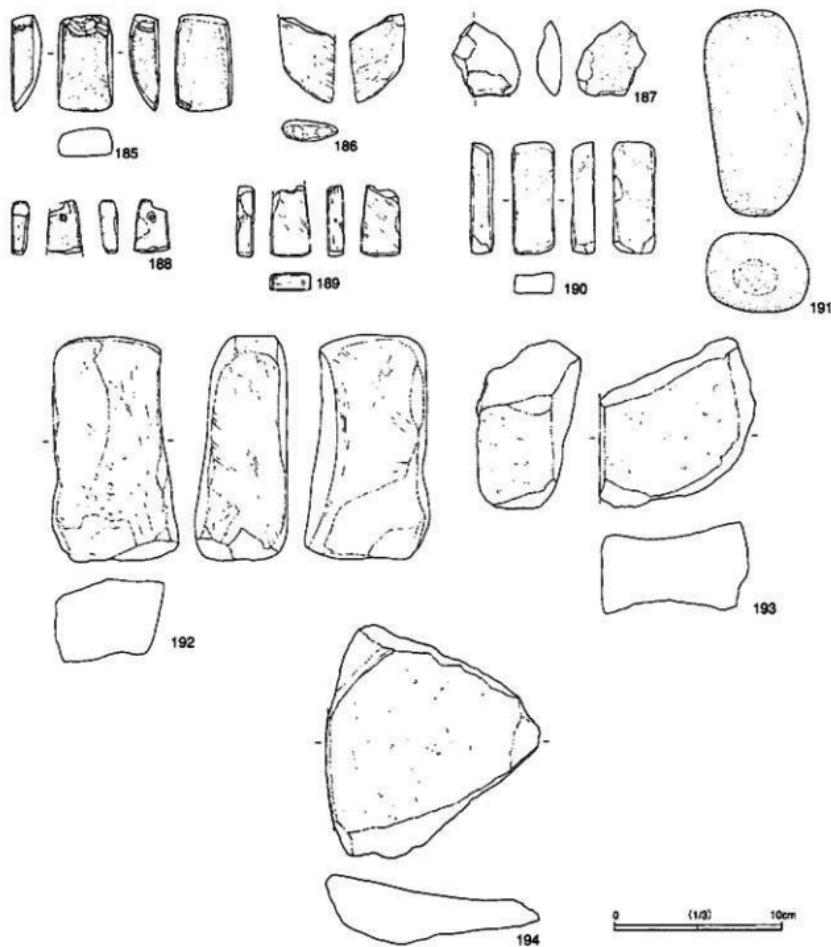


第60図 DSD-1 出土遺物(7)



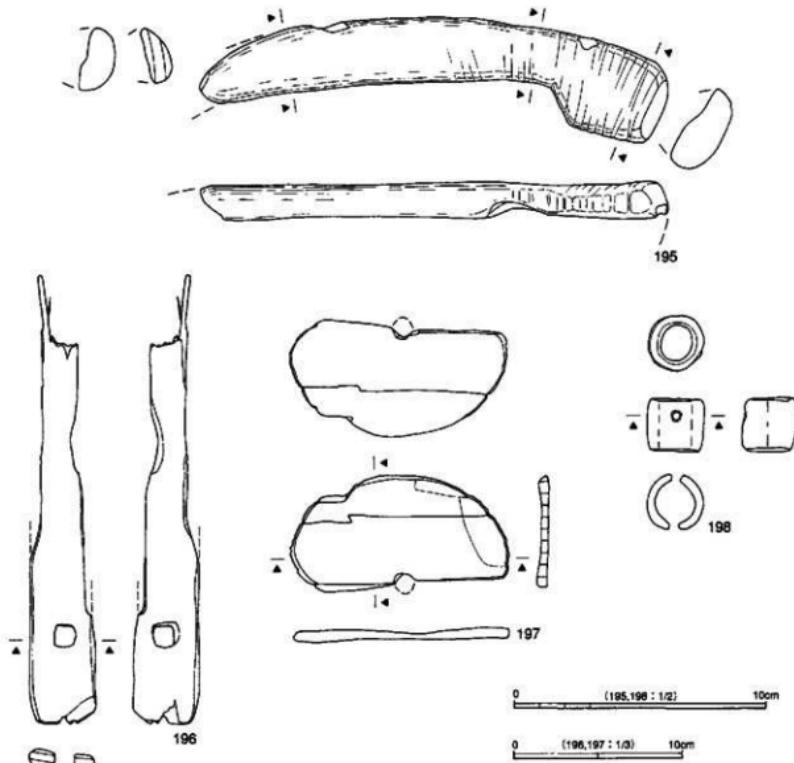
第61図 DSD-1 出土遺物(8)

は棒状工具先端の押捺列である。43は無文で、口唇部はヘラ状工具による刻み列である。44・45は同一個体と思われる。46~48は平縁で、同一個体と思われる。49も口唇部が磨滅しているが、平縁と考えられる。50・51は口縁に押捺が施される。52は底部に木葉痕が残される。53~57は須恵器で、いずれも口縁部の2分の1に満たない破片からの復元である。胎土は緻密で、色調は暗灰色を呈し、焼成は良好である。58~80は土師器杯である。土師器杯は、大きく分類すると口縁形が内側するものと外反するものとがあり、それぞれに丸底と平底が認められる。そのほか、79・80のような須恵器模倣杯もある。調整は内外面ともナデによるものがほとんどであるが、58のようにハケ目を残すものもある。また、赤彩は内外面に施されるものがほとんどであるが、61など、可能性は高くても磨耗が著しく明らかでないものもある。72・75は、現状では赤彩の痕跡が全く認められない。81~83は脚部に台形の透孔を3か所もつ須恵器高杯である。81は杯部40%、脚部60%の遺存度で、遺存部分には把手の痕跡は認められない。杯部内面全部と脚部外面のほぼ全部が、白色の自然釉に覆われている。81・82の地色は暗灰色で、焼成は良好である。83は、表面は暗灰色だが断面の芯部は暗赤褐色を呈し、焼成は良好である。84~124は土師器の高杯で、杯部と脚部にそれぞれ屈曲をもつものがほとんどである。杯部については、90や97のように、明瞭な段を有するものもみられる。また、124は据部に段をもつもので、装飾器台の可能性がある。調整は全体的にナデが多いが、ハケ調整を残すものもみられる。125~131は、いずれも大型の壺と考えられる。125の口唇部は平坦で、口縁部内面には断面四角形の突帯が付されている。色調は淡褐色で、胎土に大粒の白色粒子などを多量に含む。



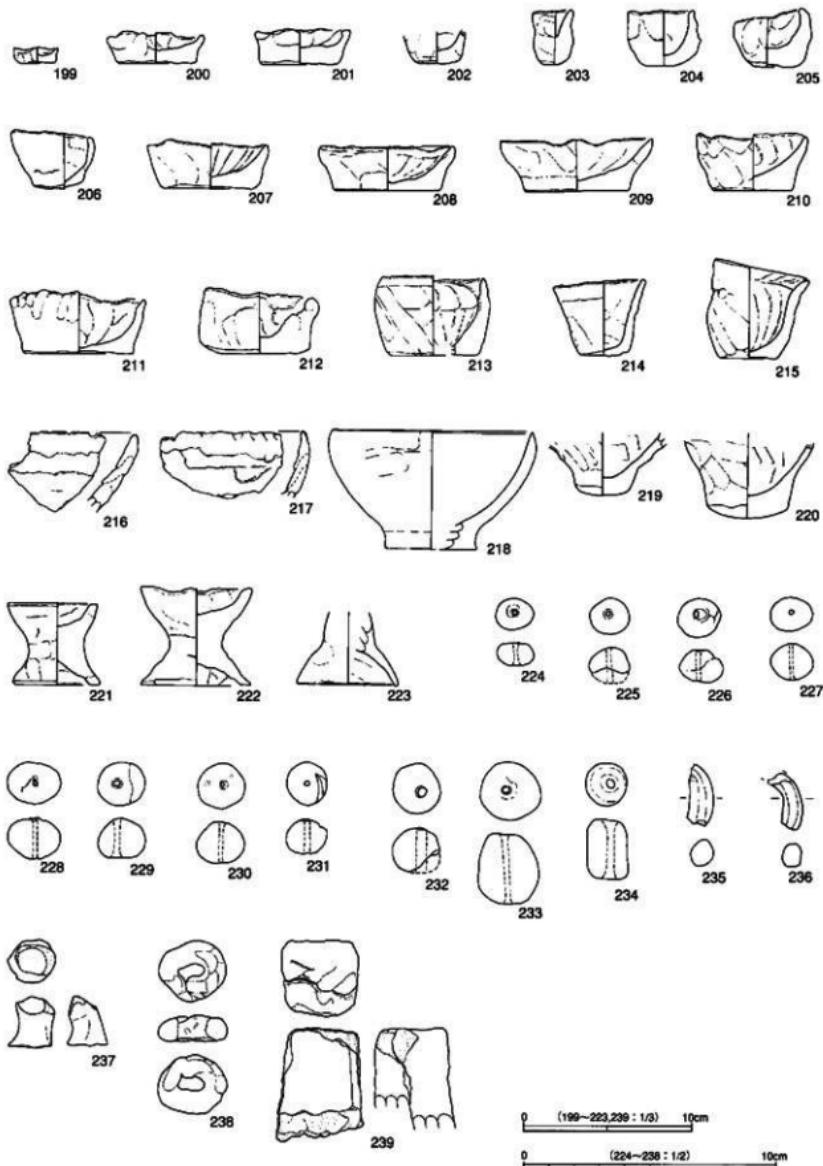
第62図 DSD-1 出土遺物(9)

肩部破片は、上から縄文・S字状結節文・縄文が施される。同一個体と思われる破片が多数出土しているが、器面が著しく磨耗し、接合は困難である。126はヘラ状工具の角などによる刺突列が段部に2列巡る。白色針状物質や雲母粒を多量に含む。127には円形竹管の押捺列が1列巡っているが、2列巡る同一個体片がある。雲母粒を少量含む。128は縄文の上に沈線による波状文が施される。129は微隆起をもつ。赤色スコリアを多量に含む。130の外面には断面三角形状の棒状浮文が4本1単位認められる。内外面とも赤彩の可能性が高いが、器面が磨耗し明らかでない。胎土に雲母粒を含む。131の底部は、周縁部を高くした上げ

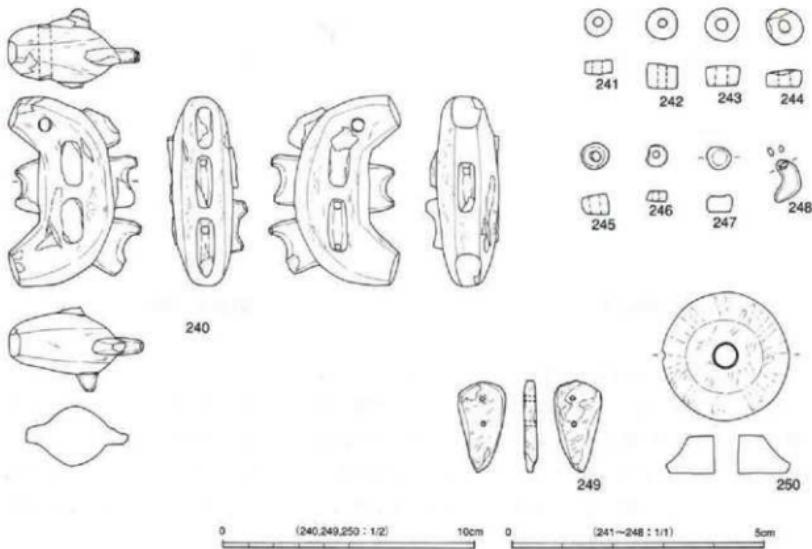


第63図 DSD-1 出土遺物(10)

底状で、木葉痕が残されている。132はほぼ完形で、底部に、内部から金属の刃物であけたような鋭い焼成後穿孔がある。156～158は須恵器體と考えられる。156は体部のみほぼ全部遺存しており、焼成は非常に良好で、外面上半と内面底部に自然釉がみられる。表面の色調は暗灰色～黒灰色であるが、断面芯部は暗赤褐色を呈す。157・158は櫛描波状文が施される。174・175は台付壺と考えられる。186は石庖丁状石器と考えられる。187は片刃石斧の破片と考えられる。188～190・192～194は砥石である。191は下部に敲打痕が認められる。195～197は木製品である。195は「馬」形とみられ、本来断面は円形であったと考えられる。後代の混入品かもしれない。198は骨製品である。筒状を呈し、対面方向に2か所穿孔がある。199～239は土製品で、199～220は手捏土器類、221～223は臼形、224～234は土玉、235・236は勾玉形である。237は圓下端で土器などに接着していた可能性もある。238は粘土紐をリング状に丸めたものである。239は支脚様であるが、各面が平坦で二次焼成を受けた痕跡も明らかでない。240～246・248～250は滑石製品で、240は子持勾玉、241～246は臼玉、248は勾玉形、249は劍形、250は紡錘車である。247は凝灰岩製とみられ、周



第64図 DSD-1 出土遺物(11)



第65図 DSD-1 出土遺物 (12)



第66図 DSD-2 出土遺物

縁部を磨って形が整えられているが、穿孔はない。

3 溝状遺構

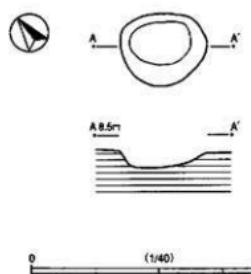
DSD-2 (第51・66図)

DSD-1底面で検出した。DSD-1の深い部分である可能性がある。遺物は2点図示した。1・2とも土師器高杯である。

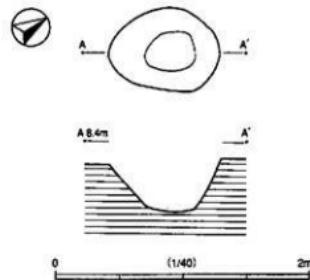
4 土坑

DSK-1・DSK-2 (第67・68図)

いずれもDSD-1底面で検出した。DSD-1の深い部分である可能性がある。遺物は出土していない。



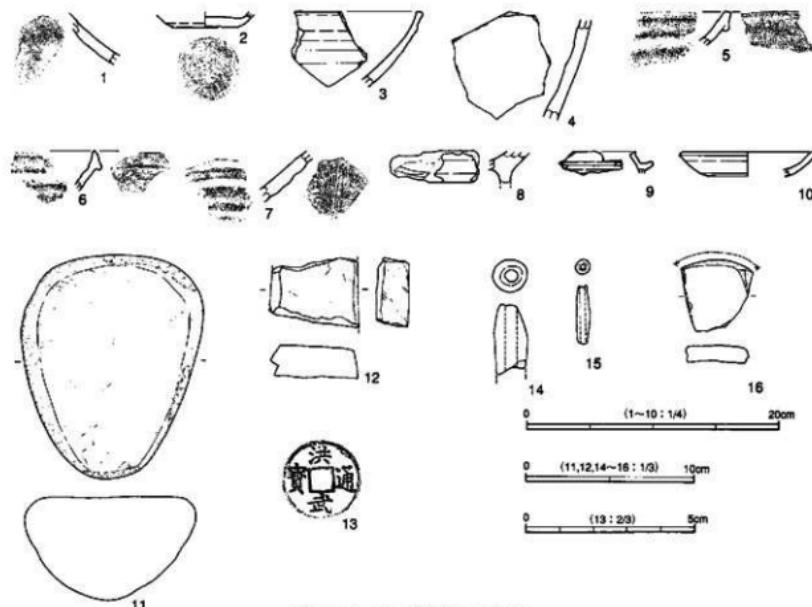
第67図 DSK-1



第68図 DSK-2

5 遺構外出土遺物 (第69図、図版37・41・53・54)

1は弥生上器の壺である。羽状網文が施されている。磨耗が著しく、赤彩の有無は不明である。2は縁軸小皿である。3は三足盤である。遺存部全面に灰釉が施されている。4は灰釉の瓶子である。5～7は鉄釉擂鉢である。8は常滑産の片口鉢である。高台は転用されたとみられ、すり減っている。9は東海系羽釜である。10は志野焼皿である。11は磨石である。12は砥石である。13は明鏡である。14・15は管状土錘である。16は常滑産の転用砥石である。

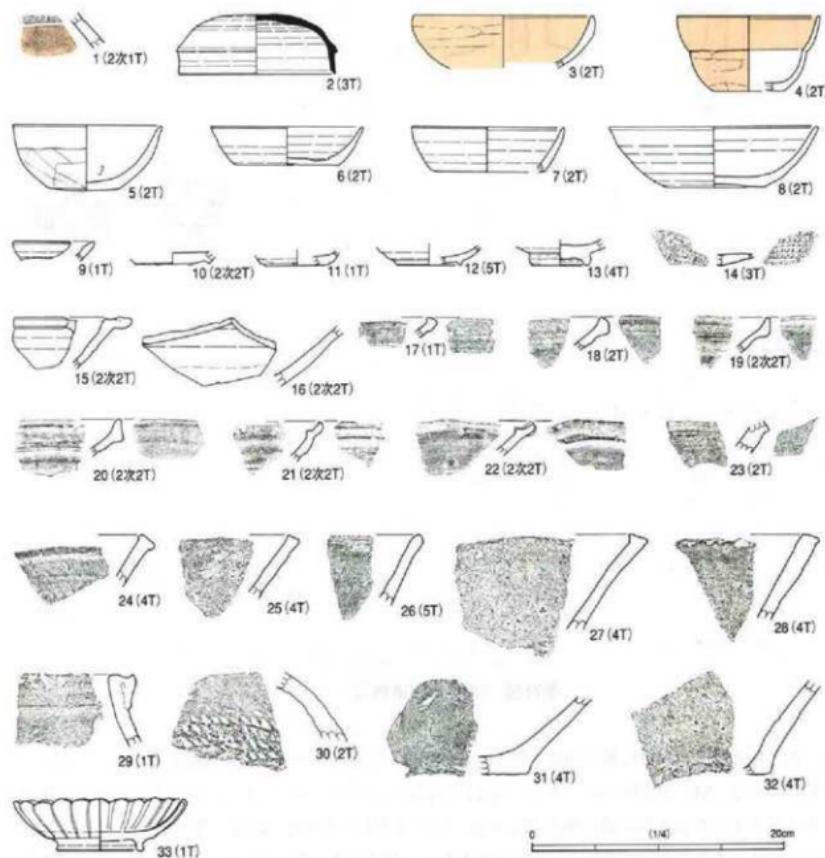


第69図 D区遺構外出土遺物

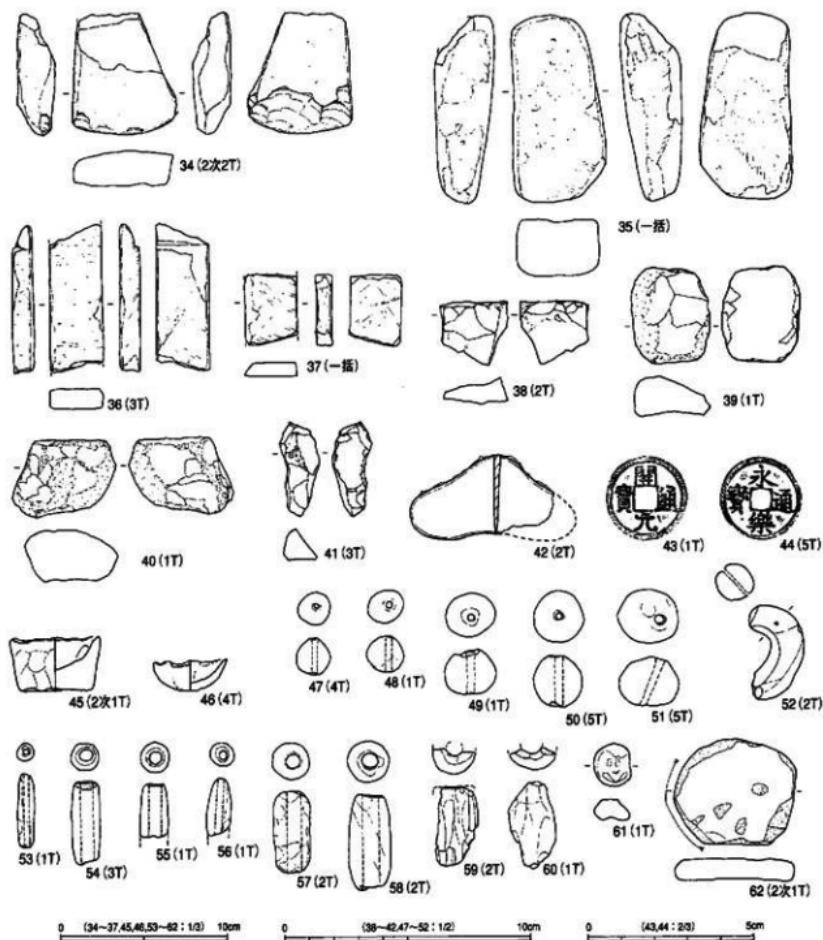
第6節 確認調査CD区

1 出土遺物 (第70図、図版23・31・37・41・42・48~50・52~54)

1は弥生土器の壺である。縄文を沈線で区画している。2は30%程度の遺存度である。外面天井部付近は自然釉がかかっていて、回転ヘラケズリの範囲が確認できない。5は8世紀頃の所産と考えられる。6・7は小破片から復元したもので、底部は手持ちヘラケズリとみられる。8は器面が磨耗し調整がはっきりしないが、底部は回転ヘラケズリとみられる。9世紀後半の所産と考えられる。9は縁釉小皿である。10は灰釉皿で、内外面とも釉が施されている。外面には重ね焼き痕が認められる。11は内面全体に灰釉が施される。削出し高台である。12は内外面とも全面的に灰釉が施される。13は灰釉碗で、高台内部を除き

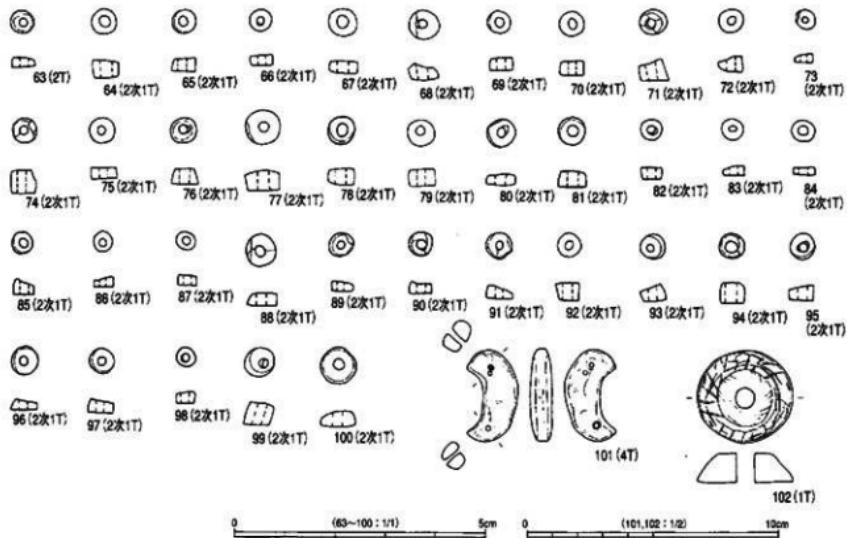


第70図 CD区出土遺物(1)



第71図 CD区出土遺物(2)

全面に釉が施される。14は灰釉の鉢である。15・16は三足盤で、内外面とも灰釉が施される。17~23は鉄釉擂鉢である。24~28は片口鉢である。27は15世紀前半の所産と考えられる。29は常滑産窯で、16世紀頃の所産と考えられる。30は備前産の甕である。31・32は片口鉢を甕の底部と考えられる。33は菊皿で、17世紀の所産と考えられる。内外面に灰釉が施される。34は石斧と考えられる。35~37は砥石と考えられる。38~41は火打石である。38と41が黒曜石製、39はチャート、40はメノウ製である。いずれも稜線に著しい潰れが観察され、火打石と判断した。42は火打金である。43は唐錢、44は明錢である。45~52は土製



第72図 CD区出土遺物(3)

品で、45・46は手捏土器、47~51は土玉、52は勾玉形である。53~60は管状土錘である。61は泥面子である。62は常滑産窯の転用砥石である。63~102は滑石製品である。64~100はフルイにより検出されたものであり、便宜上ここに掲載したが、位置的にCSD-2a・2b・3(第24~27図)に伴う遺物である可能性が高い。101は勾玉形である。断面図を取った上下2孔は貫通しているが、もう1か所は両面から穿孔した痕跡はあるものの貫通していない。102は紡錘車である。

第7節 E区

1 概要(第73・74図)

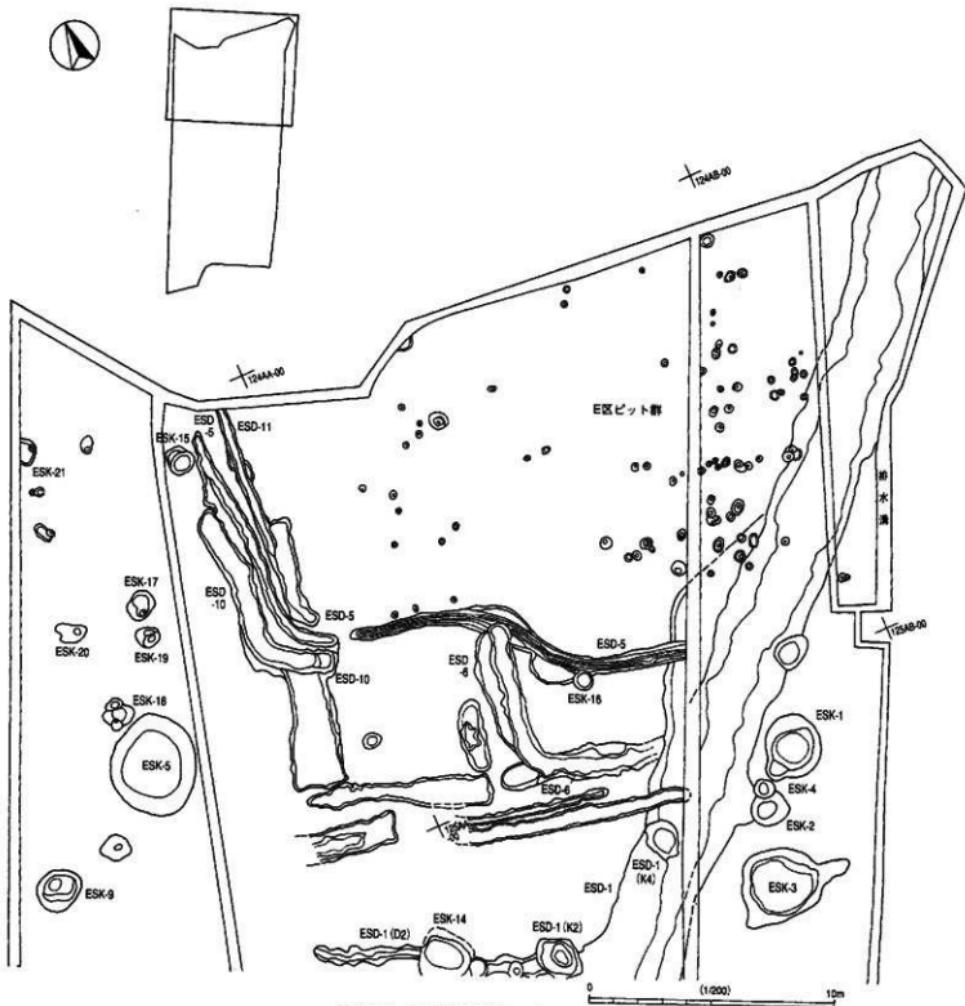
E区は、D区の北に隣接する調査区である。調査面積は3,000m²、検出面の標高は調査区北西端で8.456m、北東端で9.113m、南西端では8.492m、南東端では8.806mであり、調査区内は東から西へ向かって傾斜して低くなる。また、ESD-2東端付近では8.646m、水田面西端付近では8.211mであり、南北に関しては、中央部がやや低くなる。

検出された遺構は、弥生時代~古墳時代にかけての旧河道と考えられる遺構や、古墳時代の水路と考えられる溝状遺構・土坑・水田面、中世の土坑・ピット群である。水路には、水田城に向かうように、扉板等を再利用した木橋が敷設されている。旧河道や水路からは、多量の土器と祭祀遺物が出土しており、水際祭祀が行われていたと考えられる。中世ピット群は、掘立柱建物跡と考えられる。

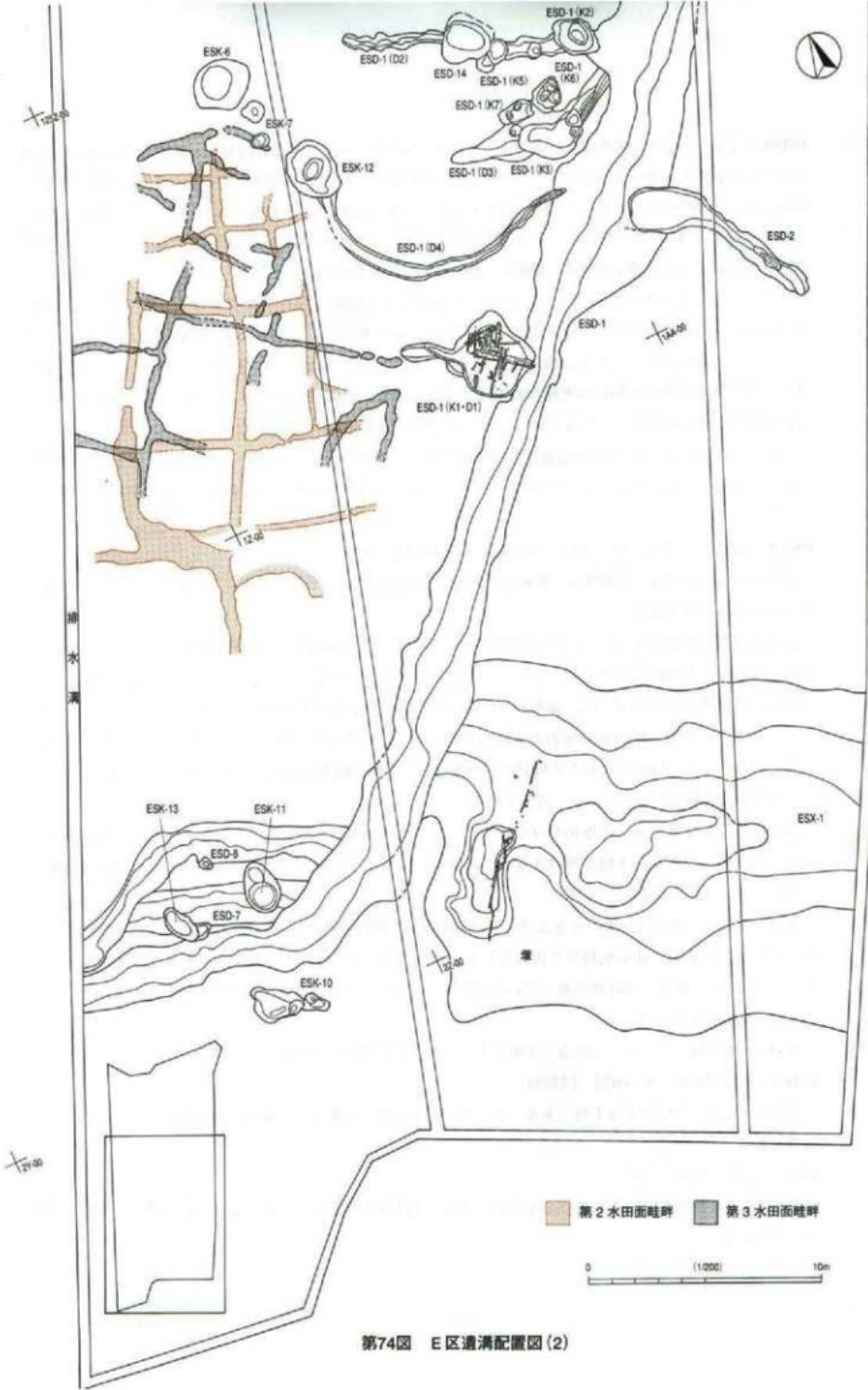
2 溝状遺構

ESD-1 (第75~98図、巻頭図版2・3、図版12~15・24~28・31・40・42・44~46・48・49・51・52)

北東方向から南西方向に向かって、調査区を斜めに分断するように直線的に位置している。古墳時代前期～中期頃を主体とする水路と考えられる溝状遺構である。調査区の南方では西に向かって折れ、ESD-7・



第73図 E区溝配位置図(1)



ESD-8と同方向となる。調査は排水溝を挟んで東区（SD-1E）・中央区（SD-1M）・西区（SD-1W）の3区に分けて行われた。断面形はおおむね緩いU字形を呈すが、東区では箱形を呈する。底面の標高は東区で8.3m前後、中央区で8.2m前後、西区で8.1m前後で、水流は北東から南西に向かっていたと推定される。重複するESX-1やESD-7・ESD-8との新旧関係はやや曖昧である。ESX-1の下層部分よりは新しいが、上層の遺物は当遺構とほぼ共通している。ESD-7・ESD-8とも、ほぼ同時期かやや新しくなるものと考えられる。

中央区では、土層断面の観察から、新段階と旧段階の2段階の存在を確認することができた。第78図B-B'では、遺物を含まない砂層を間層として1・2層が新段階、3層以下が旧段階と捉えることができた。それぞれの底面のレベル差は約10cmで、上部は後代の削平を受けていると考えられる。ただし、新旧各層に含まれる遺物の様相には明確な時期差は表れていない。間層の砂層がごく薄いこと、東区や西区では新旧段階が認められることなどから、かなり近接した時期における重複と考えられる。

なお、当遺構には、重複する遺構とは別に付帯すると考えられる遺構がいくつかある。「ESD-1（K2）」のように呼称したものだが、（ ）内の記号のうち、Kは土坑状の遺構、Dは溝状の遺構を示している。

ESD-1（K1・D1）（第79～81・98図、巻頭図版2、図版14・15）

調査区のほぼ中央部に位置する。ESD-1の西岸に、ESD-1に対して直交するように敷設された、木樁を主体とする導水施設である。

ESD-1に隣接する部分には、1本木を削り抜いて作られた断面逆台形の木樁が取り付けられ、その先には2枚の側板が、木樁の側面を延長するように立てて敷設されている。そしてそれらの上は長さ約2.5m、厚さ約6cmの蓋板で覆われていた。蓋板の上には、ぼぞ穴のある建築部材が木樁と直交するように載せられ、さらにその上に木樁と同方向に扉板が載せられていた。これらは全て杭で固定されていたと考えられる。これらのほかにも、周辺には丸太や板材などの木材が、木樁と同方向あるいは直交方向に多く検出された。この導水施設を補強しているものと考えられる。

木樁周辺には黒色シルトの堆積がみられ、これを土坑状・溝状の掘込みとして調査を行ったが、壠形は明確にはならなかった。木樁を埋設するための遺構ではなく、結果的にここに黒色シルトが沈殿し堆積したものである可能性がある。

木樁の先には、ほぼ同時期の所産と考えられる水田域が検出されている。木樁は恐らく水路ESD-1から水田へ水を引くために、建築廃材等を再利用しながらこの場に築かれたものと考えられる。暗渠として造られ、上をESD-1に並行して畦畔が通っていた可能性もあるが、これより上部は後代の耕作による削平を受けており、明らかにならない。

ESD-1（K1・D1）からは、土師器が少量出土したが、祭祀遺物は出土していない。

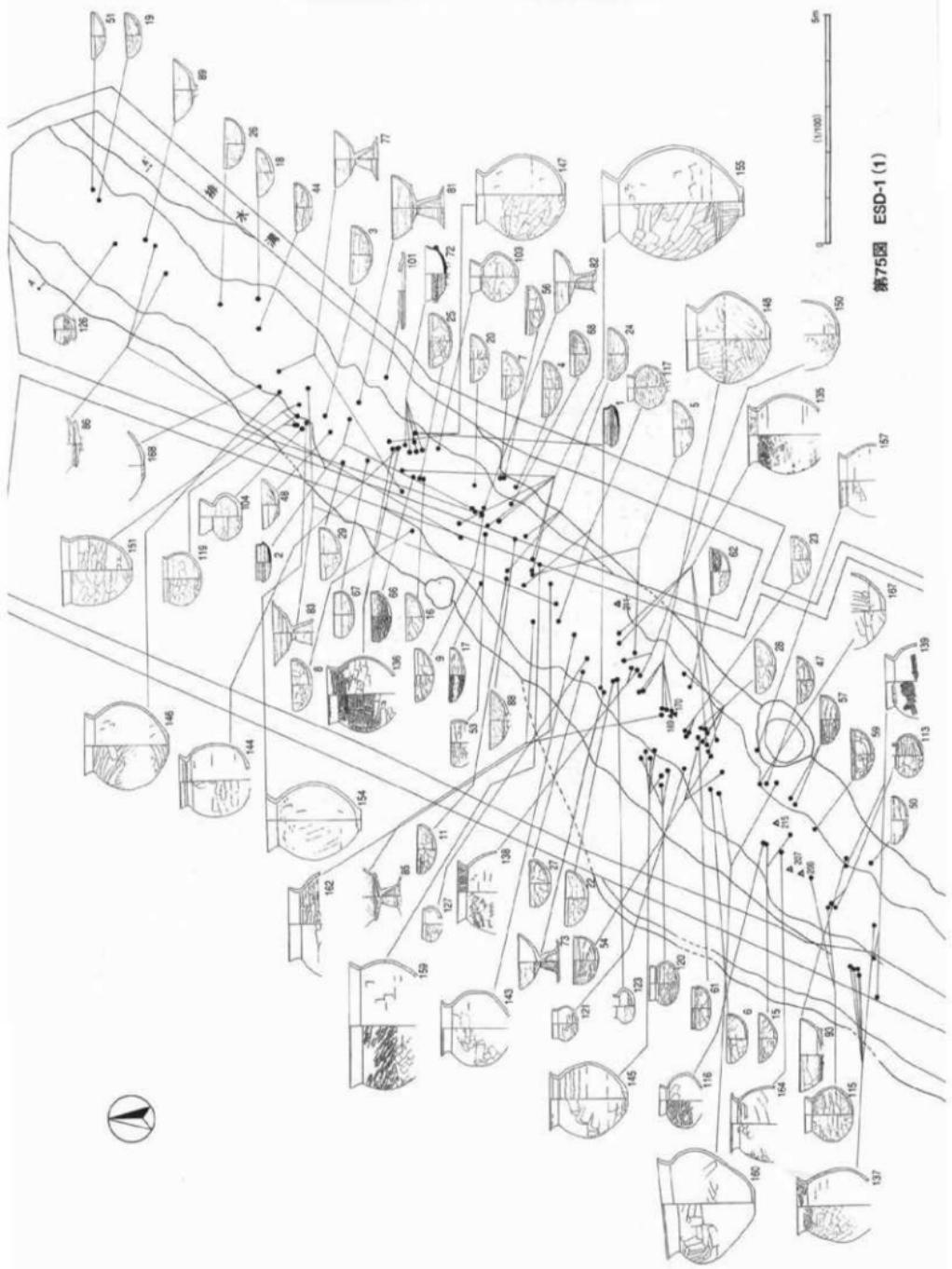
ESD-1（K2）（第76・78・98図、図版29）

ESD-1に隣接して位置する土坑である。先にはESD-1（D2）が連なる。溜井戸的な機能を果たしたものと考えられる。

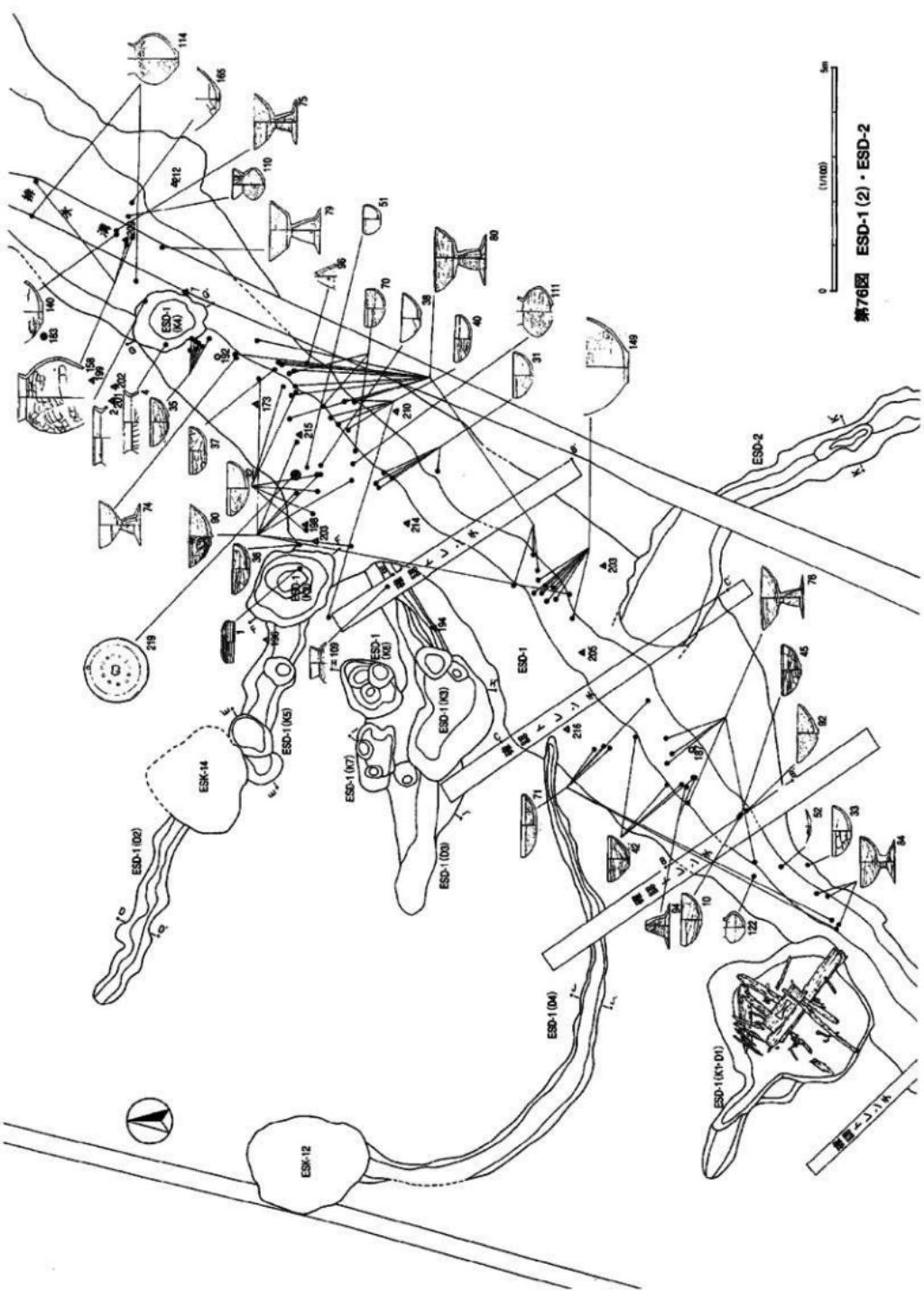
ESD-1（K3）（第76・78図）

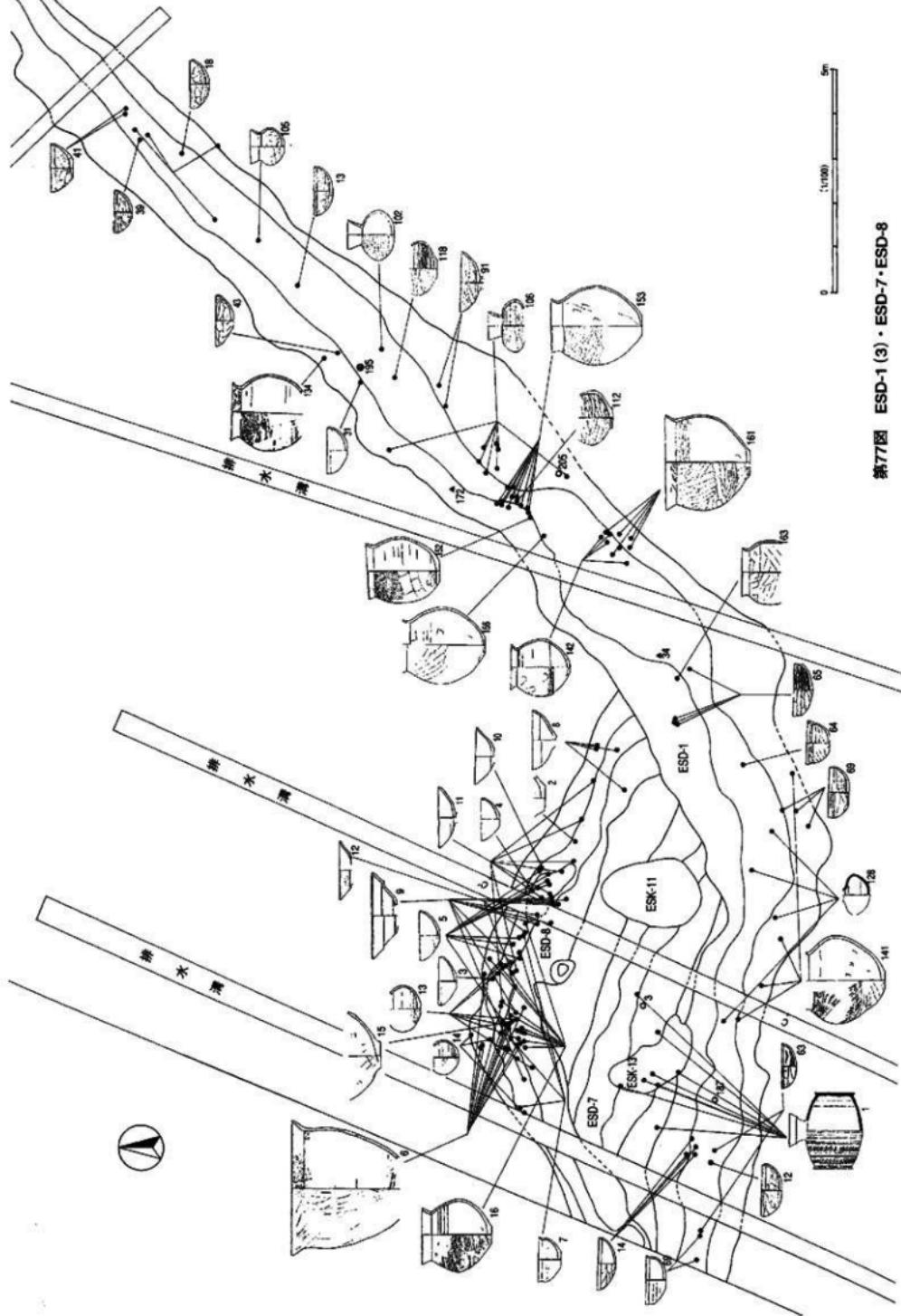
ESD-1に直接繋がるとみられるESD-1（D3）を介して位置する土坑である。溜井戸的な機能を果たしたものと考えられる。

第75図 ESD-1(1)

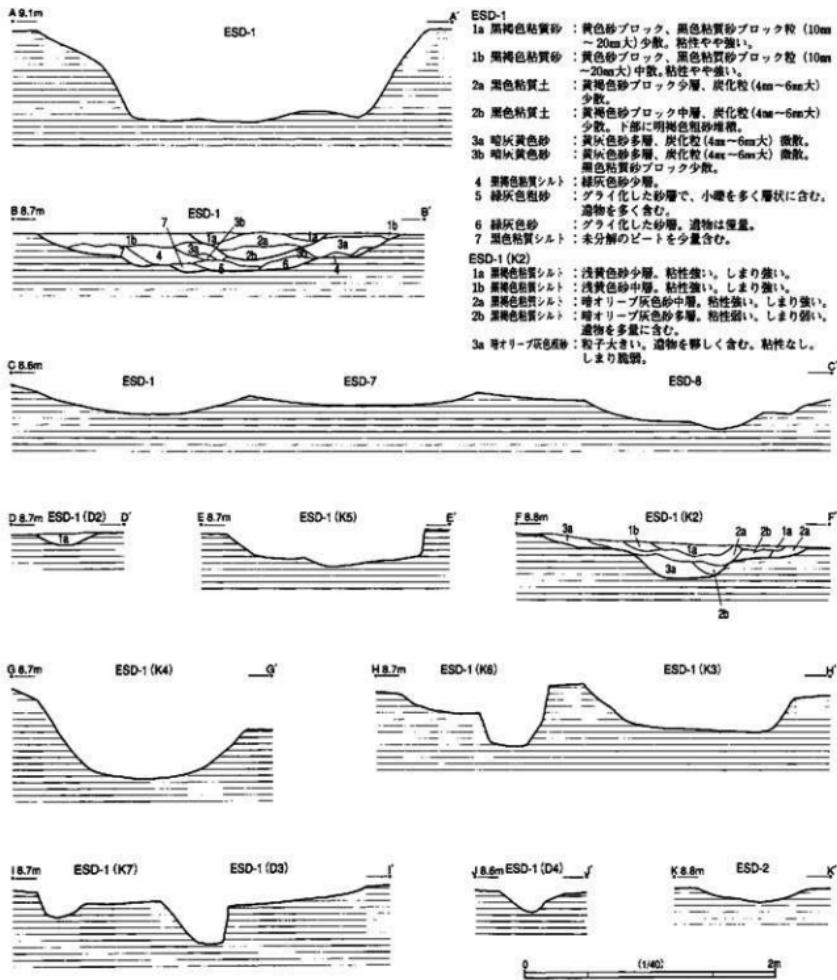


第76回 ESD-1(2)・ESD-2





第77圖 ESD-1 (3) • ESD-7 • ESD-8



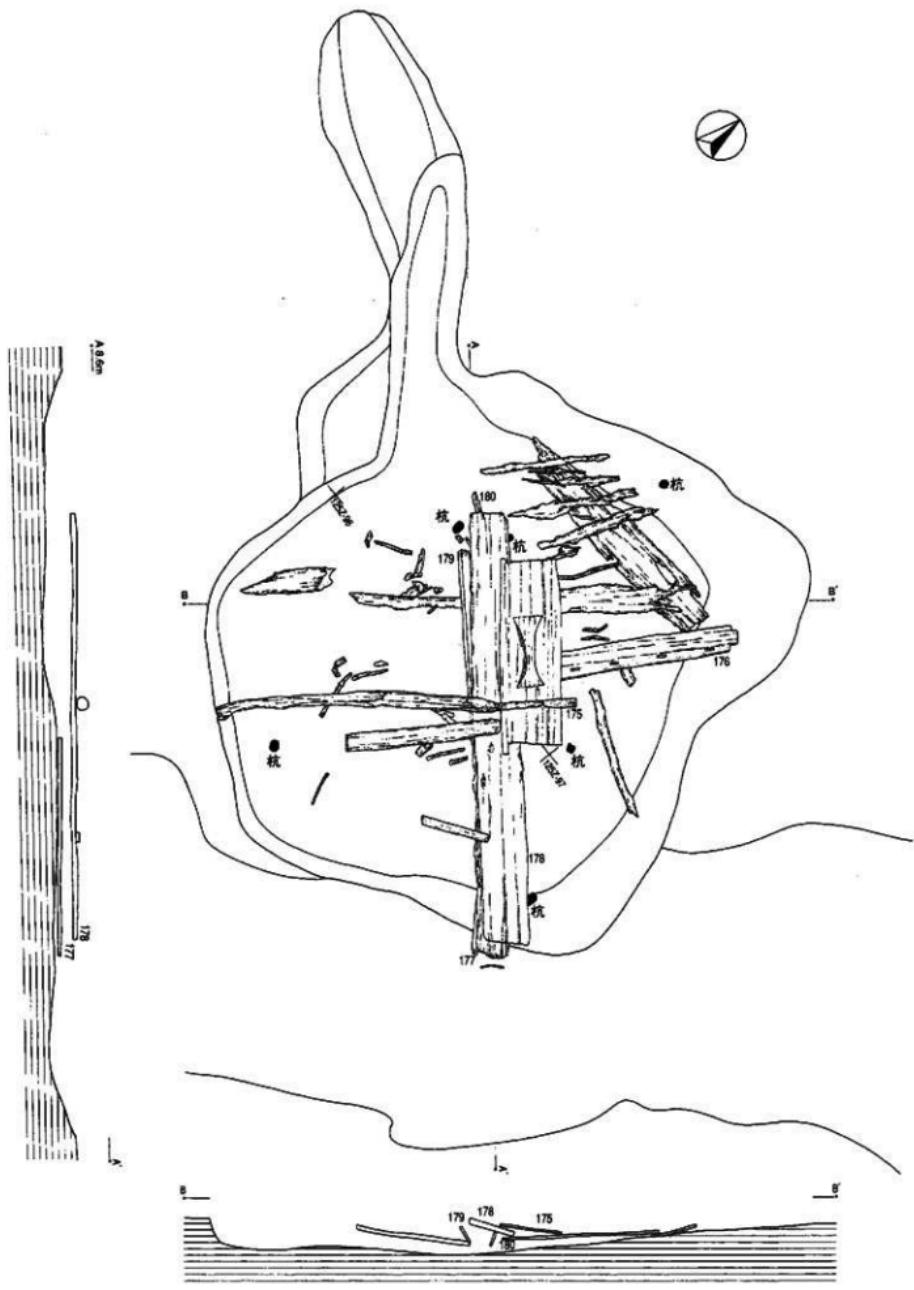
第78図 ESD-1 土層断面図

ESD-1 (K4) (第76・78・98図、図版52)

ESD-1の底面で検出した土坑である。ESD-1より古い可能性もあるが、遺物はESD-1とほとんど変わりない状況で、滑石製の勾玉形（第98図6）も出土している。

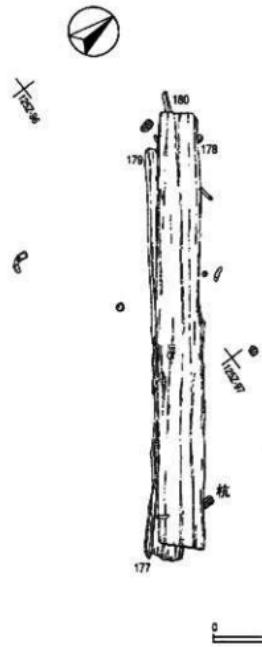
ESD-1 (K5) (第76・78図)

平面形は円形の土坑が2つ切り合うような形状を呈している。重複するESK-14に切られている可能性が高いが、時期差は明らかではない。ESD-1 (D2) を介してESD-1と繋がり、溜井戸的な機能を果たしたもの

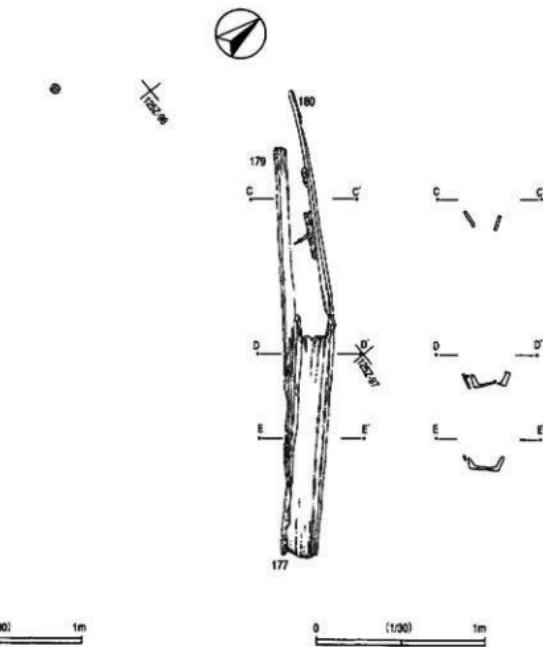


第79図 ESD-1 (K1-D1)

0 (1/30) 1m



第80図 ESD-1 (K1・D1) 木樁



第81図 ESD-1 (K1・D1) 木樁蓋板除去状況

と考えられる。

ESD-1 (K6) (第76・78図)

複数の土坑が切り合うような形状を呈している。ESD-1 (D3) を介してESD-1と繋がり、溜井戸的な機能を果たしたものと考えられる。

ESD-1 (K7) (第76・78図)

複数の土坑が切り合うような形状を呈している。ESD-1 (D3) を介してESD-1と繋がり、溜井戸的な機能を果たしたものと考えられる。

ESD-1 (D2) (第76・78図)

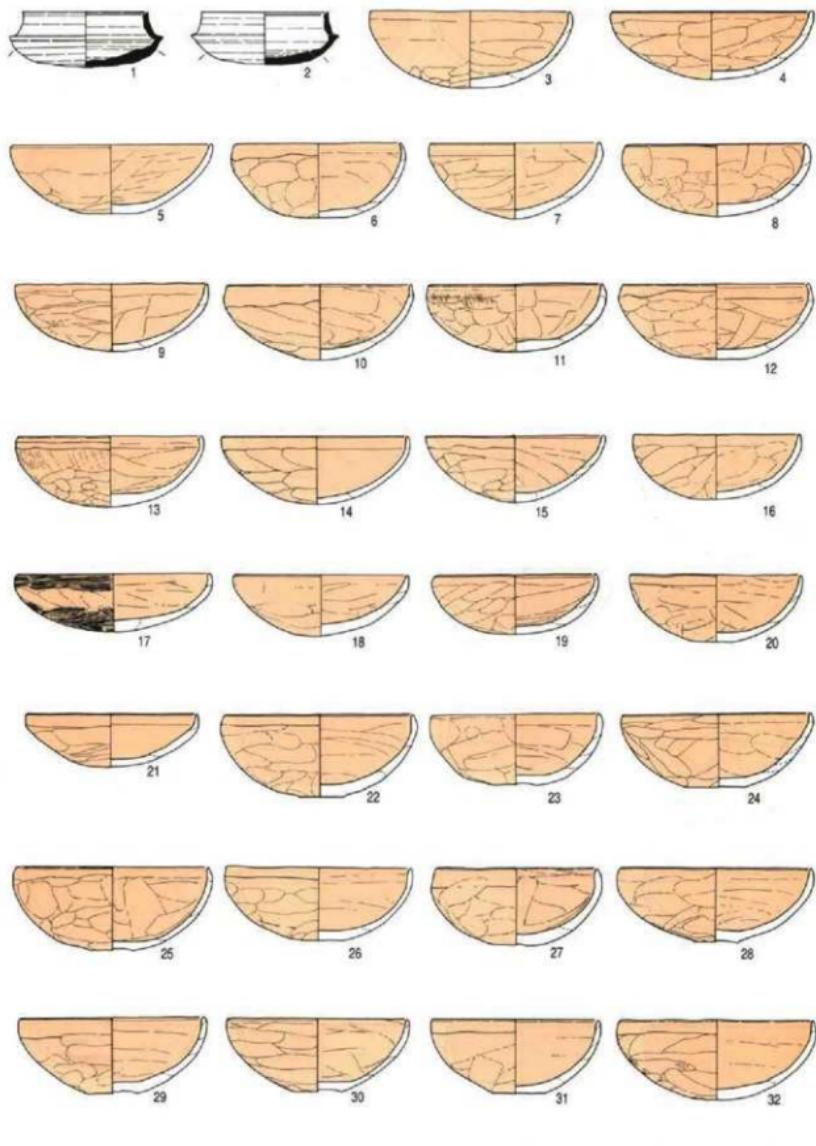
東西方向に軸をとる。東端はESD-1に繋がり、西端は搅乱により途切れている。土師器や須恵器の破片が出土しており、その様相から、ESD-1とほぼ同時期に存在していたと考えられる。

ESD-1 (D3) (第76・78図)

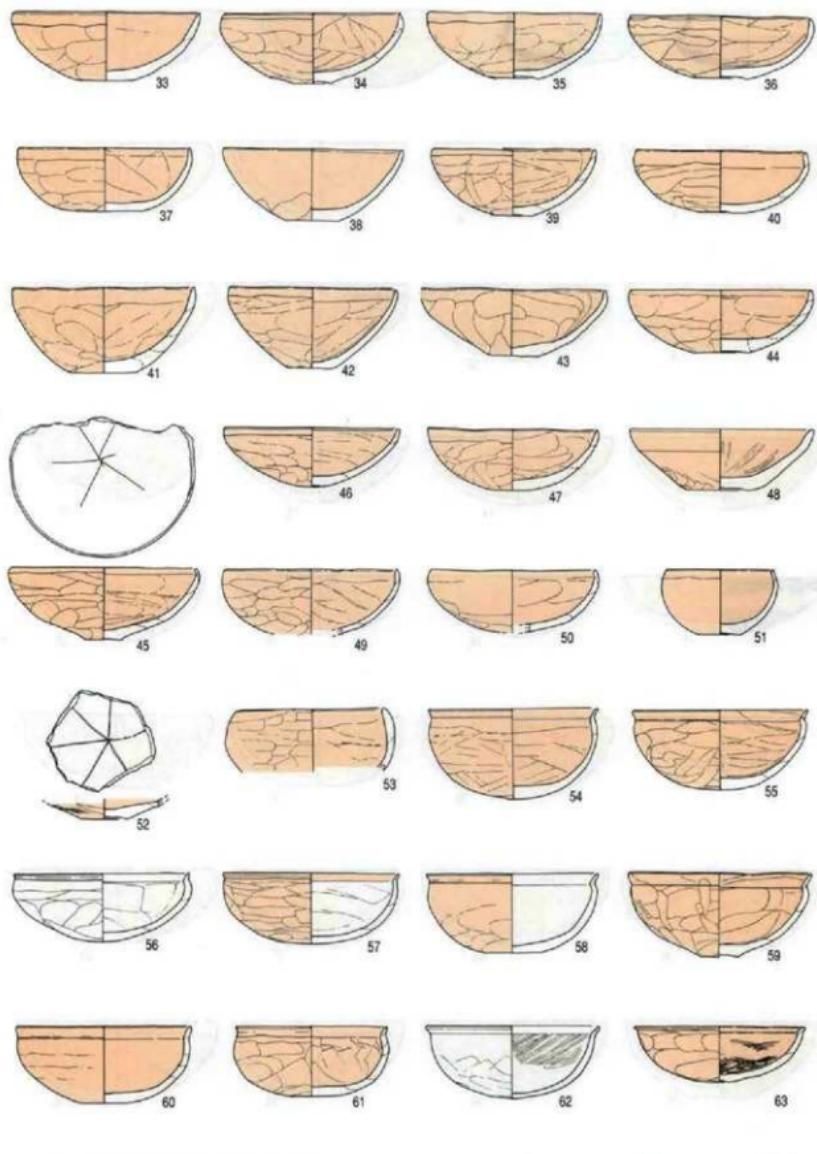
東西方向に軸をとる。東端はESD-1に繋がるとみられる。西端は搅乱により途切れている。遺物は出土していないが、状況から、ESD-1とほぼ同時期に存在していたと考えられる。

ESD-1 (D4) (第76・78・98図、図版52)

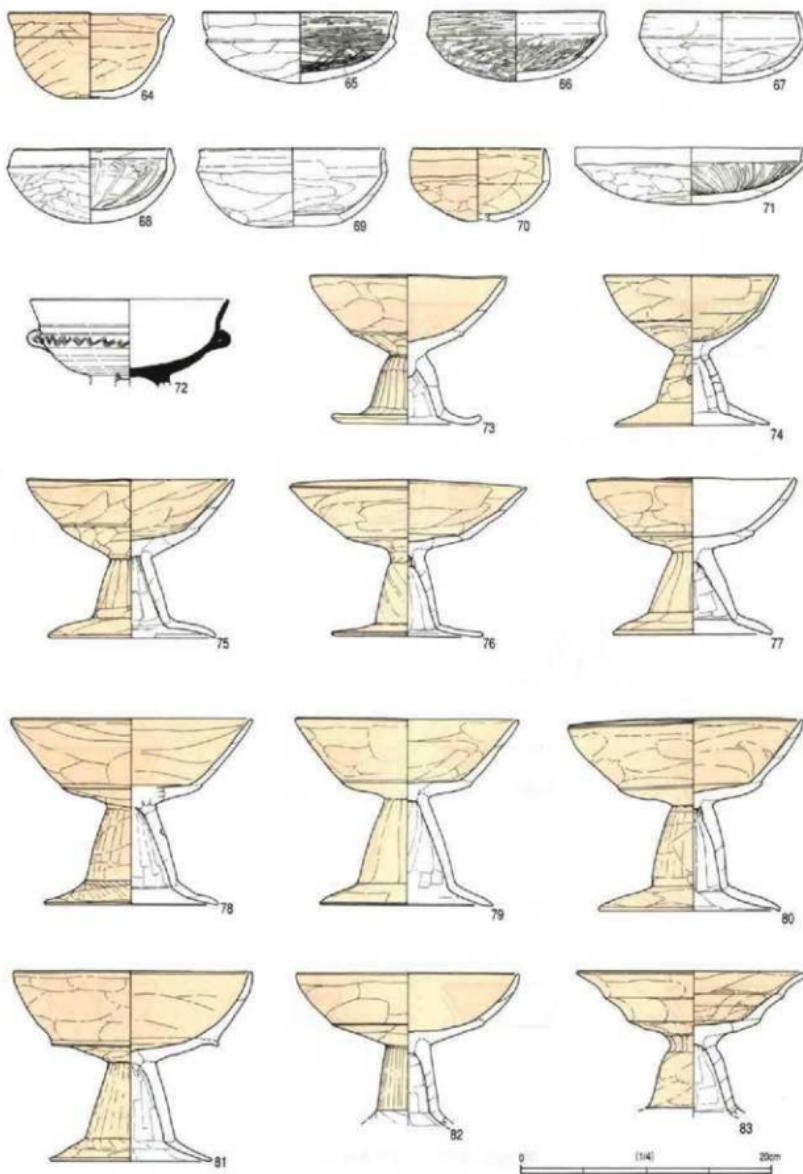
東西方向から南北方向にカーブを描いて位置する。東端はESD-1に繋がり、西端はESK-12に繋がる。



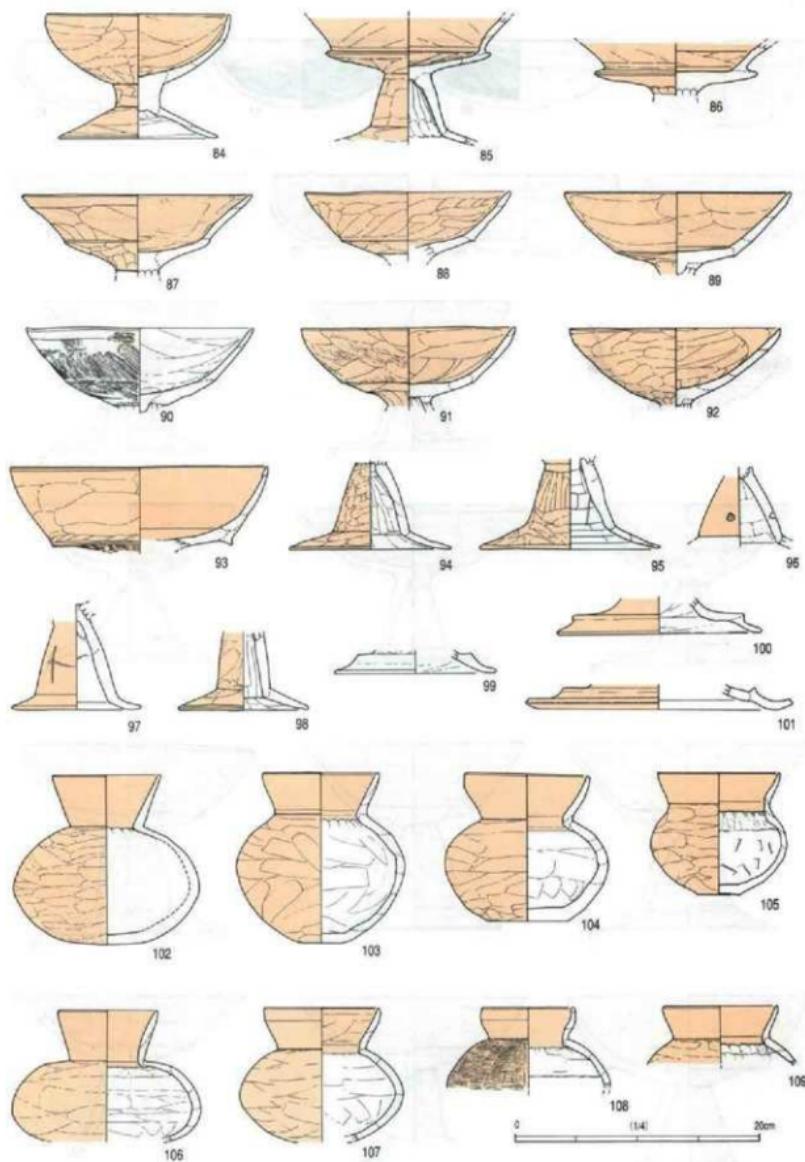
第82図 ESD-1 出土遺物(1)



第83図 ESD-1 出土遺物(2)

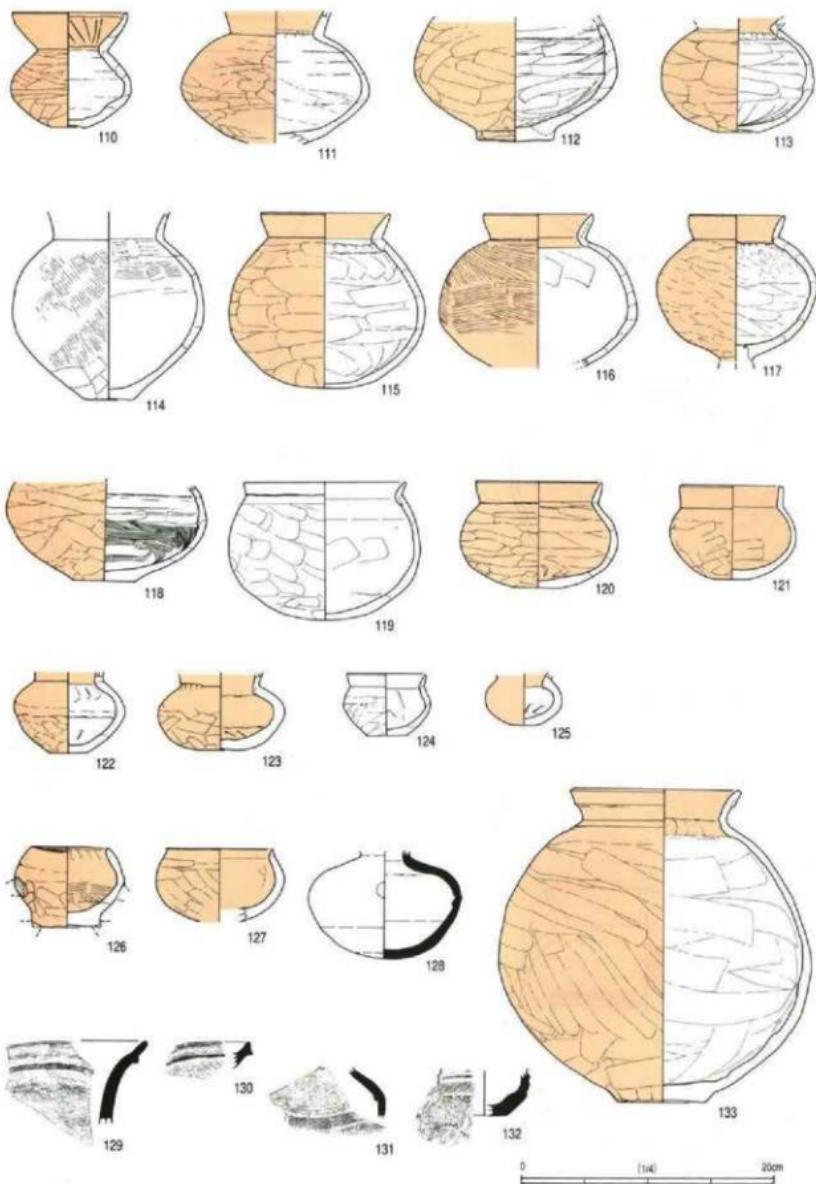


第84図 ESD-1 出土遺物(3)

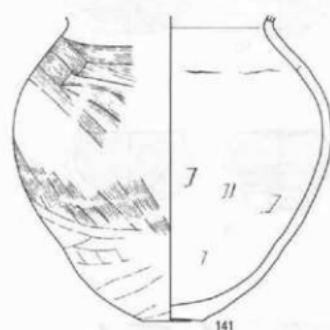
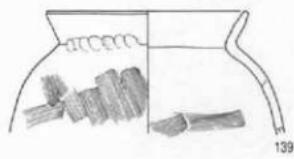
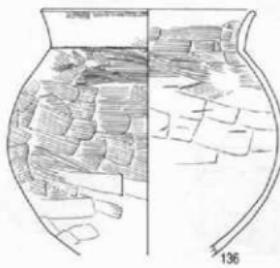
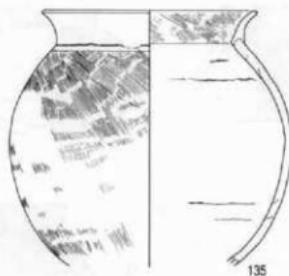
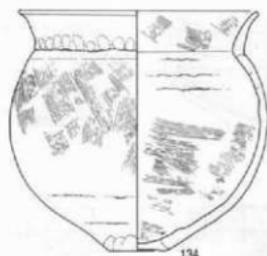


第85図 ESD-1 出土遺物(4)

○ 磁器土器 ▲ 陶器 ■ 骨器

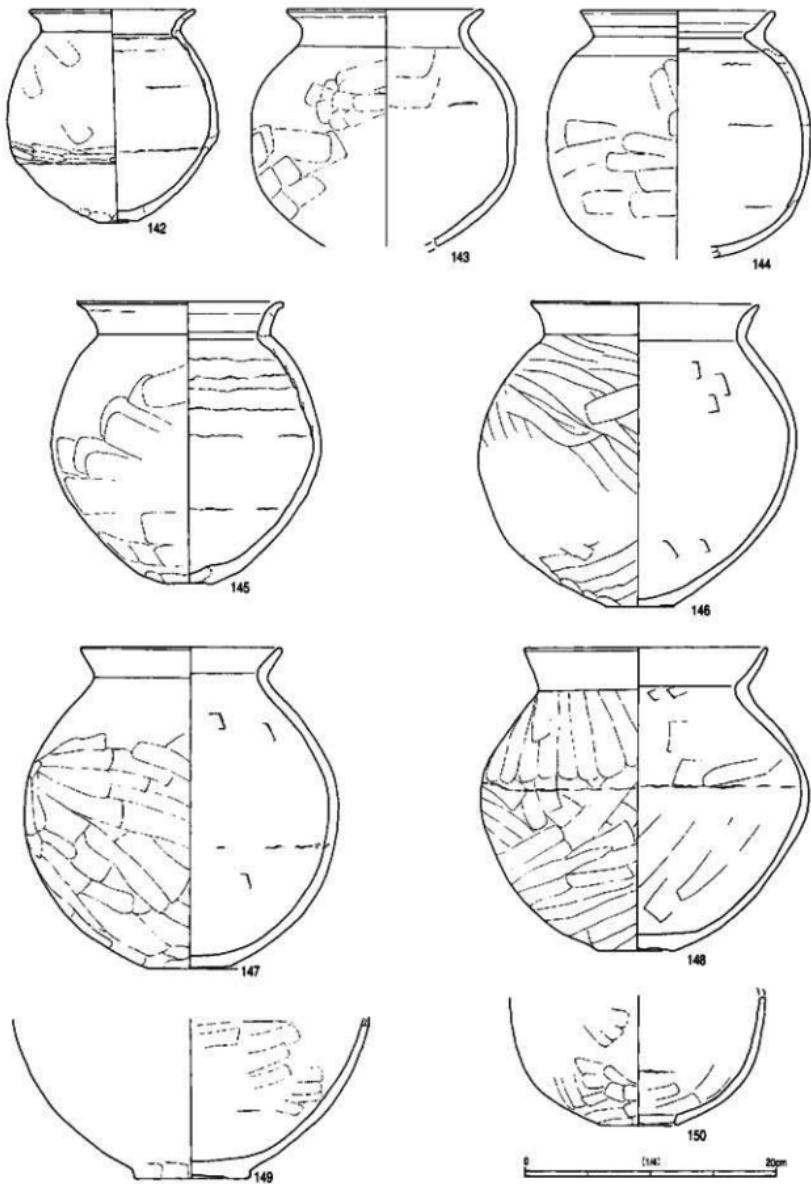


第86図 ESD-1 出土遺物(5)

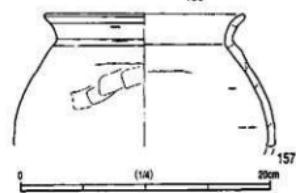
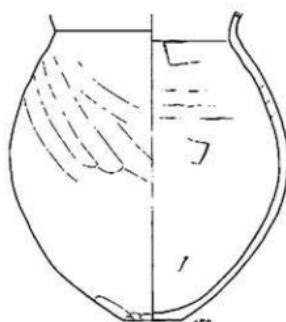
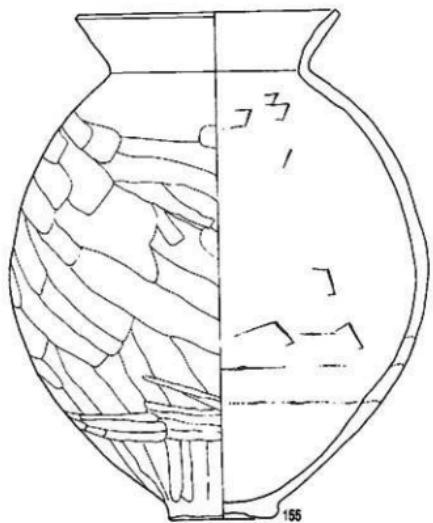
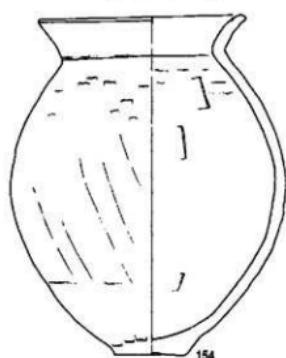
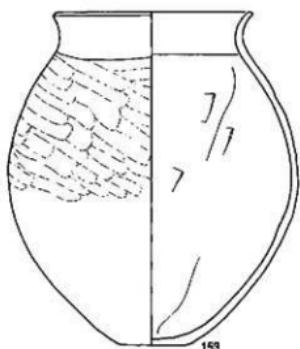
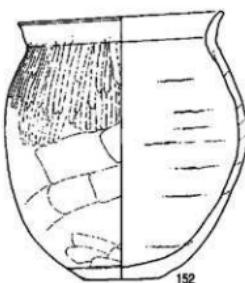
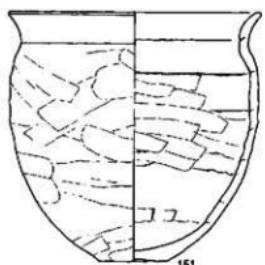


0 [10] 20cm

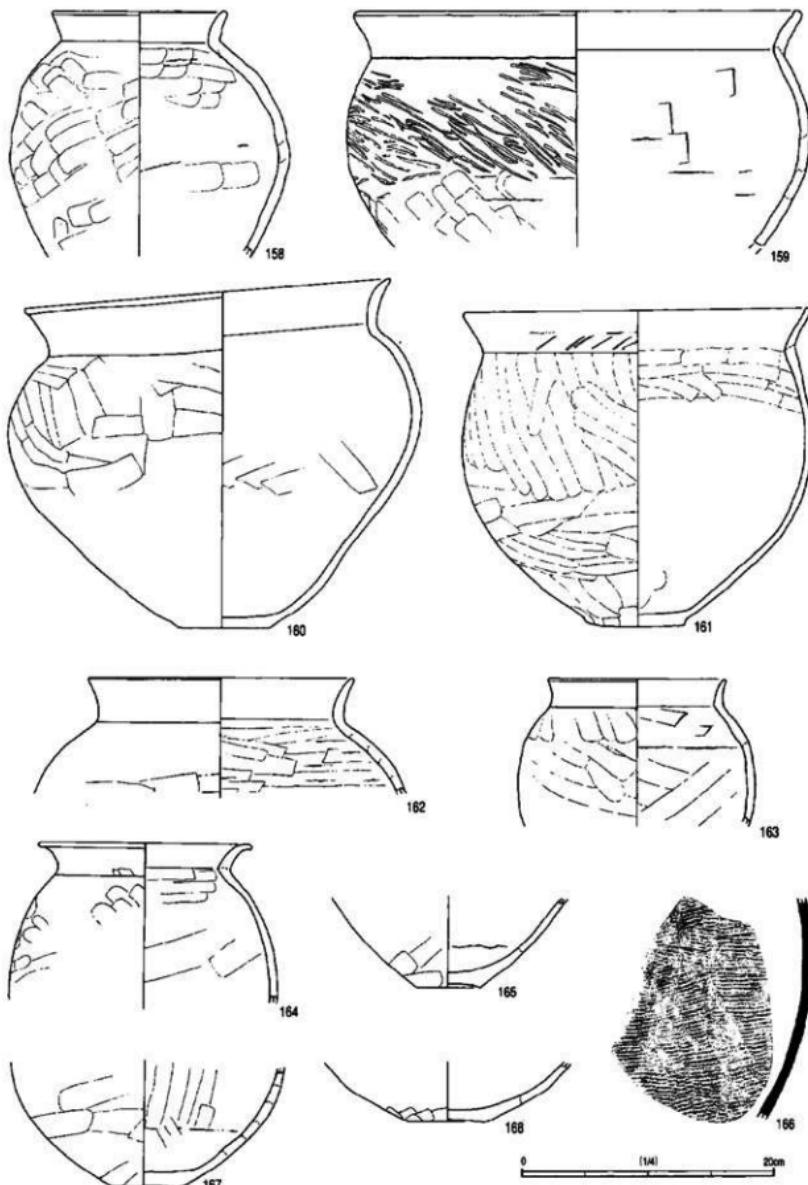
第87図 ESD-1 出土遺物(6)



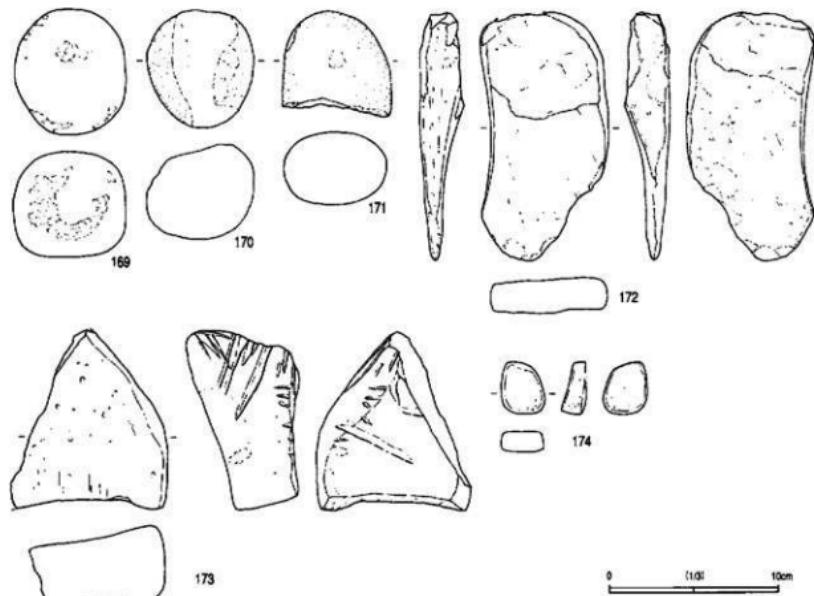
第88図 ESD-1 出土遺物(7)



第89図 ESD-1 出土遺物(8)



第90図 ESD-1 出土遺物 (9)

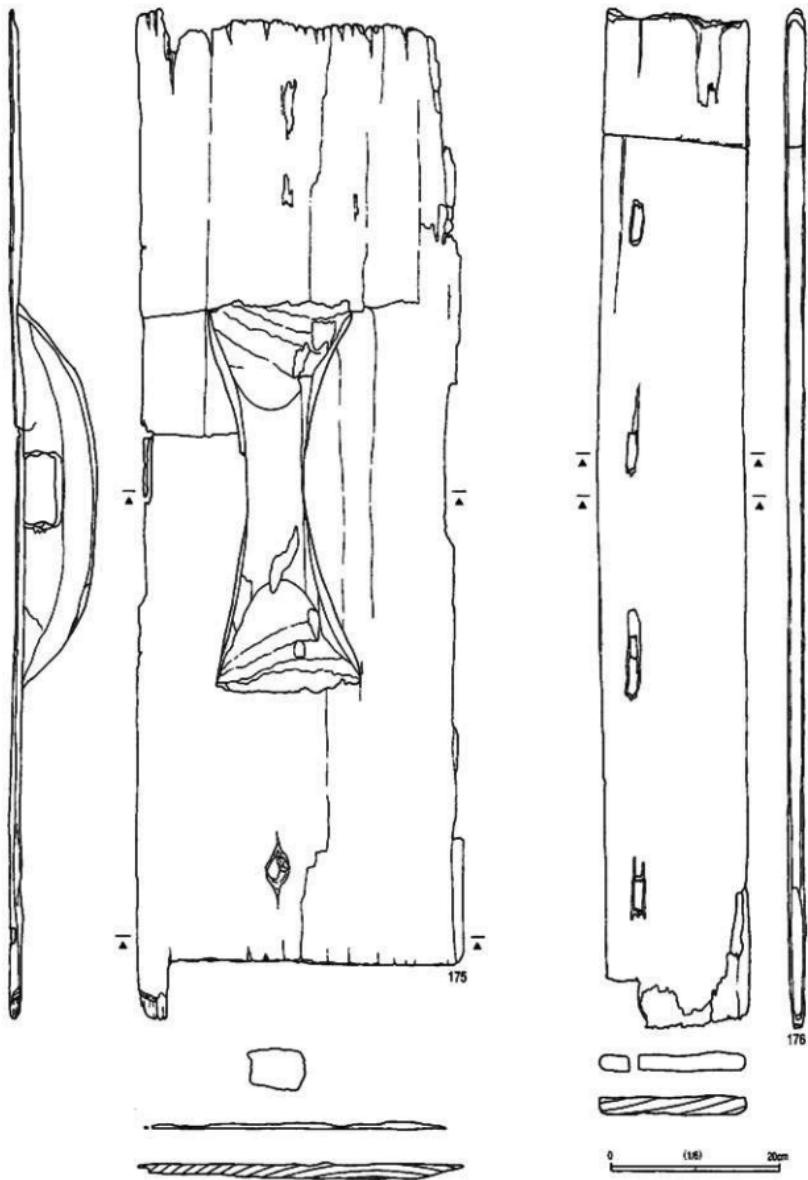


第91図 ESD-1出土遺物(10)

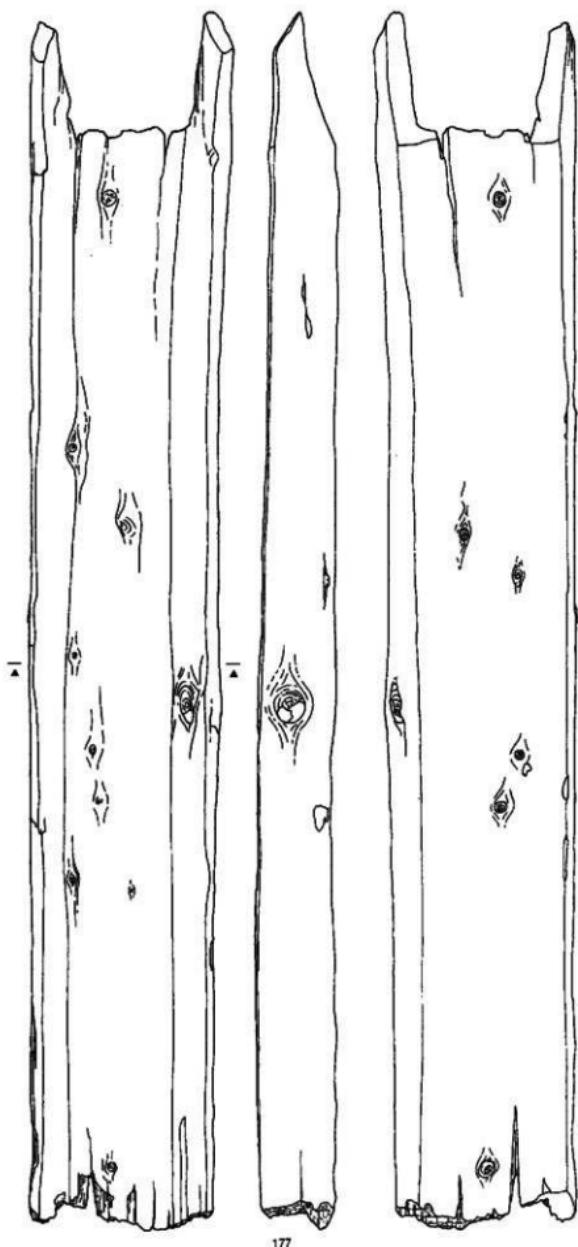
土師器や須恵器、滑石製の管玉（第98図5）等が出土し、ESD-1やESK-12とはほぼ同時に存在していたと考えられる。

ESD-1からは、付帯施設も含めて、遺物が極めて多量に出土した。完形の甕を含む土師器・須恵器のほか、大型の木製品や微細な土製品・石製品などの祭祀遺物が、削平されて薄い覆土中に寿司詰めの状態で検出された。遺物は特にESD-1東区に集中する傾向があるが、銅鏡はESD-1中央区から、鏡面を上にして出土した。

図示した遺物は、付帯施設を含めて224点である。1・2は須恵器杯である。底部は回転ヘラケズリが施される。1は70%の遺存度である。色調は暗灰色で焼成は良好である。2は40%程度の遺存度で、灰白色～灰褐色を呈す。3～71は土師器杯である。土師器杯は、完形あるいは完形に近い個体が多い。器形は大きく分類すると、口縁が内凹するものと外反するものとがあり、それぞれに丸底と平底のものがある。平底の中には、上げ底氣味になるものもみられる。そのほか、65～71のような須恵器模倣杯もある。調整は内外面ともナデによるものがほとんどであるが、13や17のようにハケ目を残すものや、主に須恵器模倣杯で丁寧にミガキを施したものもみられる。45・52は、内面底部に放射線状に線刻様のミガキが施される。赤彩は内外面に施されているものがほとんどであるが、磨耗が著しく明らかでないものもある。65～69・71は、現状では赤彩の痕跡が全く認められない。72は須恵器高杯である。杯部のみほぼ完形である。把手については現状では1か所認められるが、対面部分の破片が欠落しており、2か所あったか不明である。脚部には、3方向に台形ないし長方形の透孔があけられていたと推定される。外面は灰色、内面は自然釉で



第92図 ESD-1 出土遺物 (11)

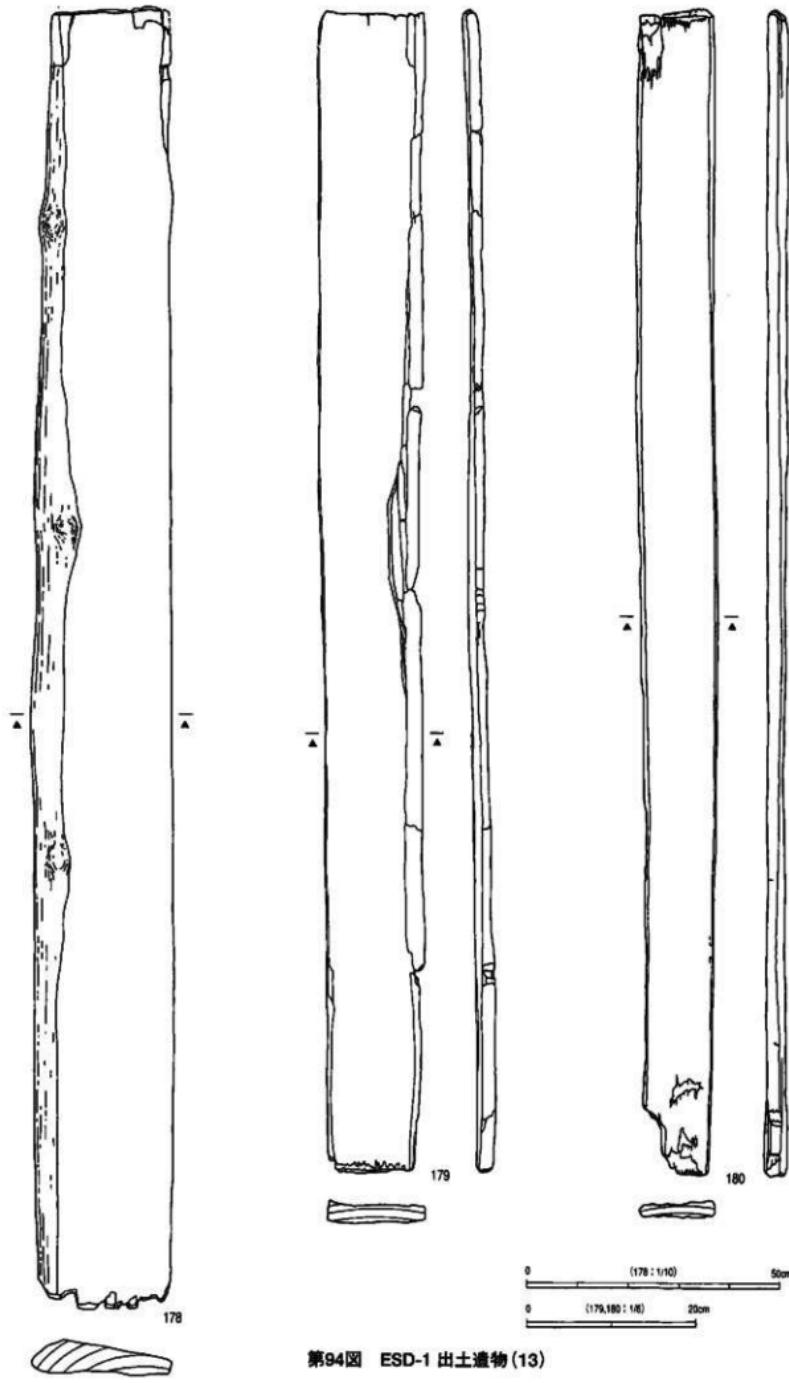


177



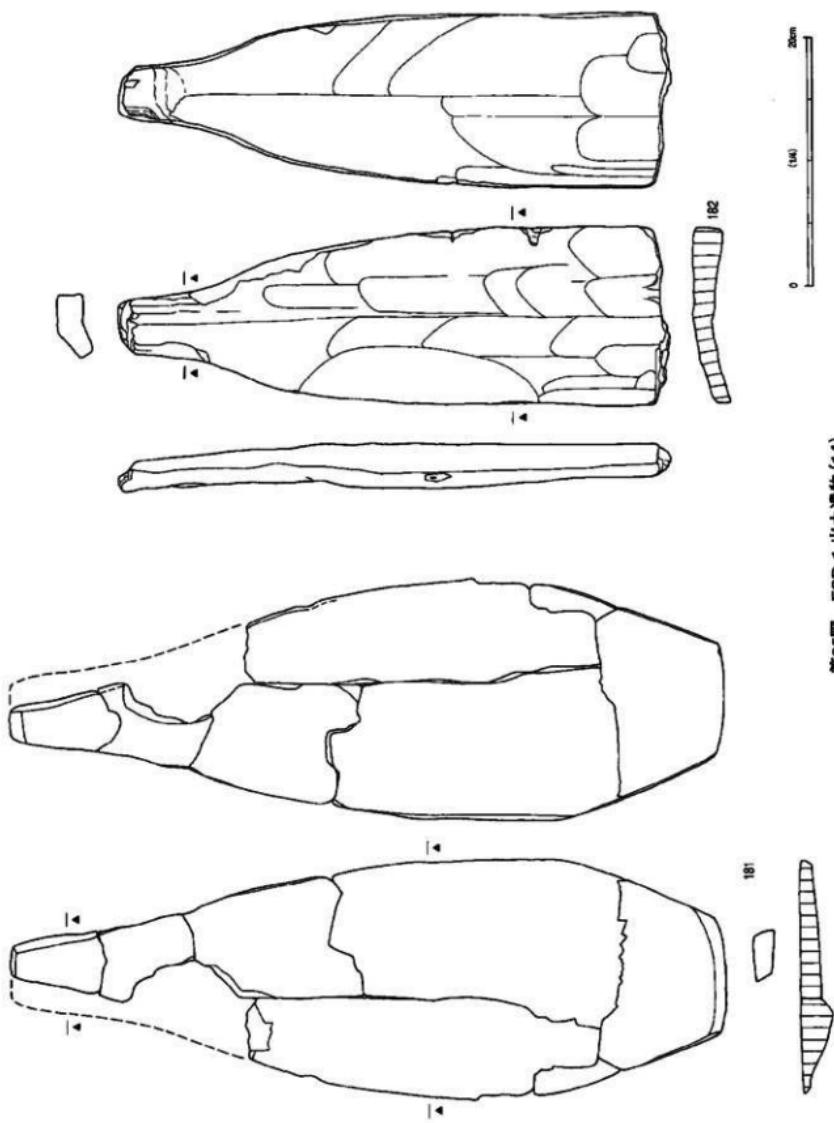
0 (16) 20cm

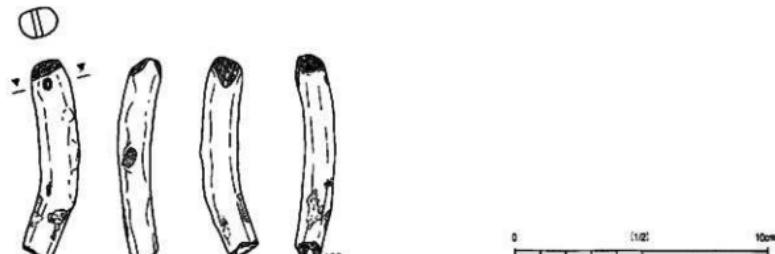
第93図 ESD-1 出土遺物 (12)



第94図 ESD-1 出土遺物(13)

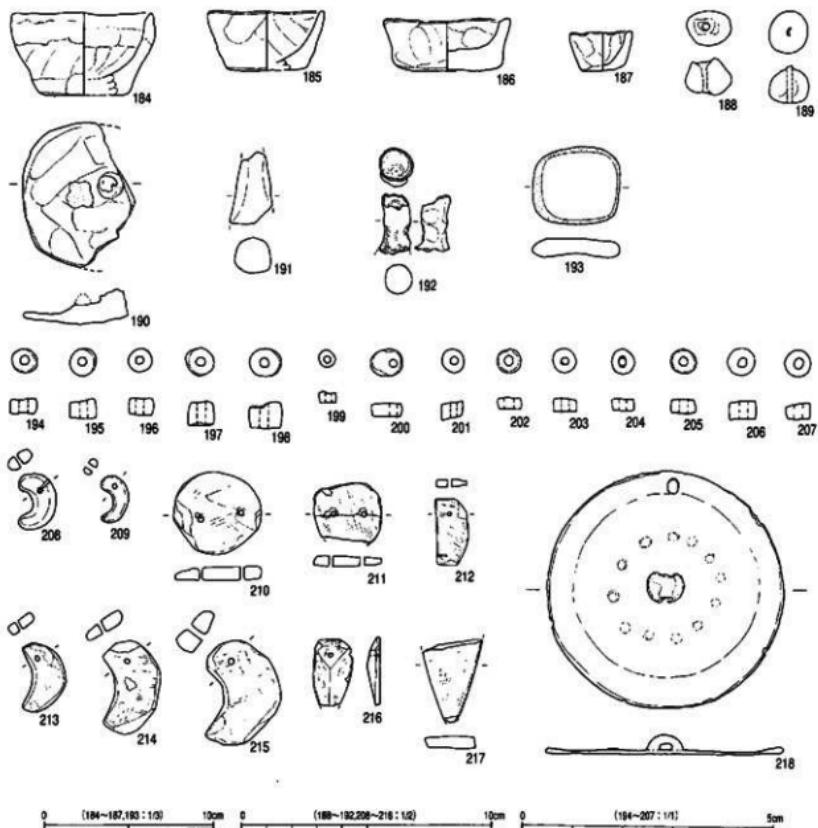
第95圖 ESD-1 出土遺物(14)





第96図 ESD-1出土遺物(15)

白色を呈し、焼成は良好である。73～101は土師器の高杯である。杯部と脚部にそれぞれ屈曲をもつものがほとんどである。杯部については、81・85・86・93などのように、明瞭な段を有するものもみられる。このうち93は杯部のみ完形で、口径は20.5cmを測り、掲載高杯の中では最も大きい個体である。また、83には段が2段ある。99～101は裾部に段があり、装飾器台の可能性がある。101の赤彩は丹塗り様である。調整については、全体的にナデが多いが、ハケ調整を残すものもみられる。102～133は壺類である。126は完形とみられるが、外面体部と底部にそれぞれ2か所ずつ、把手状のものが剥落したと考えられる痕跡がある。ただし、把手状のものが付くとすればどのように付くのか、復元形は不明である。128・131は壺と考えられる。128の穿孔部は、孔の下端と思われる部分の破片があるのみで、孔径の復元は困難である。外面上半には白色の自然釉がかかっている。外面の調整はロクロナデとみられ、ロクロ目ははっきり観察できない。接合破片はESK-10からも出土している。131・132は櫛描波状文が施される。131の左下端は穿孔部である。132の波状文から下の部分の調整は手持ちヘラケズリである。把手付椀と考えられる。134～165・167・168は土師器甕である。154は完形で、丁寧で頑丈な造りである。外面は淡褐色を呈し、内面は黒色である。155はほぼ完形で、口径21.0cm、胴部最大径33.2cm、器高40.5cmを測る。口唇部は丁寧に面取りされている。底部は外周部が高く作られ、上げ底である。色調は赤橙色を呈す。159の外面上半部の調整は沈線様であるが、ミガキと思われる。169～171は磨石である。172～174は砥石である。175～180はESD-1(K1・D1)を構成する部材で、全て転用品である可能性が高い。175は扉板である。両開き扉の片方で、長さ118.2cm、幅38.1cmである。上下に扉軸が削り出されている。中央には長さ45.8cm、最大幅16.9cm、最大高9.4cmの門受けが取り付けられている。扉板の裏面は剥がれないとみられ、現状で厚さは1cmほどしかない。再利用に当たって剥がされたか否か不明であるが、扉板本来の厚さでないと考えられる。176はぼぞ孔のある板である。ぼぞ孔は一列、9寸等間隔に4か所認められるもので、建物の扉を固定するための方立あるいは辺付の可能性がある。177は木柵である。1本の木から作られたもので、断面形は逆台形を呈する。外面はきっちりと面取りされ、稜がはっきりしているが、内面の稜はやや甘い。178は蓋板である。図左側が右側より厚くなっている。上下端が若干破損しているが、ほぼ完全な形とみられる。179・180は木柵側板で、177の後に、間を水が通るように立てて設置されていたものである。いずれも図正面が木柵の内面側で、図右側面が木柵の天、左側が地である。また、177の木柵に接していた部分は、179では図上部、180では図下部である。181・182は鍤で、182は曲柄鍤の未製品である。183は上部に貫通孔があり、垂飾様であるが、下端からも穿孔がある。材質は、年輪のようなものが観察されるため木と考えたが、木でない



第97図 ESD-1 出土遺物(16)

可能性もある。184～193は土製品である。184～187は手捏土器である。184は輪積み痕が観察される。188・189は土玉である。190は鏡形である。191は全体が磨耗し詳細は不明であるが、把手などの可能性がある。192は臼形の可能性もあるが、下端が何かから剥落したような様子も呈しており、把手のようなものかもしれない。193は土師器甕片の破断面を磨ったものである。194～217は滑石製品である。194～207は臼玉、208・209は勾玉、210・211は鏡形、212～215は勾玉形、216・217は劍形である。218は銅鏡である。肉眼では明らかでない部分もあるが、紐を取り囲むように12個の円形の突起がX線写真で確認できる。珠文鏡と考えられる。図上部には貫通孔があけられているが、祭祀具に転用するために穿孔したものと考えられよう。

第98図は、ESD-1付帯施設から出土した遺物である。1は須恵器蓋で、ほぼ完形である。色調は暗灰色で外面天井部に白色の自然釉がみられる。焼成は良好である。5・6は滑石製品で、5は管玉、6は勾玉形

である。

ESD-2 (第76・78・99図、図版49)

西北方向から南東方向に軸をとる溝状遺構である。西端はESD-1に繋がる。土師器や須恵器、玉類（第99図1）等が出土し、ESD-1やESK-12とほぼ同時期に存在していたと考えられる。

ESD-5 (第73図、図版16)

東西方向に軸をとる溝状遺構である。東側はESD-1を切るが、削平のためプランは明らかにできなかった。断面形は緩いU字形である。ESD-6・10・11と重複する部分があるが、断面の観察から当遺構のほうが、それより古いためと判断される。覆土はほとんど黒褐色粘質土の单層で、酸化鉄が多く入っていた。弥生土器や土師器・須恵器などの小片が出土したが、検出面などを考慮すると中世以降の遺構と判断される。

ESD-6 (第73・100図、図版16・42)

南北方向から東西方向に屈曲する溝状遺構である。東端は検出できなかった。断面形は緩いU字形である。北端がESD-5と一部重複するが、断面の観察から、当遺構のほうが新しいと判断される。覆土は、酸化鉄が多く入る褐灰色粘質土を主体とする。弥生土器や土師器・須恵器などの小片が出土したが、検出面などを考慮すると中世以降の遺構と判断される。

図示した遺物は1点で、1は砥石と考えられる。

ESD-7 (第77・102図、図版16・29・31・40・52)

ほぼ東西方向に軸をとる溝状遺構である。東側はESD-1に、西側はESD-8と繋がる。断面形は緩いU字形である。遺物が多量に出土し、その状況などから、ESD-1やESD-8とほぼ同時期との水路と考えられるが、少量の弥生土器も出土しており、ESX-1を含め、もともと同じ1条の流路で、上部が削平されている可能性も多い。重複する土坑ESK-11やESK-13も同じ流路の凹んだ部分である可能性がある。

図示した遺物は4点である。1は樽形甕で、遺存度は30%程度である。破片は当遺構から出土したものが多いが、DSD-1でもほぼ同数出土している。口縁部の破片は明らかでなく、2が相当する可能性もあるが、現段階では胎土・色調の特徴が異なるように観察されたため、同一個体と見なさなかった。復元体部幅は21.8cm、復元現存器高は16.6cmである。体部には左右それぞれ2段の櫛描波状文が施されている。2の口縁部には櫛描波状文が施される。3は手握上器である。4は滑石製品で、鏡形である。

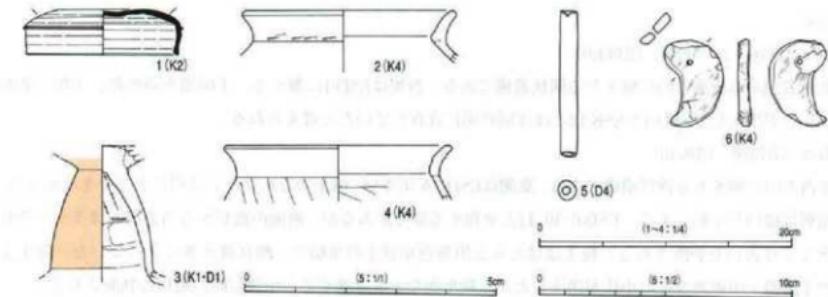
ESD-8 (第77・103図、図版16・29・40)

ほぼ東西方向に軸をとる溝状遺構である。東側はESD-1に、西側はESD-7と繋がる。断面形は緩いU字形である。土師器などの遺物が多量に出土し、その状況などから、ESD-1やESD-7とほぼ同時期との水路と考えられるが、弥生土器も出土していることから、ESX-1を含め、もともと同じ1条の流路で、上部が削平されている可能性も多い。

図示した遺物は16点である。1・2は弥生上器と考えられる。1は壺で擬似流水文が施される。3~16は土師器である。8~12は高杯である。6・15・16は壺で、6は口径39.8cm、現存器高32.5cmを測る。ハケ調整が施される。16の外面には、沈線様のミガキが施されている。

ESD-10 (第73・101図、巻頭図版3)

南北方向～東西方向にやや屈曲する溝状遺構である。断面形は緩いU字形である。ESD-5とほとんど重複しているが、断面の観察から当遺構のほうが新しいと判断される。覆土は、炭化粒を含み、雲管状斑文が多く入る黒色～黒褐色粘質土を主体とする。弥生土器や土師器などの小片が出土したが、検出面などを考



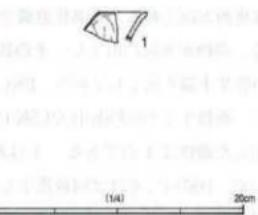
第98図 ESD-1 (D4)・(K1-D1)・(K2)・(K4) 出土遺物



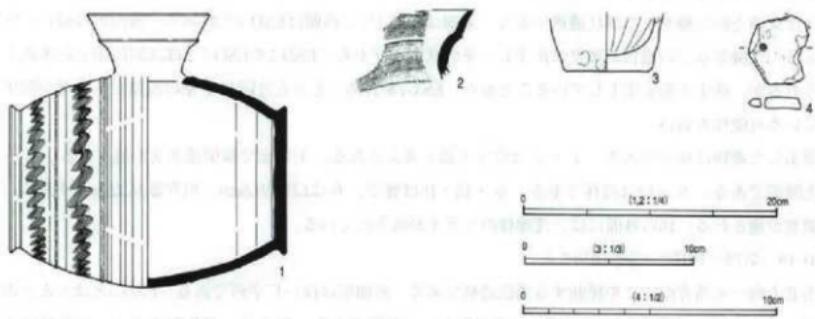
第99図 ESD-2 出土遺物



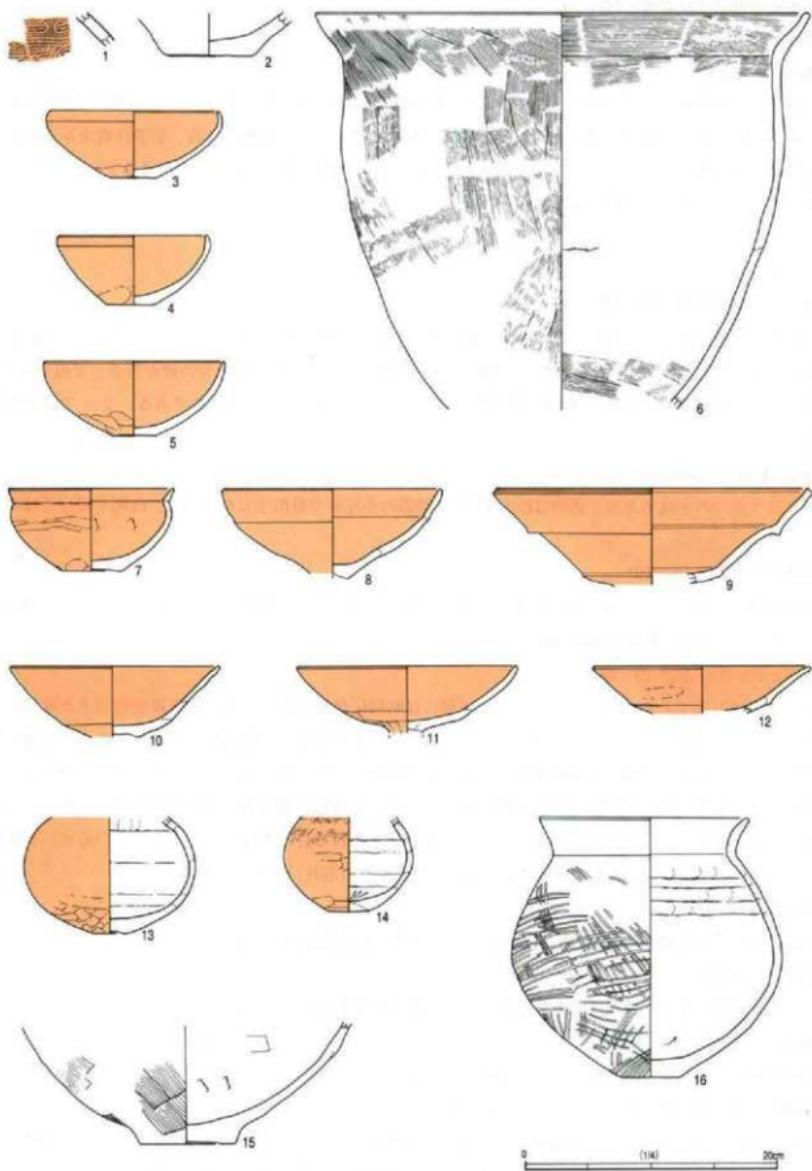
第100図 ESD-6 出土遺物



第101図 ESD-10 出土遺物



第102図 ESD-7 出土遺物



第103図 ESD-8 出土遺物

慮すると中世以降の遺構と判断される。

図示した遺物は1点で、1は鎌蓮弁文の青磁碗である。

ESD-11（第73図）

南北方向～東西方向にやや屈曲して位置する。断面形は緩いU字形である。ESD-5と重複する部分があるが、断面の観察から当遺構のほうが新しいと判断される。覆土は、炭化粒を含み、雲管状斑文が多く入る黒色粘質土を主体とし、下層に黒色粘質土を少量含むにぼい黄色砂が堆積する。遺物は出土していないが、検出面などを考慮すると中世以降の遺構と判断される。

3 土坑

ESK-1（第104図、図版19・42・53）

平面形は円形であるが、南西部が一段高く張り出している。別の土坑が切り合っている可能性もあるが、遺物の出土状況等から、両者にはほとんど時期差はないと考えられる。木片や大型の礫が目立って出土した。

図示した遺物は3点である。1は、黒く煤けた部分（トーン部分）を有する石である。2・3は管状土錐である。

ESK-2・ESK-4（第105図）

切り合う2つの土坑である。遺物はESK-4から土師器の小片が少量出土したのみで、時期や用途等は明らかでない。

ESK-3（第106図、図版19）

底面はほぼ平坦である。覆土は、暗オリーブ灰色砂とオリーブ黒色砂が互層に堆積していた。遺物は出土しておらず、時期や用途等は明らかでない。

ESK-5（第107図、図版19・48）

底面はほぼ平坦である。覆土は、主として下層には暗緑灰色粘質砂、上層には灰褐色粘質土が堆積しており、その境目付近のレベルから、ゴンドウクジラとみられる頭蓋骨（図版48）が出土した。頭蓋骨の残存状態は良好である。吻端から後頭顎までの長さは約58cmで、推定体長5m～6mの成獣とみられる。頭頂付近には、解体に伴うものかどうかは明らかでないが、人為的に剥ぎ取られた痕跡が観察される。当遺構内からは、ほかにもクジラとみられる骨片や、水鳥とみられる骨、木片などが出土しているが、土器はほとんど出土していない。遺構の規模や状況などから、中世の溜井戸と考えられる。

ESK-6（第108図）

底面はほぼ平坦である。遺物は出土しておらず、時期や用途等は明らかでない。

ESK-7（第109図）

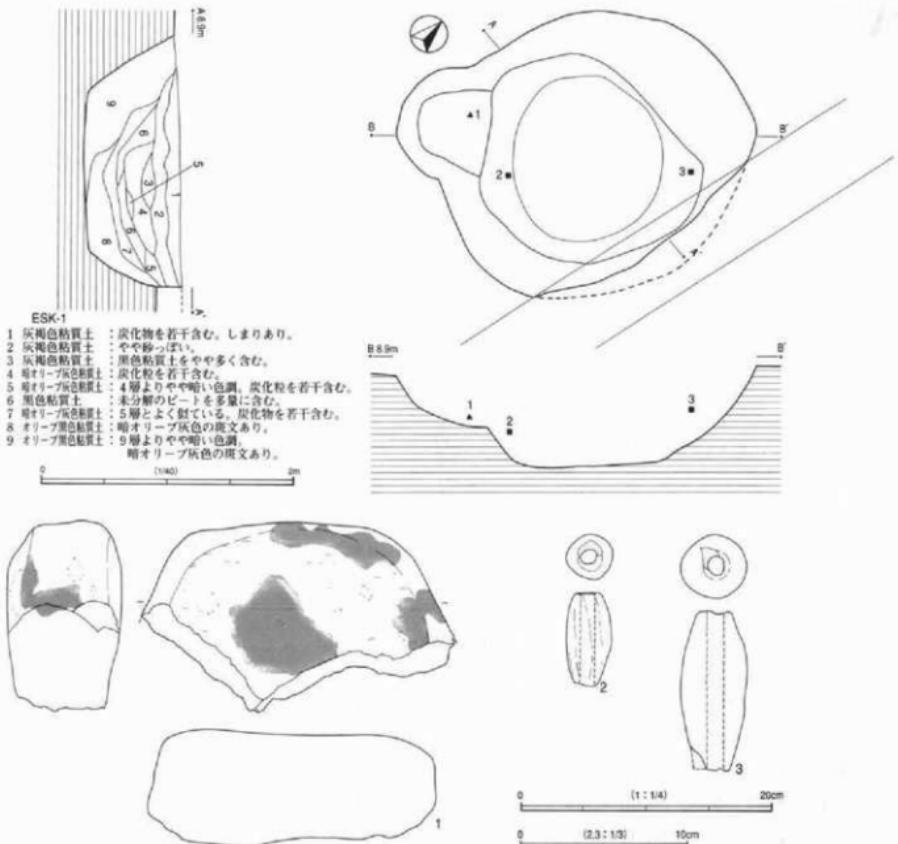
底部は丸底状である。遺物は出土しておらず、時期や用途等は明らかでない。

ESK-9（第110図）

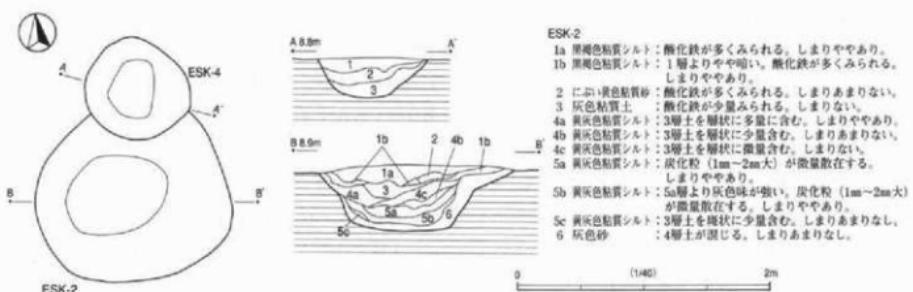
遺物は出土しておらず、時期や用途等は明らかでない。

ESK-10（第111図、図版19・29・31・40・49・51）

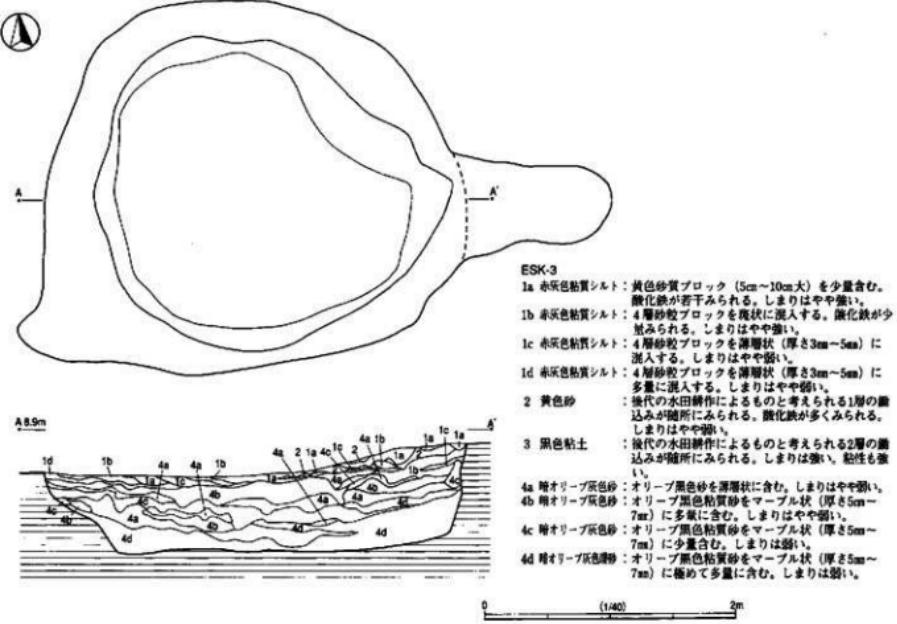
溝状、あるいは土坑がいくつか切り合ったような不整形を呈する。遺物は多量に出土し、その中には、土師器や須恵器のほか、石製品や土製品、木片なども含まれている。周辺の状況を考えあわせると、当遺構は土坑ではなく、上部が削平され、ESD-7などの深い部分が残ったものとも考えられる。



第104図 ESK-1 と出土遺物



第105図 ESK-2・ESK-4



第106図 ESK-3

図示した遺物は9点である。1～5は杯である。5は50%程度の遺存度で、口径11.3cm、器高6.8cmである。胎土には白色針状物質が多量に含まれる。6は手捏土器、7は土玉、8・9は滑石製臼玉である。

ESK-11（第112図、図版19・29・31）

ESD-7と重複するが、新旧関係ははっきりしない。土師器や木片が多く出土した。ESK-10と同様、土坑ではなく、上部が削平され、ESD-7などの深い部分が残ったものとも考えられる。

図示した遺物は3点で、1・3は土師器、2は手捏上器である。

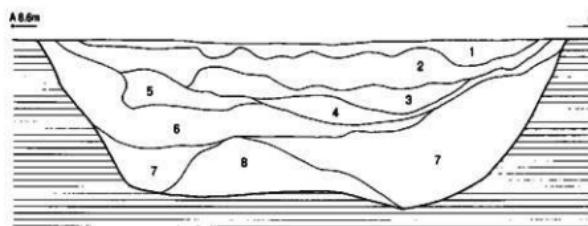
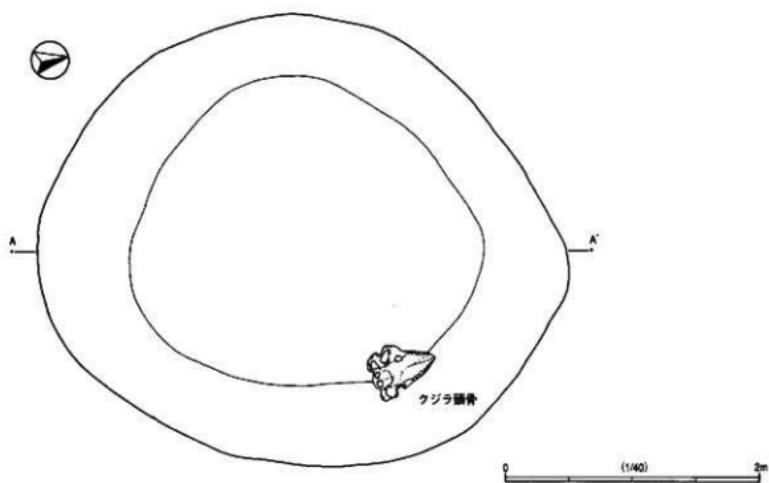
ESK-12（第113図、図版19・29）

ESD-1（D4）を通してESD-1と繋がる土坑である。遺物は、土師器や木片が多く、ウマの歯片なども出土している。遺物の内容から、ESD-1やESD-1（D4）とほぼ同時に存在し、溜井戸の機能を果たしていたものと考えられる。図示した遺物は4点である。3はハケ調整痕が残存する。

ESK-13（第114図、図版19・29・40・42）

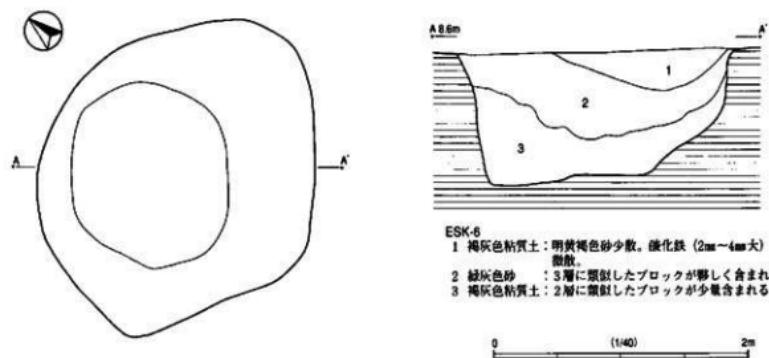
2つの細長い土坑が切り合うような、溝状または長椭円形状を呈する土坑である。ESD-1・ESD-7と重複する。土師器や木片など比較的多くの遺物が出土し、その様相から、ESD-1やESD-7とほぼ同時存在していたと考えられる。周辺の状況を考えあわせると、当遺構は土坑ではなく、上部が削平され、ESD-7などの深い部分が残ったものとも考えられる。

図示した遺物は5点である。4は破片上部に櫛描波状文が施されており、趣と考えられる。5は砥石で



- ESK-5**
- 1 淡褐色粘質土：白色粒（炭酸鉄）少散。浅黄色砂中混。
 - 2 淡褐色粘質土：白色粒（炭酸鉄）少散。浅黄色砂多混。
 - 3 淡灰色粘質土：淡色粘質シルト・薄層状ラミナ（4mm）を少量含む。浅黄色砂中混。
 - 4 黑褐色粘質土：無色粘質シルト・薄層状ラミナ（4mm）を多量に含む。
 - 5 暗緑灰色砂：黑色粘質シルト・薄層状ラミナ（4mm）を多量に含む。
 - 6 暗緑灰色粘質砂：黑色粘質シルト・薄層状ラミナ（4mm）を多量に含む。
 - 7 暗緑灰色粘質砂：黑色粘質シルト・薄層状ラミナ（4mm）を多量に含む。
 - 8 暗緑灰色粘質砂：黑色粘質シルト・薄層状ラミナ（4mm）を少量含む。砂利（5mm-10mm大）少散。

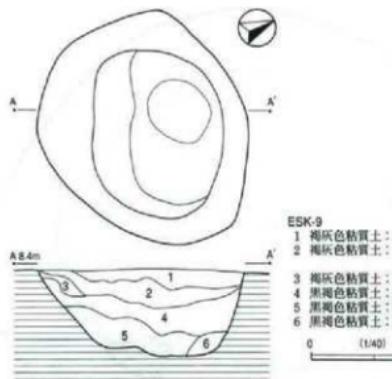
第107図 ESK-5



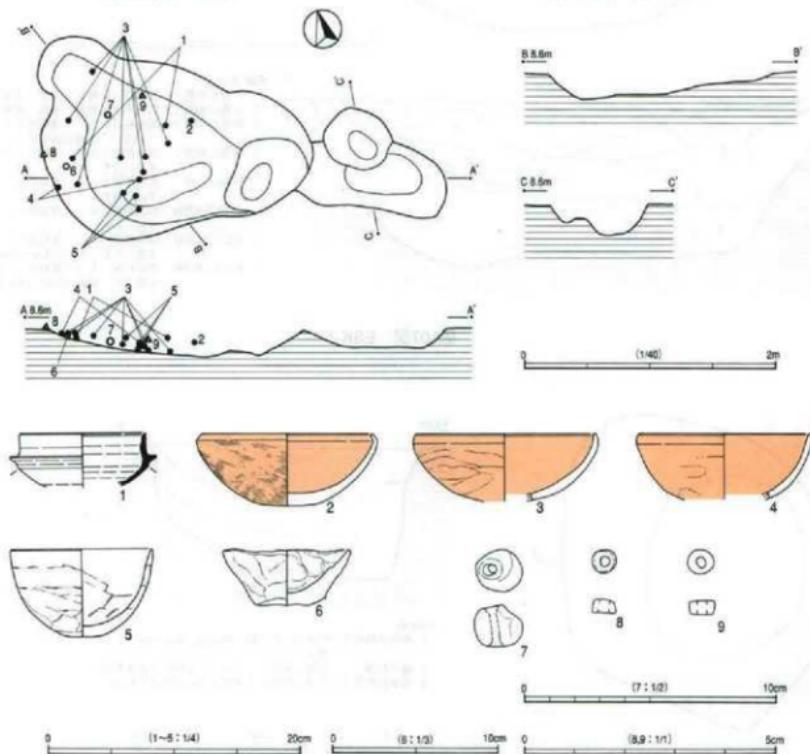
第108図 ESK-6



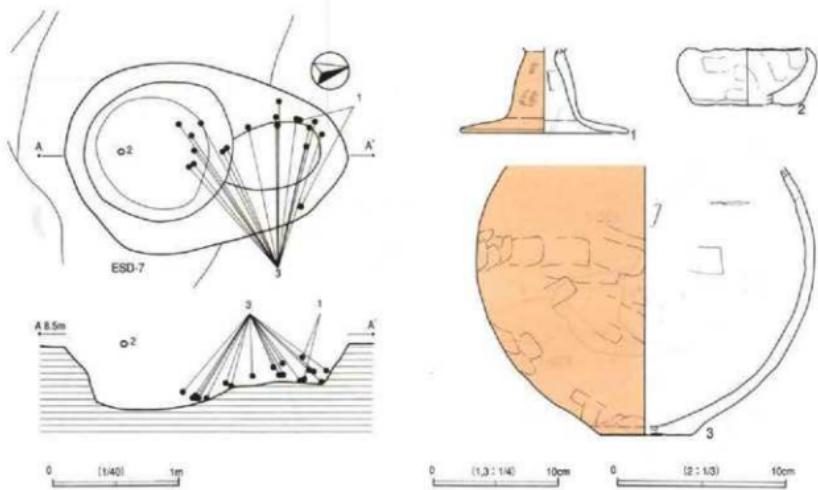
第109図 ESK-7



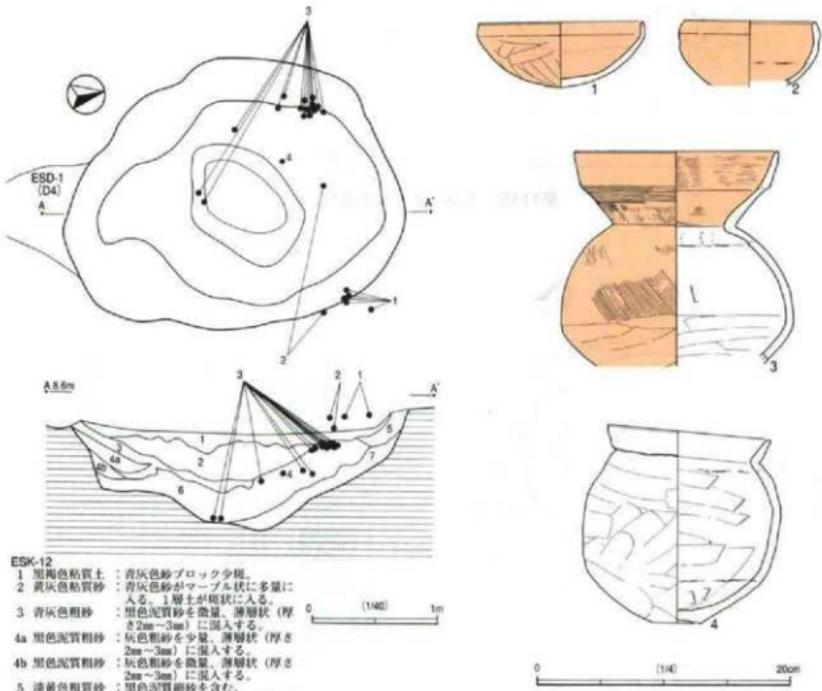
第110図 ESK-9



第111図 ESK-10 と出土遺物



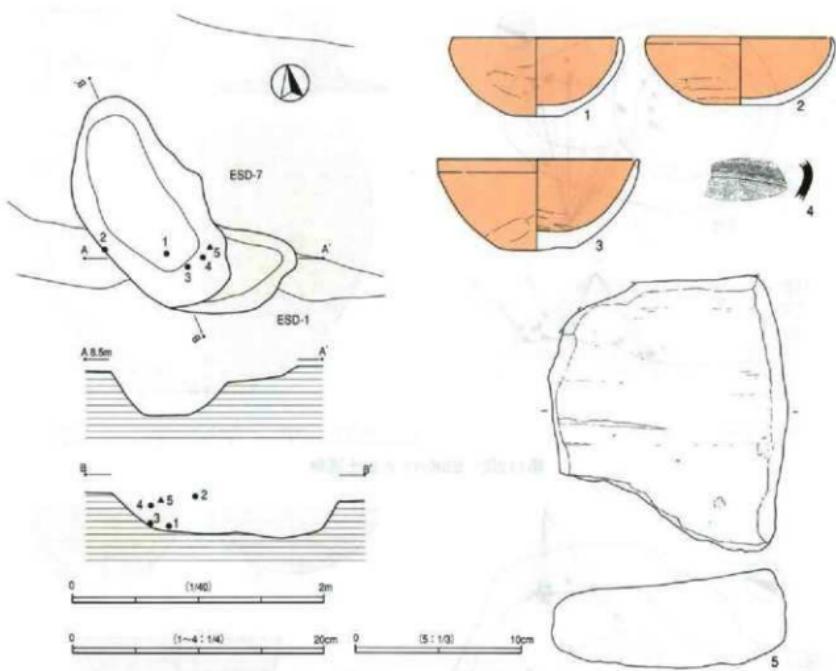
第112図 ESK-11 と出土遺物



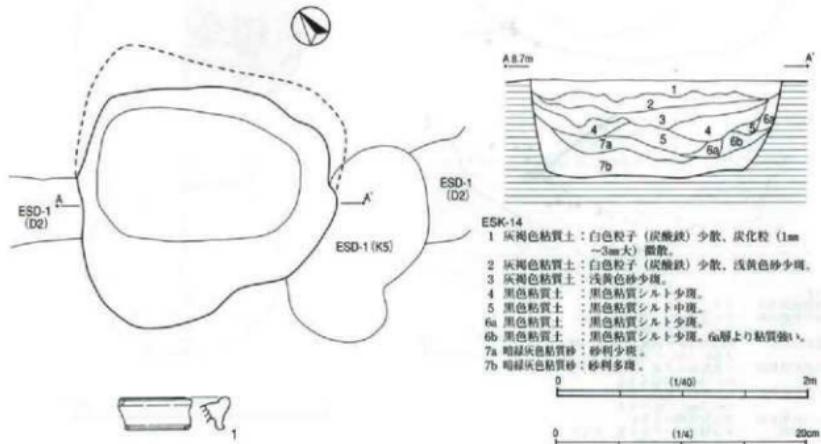
ESK-12

- 1 黒褐色粘質土 : 青灰色砂ブロック少根。
- 2 黄灰色粘質砂 : 青灰色砂がマーブル状に多量に入れる。1層土が砂中に入る。
- 3 青灰色粗砂 : 青灰色粗砂を微量、薄層状(厚さ2mm~3mm)に混入する。
- 4a 黑色泥質粗砂 : 黑色泥質粗砂を少量、薄層状(厚さ2mm~3mm)に混入する。
- 4b 黑色泥質細砂 : 黑色泥質細砂を少量、薄層状(厚さ2mm~3mm)に混入する。
- 5 淡黄色粗質砂 : 黑色泥質粗砂を含む。
- 6 黑色泥炭 : 未分類のビートを少量、炭化粒(1mm~3mm大)少根。
- 7 灰オーライブ色粘質土 : 6層土を少量含む。

第113図 ESK-12 と出土遺物



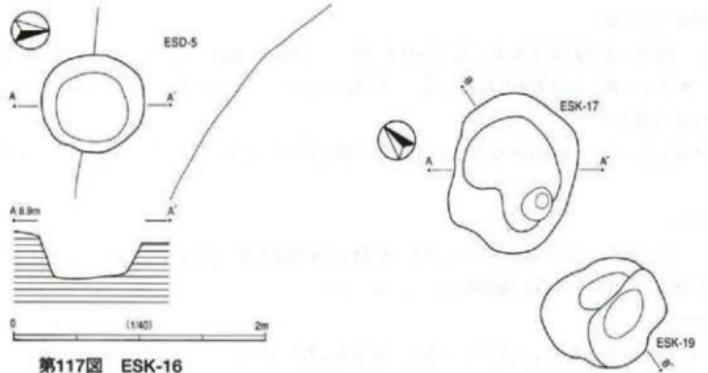
第114図 ESK-13 と出土遺物



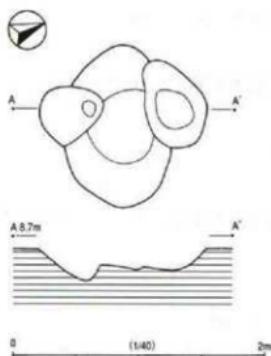
第115図 ESK-14 と出土遺物



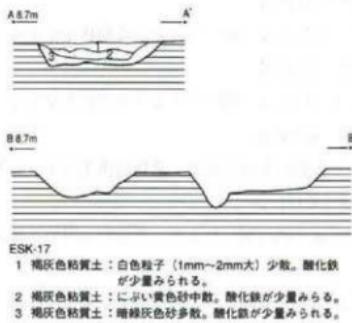
第116図 ESK-15 と出土遺物



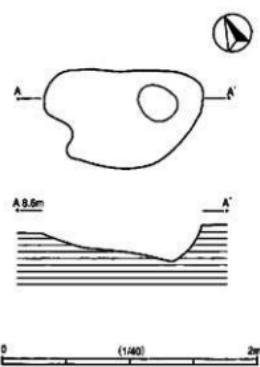
第117図 ESK-16



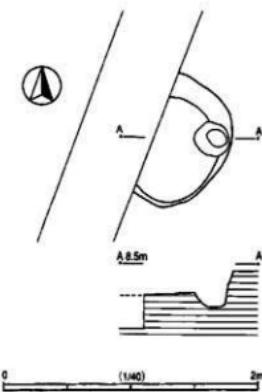
第118図 ESK-18



第119図 ESK-17・ESK-19



第120図 ESK-20



第121図 ESK-21

ある。

ESK-14 (第115図、図版40)

底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。ESD-1 (D2)・ESD-1 (K5)と重複しているが、土層断面の観察から、それより新しいと考えられる。図示した遺物は1点で、1は常滑産の壺と考えられる。

ESK-15 (第116図、図版29)

2つの土坑が切り合うような形状を呈する。図示した遺物は1点である。1は壺で、体部の80%の遺存度である。

ESK-16 (第117図)

底面は平坦で、壁は垂直に近い角度で立ち上がる。ESD-5と重複するが、新旧関係や用途等は明らかでない。遺物は、土師器と須恵器の小片が少量出土したのみである。

ESK-17 (第119図)

浅い不整形の土坑である。遺物は出土せず、時期や用途等は明らかでない。

ESK-18 (第118図)

小さな土坑が3つ切り合うような形状を呈する。遺物は出土せず、時期や用途等は明らかでない。

ESK-19 (第119図)

小さな土坑が2つ切り合うような形状を呈する。遺物は出土せず、時期や用途等は明らかでない。

ESK-20 (第120図)

浅い不整形の土坑である。遺物は出土せず、時期や用途等は明らかでない。

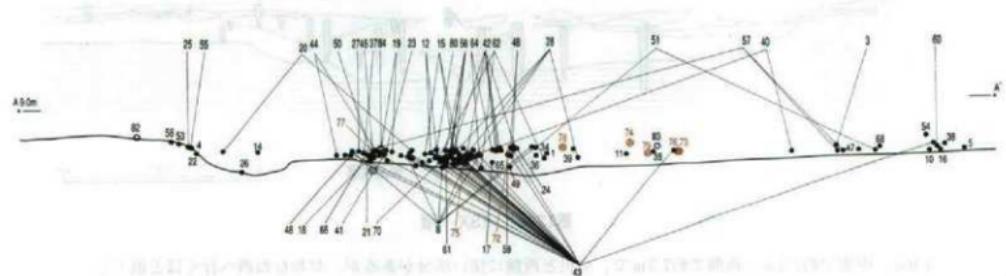
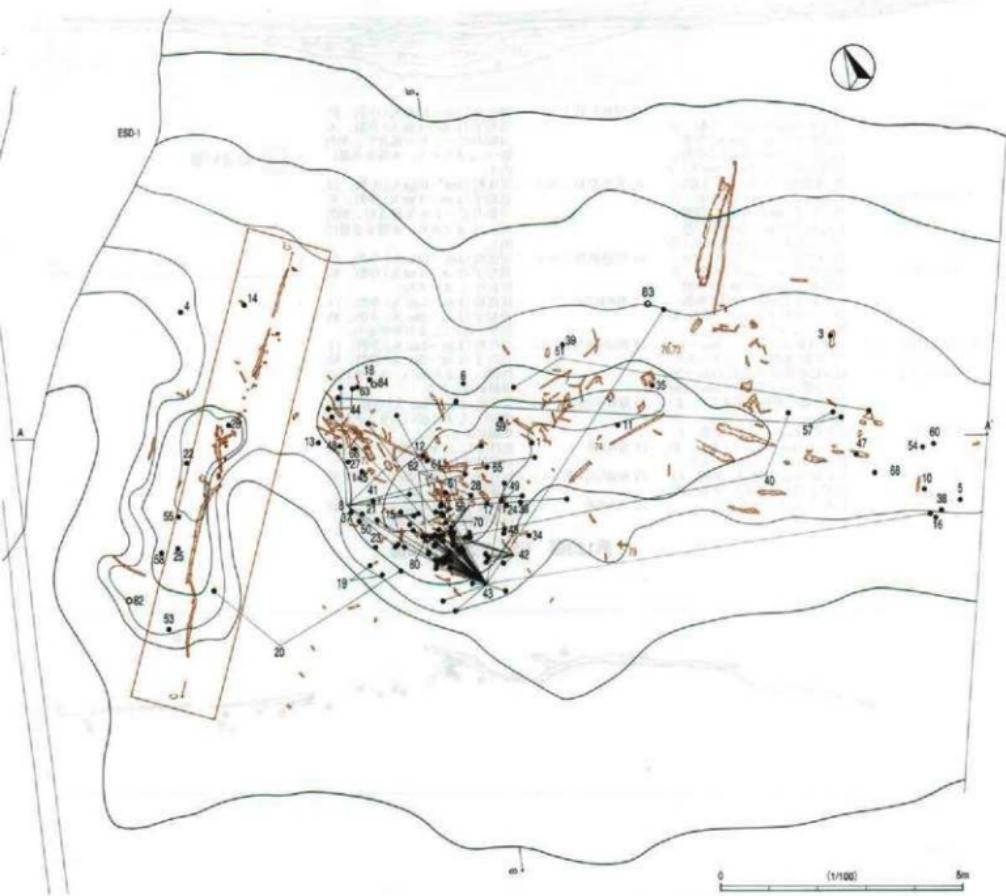
ESK-21 (第121図)

西側が排水溝に切られるが、平面形は円形と推定される。遺物は出土せず時期や用途等は明らかでない。

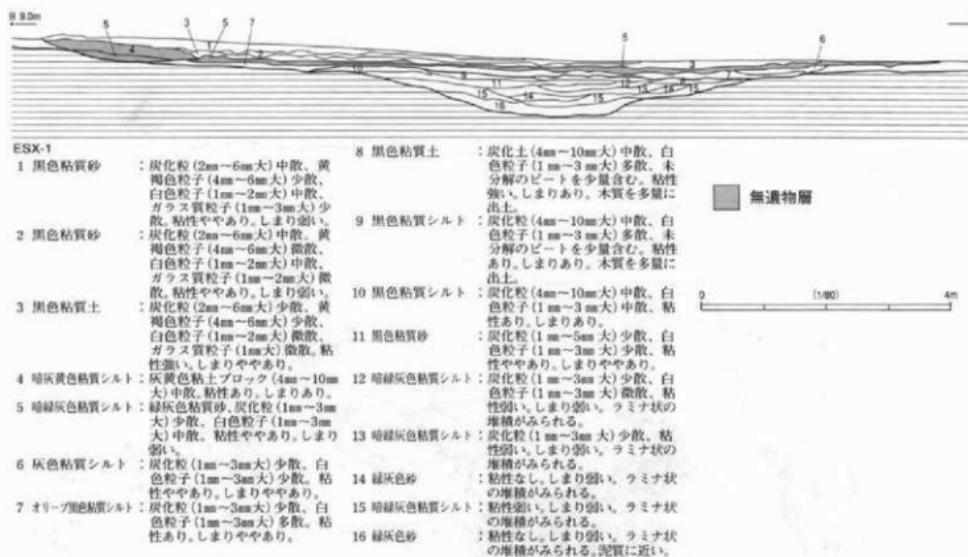
4 旧河道

ESX-1 (第122~129図、図版17・18・29・30・38・39・42・47~49・51・52)

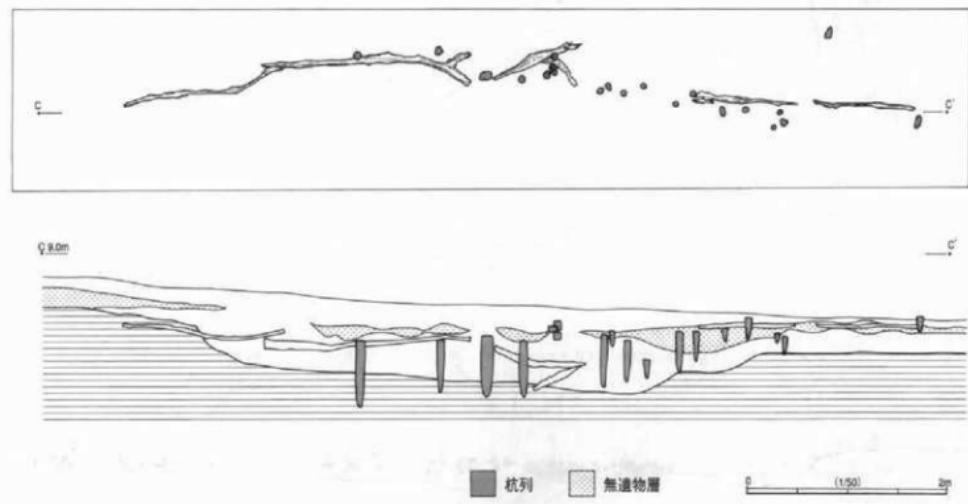
幅約15mで立ち上がり、東西方向に軸をとる。西側はESD-1と重複する。立ち上がり部分の標高は、北側で上端8.3m、下端約8.2mである。南側では、上端約8.5m、下端約8.2mである。底面の標高は、東側で約



第122回 ESX-1



第123図 ESX-1 土層断面図



第124図 ESX-1 墓

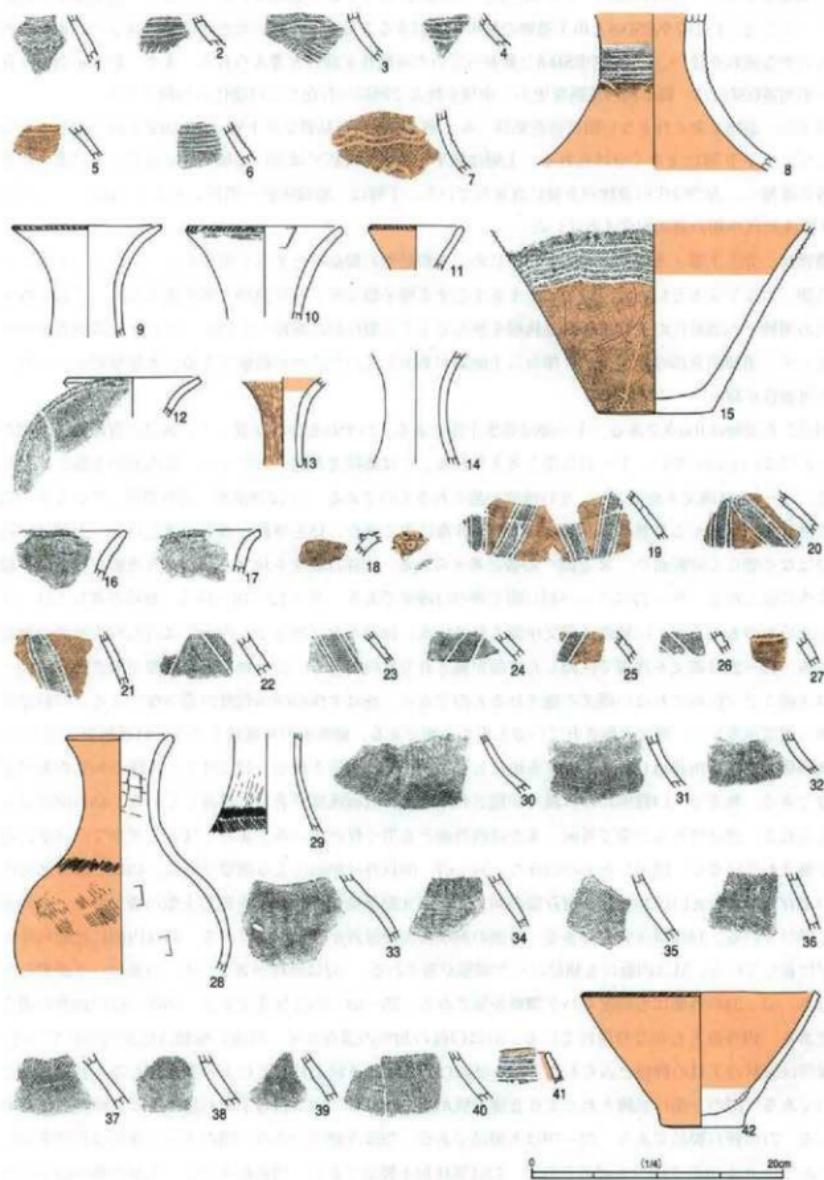
7.9m、中央で約7.5m、西側で約7.5mで、中央と西側に深い部分があるが、おおむね西へ行くほど低くなっている。西側の深い部分には、杭を列状に打ち込んで横木を渡した、堰と考えられる施設が設けられている（第124図）。当遺構は、調査時には沼地と考えたが、堰と考えられる施設があることや、多量に出土

した木製品や木片の分布状況が、その堰に向かって流れているような状態であったこと、出土遺物が磨耗していること、ESD-7やESD-8と出土遺物の様相が類似することなどから、ただの沼地ではなく、東から西へと緩やかな流れを伴い、ESD-7やESD-8と繋がっていた可能性が高いと考えられる。また、約30m南に所在する旧河道DSD-1は、同じ河の流路変更か、中州を挟んで同時に存在した可能性も指摘できる。

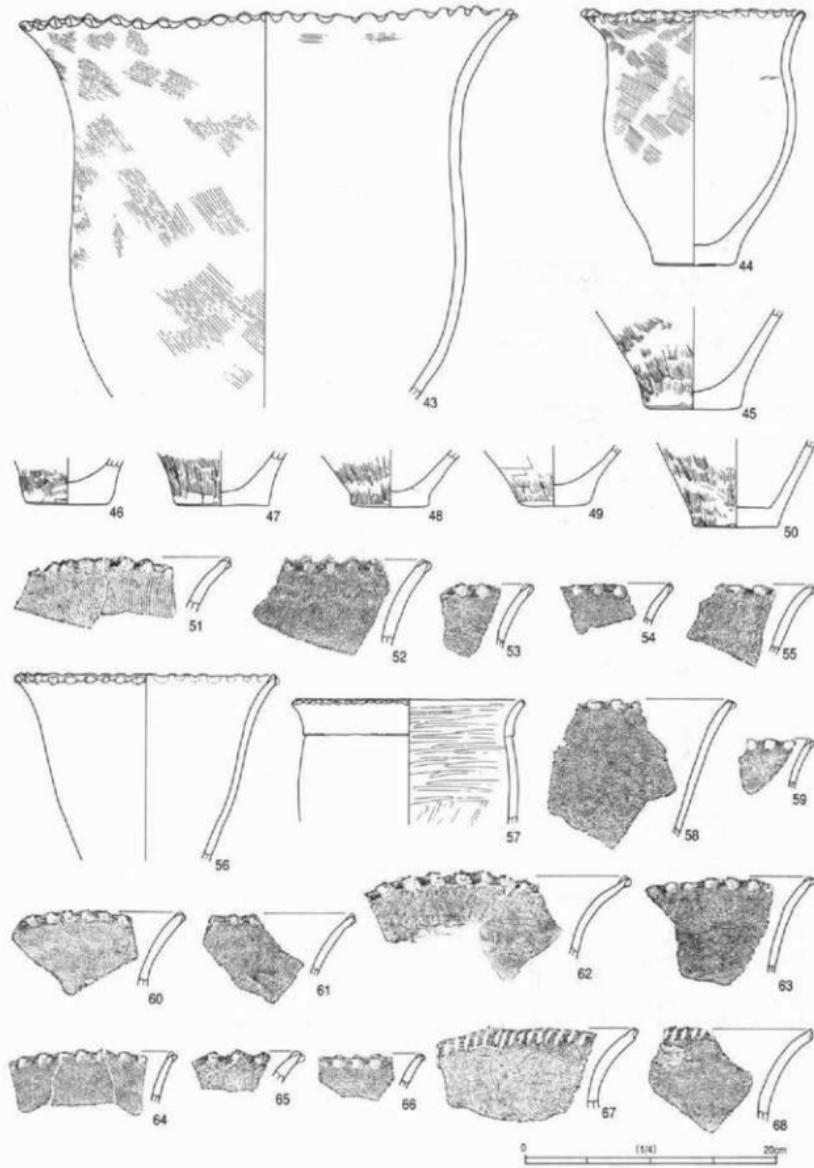
覆土は、遺物を全く含まない暗灰黄色粘質シルト層と暗緑灰色粘質シルト層（第123図4層・5層）を境として、上下2層に大きく分けられる。上層は削平を受け、現状では薄い堆積であったが、主に黒色粘質砂層が堆積し、古墳時代の遺物が多量に含まれていた。下層は、暗緑灰色～黒色シルトを主体としており、専ら弥生時代中期の遺物が含まれていた。

遺物は、弥生土器・土師器・須恵器をはじめ、木製品や石製品なども多く出土した。また、イルカ・クジラ類、ニホンジカといった獣骨や、モモを主とする種子類など、自然遺物も多く出土した。これら弥生時代の遺物と古墳時代の遺物は、無遺物層を挟んで上下に層位的に堆積していた。なお、確認調査時の所見として、遺構南東部の立ち上がり部分に土師器が集中していたことが指摘できる。水際祭祀が行われていた可能性が高い。

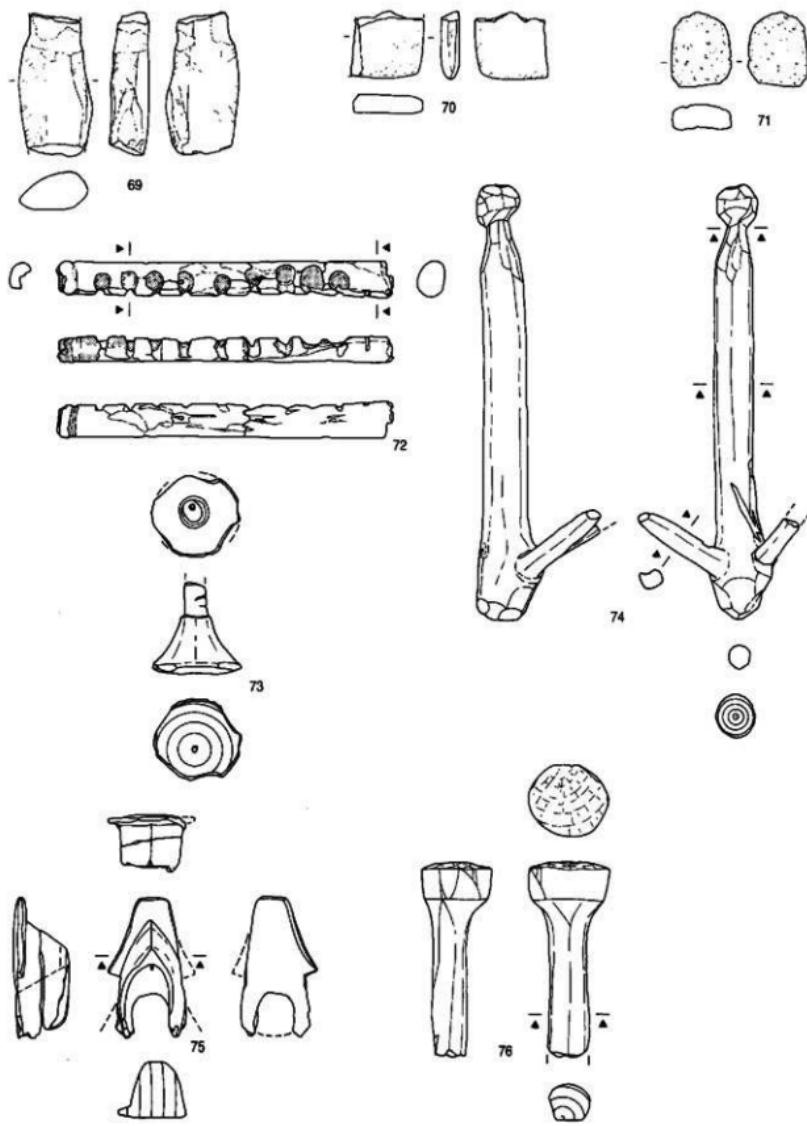
図示した遺物は160点である。1～68は弥生上器である。いずれも磨耗が著しく、赤彩の有無など詳細が明らかでないものが多い。1～41は壺と考えられる。1は櫛描文が施されており、畿内系の土器と考えられる。2～6は縄文を地文とし、平行沈線が施されるものである。8は頸部が一巡り遺存しているが、器面の磨耗・剥落がかなり著しい。胎土に砂粒を非常に多く含む。15も磨耗・剥落が著しいが、上部は口唇部ではなく恐らく破断面で、8と同一の壺と考えられる。文様は縄文を地文とし、集合沈線がやや強を描くように施される。9～17はラッパ形に開く壺のII縁部である。9～12・16・17は、磨耗が著しくはっきりしないものもあるが、口唇部に縄文が施されている。18の外面は無文で、内面には円形竹管端部の押捺がある。19～26は縄文を沈線で区画した文様が施されるものである。27は無文地に沈線が施される。28～40は沈線などで区画されない縄文の施されるものである。28は全体の60%程度の遺存度である。口唇部は磨耗・剥落が著しく、縄文が施されているか否か不明である。破断面の可能性もある。41は無頭壺である。焼成前穿孔が1か所認められる。縄文を地文とし、平行沈線が施される。42は鉢で、全体の40%程度の遺存度である。無文で、口唇部にのみ縄文が施されている。内面底部が著しく剥落している。43～68は甕と考えられる。甕はほとんど全て外面、または内外面とも黒く煤けている。また、ほとんど全て口唇部に調整が施されているが、図示したもののうち、57・67・68以外は指頭による調整である。43は口縁の50%程度の遺存度で、復元口径38.6cm、現存器高36.7cm、復元胴部最大径31.8cmを測る大型の甕である。内外面とも煤けている。44はほぼ完形である。外面の胴部最大径付近が主に煤けている。45は内面に比較的厚く煤が付着している。51は内面にも横位にハケ調整が施される。52は磨耗が著しいが、外面はハケ調整とみられる。53・54の外面にも細密なハケ調整が施される。55・58・59は無文である。56は口縁の40%の遺存度である。内外面ともかなり煤けている。57は口縁の30%の遺存度で、外面に輪積み痕が残されている。口縁部は管状の工具の押捺とみられる。67・68の口唇部はヘラ状工具などによる刻み列とみられる。69は砥石である。図の上部に縛縛されたような磨滅痕が認められる。70は石庖丁状石器である。磨耗痕が認められる。71は軽石製品である。72～79は木製品である。72は火鑊臼である。図のトーン部分は焦げを示したもので、9か所の火鑊穴が認められる。73は儀仗形木製品である。円錐形を呈し、上部の軸の部分との境には段が設けられている。また縁部には、装飾的效果を狙ったものか、外周部分に3か所～4か所の面



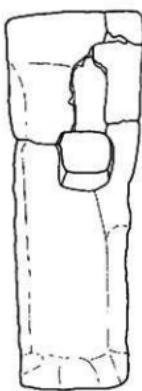
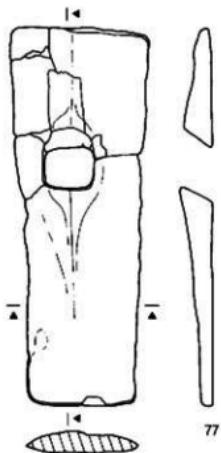
第125図 ESX-1 出土遺物(1)



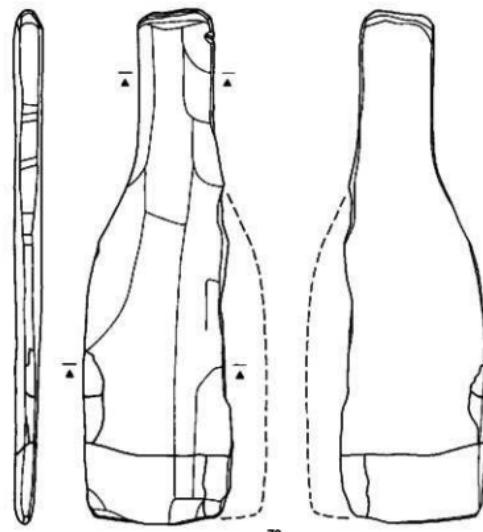
第126図 ESX-1 出土遺物(2)



第127圖 ESX-1 出土遺物(3)



77



78

0 [77, 78 : 1/4] 20cm

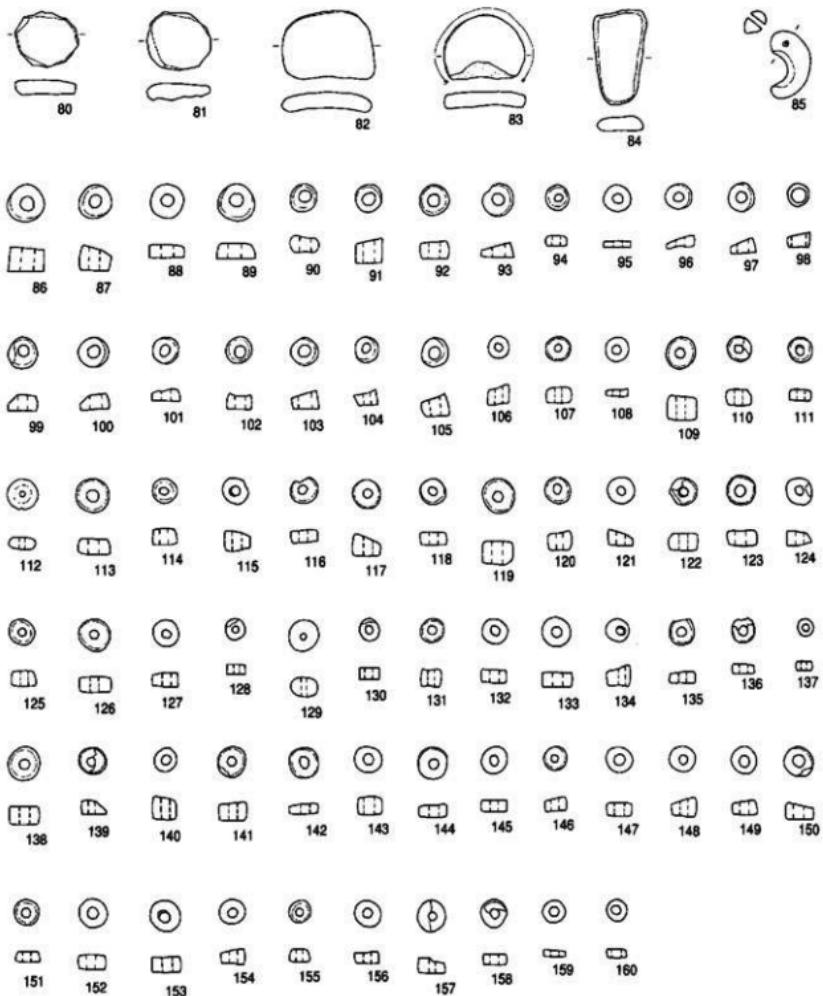
0 (79 : 1/5) 20cm

第128図 ESX-1 出土遺物 (4)



79





0 (80~84 : 1/3) 10cm

0 (85 : 1/2) 10cm

0 (86~160 : 1/1) 5cm

第129図 ESX-1 出土遺物(5)

取りを施しているようである。図上部から下部まで細い一筋の穴が貫いているが、自然の穴と考えられる。74は鉤手状木製品である。自然の木の又の部分を利用したもので、もともと4又であった枝の2か所を元から切断している。そして残った枝のうち、1本は現状で先端が欠損しているが、もう1本はこの長さに加工したものである。また、上部にも加工を施しきれを生じさせている。くびれ部に紐などをかけ、吊して使用するなどしたものかもしれない。75は直柄平鐵の着柄隆起である。76

はタテツチなどのツチ類の柄部分と考えられる。77は直柄鐵である。柄が取り付けられる穴の形は四角形を呈する。78は曲柄鐵未製品である。79は直柄と考えられる。図上端部に加工が施される。緊縛部と考えられる。80~84は土製品である。いずれも土師器や弥生土器の破片の破断面を磨ったものである。85は滑石製勾玉である。86~128・130~160はフリイにより検出した滑石製白玉である。129は黒色で光沢を帯びた小玉だが、材質は明らかでない。砂岩製か土玉である可能性もある。

5 ピット群（第73図、図版19・53）

E区の北端部を中心にピット群を検出した。検出面からの深さは数cm~20cm程度のものがほとんどである。いずれも近世以降と考えられる畦畔覆土を除去した後に検出されたものである。柱の痕跡の残るものもみられるので、掘立柱建物または竪穴住居を構成するものと考えられるが、建物の推定は困難であった。なお、ピットから出土した遺物は土師器や須恵器の小片ばかりで、中世以降の遺物は含まれない。

図示した遺物は2点で、1・2ともに管状土錐である。

6 水田面（第74図）

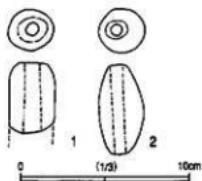
水田城は、125Zグリッド付近に、砂質土の地山に対してシルト質の土が堆積する部分として検出された。また、その検出面から約10cm下には、さらに軸の異なる別の畦畔が検出された。いずれも古墳時代の所産と考えられるが、はじめに検出された新段階の水田城を「第2水田面」、古段階の水田城を「第3水田面」と呼称した。

第2水田面

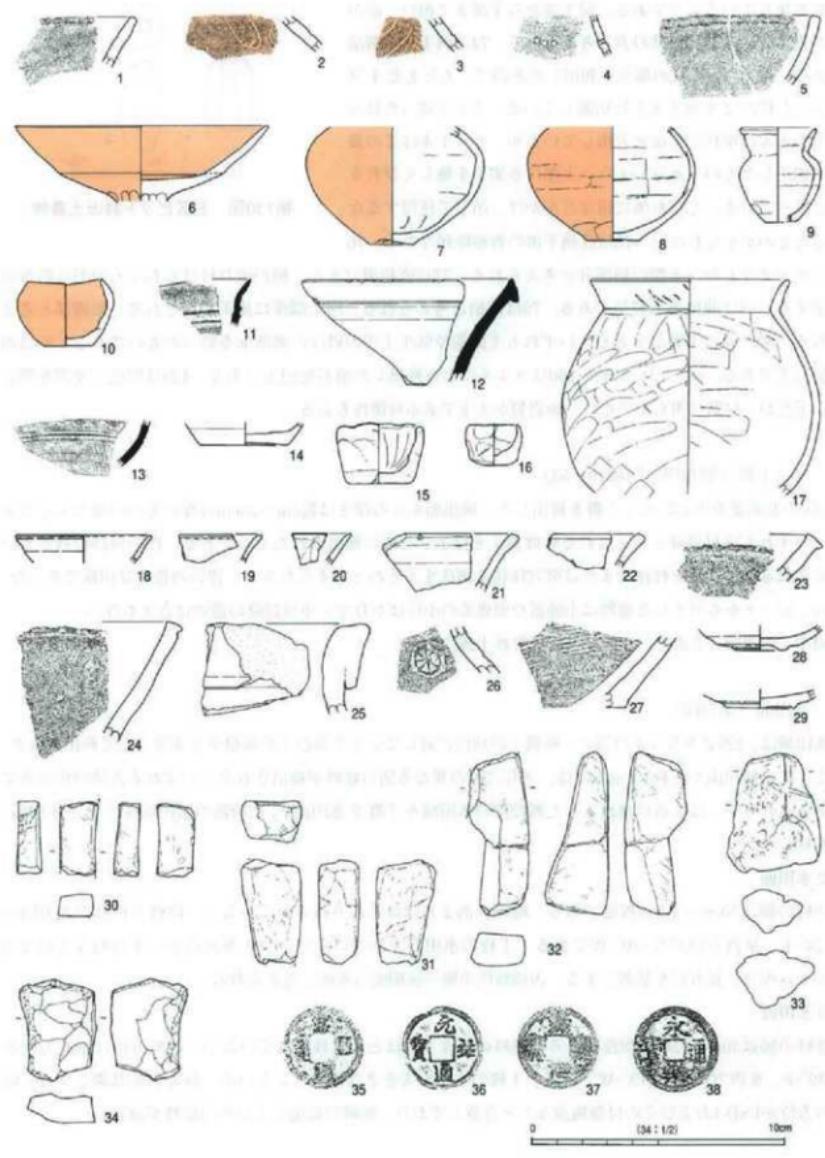
畦畔の幅は30cm~1.5m程度である。畦畔の高まりはほとんど残されていない。畦畔方位は南北方向がN-24°-E、東西方向がN-70°-Wである。1枚の水田の大きさにはバラつきがあるが、平均的なもので3m×4m程で、長方形を基調とする。古墳時代中期~後期頃の所産と考えられる。

第3水田面

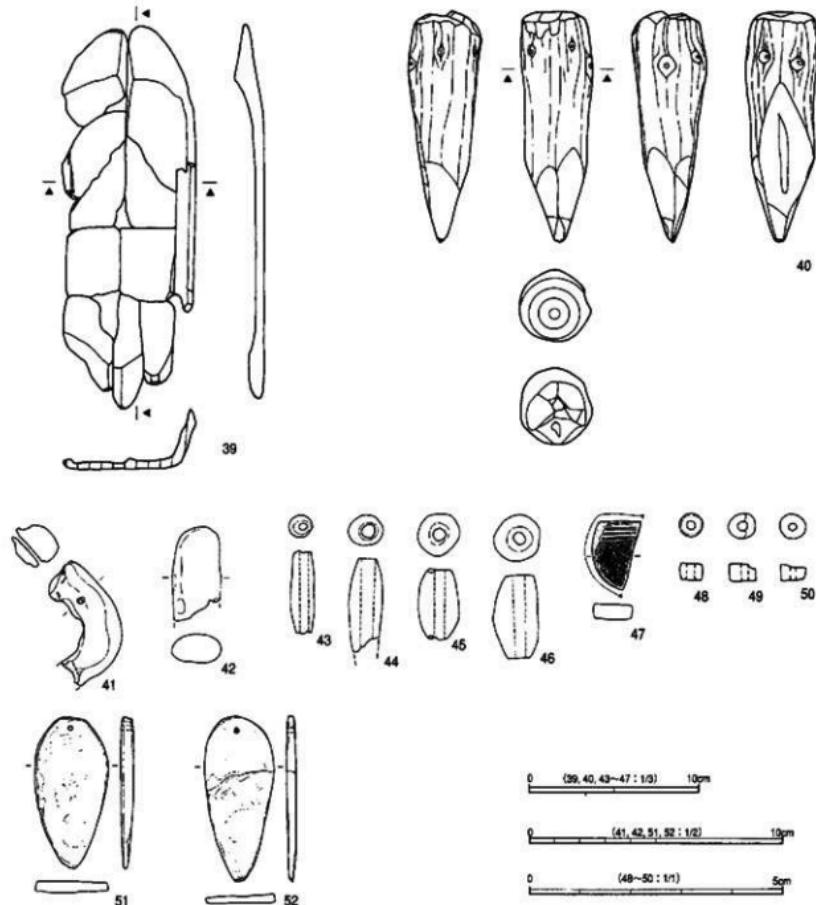
畦畔の幅は30cm~50cm程度である。畦畔の高まりはほとんど残されていない。畦畔方位は南北方向がN-39°-E、東西方向がN-75°-Wである。1枚の水田の大きさは判然としないが、長方形を基調とする。畦畔の方針がESD-1およびその付帯施設などと合致しており、同時に機能していた可能性が高い。



第130図 E区ピット群出土物



第131図 E区遺構外出土遺物(1)



第132図 E区遺構外出土遺物(2)

7 遺構外出土遺物（第131・132図、巻頭図版3、図版30・31・40～42・49・51～54）

1～5は弥生土器で、1～4は壺、5は鉢と考えられる。1の口唇部には縄文が施される。2・3は縄文が沈線で区画される。4は焼成前穿孔が3か所あけられている。5の口唇部、口縁部外面には縄文が施されている。6～10・14・17は土師器である。9は50%の遺存度で、赤彩の可能性もあるが、器面が磨耗しており明らかでない。10はほぼ完形である。器面が磨耗しており調整は明らかでない。14はロクロ土師器と考えられる。底部の調整は回転ヘラケズリである。11～13は須恵器で、11は下端部に櫛描文がみられ、高杯と考えられる。13は上端部に櫛描文がみられ、甕などの壺類と考えられる。15・16は手捏土器である。18・19は白磁皿である。18は口唇部に錫とみられる付着物がみられる。19も覆輪の可能性がある。20は錫

蓮弁文の青磁碗である。21~24・27は片口鉢である。22は内外面とも薄く灰釉が施される。24は14世紀後半の所産と考えられる。25・26は常滑産甕である。28は唐津皿である。内外面に灰白色の釉が施され、胎土は褐色である。29は志野丸皿である。30~32は砥石、33は軽石製品である。34は黒曜石製の火打ち石と考えられる。35~37は北宋錢、38は明錢である。39は水田面から出土した舟形木製品である。残存状態は悪いが、軸先と縁の一部は遺存し、現存の長さは22.7cm、幅は7.8cmを測る。40は木枕である。41・42は土製品で、41は勾玉形、42は劍形と考えられる。43~46は管状土錠で、47は擂鉢の転用砥石である。48~52は滑石製品で、48~50は白玉、51・52は劍形である。

第8節 F区

1 概要（第133~135図）

F区は、E区の北に隣接する調査区である。調査面積は3,700m²、検出面の標高は調査区北西端で8.600m、南西端では8.596m、南東端では8.729mであり、調査区にはほとんど傾斜は認められない。

検出された遺構は、中世の掘立柱建物跡・土坑などである。また、遺構としての性格は明らかでないものの、中世の遺物包含層も検出された。

遺物は全体量としては多くはないが、主体を占めるのは中・近世の陶磁器といえる。

2 掘立柱建物跡

FSB-1（第136図、図版20）

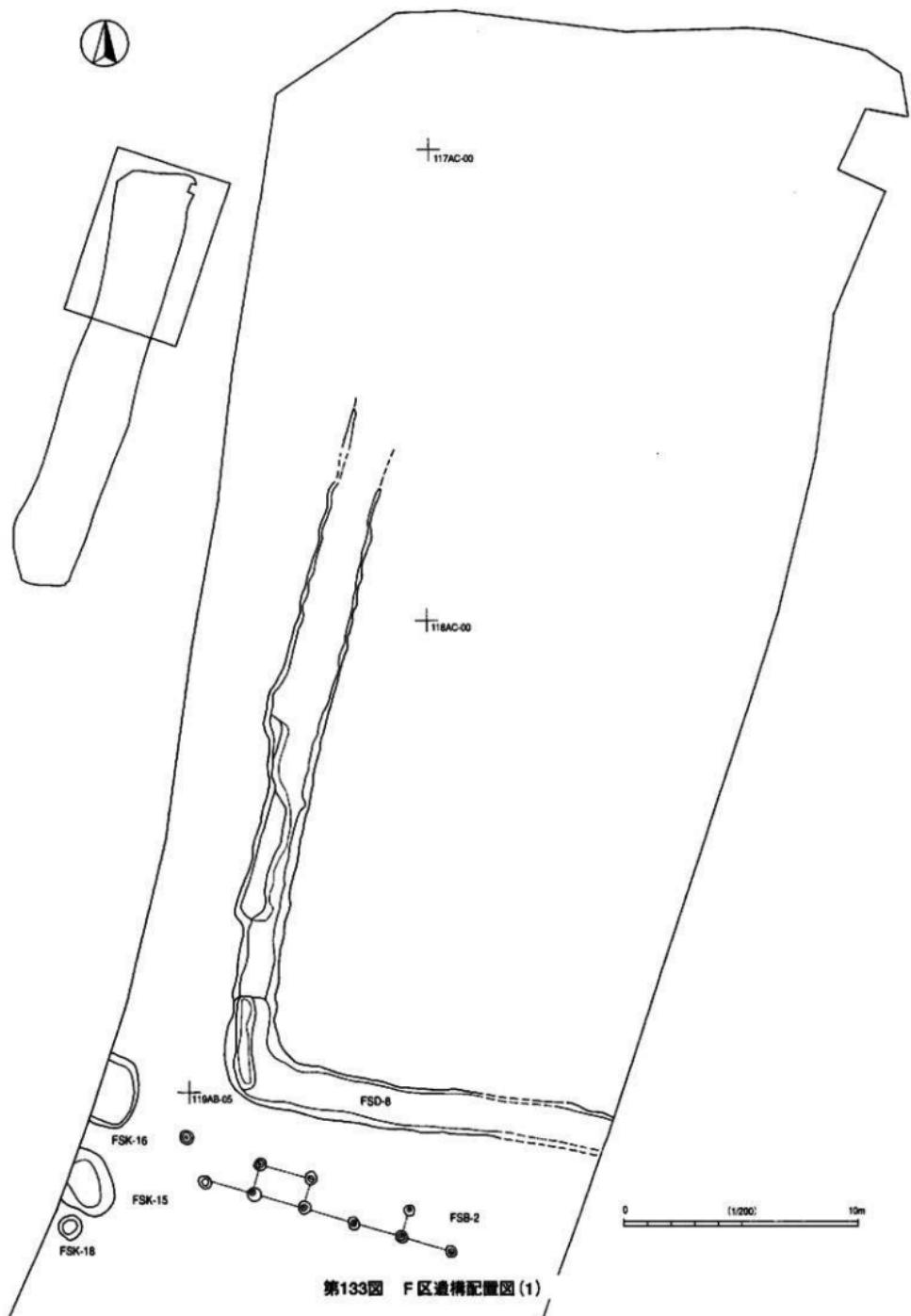
調査区南半部で検出されたピット群のうち、建物と推定したものであるが、桁行・梁間とともに2間分（南北4.6m、東西4.0m）しか確認できなかった。東西方向の柱列を梁間とすると、棟（桁行）方位はN-12°-Eとなり、南北棟の建物に復元できる。柱穴壠形は、径約25cmの円形で、確認面からの深さは10cm程度である。耕作などによりかなり削平を受けていると考えられる。遺物は出土していない。

FSB-2（第136図、図版20）

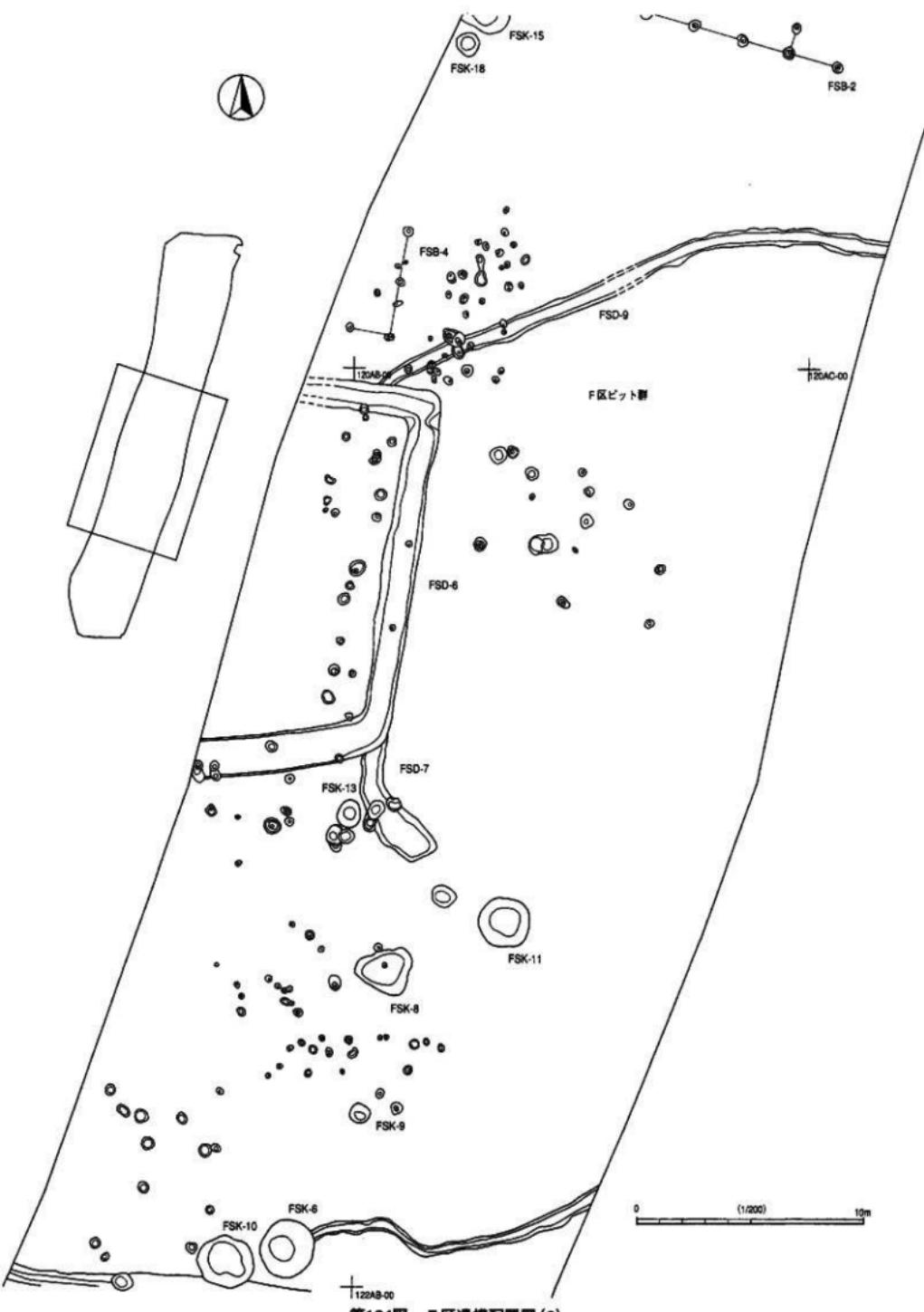
調査区北半部で検出された。7尺等間で6つの柱穴が一列に並んでおり、攪乱により明らかでない部分もあるものの、さらに2尺離れて1列柱穴が並ぶとみられる。建物というより壠のようなものであった可能性が高い。柱穴壠形は、径約50cmの円形で、確認面からの深さは30cm程度である。遺物は出土していない。

FSB-4（第136図、図版20）

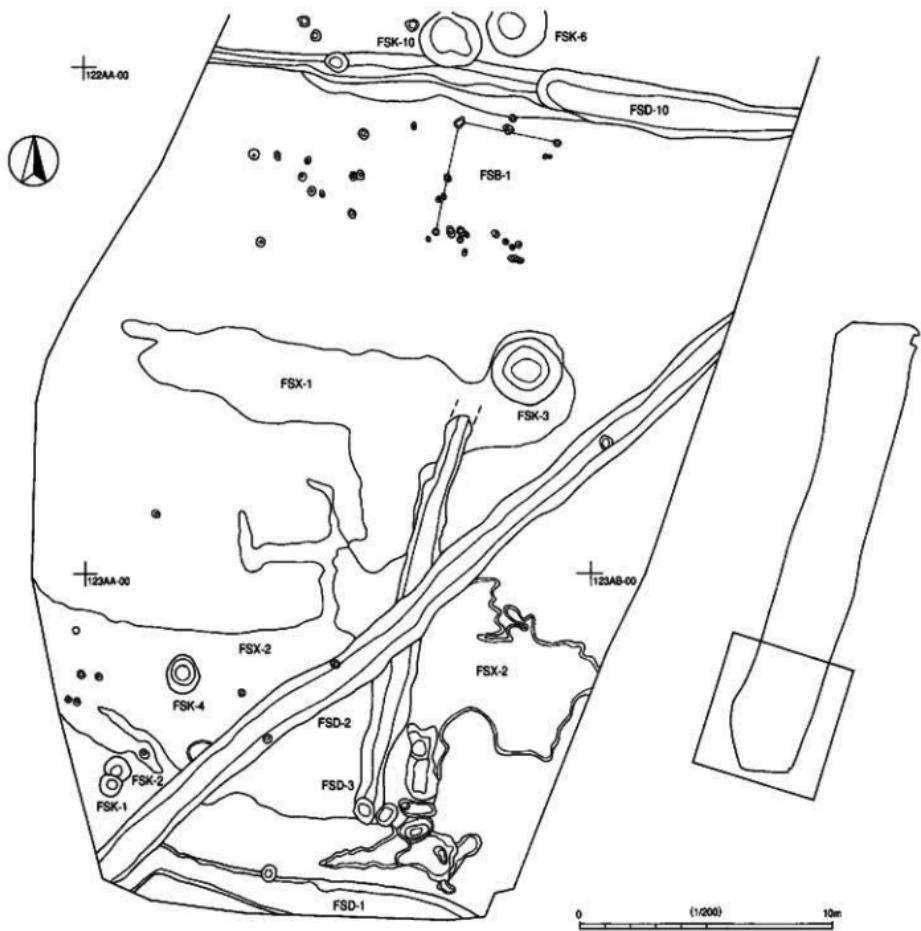
確認調査（EF区11T）で検出された掘立柱建物跡である。東側が本調査区となり、ピット群が検出されたが、建物は西側の調査区外に展開するようである。検出された桁行2間は7尺等間、梁間1間は6尺等間とみられる。棟（桁行）方位はN-8°-Eで、南北棟の建物に復元できる。柱穴壠形は、約40cmの円形で、確認面からの深さは20cmである。耕作などによりかなり削平を受けていると考えられる。覆土は、柱痕跡も確認でき、柱痕跡部分がやや粘性を帯びた黒色砂質土、埋土が地山層の黄白色砂質土を若干含む黒灰色砂質土であった。遺物は出土していない。



第133図 F区構造配置図(1)



第134図 F区遺構配置図(2)

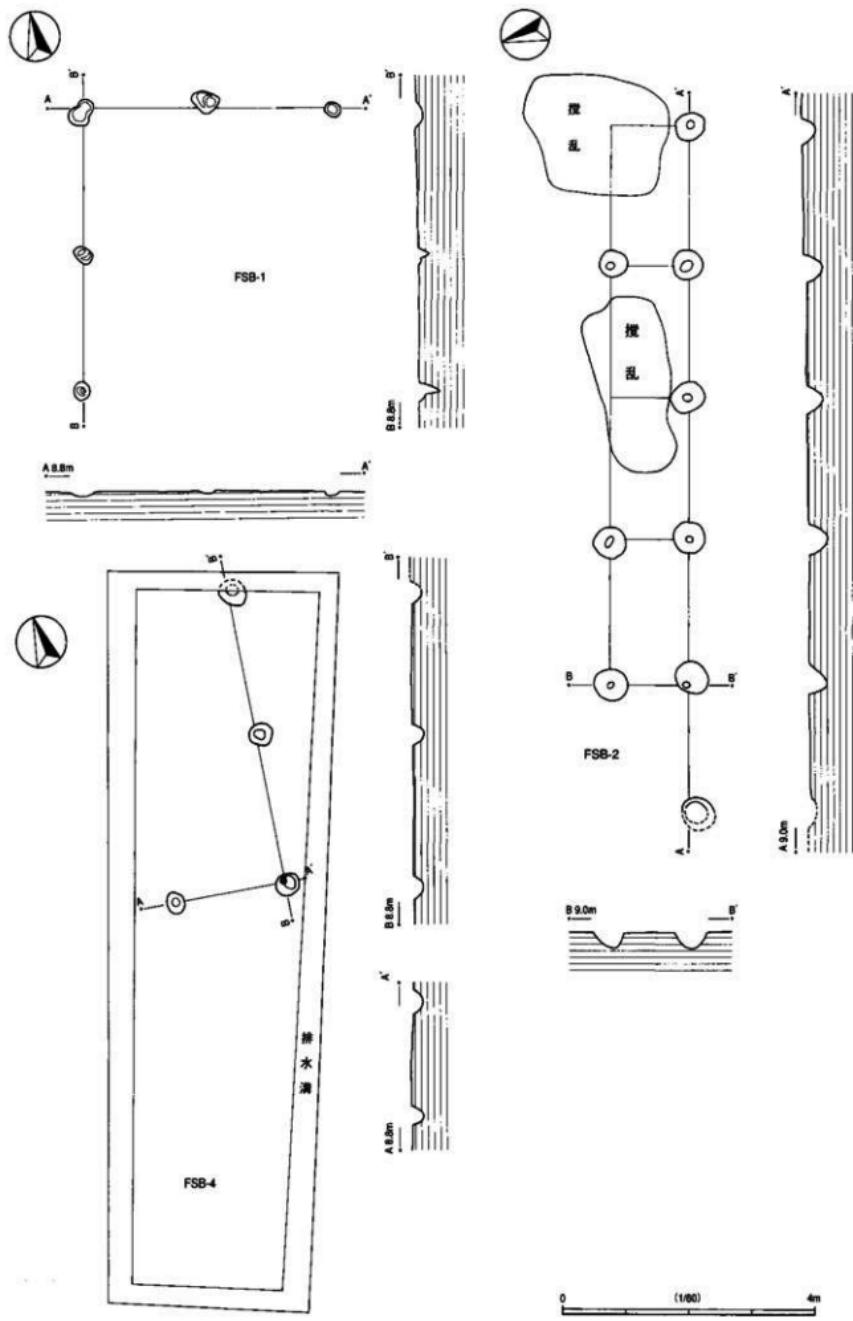


第135図 F区造構配置図(3)

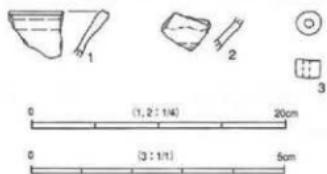
3 溝状遺構

FSD-1 (第135図)

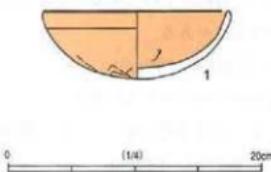
東西方向に軸をとる溝状遺構である。断面形は緩いU字形を呈し、検出面からの深さは30cm~70cm程度である。西端でFSD-2と接するが、断面の観察より、当遺構のほうが新しいとみられる。土師器の小破片が少量出土したが、遺構に伴うとは考えにくい。周辺の状況などから中世以降の所産と考えられる。



第136図 FSB-1・FSB-2・FSB-4



第137図 FSD-3 出土遺物



第138図 FSD-8 出土遺物

FSD-2 (第135図)

北東—南西方向に軸をとる溝状遺構である。断面形は緩いU字形を呈し、検出面からの深さは20cm程度である。南端でFSD-1と合流するが、断面の観察より、FSD-1のほうが新しいとみられる。また、中世遺物包含層FSX-1・FSX-2を切って構築されている。中世陶磁器や土師器の小破片が少量出土しており、中世以降の所産と考えられる。

FSD-3 (第135・137図、図版40・51)

南北方向に軸をとる溝状遺構である。北端は削平により明らかでない。断面形は緩いU字形を呈し、検出面からの深さは約25cmである。中世遺物包含層FSX-1・FSX-2を切って構築されており、中世以降の所産と考えられる。

図示した遺物は3点である。1・2は内外面に灰釉の施される片口鉢である。同一個体の可能性がある。3は滑石製の白玉で、混入品と考えられる。

FSD-6 (第134図・図版20)

調査区内でコ字状に検出された溝状遺構である。調査区の西に続くと考えられる。断面形は緩いU字形を呈し、検出面からの深さは25cm~30cm程度である。覆土は、黒色粘質土ブロックを含み、白色粘質土ブロック・白色軽石粒・炭化粒を少量含む暗灰黄色粘質砂を主体とする。南端でFSD-7と切り合うが、断面の観察より、FSD-7のほうが新しいと考えられる。周辺に中世掘立柱建物跡とみられるピット群が存在していることなどから、それらとともに、屋敷地を構成する溝であった可能性が高い。遺物は、中世の陶磁器の小破片などが少量出土している。

FSD-7 (第134図)

FSD-6の南に接して、南北方向に伸びる溝状遺構である。断面形は逆台形で、検出面からの深さは約30cmである。覆土は、白色軽石粒・炭化粒を僅かに含む黒褐色粘質土を主体とする。断面の観察より、FSD-6より新しいと考えられる。FSD-6に関連して、屋敷地を構成する溝であった可能性もある。遺物は出土していない。

FSD-8 (第133・138図、図版20)

調査区の最北で、L字形に検出された溝状遺構である。調査区の東に続くと考えられる。北端は削平され、不明である。断面形は緩いU字形を呈し、検出面からの深さは20cm~40cmである。覆土は橙色泥岩粒・炭化粒を少量含む黒褐色粘質土を主体とする。中世頃と考えられる畦畔に切られる部分が認められることなどから、中世以前の所産と考えられる。

図示した遺物は1点である。1は完形で、口径14.5cm、器高5.5cmである。器面はやや磨耗している。混入品の可能性がある。

FSK-9 (第134図、図版20)

東西方向に輪をとる溝状遺構である。西端はFSK-6に接するが、新旧関係は明らかでない。遺物は出土しておらず、詳細は明らかでないが、検出面等から中世以降の所産と考えられる。

FSK-10 (第135図、図版20)

東西方向に輪をとる溝状遺構である。断面形は緩いJ字形を呈し、検出面からの深さは20cm~45cmである。遺物は出土しておらず、詳細は明らかでないが、検出面等から中世以降の所産と考えられる。

4 土坑

FSK-1・FSK-2 (第139図、図版21)

重複する2つの土坑で、覆土の堆積状況からFSK-2の方が新しいと判断される。FSK-1から中世陶磁器の小破片が少量出土しており、いずれも中世以降の所産と考えられる。

FSK-3 (第140図、図版21)

断面形は擂鉢状を呈する。覆土は下層がオリーブ黒色粘質土、上層が灰色粘土を主体とするもので、いずれも炭化粒を少量含んでいる。重複する中世遺物包含層FSK-2より新しい、中世の井戸と考えられる土坑である。遺物は、クジラの肋骨や指骨、木片などが多く出土した。クジラ肋骨は、推定体長10mを超す大型のマッコウクジラのものとみられ、端部には突起を切断した加工痕がある。これらの遺物は井戸の廃絶に伴うものである可能性がある。

図示した遺物は2点である。1は手捏土器で、50%の遺存度である。混入品かもしれない。2は常滑産の壺で、13世紀の所産と考えられる。

FSK-4 (第141図、図版21)

底面は平坦、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は単一層で、黒褐色粘質土ブロック、黄褐色粘質土ブロック、浅黄色粘質砂ブロックの混土層である。下半はグライ化している。人為的に一気に埋め戻されたと考えられる。重複する中世遺物包含層FSK-2より新しい。遺物は出土していないが、中世以降の所産と考えられる。

FSK-6 (第142図、図版21・48・53・54)

断面形は擂鉢状を呈する。覆土には炭化粒が多く含まれ、中世陶磁器の小破片のほかに、骨製品や木片などが比較的多く出土した。また、モモとみられる種子類も少量出土している。中世の井戸と考えられる土坑で、遺物はその廃絶に伴うものである可能性がある。

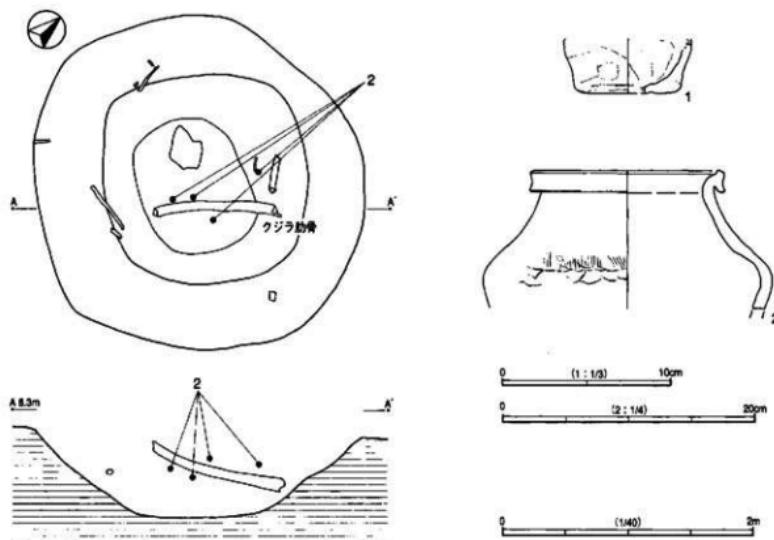
図示した遺物は4点である。1は北宋錢である。2は管状土錐である。3・4は一本釣の釣針と考えられる。3はクジラの肋骨製、4はクジラの歯製とみられ、いずれも長さは8cm程度、幅は1.4cm前後で、断面は円形に整えられている。また、上部には貫通孔が1か所、下端部には鉤部を装着するための穿孔が施されている。

FSK-8 (第143図、図版21)

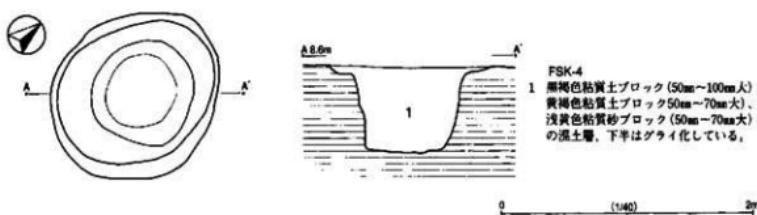
遺物は出土せず、用途等も明らかでない。検出面等より中世以降の所産と考えられる。



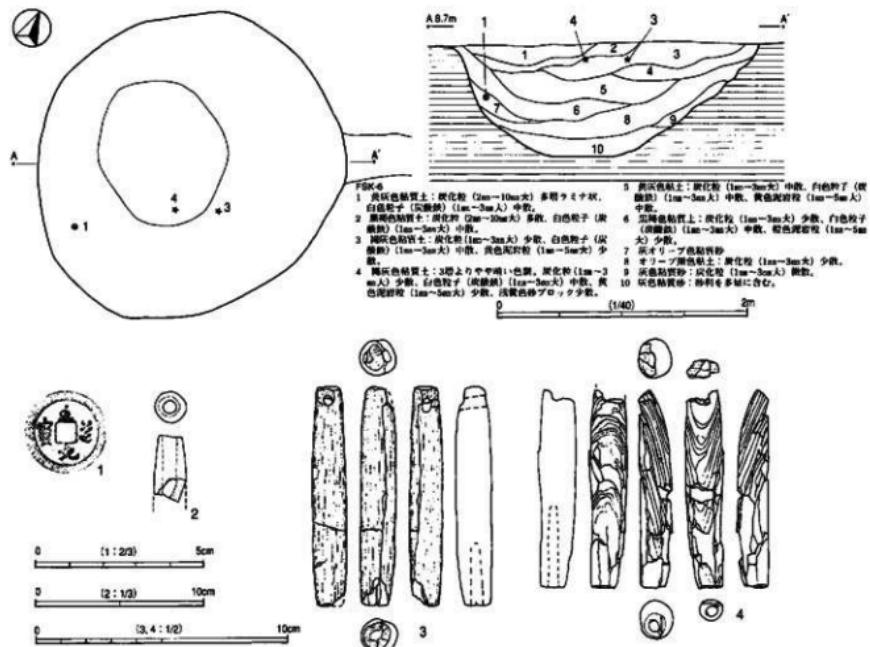
第139図 FSK-1・FSK-2



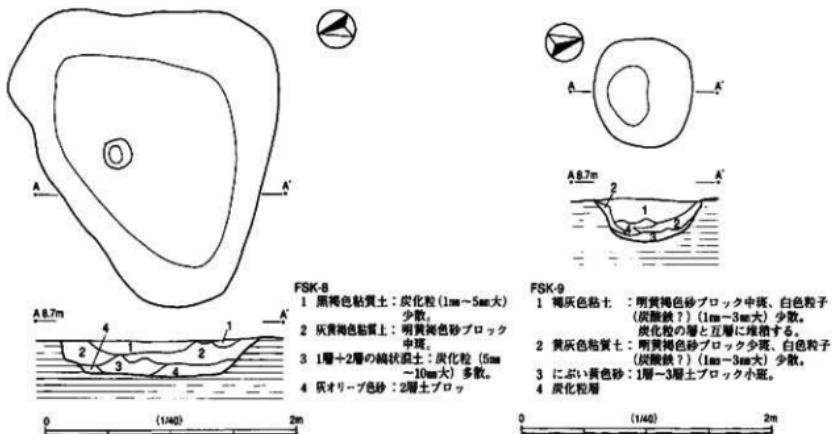
第140図 FSK-3 と出土遺物



第141図 FSK-4

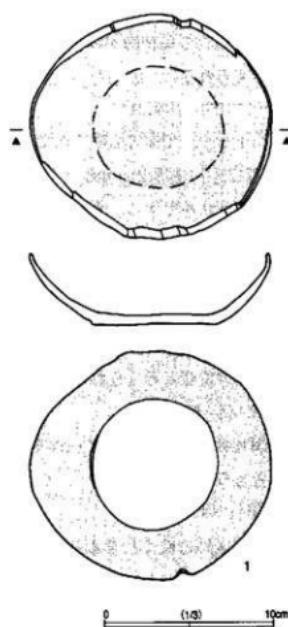
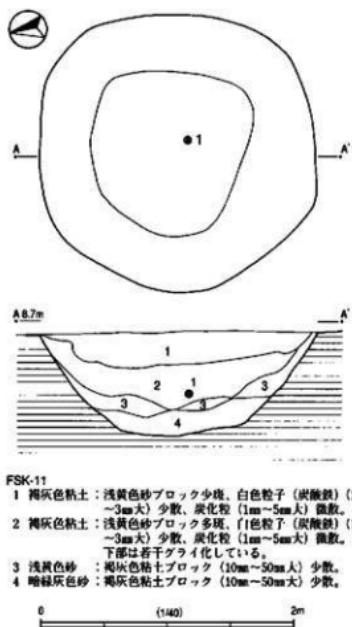


第142図 FSK-6 と出土遺物

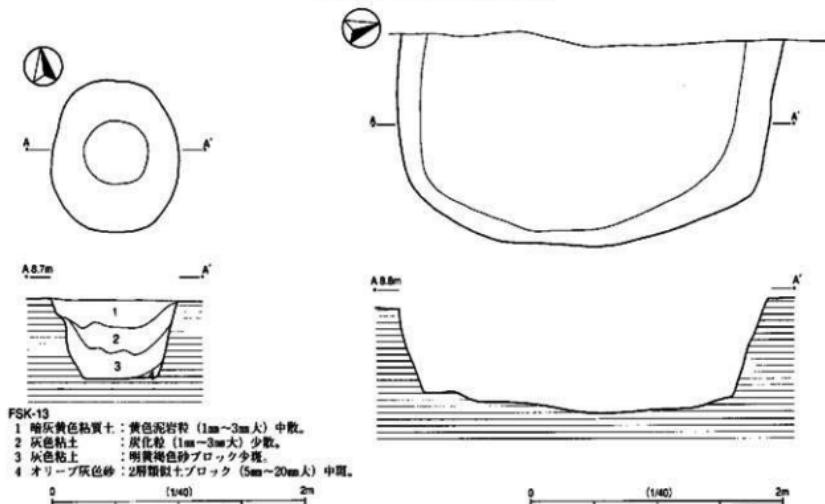


第143図 FSK-8

第144図 FSK-9



第145図 FSK-11 と出土遺物



第146図 FSK-13

第147図 FSK-16

FSK-9 (第144図)

覆土には炭化物の集積層がみられた。遺物は出土せず、用途等も明らかでない。検出面等より中世以降の所産と考えられる。

FSK-10 (第134図、図版21)

遺物は出土せず、用途等も明らかでない。検出面等より中世以降の所産と考えられる。

FSK-11 (第145図・図版21・48)

断面形は擂鉢状を呈する。木片や骨片などが出土している。中世の井戸と考えられる土坑である。

図示した遺物は1点である。1は木柵で、外面底部以外の内外面に黒漆が塗られている。口縁部は欠損する。

FSK-13 (第146図)

底面は平坦で、壁は垂直に近い角度で立ち上がる。遺物は出土せず、用途等も明らかでない。検出面等より中世以降の所産と考えられる。

FSK-15 (第148、図版21)

西側が調査区外に続くと考えられる。遺物は出土せず、用途等も明らかでない。検出面等より中世以降の所産と考えられる。

FSK-16 (第147図)

西側が調査区外に続くと考えられる。底面は平坦で、壁は垂直に近い角度で立ち上がる。遺物は、土師器の小破片が僅かに出土しているが、混入品と考えられる。中世以降の井戸の可能性がある。

FSK-18 (第148図)

遺物は出土せず、用途等も明らかでない。検出面等より中世以降の所産と考えられる。

5 ピット群 (第134・135・149図、図版53)

F区の中央～南半部にかけてピット群を検出した。検出面からの深さは20cm～30cm程度のものが多い。掘立柱建物に復元できるものもあることから、ほとんどは掘立柱建物を構成していたものであると考えられる。ピットから出土した遺物は、中世陶磁器の小破片が多く、中世の屋敷地であったと考えられる。

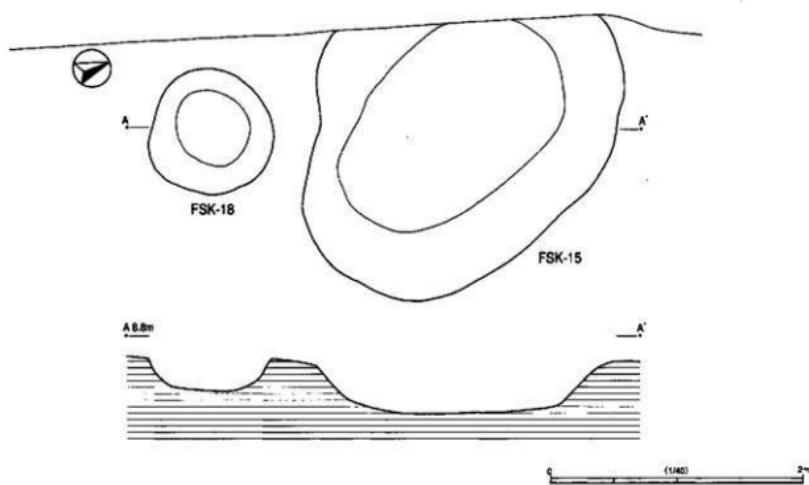
図示した遺物は2点である。1は錦蓮弁文の青磁碗である。2は管状土錘である。

6 中世遺物包含層

FSX-1・FSX-2 (第135・150、巻頭図版3、図版40・53)

調査区の南部で検出した。黒色粘質土を主体とし、褐色粘質砂を斑状に多く含む混土層が堆積する。遺構として明確にプランを捉えることはできなかったが、中近世陶磁器片と、磨耗の激しい土師器小破片を包含する。北側のFSX-1では中世陶磁器片が多く、南側のFSX-2では土師器片が多く出土した。重複する溝状遺構FSD-2・FSD-3、土坑FSK-3・FSK-4いずれより古いとみられる。

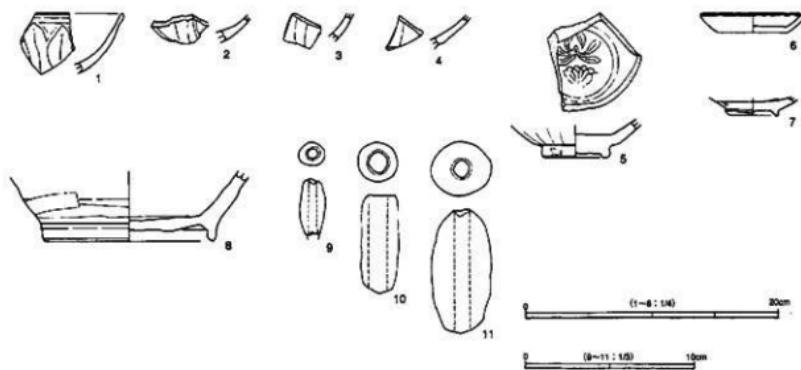
図示した遺物は11点である。1～5は青磁碗である。1～4には錦蓮弁文が施され、5の見込みには牡丹文がみられる。6は覆輪の白磁皿で、完形である。7は山茶碗で、内面には灰釉が施される。重ね焼きの痕跡が3か所確認できる。8は片口鉢と考えられる。9～11は管状土錘である。



第148図 FSK-15・FSK-18



第149図 F区ピット群出土遺物



第150図 FSX-1 出土遺物

7 遺構外出土遺物（第151図、巻頭図版3、図版53）

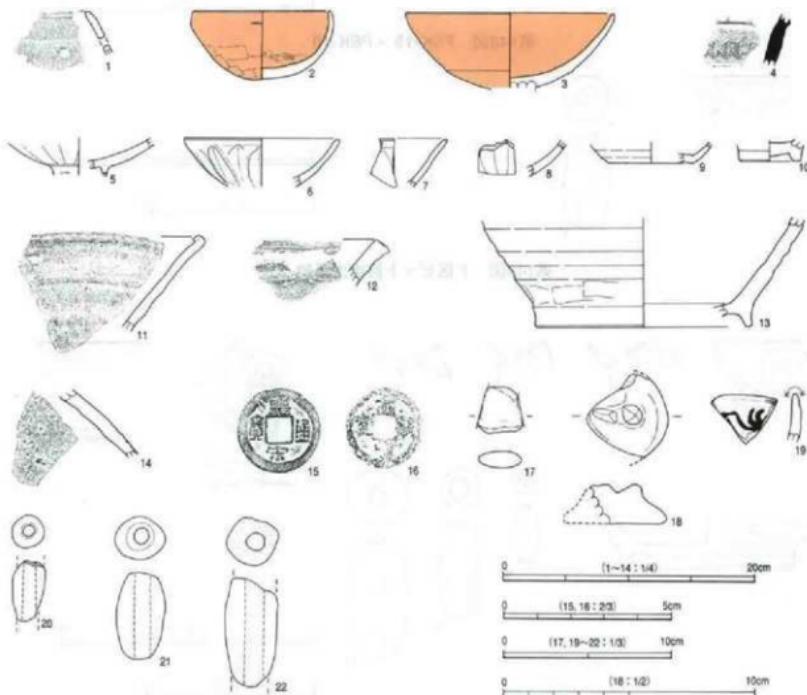
1は白磁で、椀または皿と考えられる。2は青磁の鉢である。3は管状土錘である。



第151図 F区遺構外出土遺物

第9節 確認調査EF区

1 出土遺物（第152図、巻頭図版3、図版30・40・42・49・53・54）



第152図 EF区出土遺物

1は弥生の無頸壺である。口縁部は折返しとみられ、折返し部の下には焼成前穿孔が2か所認められる。器面は磨耗が著しく、調整や赤彩の有無などの観察は困難である。2・3は土師器である。2は器面は磨耗しているが、ほぼ完形である。3は杯部のみほぼ完形である。4は須恵器の甕と考えられ、横波状文が施される。器表面は暗灰色、断面は暗赤褐色を呈する。5～8は鎌蓮弁文の青磁碗である。5は高台がやや赤色を呈し、元代Ⅲ類に比定されるものと考えられる。9は白磁皿である。10は天目茶碗である。内面の釉は褐色を呈する。外面は露胎である。11～13は片口鉢である。13は13世紀の所産と考えられる。14は甕である。15・16は北宋鉢である。17は砾石、18は土製品で、鏡形と考えられる。19は鉄釉志野焼の転用底石である。20～22は管状土錐である。

第10節 金属生産関連遺物（第153図、図版55）

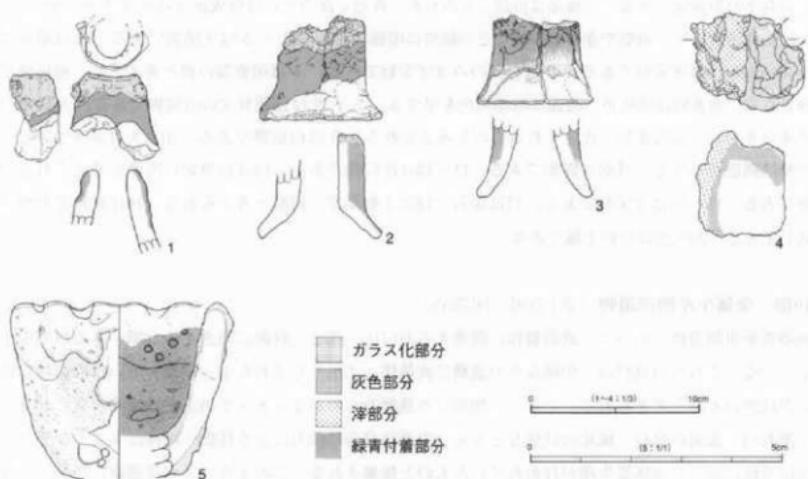
長須賀条里制遺跡において、鉄器製作に関連する羽口片・滓と、鎌銅に関連すると思われる坩堝片が出土している。これらの資料は、炉跡などの遺構に直接伴って出土しておらず、廃棄あるいは廃棄後に流れ込んだ状態のものと考えられる。しかし、類似した様態のものがまとまって出土する傾向が見られることや、割れ口・表面の磨耗・風化の状態などから、廃棄後の自然営力による移動・攪拌は大きくなく、出土地点の近傍において金属器生産が行われていたものと推測される。このように、直接遺構に伴っていないものの、羽口・滓が数量的にもそろっており、本遺跡における金属器生産のあり方を良く示す資料であると考えられることから、ここに資料提示を行うこととする。なお、資料提示に当たり、羽口は全体像や使用状況が判別できるものを図化し、滓は炉の形態や操業状況が想定できるものを写真で提示した。また、羽口・滓については、その出土数量を表示している（第3表）。

羽口：溶解・ガラス化した先端部片と基部片、その間の還元から酸化する遷移帶の中間部片が出土する。形態的には、基本的に「ハ」字状に開く専用羽口（第153図1～3）と考えられ、それ以外には、白灰色泥岩製と思われる羽口（第153図4）がC区において出土している。

滓：45点・約942gが出土しているが、ほぼ共通した様相を見せている。あえて分類するならば、部分的に縁がかった灰白色を呈し、細かい気孔に覆われた軽い粘土質・ガラス質滓（図版55上）と、黒灰色で、破口に光沢のある結晶が見られる、重量感のある緻密質滓（図版55下）の2種類が認められるが、前者が主体を占める。これらは、下面に砂・礫が付着する緩やかな湧曲面を持つことから、羽口先端部で生成された、椀形滓と判断される。なお、この2種類の滓の違いについては、粘土質・ガラス質滓にも部分的に緻密質化しているものが認められることから、操業技術・内容というよりも、操業頻度（時間）の差異が反映されているものと思われる。

坩堝：A区において、約1/2未満の破片2点が出土しており、接合しないが、形態・サイズや器面の状態などから、径約4.4cm・高さ3.4cmの半球形をなす同一個体と考えられる。内外面は、光沢を持つやや縁がかった暗灰色を呈し、ガラス化している。内面には、滓と思われる暗灰色の径約1mmの粒状物が付着し、周辺が明青緑をなしていることから、鎌銅に関わるもの可能性がある。

以上から、羽口は古墳時代中期後半～後期に見られる専用羽口の初期形態の特徴を持っており、滓は小振りな軽い粘土質の椀形滓を主体とし、セットで出土する傾向が認められた。これらの資料は、本遺跡における古墳時代後半の鉄器生産の操業内容をうぶつさせる資料であり、鎌銅を伴う複合的な金属生産が行われていたと推測される。



第153図 金属生産関連遺物

第3表 長須賀条里制遺跡 金属生産関連遺物出土数量表

出土 地区	出土遺構	時 期	羽口先端部 羽口中間部 羽口基部						粘土質津 緑質津	備 考
			点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)		
A区	畠状遺構	中世								ガラス化壁片？1点
A区	31P							1 9.5		
A区	33P								1 23.6	
B区	27Q						1	16.6		
C区	2次		2	255.3			1	44.2	石製羽口(第153図-4)	
C区	CSK-22	中世	1	101.1						石製羽口(第153図-4)
CD区	2T						2	40.6	1 40.5	
D区	DSD-1	弥生中期～古墳中期	1	18.4						
E区	ESD-1	古墳前期～中期	45	571.4	25	383.1	19	362.9	29 231.2	3 209.1
E区	ESD-7	弥生中期～古墳					1	26.9		
E区	ESK-10	古墳中期	1	4.3	5	24.3				
E区	ESK-11	古墳中期	2	60.9				1 24.4	内面ガラス化土器片1点	
E区	ESK-13	古墳中期							1 18.1	
E区	2Z-33		2	30.2						
E区	1AA						3	24.1		
EF区	1T		2	48.1						
F区	FSK-6	中世							1 51.9	
合計			56	1089.7	30	407.4	20	389.8	38 390.6	7 551.2

注1 渡辺修一 2002 「石製農具—特に石庖丁状石器について—」『研究紀要』第23号 P120～121 財團法人千葉県文化財センター

第4表 長須賀条里制遺跡 掘載石器一覧表

種別番号	出土地区	遺構名	種別	長	幅	厚	重量	石材	備考
				(mm)	(mm)	(mm)	(g)		
第105336	A区	32P	火打石	20.0	24.5	19.5	7.2	メノウ	
第105337	A区	33P	火打石	29.5	18.5	11.4	4.9	黒曜石	
第105338	A区	32P	火打石	38.5	27.5	20.3	19.7	黒曜石	
第105339	A区	31P	火打石	46.5	39.0	20.5	40.2	黒曜石	
第105340	A区	33P	火打石	35.8	19.2	13.0	7.9	黒曜石	
第145331	B区	28Q	火打石	27.0	27.5	15.3	14.9	メノウ	
第165364	AB区	2T	砾石	74.5	35.5	11.5	47.0	凝灰岩	
第165365	AB区	9T	砾石	68.5	36.0	22.0	70.1	凝灰岩	
第165366	AB区	2T	火打石	16.5	15.5	10.2	26.6	黒曜石	
第165367	AB区	2T	火打石	15.0	16.5	12.0	3.7	メノウ	
第165368	AB区	2T	火打石	16.5	20.5	9.2	3.3	メノウ	
第165369	AB区	2T	火打石	12.5	19.5	9.5	3.2	メノウ	
第165370	AB区	2T	火打石	17.0	19.5	19.0	7.0	メノウ	
第165371	AB区	3T	火打石	33.5	26.5	20.0	24.6	メノウ	
第165372	AB区	2T	火打石	39.5	21.5	20.0	20.6	メノウ	
第165373	AB区	2T	火打石	48.5	27.0	24.5	30.2	メノウ	
第165374	AB区	2T	火打石	33.5	5.1	2.3	30.9	黒曜石	
第22W413	C区	CSD-1	石底丁状石器	(96.5)	46.0	19.0	(95.1)	砂岩	
第22W414	C区	CSD-1	微細剝離痕のある剝片	23.4	19.8	8.1	32.3	黒曜石	
第22W415	C区	CSD-1	微細剝離痕のある剝片	21.3	27.0	6.4	2.7	黒曜石	
第22W416	C区	CSD-1	剝片	25.9	16.0	4.4	1.3	黒曜石	
第22W417	C区	CSD-1	微細剝離痕のある剝片	22.0	14.8	4.0	1.2	黒曜石	
第22W418	C区	CSD-1	火打石	16.0	17.5	9.3	2.3	黒曜石	
第31W411	C区	CSD-5	石錐	27.7	(20.1)	5.0	(2.5)	黒曜石	
第49W4	C区	ピット群(P222)	砾石	22.5	18.0	5.5	2.2	凝灰岩	
第49W5	C区	ピット群(P49)	砾石	52.0	42.5	10.8	14.9	泥岩	
第50W16	C区	-柄	剝片	30.3	16.4	7.1	19.8	泥質岩	
第50W17	C区	-柄	砾石	39.0	22.5	21.5	26.1	凝灰岩	
第50W18	C区	GX	砾石	34.5	29.0	11.8	14.6	泥岩	
第50W19	C区	GX	砾石	61.0	30.0	16.1	30.9	泥岩	
第50W20	C区	-柄	砾石	85.0	33.5	13.5	41.1	軽質岩	
第50W21	C区	GX	砾石	145.0	68.5	45.0	446.2	泥岩	
第50W22	C区	-柄	火打石	18.5	23.0	11.8	5.4	メノウ	
第62W185	D区	DSD-1	扁平片刃石斧	58.0	32.7	17.5	64.3	凹縫岩	
第62W186	D区	DSD-1	右扁丁状石器	(52.0)	33.5	12.5	(23.9)	砂岩	
第62W187	D区	DSD-1	片刃石斧?	(45.0)	(37.5)	14.0	(22.2)	砂岩	
第62W188	D区	DSD-1	砾石	30.7	21.3	10.3	7.3	凝灰岩	
第62W189	D区	DSD-1	砾石	41.0	24.0	10.0	16.3	凝灰岩	
第62W190	D区	DSD-1	砾石	66.5	25.0	13.5	28.6	流紋岩	
第62W191	D区	DSD-1	砾石	123.5	62.0	46.5	581.8	砂岩	
第62W192	D区	DSD-1	砾石	133.0	75.5	55.0	754.6	凝灰岩	
第62W193	D区	DSD-1	砾石	98.0	93.5	63.0	354.4	流紋岩	
第62W194	D区	DSD-1	砾石	137.5	129.0	45.0	424.1	流紋岩	
第69W411	D区	-柄	磨石	131.0	108.0	62.5	1234.3	砂岩	
第69W412	D区	-柄	砾石	40.5	53.0	19.6	64.0	砂岩	
第71W434	CD区	2次ZT	石斧	(74.0)	62.5	22.5	(154.2)	閃緑岩	
第71W435	CD区	-柄	砾石	114.0	56.5	36.5	322.1	流紋岩	
第71W436	CD区	3T	砾石	88.0	32.0	12.5	27.8	凝灰岩	すり切りのための溝あり。(80°くらい)
第71W437	CD区	耕土	砾石	42.0	32.5	10.5	23.3	凝灰岩	
第71W438	CD区	ZT	火打石	25.0	27.5	11.7	62.5	黒曜石	
第71W439	CD区	1T	火打石	38.5	31.5	16.0	24.1	チート	
第71W440	CD区	1T	火打石	30.5	41.5	20.5	34.5	メノウ	
第71W441	CD区	-柄	火打石	37.7	16.0	13.7	7.4	黒曜石	
第91W469	E区	ESD-1	磨心	75.5	66.5	61.5	452.1	安山岩	
第91W470	E区	ESD-1	磨石	70.0	63.0	56.5	210.9	凝灰岩	
第91W5171	E区	ESD-1	磨石	(62.5)	65.5	51.7	(301.1)	砂岩	
第91W5172	E区	ESD-1	砾石	147.0	76.0	26.5	297.2	凝灰岩	
第91W5173	E区	ESD-1	砾石	104.0	92.5	69.0	356.6	流紋岩	
第91W5174	E区	ESD-1	砾石	30.0	26.5	14.5	10.0	凝灰岩	
第100W61	E区	ESD-6	砾石	92.0	88.5	50.0	495.3	閃綠岩	
第104W81	E区	ESK-1	白石	(151.0)	(250.0)	92.0	(4500)	流紋岩	
第114L25	E区	ESK-13	砾石	162.5	142.5	64.0	1291.3	凝灰岩	
第127W369	E区	FSX-1	砾石	(86.0)	43.5	23.5	(11.6)	砂岩	
第127W470	E区	FSX-1	石底丁状石器	(41.0)	(44.6)	13.0	(30.9)	砂岩	磨耗面あり。
第127W471	E区	FSX-1	輕石製品	45.5	35.7	15.0	58.7	軽石	
第131W430	E区	125AA	砾石	42.3	22.5	14.5	22.2	凝灰岩	
第131W431	E区	Y	砾石	60.6	35.5	24.0	48.7	流紋岩	
第131W432	E区	Y	砾石	95.5	37.0	37.0	101.0	凝灰岩	
第131W433	E区	IZ	輕石製品	69.5	55.5	35.0	20.3	軽石	断面V字形の壊れ状態あり、全量の刃部とし表
第131W434	E区	ESD-1	火打石	40.0	30.5	12.9	17.7	黒曜石	
第152W317	E区	-柄	砾石	27.5	27.5	10.4	1.0	砂岩	

第5表 長須賀条里制遺跡 掘載木製品一覧表

標図番号	出土 地区	遺構名	器種・分類	長			幅	厚	樹種	備考
				(cm)	(cm)	(cm)				
第16875	AB区	2T	木簡	(10.1)	1.9	0.6	スギ			「六日山(疾)」の墨書きあり。
第27区17	C区	CSD-2a-2b-3	紙	50.3	16.0	(1.2)				
第63区195	D区	DSD-1	「馬」形木製品	18.7	5.1	1.6	イヌマキ			
第63区196	D区	DSD-1	不明	(22.7)	3.9	1.0				
第63区197	D区	DSD-1	不明	12.9	(6.6)	0.8				曲物底板状
第92区175	E区	FSD-1 (K1-D1)	扉板	118.2	38.1	1.9	スギ			門部分の最大厚9.4cm
第92区176	E区	ESD-1 (K1-D1)	ぼぞらのある板	119.5	17.7	2.3	スギ			
第93区177	E区	ESD-1 (K1-D1)	木桶	143.4	23.5	9.4	スギ			
第94区178	E区	ESD-1 (K1-D1)	木桶蓋板	255.0	27.6	6.4	スギ			
第94区179	E区	ESD-1 (K1-D1)	木桶側板	133.5	12.3	2.1	スギ			
第94区180	E区	ESD-1 (K1-D1)	木桶側板	135.8	9.0	2.1	スギ			
第95区181	E区	ESD-1	扉	57.1	19.0	2.8				
第95区182	E区	ESD-1	曲柄歯未製品	44.2	14.5	3.5	アカガシ			
第96区183	E区	ESD-1	不明	8.0	1.5	1.1				
第127区72	E区	ESX-1	火鉢臼	20.0	2.2	1.5	散孔材(タブノキ)			単脚埋
第127区73	E区	ESX-1	彫文形木製品	3.6	3.5	3.6	イヌマキ			9か所火鉢穴あり。
第127区74	E区	ESX-1	拘子状木製品	25.9	9.6	7.0	イヌマキ			
第127区75	E区	ESX-1	直柄平頭	11.0	6.2	4.4	コナラ属アカガシ混			直柄附起
第127区76	E区	ESX-1	フチ類	11.5	4.8	4.3	ヒノキ			柄部分
第128区77	E区	ESX-1	直柄鉗	29.9	10.5	1.6	アカガシ			
第128区78	E区	ESX-1	曲柄歯未製品	40.5	(11.6)	2.3				
第128区79	E区	ESX-1	皿柄	122.6	3.2	1.7	アカガシ			
第132区39	E区	水田面	舟形木製品	(22.7)	7.8	0.5	スギ			
第132区40	E区	1Y	杭	13.7	4.2	4.4				
第145区1	F区	FSK-11	柵	14.2	13.4	4.2	ケヤキ			黒漆塗り

第6表 長須賀条里制遺跡 掘載土製品一覧表

標図番号	出土 地区	遺構名	種別	長			幅	厚	孔径	重量	備考
				(mm)	(mm)	(mm)					
第11区43	A区	31P	土玉	23.5	23.0	17.0	4.5	4.4			
第11区44	A区	31P	土玉	19.5	17.5	16.0	2.5	12.5			
第11区55	A区	31Q	転用砾石	31.0	32.0	4.5			9.8		転用者
第11区56	A区	33P	転用砾石	41.5	43.5	9.5			22.8		天日高台
第11区57	A区	32P	転用砾石	54.5	39.5	11.5			37.4		氣泡器
第11区58	A区	31P	転用砾石	36.5	37.5	9.5			18.0		灰釉陶器
第11区59	A区	31Q	転用砾石	56.0	52.0	22.0			54.4		罐外底部
第11区60	A区	一柄	転用砾石	52.0	53.0	12.5			39.8		常滑窯
第11区61	A区	31F	転用砾石	41.0	42.0	10.5			25.4		常滑窯
第11区62	A区	32P	転用砾石	57.0	47.5	11.0			36.4		常滑窯
第11区63	A区	31P	転用砾石	47.5	40.5	15.0			29.0		常滑窯
第11区64	A区	33P	転用砾石	52.0	31.5	12.5			25.2		常滑窯
第11区65	A区	31Q	転用砾石	48.5	54.0	10.5			40.8		常滑窯
第11区66	A区	一柄	転用砾石	46.0	5.3	13.0			45.6		常滑窯
第11区67	A区	32P	転用砾石	4.9	53.0	11.5			41.0		常滑窯
第11区68	A区	31P	転用砾石	47.0	36.5	13.5			35.6		常滑窯
第11区69	A区	33P	泥面子	28.0	15.0	9.0			2.1		
第11区70	A区	32O	泥面子	15.0	15.0	5.5			9.4		
第11区71	A区	33Q	泥面子	14.5	14.0	7.5			8.6		
第14区36	B区	28Q	転用砾石	43.0	43.5	11.5			18.6		天日高台
第14区37	B区	27R	転用砾石	27.5	38.5	12.0			15.0		常滑窯
第17区81	AB区	9T	紡錘草形	40.0	40.0	17.0			23.9		
第17区82	AB区	2T	勾形彌	(32.0)	13.5	17.5			(6.4)		
第17区83	AB区	3T	土玉	19.5	19.0	(12.0)	2.5	(3.6)			
第17区95	AB区	-柄	転用砾石	39.5	29.5	6.0			7.5		土師器裏
第17区96	AB区	10T	転用砾石	28.5	42.5	5.5			10.4		鉄輪
第17区97	AB区	9T	転用砾石	45.5	78.5	12.5			64.2		灰釉三足盤
第17区98	AB区	5T	転用砾石	40.0	40.0	11.5			15.4		罐外
第17区99	AB区	2T	転用砾石	101.5	38.5	15.5			81.6		常滑窯
第27区22	C区	CSD-2a-2b-3	土玉	14.0	14.0	13.5	1.5	2.5			
第27区23	C区	CSD-2a-2b-3	土玉	18.5	20.0	20.0	2.5	6.4			
第27区24	C区	CSD-2a-2b-3	土玉	20.0	19.0	2.0	2.0	5.7			
第27区25	C区	CSD-2a-2b-3	土玉	21.0	20.0	18.0	3.0	6.4			
第27区26	C区	CSD-2a-2b-3	土玉	20.0	21.0	22.0	3.0	6.3			
第27区27	C区	CSD-2a-2b-3	土玉	22.0	22.0	2.4	2.0	9.1			
第27区28	C区	CSD-2a-2b-3	土玉	16.5	16.5	16.0	4.0				貫通孔なし
第27区29	C区	CSD-2a-2b-3	土玉	19.0	18.0	18.0	5.4				貫通孔なし
第27区30	C区	CSD-2a-2b-3	土玉	21.5	21.5	18.0	6.0				貫通孔なし
第27区31	C区	CSD-2a-2b-3	土玉	21.0	21.0	2.0	7.0				貫通孔なし
第27区32	C区	CSD-2a-2b-3	土玉	21.0	21.0	21.0	8.0				貫通孔なし
第27区33	C区	CSD-2a-2b-3	土玉	22.0	22.0	22.0	8.6				貫通孔なし

標識番号	出土 地区	遺構名	種別	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考
第274834	C区	CSD-2a・2b・3	勾玉形	37.0	20.0	15.0	—	8.8	
第274835	C区	CSD-2a・2b・3	劍形	47.5	(45.0)	12.0	—	(20.2)	
第274836	C区	CSD-2a・2b・3	紡錘車形	47.0	45.0	15.0	—	17.0	
第324833	C区	CSD-7	土玉	(17.0)	(9.0)	15.0	—	(2.2)	
第344812	C区	CSD-10	転用紙石	57.0	47.5	12.0	—	41.8	櫛歫
第354815	C区	CSK-1	転用紙石	98.5	96.5	38.5	—	225.6	脚付窓?
第364824	C区	CSK-2	鏡形	(56.0)	—	16.0	—	32.0	
第364835	C区	CSK-2	鏡形	(42.5)	(25.0)	5.5	—	9.0	
第494811	C区	ビット群(122P)	勾玉形	(25.0)	10.0	8.5	—	(3.0)	
第504823	C区	7X	土玉	27.0	27.0	21.0	—	10.4	円錐孔なし
第504825	C区	-柄	転用紙石	40.0	49.5	10.0	—	29.8	
第644824	D区	DSD-1	土玉	15.0	12.0	9.0	1.5	1.6	
第644825	D区	DSD-1	土玉	16.5	12.5	14.0	1.5	3.2	
第644826	D区	DSD-1	土玉	15.0	15.0	13.0	1.5	2.9	
第644827	D区	DSD-1	土玉	16.5	14.0	(8.0)	2.0	(1.8)	
第644828	D区	DSD-1	土玉	17.0	16.0	18.5	2.5	2.7	
第644829	D区	DSD-1	土玉	19.5	16.5	15.5	3.0	4.6	
第6448230	D区	DSD-1	土玉	19.0	17.0	14.0	1.5	5.6	
第6448231	D区	DSD-1	土玉	21.0	16.5	16.0	1.5	4.5	
第6448232	D区	DSD-1	土玉	20.0	19.0	18.0	4.0	(4.2)	
第6448233	D区	DSD-1	土玉	24.0	23.0	27.0	2.0	13.8	
第6448234	D区	DSD-1	管形	15.0	15.0	23.5	—	8.4	
第6448235	D区	DSD-1	勾玉形	(24.0)	(9.0)	(9.0)	—	(2.8)	
第6448236	D区	DSD-1	勾玉形	(2.2)	1.0	9.5	—	(1.8)	
第6448237	D区	DSD-1	把手?	15.0	18.0	12.0	—	(4.0)	
第6448238	D区	DSD-1	環状土製品	27.0	23.0	9.0	10.5	4.2	
第6448239	D区	DSD-1	支撑?	64.5	43.0	43.0	—	159.4	
第694816	D区	DSD-1	転用砾石	39.5	36.5	9.0	—	19.8	常消費
第712847	CD区	4T	土玉	14.0	13.0	15.0	2.5	2.4	
第712848	CD区	1T	土玉	15.0	13.0	15.0	2.5	1.9	
第712849	CD区	1T	土玉	20.5	16.0	17.5	3.0	5.2	
第712850	CD区	5T	土玉	21.0	20.0	20.0	2.5	6.6	
第712851	CD区	5T	土玉	24.5	21.5	19.5	2.5	8.8	
第712852	CD区	2T	勾玉形	37.0	20.0	15.0	—	10.8	
第712861	CD区	1T	圓盤子	17.0	15.0	8.0	—	1.8	
第712862	CD区	1T	転用砾石	63.0	71.5	12.0	—	76.4	常消費
第9748188	E区	ESD-1	土玉	17.5	14.5	15.0	1.5	3.2	
第9748189	E区	ESD-1	土玉	17.0	15.0	15.0	2.0	3.3	
第9748190	E区	ESD-1	鏡形	57.5	(42.5)	14.0	—	(16.6)	
第9748191	E区	ESD-1	把手?	(29.0)	(14.0)	(14.0)	—	(4.8)	
第9748192	E区	ESD-1	把手?	36.0	19.0	17.5	—	11.0	
第9748193	E区	ESD-1	転用砾石?	45.0	51.5	9.0	—	33.8	上師寶
第994801	E区	ESD-2	土玉	19.0	15.5	16.0	1.0	5.4	
第111287	E区	ESK-10	土玉	19.5	17.0	16.0	1.0	4.4	
第1294840	F区	ESX-1	転用砾石?	33.0	35.6	9.0	—	13.0	上師寶
第1294841	E区	ESX-1	転用砾石?	38.0	35.0	10.0	—	134.0	牛生寶
第1294842	E区	ESX-1	転用砾石?	(40.0)	54.0	10.0	—	28.0	土師寶
第1294843	E区	ESX-1	転用砾石?	48.0	48.0	(9.0)	—	18.8	土師寶
第1294844	E区	ESX-1	転用砾石?	57.5	27.0	9.0	—	9.0	土師寶
第1328541	E区	-柄	勾玉形	(49.0)	29.0	16.0	—	(16.7)	
第1328542	E区	124Z	劍形?	(55.0)	29.0	17.0	—	(29.6)	
第1328547	F区	ESD-1	転用砾石	41.0	24.0	7.5	—	12.4	櫛歫
第1528518	E区	15T	鏡形	(32.5)	(31.0)	18.5	—	(9.8)	
第1528519	E区	17T	転用砾石	28.0	20.0	6.0	—	6.2	鉄軸芯野

第7表 長須賀条里制遺跡 掲載石製品一覧表

探査番号	出土 地区	遺構名	種別	長	幅	厚	孔径	重量	石材	備考
				(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(g)		
第23区58	C区	CSD-1	勾玉形?	1.4	2.1			0.2	凝灰岩	
第23区59	C区	CSD-1	鏡形	19.9	17.2	4.5		2.5	滑石	
第23区60	C区	CSD-1	鏡形	(21.6)	25.3	4.7		(4.3)	滑石	
第23区61	C区	CSD-1	鏡形	37.1	(31.1)	3.9		(8.4)	滑石	
第23区62	C区	CSD-1	鏡形	40.3	33.3	5.1		11.9	滑石	
第23区63	C区	CSD-1	鏡形?	(28.9)	(23.1)	3.8		(3.5)	滑石	
第23区64	C区	CSD-1	鏡形?	(21.3)	(16.4)	3.8		(1.8)	滑石	
第23区65	C区	CSD-1	鏡形?	15.5	(11.0)	2.9		(0.9)	滑石	
第23区66	C区	CSD-1	勾玉形?	34.1	21.9	5.8		6.8	滑石	
第23区67	C区	CSD-1	勾玉形?	21.8	15.9	3.9		1.8	滑石	
第27区37	C区	CSD-2a・2b・3	勾玉形?	27.4	18.9	5.2		4.3	滑石	
第27区38	C区	CSD-2a・2b・3	鏡形	25.0	(22.9)	4.8		(4.0)	滑石	
第31区17	C区	CSD-5	管玉	22.7	5.1	5.1	2.3	1.0	滑石	
第31区18	C区	CSD-5	勾玉形?	(32.0)	(22.0)	4.5		(5.6)	滑石	
第31区19	C区	CSD-5	劍形	(27.5)	18.2	5.2		(5.4)	滑石	
第31区20	C区	CSD-5	劍形	(11.0)	23.6	4.6		(2.1)	滑石	
第33区1	C区	CDS-8	勾玉	23.9	13.5	7.8		3.3	メノウ	
第35区16	C区	CSK-1	鏡形	38.5	39.4	5.6		12.2	滑石	
第36区86	C区	CSK-2	劍形	52.3	24.2	4.1		8.2	滑石	
第36区87	C区	CSK-2	幼鍬車	36.1	36.1	10.6	6.8	17.0	滑石	
第49区12	C区	ピット群(P155)	幼鍬車	38.7	38.7	19.2	9.2	47.1	滑石	
第65区240	D区	DSD-1	子持勾玉	75.0	30.0	2.4		105.2	滑石	
第65区247	D区	DSD-1	不明	9.0	10.0	6.5		0.8	凝灰岩	石製品の未製品か?
第65区248	D区	DSD-1	勾玉	17.0	10.5	5.6		1.6	滑石	
第65区249	D区	DSD-1	劍形	36.0	18.0	5.0		5.3	滑石	
第65区250	D区	DSD-1	幼鍬車	51.0	51.0	14.5	1.0	51.5	滑石	
第72区101	C区	4T	勾玉形?	37.0	20.6	8.7		9.1	滑石	
第72区102	C区	1T	幼鍬車	37.5	37.5	11.2	7.8	22.5	滑石	
第97区208	E区	ESD-1	勾玉	22.0	9.0	5.0		2.8	滑石	
第97区209	E区	ESD-1	勾玉	18.3	10.9	4.2		1.0	滑石	
第97区210	E区	ESD-1	鏡形	32.4	34.8	5.0		8.7	滑石	
第97区211	E区	ESD-1	鏡形?	(27.0)	22.0	4.5		(4.7)	滑石	
第97区212	E区	ESD-1	勾玉形?	27.0	13.0	4.0		2.8	滑石	
第97区213	E区	ESD-1	勾玉形?	27.0	13.0	4.0		3.5	滑石	
第97区214	E区	ESD-1	勾玉形?	37.0	17.0	6.0		8.2	滑石	
第97区215	E区	ESD-1	勾玉形?	41.2	29.5	7.7		13.0	滑石	
第97区216	E区	ESD-1	劍形	(26.0)	14.0	5.0		(2.6)	滑石	
第97区217	E区	ESD-1	劍形	(32.8)	(24.0)	5.2		(5.6)	滑石	
第98区55	E区	ESD-1(D4)	管玉	30.0	3.5	3.5		0.6	滑石	
第98区46	E区	ESD-1(K4)	勾玉形?	34.0	16.0	5.0	1.5	5.5	滑石	
第102区4	E区	ESD-7	鏡形	27.4	(24.0)	4.6		(4.0)	滑石	
第129区85	E区	ESX-1	勾玉	27.0	16.0	7.5		4.0	滑石	
第132区51	E区	ZZ	劍形	69.2	29.1	5.1		13.6	滑石	
第132区52	E区	ZZ	劍形	64.4	27.8	3.8		10.5	滑石	
	C区	CSD-1	幼鍬車				15.0	(8.0)	滑石	未実測・非掲載
	C区	CSD-5	幼鍬車				(37.0)	(7.5)	滑石	未実測・非掲載
	C区	CSD-5	鏡形?				(32.0)	6.5	滑石	未実測・非掲載

第8表 長須賀条里制遺跡 小玉類一覧表

探査番号	出土 地区	遺構名	種別	長	幅	厚	重量	材質	備考
				(mm)	(mm)	(mm)			
第23区21	C区	CSD-1	白玉	5.0	1.5	2.5	0.08	滑石	
第23区22	C区	CSD-1	白玉	5.5	1.5	2.5	0.16	滑石	
第23区23	C区	CSD-1	白玉	6.9	2.5	2.8	0.21	滑石	
第23区24	C区	CSD-1	F1玉	6.8	2.1	3.9	0.33	滑石	
第23区25	C区	CSD-1	F1玉	7.0	3.1	2.6	0.22	滑石	
第23区26	C区	CSD-1	F1玉	6.0	2.3	3.6	0.22	滑石	
第23区27	C区	CSD-1	F1玉	5.9	1.7	3.4	0.18	滑石	
第23区28	C区	CSD-1	F1玉	5.0	1.6	3.8	0.16	滑石	
第23区29	C区	CSD-1	F1玉	4.1	1.6	2.3	0.05	滑石	
第23区30	C区	CSD-1	F1玉	7.0	2.5	5.0	0.44	滑石	
第23区31	C区	CSD-1	F1玉	6.5	2.5	4.8	0.40	滑石	
第23区32	C区	CSD-1	白玉	5.1	1.5	3.5	0.18	滑石	
第23区33	C区	CSD-1	白玉	5.8	2.0	3.8	0.20	滑石	
第23区34	C区	CSD-1	白玉	5.0	2.0	4.2	0.17	滑石	
第23区35	C区	CSD-1	白玉	5.5	2.5	3.1	0.17	滑石	
第23区36	C区	CSD-1	F1玉	5.0	2.0	3.2	0.14	滑石	
第23区37	C区	CSD-1	F1玉	4.5	2.1	2.6	0.07	滑石	

標印番号	出土地区	遺構名	種別	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	材質	備考
第230338	C区	CSD-1	F1玉	5.3	2.0	2.7	0.12	滑石	
第230339	C区	CSD-1	白玉	5.6	1.8	4.5	0.25	滑石	
第230340	C区	CSD-1	白玉	5.2	1.8	2.2	0.10	滑石	
第230341	C区	CSD-1	F1玉	5.7	2.1	2.9	0.15	滑石	
第230342	C区	CSD-1	白玉	5.5	1.7	2.2	0.09	滑石	
第230343	C区	CSD-1	F1玉	5.7	1.7	3.2	0.14	滑石	
第230344	C区	CSD-1	白玉	8.0	2.6	5.6	0.51	滑石	
第230345	C区	CSD-1	白玉	4.5	1.7	2.4	0.06	滑石	
第230346	C区	CSD-1	白玉	4.8	2.1	3.1	0.12	滑石	
第230347	C区	CSD-1	F1玉	6.2	2.3	3.7	0.23	滑石	
第230348	C区	CSD-1	白玉	4.9	2.2	3.3	0.11	滑石	
第230349	C区	CSD-1	白玉	4.2	1.8	3.2	0.11	滑石	
第230350	C区	CSD-1	白玉	6.0	2.4	3.6	0.18	滑石	
第230351	C区	CSD-1	白玉	4.7	2.2	3.1	0.09	滑石	
第230352	C区	CSD-1	白玉	4.2	1.8	5.2	0.13	滑石	
第230353	C区	CSD-1	白玉	4.7	2.0	3.2	0.15	滑石	
第230354	C区	CSD-1	小玉	5.7	1.5	5.0	0.20	砂岩?	
第230355	C区	CSD-1	F1玉	(5.0)	(1.8)	2.9	(0.01)	滑石	
第230356	C区	CSD-1	小玉	(7.0)	(2.5)	5.5	(0.23)	ガラス	コバルトブルー
第230357	C区	CSD-1	小玉	3.7	1.5	2.0	0.01	ガラス	コバルトブルー
第31256	C区	CSD-5	白玉	6.2	2.5	2.8	0.17	滑石	
第650241	D区	DSF-1	F1玉	5.0	2.0	2.5	0.11	滑石	
第651422	D区	DSF-1	F1玉	6.0	2.0	5.0	0.38	滑石	
第650243	D区	DSF-1	白玉	6.6	2.5	4.0	0.29	滑石	
第650244	D区	DSF-1	白玉	7.0	2.5	3.2	0.26	滑石	
第651245	D区	DSF-1	白玉	5.4	2.0	4.2	0.19	滑石	
第651246	D区	DSF-1	白玉	4.3	1.2	2.0	0.07	滑石	
第720563	CD区	ZT	白玉	4.6	1.6	2.2	0.07	滑石	
第720564	CD区	2次IT	白玉	5.2	2.3	3.7	0.17	滑石	
第720465	CD区	2次IT	F1玉	4.8	1.9	2.9	0.11	滑石	
第720565	CD区	2次IT	白玉	4.5	1.5	2.1	0.07	滑石	
第720567	CD区	2次IT	白玉	5.8	2.5	2.4	0.14	滑石	
第720568	CD区	2次IT	白玉	6.2	2.3	3.5	0.16	滑石	
第720469	CD区	2次IT	F1玉	4.8	2.2	2.5	0.08	滑石	
第720570	CD区	2次IT	白玉	4.8	2.0	3.1	0.11	滑石	
第720571	CD区	2次IT	白玉	5.7	2.0	4.4	0.22	滑石	
第720572	CD区	2次IT	白玉	4.9	1.9	3.1	0.09	滑石	
第720573	CD区	2次IT	白玉	3.8	1.5	1.9	0.06	滑石	
第720574	CD区	2次IT	白玉	5.1	1.6	4.6	0.20	滑石	
第720575	CD区	2次IT	白玉	5.0	1.7	2.3	0.09	滑石	
第720476	CD区	2次IT	F1玉	5.3	2.0	3.2	0.14	滑石	
第720577	CD区	2次IT	白玉	6.9	2.5	4.0	0.33	滑石	
第720578	CD区	2次IT	白玉	5.5	2.5	3.3	0.14	滑石	
第720479	CD区	2次IT	F1玉	5.4	1.5	3.3	0.18	滑石	
第720580	CD区	2次IT	白玉	5.9	2.8	2.2	0.10	滑石	
第720581	CD区	2次IT	白玉	6.5	2.3	3.5	0.18	滑石	
第720582	CD区	2次IT	白玉	4.3	1.5	2.9	0.08	滑石	
第720583	CD区	2次IT	白玉	4.4	1.5	2.1	0.05	滑石	
第720584	CD区	2次IT	白玉	4.3	1.8	1.5	0.06	滑石	
第720585	CD区	2次IT	白玉	4.2	1.8	3.0	0.06	滑石	
第720586	CD区	2次IT	白玉	4.0	1.5	2.1	0.04	滑石	
第720587	CD区	2次IT	白玉	3.6	1.5	2.1	0.03	滑石	
第720588	CD区	2次IT	F1玉	6.2	2.0	2.3	0.14	滑石	
第720489	CD区	2次IT	F1玉	4.8	1.6	2.2	0.07	滑石	
第720590	CD区	2次IT	白玉	4.6	1.8	2.3	0.08	滑石	
第720591	CD区	2次IT	白玉	5.2	1.6	2.6	0.09	滑石	
第720592	CD区	2次IT	白玉	4.6	2.1	3.6	0.12	滑石	
第720593	CD区	2次IT	白玉	5.0	1.8	3.5	0.11	滑石	
第720594	CD区	2次IT	F1玉	4.9	2.4	4.1	0.15	滑石	
第720595	CD区	2次IT	F1玉	5.1	2.2	3.2	0.16	滑石	
第720596	CD区	2次IT	F1玉	5.4	1.8	2.2	0.08	滑石	
第720597	CD区	2次IT	F1玉	4.8	1.7	2.8	0.09	滑石	
第720598	CD区	2次IT	F1玉	3.8	1.7	2.5	0.06	滑石	
第720599	CD区	2次IT	F1玉	6.0	1.7	4.8	0.26	滑石	
第7204100	CD区	2次IT	白玉	6.9	2.0	3.4	0.24	滑石	
第9758194	E区	ESD-1	白玉	5.0	2.0	3.0	0.11	滑石	
第9758195	E区	ESD-1	F1玉	5.0	2.0	4.0	0.14	滑石	
第9758196	E区	ESD-1	白玉	5.0	1.5	3.5	0.13	滑石	
第9758197	E区	ESD-1	白玉	5.0	1.5	4.5	0.21	滑石	
第9758198	E区	ESD-1	白玉	6.0	1.5	5.5	0.31	滑石	
第9758199	E区	ESD-1	白玉	3.0	1.0	2.5	0.02	滑石	
第9758200	E区	ESD-1	F1玉	6.0	1.5	2.5	0.13	滑石	
第9758201	E区	ESD-1	F1玉	4.5	2.0	2.0	0.11	滑石	

神園番号	出土 地区	遺構名	種別	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	材質	備考
第97E202	E区	ESD-1	白玉	4.5	2.0	2.0	0.09	滑石	
第97E203	E区	ESD-1	白玉	4.5	1.5	3.0	0.12	滑石	
第97E204	E区	ESD-1	白玉	4.0	2.5	1.5	0.11	滑石	
第97E205	E区	ESD-1	白玉	5.0	2.0	3.0	0.13	滑石	
第97E206	E区	ESD-1	白玉	5.5	1.7	4.2	0.19	滑石	
第97E207	E区	ESD-1	白玉	5.1	2.0	3.5	0.13	滑石	
第111E88	E区	ESK-10	白玉	4.8	2.3	2.7	0.09	滑石	
第111E89	E区	ESK-10	白玉	5.1	2.1	2.8	0.11	滑石	
第129E86	E区	ESX-1	白玉	7.0	2.5	5.0	0.40	滑石	
第129E87	E区	ESX-1	白玉	6.5	2.0	5.0	0.30	滑石	
第129E88	E区	ESX-1	F1玉	6.5	2.5	2.5	0.18	滑石	
第129E89	E区	ESX-1	白玉	7.5	3.0	3.0	0.31	滑石	
第129E890	E区	ESX-1	白玉	6.0	2.5	3.0	0.12	滑石	
第129E891	E区	ESX-1	F1玉	5.0	2.0	5.0	0.17	滑石	
第129E892	E区	ESX-1	白玉	6.0	2.0	4.0	0.17	滑石	
第129E893	E区	ESX-1	白玉	6.0	2.0	3.0	0.12	滑石	
第129E894	E区	ESX-1	白玉	5.0	2.0	2.0	0.05	滑石	
第129E895	E区	ESX-1	白玉	5.0	2.0	1.0	0.05	滑石	
第129E896	E区	ESX-1	白玉	5.0	2.0	3.0	0.10	滑石	
第129E897	E区	ESX-1	白玉	5.5	2.0	3.0	0.09	滑石	
第129E898	E区	ESX-1	白玉	4.5	3.0	3.0	0.07	滑石	
第129E899	E区	ESX-1	F1玉	6.0	2.0	3.5	0.15	滑石	
第129E900	E区	ESX-1	白玉	5.0	2.0	3.0	0.12	滑石	
第129E901	E区	ESX-1	白玉	5.0	2.0	2.5	0.07	滑石	
第129E902	E区	ESX-1	白玉	5.0	2.0	3.0	0.15	滑石	
第129E903	E区	ESX-1	白玉	6.0	2.5	3.5	0.12	滑石	
第129E904	E区	ESX-1	F1玉	5.0	2.0	3.0	0.10	滑石	
第129E905	E区	ESX-1	白玉	5.5	2.0	4.5	0.16	滑石	
第129E906	E区	ESX-1	白玉	4.0	1.5	2.5	0.06	滑石	
第129E907	E区	ESX-1	白玉	4.5	1.5	1.5	0.10	滑石	
第129E908	E区	ESX-1	白玉	4.5	1.5	1.5	0.01	滑石	
第129E909	E区	ESX-1	白玉	6.0	2.0	4.5	0.25	滑石	
第129E910	E区	ESX-1	白玉	5.0	1.5	3.0	0.14	滑石	
第129E911	E区	ESX-1	F1玉	4.5	2.0	2.5	0.11	滑石	
第129E912	E区	ESX-1	白玉	5.5	0.1	2.0	0.12	滑石	
第129E913	E区	ESX-1	白玉	6.5	2.5	3.0	0.19	滑石	
第129E914	E区	ESX-1	白玉	4.5	1.5	3.0	0.12	滑石	
第129E915	E区	ESX-1	白玉	5.0	1.5	4.0	0.13	滑石	
第129E916	E区	ESX-1	白玉	5.0	1.5	2.5	0.07	滑石	
第129E917	E区	ESX-1	白玉	5.5	2.0	4.5	0.22	滑石	
第129E918	E区	ESX-1	白玉	5.0	1.5	2.5	0.10	滑石	
第129E919	E区	ESX-1	白玉	6.0	2.0	4.5	0.34	滑石	
第129E920	E区	ESX-1	F1玉	4.5	1.5	4.0	0.14	滑石	
第129E921	E区	ESX-1	白玉	5.0	1.5	3.0	0.10	滑石	
第129E922	E区	ESX-1	白玉	5.5	1.5	3.1	0.13	滑石	
第129E923	E区	ESX-1	白玉	6.0	2.0	3.0	0.18	滑石	
第129E924	E区	ESX-1	F1玉	4.5	2.0	3.5	0.12	滑石	
第129E925	E区	ESX-1	白玉	5.0	1.5	3.0	0.16	滑石	
第129E926	E区	ESX-1	白玉	6.0	1.5	3.0	0.19	滑石	
第129E927	E区	ESX-1	白玉	5.0	2.0	3.0	0.11	滑石	
第129E928	E区	ESX-1	白玉	4.0	1.0	2.0	0.06	滑石	
第129E929	E区	ESX-1	小玉	5.0	1.0	4.0	0.18	砂鑄?	
第129E930	E区	ESX-1	白玉	4.0	1.5	2.5	0.11	滑石	
第129E931	E区	ESX-1	白玉	4.0	1.5	3.5	0.10	滑石	
第129E932	E区	ESX-1	白玉	4.0	2.0	2.5	0.10	滑石	
第129E933	E区	ESX-1	白玉	6.0	2.0	3.0	0.17	滑石	
第129E934	E区	ESX-1	白玉	4.5	1.5	4.5	0.14	滑石	
第129E935	E区	ESX-1	白玉	5.0	1.5	2.5	0.17	滑石	
第129E936	E区	ESX-1	F1玉	4.0	1.5	2.0	0.06	滑石	
第129E937	E区	ESX-1	白玉	3.5	1.0	2.0	0.04	滑石	
第129E938	E区	ESX-1	白玉	6.0	2.0	4.0	0.23	滑石	
第129E939	E区	ESX-1	白玉	5.0	1.5	3.0	0.13	滑石	
第129E940	E区	ESX-1	白玉	5.0	2.0	4.5	0.14	滑石	
第129E941	E区	ESX-1	白玉	5.5	2.0	3.5	0.14	滑石	
第129E942	E区	ESX-1	白玉	6.0	2.0	2.0	0.10	滑石	
第129E943	E区	ESX-1	白玉	5.0	2.0	3.5	0.18	滑石	
第129E944	E区	ESX-1	F1玉	5.5	2.0	2.5	0.13	滑石	
第129E945	E区	ESX-1	白玉	5.0	2.0	2.5	0.10	滑石	
第129E946	E区	ESX-1	白玉	4.0	1.5	3.0	0.09	滑石	
第129E947	E区	ESX-1	白玉	5.0	2.5	2.5	0.10	滑石	
第129E948	E区	ESX-1	白玉	6.0	1.5	4.0	0.13	滑石	
第129E949	E区	ESX-1	白玉	5.0	2.0	3.0	0.11	滑石	
第129E950	E区	ESX-1	白玉	4.5	2.0	3.5	0.14	滑石	

神岡番号	出土地区	遺構名	種別	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	材質	備考
第1298d151	E区	ESX-1	白玉	5.0	2.0	2.0	0.07	滑石	
第1298d152	E区	ESX-1	白玉	5.5	2.0	3.0	0.16	滑石	
第1298d153	E区	ESX-1	白玉	5.5	2.0	3.0	0.18	滑石	
第1298d154	E区	ESX-1	白玉	5.0	1.5	3.5	0.12	滑石	
第1298d155	E区	ESX-1	白玉	4.0	1.5	2.5	0.08	滑石	
第1298d156	E区	ESX-1	白玉	5.0	1.5	2.5	0.08	滑石	
第1298d157	E区	ESX-1	白玉	5.5	1.5	3.0	0.14	滑石	
第1298d158	E区	ESX-1	白玉	4.5	2.0	2.0	0.07	滑石	
第1298d159	E区	ESX-1	白玉	4.5	1.5	1.5	0.03	滑石	
第1298d160	E区	ESX-1	白玉	4.0	2.0	1.5	0.03	滑石	
第1328d48	E区	ZZ	白玉	4.6	2.0	3.5	0.13	滑石	
第1328d49	E区	125Z	白玉	5.0	1.5	4.5	0.14	滑石	
第1328d50	E区	125AA	白玉	5.0	1.5	4.0	0.13	滑石	
第1379d3	F区	FSD-3	白玉	4.5	1.5	3.5	0.11	滑石	
	C区	CSD-1	小玉	4.0		4.0 (0.01)	ガラス ブルー 未実測・非開載		

第9表 長須賀条里制遺跡 掲載金属製品一覧表

神岡番号	出土地区	遺構名	種別	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	材質	備考
第71d42	CD区	2T	火打金	(58.0)	31.0	2.5	(16.8)	鉄	
第97d218	E区	ESD-1	珠文鏡	94.0	94.0	2.0	62.4	銅	つまみ部厚0.75cm

第10表 長須賀条里制遺跡 掲載骨製品一覧表

神岡番号	出土地区	遺構名	種別	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備考
第63d198	D区	DSD-1	小刀	2.2	2.2	0.4	0.4		鋼矢飾りか?
第142d3	F区	SK-6	鉤針	86.5	14.5	14.5	5.0	9.0	クジラ肋骨製
第142d44	F区	SK-6	鉤針	(78.0)	13.0	13.0	4.0	(11.4)	クジラ歯製

第11表 長須賀条里制遺跡 掲載錢貨一覧表

神岡番号	出土地区	遺構名	錢種	形体	外縁外径 (mm)	外縁内径 (mm)	内縁外径 (mm)	内縁内径 (mm)	外縁厚 (mm)	内縁厚 (mm)	目次 (g)	初鑄年		
第10d241	A区	帆状遺構	祥符通寶	真書	22.2	22.5	18.0	17.5	7.2	7.3	6.3	1.0	0.5	2.2 1009 (北宋)
第10d42	A区	帆状遺構	水至通寶	真書	24.5	24.6	20.9	20.9	6.8	6.6	6.0	6.3	1.0	2.8 1408 (明)
第14d27	B区	26R	元豐通寶	篆書	24.3	21.0	21.0	18.5	8.5	8.5	6.5	1.3	1.0	3.2 1078 (北宋)
第14d28	B区	27R	元豐通寶	篆書	23.0	22.5	19.5	19.5	8.0	8.0	6.5	6.5	1.2	2.8 1078 (北宋)
第14d29	B区	27Q	元符通寶	行書	23.0	23.0	18.5	18.5	6.5	7.0	6.0	6.0	1.2	1.0 2.8 1096 (北宋)
第14d30	B区	BSD-2	紹熙元寶	真書	22.6	22.9	19.5	19.6	7.8	7.9	6.2	6.3	1.5	1.5 1190 (南宋)
第16d74	AB区	9T	元豐通寶	篆書	24.7	24.1	18.7	19.1	7.8	8.6	6.5	6.7	1.2	0.8 3.0 1078 (北宋)
第16d77	AB区	7T	元豐通寶	篆書								(1.1)	(0.3)	(1.2) 1078 (北宋)
第16d78	AB区	11T	聖宋元宝	行書	23.6	23.6	18.3	18.3	7.6	7.8	6.4	6.5	1.3	0.5 3.0 1101 (北宋)
第16d79	AB区	9T	政和通寶	分榜	23.8	23.6	20.3	20.4	8.3	8.3	7.4	7.6	1.1	0.6 1.7 1111 (北宋)
第16d80	AB区	3T	永泰通寶	真書	24.8	24.8	20.5	20.5	6.6	6.6	5.8	5.8	1.2	0.6 3.4 1408 (明)
第34d8	C区	CSD-10	半和元寶	篆書	24.3	24.5	18.9	19.1	8.0	8.1	7.1	7.3	1.1	0.8 3.0 1054 (北宋)
第34d9	C区	CSD-10	元祐通寶	篆書	23.9	24.3	16.9	17.8	7.7	7.8	6.3	6.7	0.9	0.6 2.1 1078 (北宋)
第49d6	C区	ビット群 (P197)	皇宋通寶	篆書	22.5	23.4	19.5	20.5	8.5	8.0	6.5	6.5	0.9	0.6 2.0 1038 (北宋)
第49d87	C区	ビット群 (P97)	熙寧元宝	篆書	23.7	23.7	19.4	19.4	8.2	8.4	6.7	5.7	1.3	0.9 3.4 1068 (北宋)
第49d98	C区	ビット群 (P114)	元豐通寶	行書	24.1	24.1	19.4	19.4	8.0	8.0	6.5	6.5	1.3	0.9 3.5 1078 (北宋)
第49d99	C区	ビット群 (P97)	研聖元寶	篆書	24.3	24.5	19.5	19.8	8.2	8.2	6.7	6.8	1.1	0.7 2.7 1094 (北宋)
第49d10	C区	ビット群 (P155)	政和通寶	篆書	24.5	25.0	21.7	21.8	7.4	7.0	6.1	6.1	1.5	0.7 2.2 1111 (北宋)
第69d13	D区	DSD-1	洪武通寶	真書	23.5	23.5	20.5	21.0	8.0	8.0	6.0	6.0	1.3	0.7 3.2 1368 (明)
第71d443	CD区	1T	順治通寶	真書	24.9	25.0	20.7	20.7	8.7	7.8	6.9	6.9	1.2	0.7 3.0 1621 (清)
第71d444	CD区	5T	永泰通寶	真書	24.3	24.6	20.8	20.9	6.7	6.7	6.0	6.0	1.0	0.6 3.1 1408 (明)
第131d35	F区	125AA	皇宋通寶	篆書	24.5	24.9	19.0	20.0	10.5	9.5	7.0	7.5	1.1	0.8 2.4 1038 (北宋)
第131d436	E区	125AA	尤祐通寶	行書	24.7	24.6	22.0	21.0	8.0	8.0	6.0	7.0	1.3	0.7 2.6 1066 (北宋)
第131d437	E区	124AB	聖宋元寶	篆書	24.3	24.3	21.0	20.0	7.5	7.5	6.5	6.5	1.0	0.9 3.2 1101 (北宋)
第131d438	E区	124	永泰通寶	真書	25.1	25.1	19.0	20.0	8.0	7.0	6.0	6.5	1.1	0.7 2.8 1408 (明)
第142d81	F区	SK-6	至道元宝	篆書	26.4	26.8	18.7	18.7	6.8	6.4	5.8	5.8	1.1	0.7 3.3 998 (北宋)
第152d15	EPI区	13T	聖宋元宝	真書	25.2	24.9	19.5	20.0	8.0	9.0	7.0	7.0	1.2	0.7 3.0 1038 (北宋)
第152d16	EPI区	17T	元祐通寶	篆書	24.5	24.0	18.0	19.0	8.5	8.0	7.0	6.5	1.5	1.1 3.4 1066 (北宋)

第12表 長須賀条里制遺跡 掘載土錐一覧表

標図番号	出土地区	遺構名	長	幅	孔径	重量	備考
			(mm)	(mm)	(mm)	(g)	
第11図45	A区	32Q	46.0	10.5	3.0	3.7	
第11図46	A区	31P	47.0	9.5	3.5	4.1	
第11図47	A区	32P	35.0	12.0	4.0	3.4	
第11図48	A区	33P	(36.5)	11.5	3.0	(4.7)	
第11図49	A区	31P	(38.0)	12.0	4.0	(4.1)	
第11図50	A区	31P	(23.0)	10.0	3.0	(1.7)	
第11図51	A区	32P	36.0	22.0	11.0	13.0	
第11図52	A区	鉢状遺構	51.0	19.5	6.5	18.1	
第11図53	A区	32P	52.0	23.0	8.5	18.2	
第11図54	A区	32P	(67.5)	42.0	11.0	(67.3)	
第14図32	B区	27Q	49.0	13.0	4.0	6.4	
第14図33	B区	28Q	(48.0)	13.0	4.0	7.7	
第14図34	B区	26Q	44.0	25.0	8.0	20.5	
第14図35	B区	27Q	46.0	26.0	8.0	24.7	
第17図84	AB区	2T	39.0	11.0	4.0	3.4	
第17図85	AB区	2T	40.0	11.0	3.0	3.9	
第17図86	AB区	2T	39.0	11.0	4.0	3.4	
第17図87	AB区	一括	43.0	10.5	3.5	3.2	
第17図88	AB区	2T	(38.0)	13.0	3.0	(4.4)	
第17図89	AB区	3T	(32.0)	11.0	4.0	(2.6)	
第17図90	AB区	5T	34.0	26.0	9.0	13.5	
第17図91	AB区	2T	(36.0)	12.0	3.0	(4.6)	
第17図92	AB区	3T	40.0	21.0	9.0	18.6	
第17図93	AB区	9T	50.0	25.0	7.0	24.2	
第17図94	AB区	9T	(50.0)	21.0	10.0	(13.0)	
第34図10	C区	CSD-10	(42.0)	18.0	8.0	(11.5)	
第34図11	C区	CSD-10	(57.0)	19.0	9.0	(16.0)	
第47図2	C区	CSK-22	(52.5)	24.0	8.0	(23.2)	
第47図3	C区	CSK-22	55.0	29.0	9.0	30.9	
第50図24	C区	一括	(46.5)	22.0	7.0	(15.3)	
第69図14	D区	DSD-1	(41.0)	20.0	18.0	(11.9)	
第69図15	D区	DSD-1	34.5	8.5	3.5	1.8	
第71図53	CD区	1T	44.0	10.0	3.0	4.0	
第71図54	CD区	3T	49.0	16.5	8.0	10.4	
第71図55	CD区	1T	(32.0)	17.0	7.5	(7.4)	
第71図56	CD区	1T	(34.0)	14.5	5.5	(5.0)	
第71図57	CD区	2T	48.5	22.0	8.7	21.4	
第71図58	CD区	2T	57.0	25.5	10.0	28.0	
第71図59	CD区	2T	(47.0)	(26.0)		(11.8)	
第71図60	CD区	1T	(52.0)	(28.0)		(13.6)	
第104図2	E区	ESK-1	55.0	27.0	9.0	28.7	
第104図3	E区	ESK-1	94.0	38.0	11.5	(104.5)	
第130図1	E区	ピット群	(43.0)	27.0	8.0	(25.9)	
第130図2	E区	ピット群	54.0	27.0	7.0	31.0	
第132図43	E区	125AA	48.0	14.0	5.0	(6.7)	
第132図44	E区	125AA	(55.0)	20.0	8.0	(14.9)	
第132図45	E区	2Z	41.0	25.0	7.0	(20.6)	
第132図46	E区	125Y	49.0	27.0	7.0	(36.2)	
第142図2	F区	FSK-6	(39.0)	20.0	8.0	(8.3)	
第149図2	F区	ピット群 (P30)	57.0	28.0	7.0	30.6	
第150図9	F区	FSX-1	(34.0)	15.0	6.0	(4.8)	
第150図10	F区	FSX-1	57.5	23.0	12.5	23.7	
第150図11	F区	FSX-1	73.0	36.0	10.0	65.5	
第151図3	F区	一括	(60.0)	29.0	10.0	(35.2)	
第152図20	EF区	13T	36.0	19.0	7.0	9.7	
第152図21	EF区	15T	51.0	29.0	9.0	36.2	
第152図22	EF区	13T	(64.0)	30.5	11.0	(42.9)	

第13表 長須賀条里制遺跡 中世陶磁器破片数・重量表

貿易商社		被戸・売過										常 港		備 船		理賃		料品		その他	
直通	白 級	緑	青 級	緑	白 級	緑	青 級	緑	天日系船	鉄物船	その他の	片上	片上	常 港	荷	理賃	料品	その他			
直通	白 級	緑	青 級	緑	白 級	緑	青 級	緑	天日系船	鉄物船	その他の	片上	片上	常 港	荷	理賃	料品	その他			
CSB					1	1						1	15	2					20		
					394	844							197.2	695.6	265.2				1,278.0		
CSB					2		390.1		1	1	風子			2	1				9		
					201.4				11.4	6.6	41.8	45.6		149.6	43.8				502.0		
CSE	1				8	4	7		3	1	風子			62	1	5			95		
	22				155.8	115.8	72.4		16	127.4	22.0	29.2		1280	25.0	331.6			4,085.0		
CSE															1				1		
CSK															174.6				174.6		
CIS					1							1	9						11		
CSL					8.2							71.2	560.0							640.0	
-15	2	1			19	1	3	2	3	6.	2	板子	2	92	1	2			97		
15.2	7.2				159.2	50.2	19.0	39.8	25.0	6.8	72.0	41.6	25.0	147.0	280.0	67.6	54.2		3,683.0		
CIS	4	1			28	1	9	10	1	2	3	3	9	3	3	7	157	2	10	1	
合計	36.2	7.2			278.4	50.2	426.8	102.2	25.8	8.8	15.0	127.4	111.0	125.4	99.8	1,579.1	759.1	95.6	694.8	614.9	12,402.0
DSB					5							7	2	板子	1	21	3		1,339.31	45	
					95.4		41.8					136.2	97.6	87.8	42.2	777.2	91.6		6.0	8.2	1,377.50
6Y					34.2														1		
DIV					5	1	3					7	2	1	1	21	3		46		
合計					86.4	34.2	41.8					136.2	97.6	87.8	42.2	777.2	91.6		6.0	8.2	1,411.20
IT	1	2			18	1			4	3	1	2				34	1		59		
5.2	17.8				113.4		72.4		25.0	17.0		33.6			753.8	76.4				1,208.0	
2T	1	1			1			2	3	4	6				17		1		30		
1.7	4.0				34.2			7.8	11.0	93.6					429.2		126.4		700.0		
3T							30.0	1	4	1					6			451.0			
4T					1		1						6	23				33			
					8.4		32.4						538.4	1,641.2				2,003.0			
5T	1				6.							2	1	9					19		
	25.4				31.2								28.8	25.2	27.0				386.0		
CIN	2	4			25	2	1	1	6	3	11		7	81	1	1	5		150		
	6.4	47.2			230.0	105.6	32.4	11.2	32.0	33.4	160.2		563.6	132.2	75.4	126.4	134.0		4,794.0		
BSU	1	1										2	1	1	13				21		
	4.4	5.0										17.6	12.4	37.8	654.4				760.0		
BSU																		1			
BSU		1													1				165		
	16																	16			
BSU															168.0				168.0		
ESR															1				1		
ESR															31.8				31.8		
ESR															1				2		
															26.8				26.8		
ESR															2				2		
ESR															105.2				105.2		
IAA												1				1			1		
												39.6				39.6			39.6		
1Y															3				3		
															172.8				172.8		
IIZ															2				2		
															96.0				96.0		
IINM															1	1			2		
															15.8	62.6			78.4		
IINM															1				1		
															37.8				37.8		
IINM															6				7		
															250.6				45.6		
IINM	1																		1		
	7.8																		7.8		
IINM															2	1			3		
															183.0	35.6			236.0		
IINM															1	1			2		
															83.6	95.2			178.8		
IINM															5.6	205.6			220.6		
															1				5		
IINM															4				5		
															2				2		
IINM															5.6	205.6			220.6		

部局名	貢 献 領 域			朝 戸 - 美 洲												常 港 港 口			輪 船 港 口			船舶 合計								
	白	船	橋	その他の	灰	船	橋	大日英鉄	鉄	鋼	その他の	片口鉄	盤・型	片口鉄	橋	その他の	片口鉄	橋	その他の	片口鉄	橋	その他の								
PSK	2	3										2	1	5	27					4	56									
合計	114	86										22.8	12.4	360.8	2,323					93.4	2,562.2									
PSD-1															1						1									
PSD-2															238.2							238.2								
PSD-3															2						2									
PSD-4															262						262									
PSK-1															3						3									
PSK-2															1						1									
PSK-3															645.1						645.1									
PSK-4															2						2									
PSK-5															364.0						364.0									
PSK-6	1	5													1	4					11									
PSK-7	55.0	141.4													155.2	380.2					571.8									
PSK-8		1													9						10									
PSK-9		18.0													985.0						1,028.6									
-45			50.1																		1	2								
-46		5.4	62																		42.5	57.2								
PSK	1	1	6	1											5	20					1	33								
合計	85.0	6.4	156.4	8.2											181.4	286.5					42.5	334.5								
1T															3	3					4									
															42.2	41.6					83.8									
4T																					8									
-																					222.6									
ST														1								1								
														45.2							45.2									
ST																					1									
															48.4						48.4									
H.T.																4					4									
															219.8						219.8									
H.T.		1														1					1	3								
		26.6													55.0						126.0									
H.T.															177.2	778.0					355.2									
																1	1				1									
H.T.																34.2					34.2									
															31						3									
H.T.															267.2						267.2									
26T		1														3					4									
		10.6														341.0					351.6									
28T															1	5					6									
															50.0	288.0					370.0									
HAC																	1				1									
																58.6					58.6									
HDK		2													1	31					31									
		37.2													309.4	1,465.2					436.6	1,521.6								
合計	11	3	27	5	1	1	111	1	36	1	18	8	16	1	22	12	2	146	8	32	10	1	39	6	1,089					
全合計	120	13	351	64	17	10	966	50	1,012	64	233	141	79	19	322	264	41	1,929	303	615	3,208	219	25,053	986	665	126	615	279	344	37,890

* 上段は破片数(個)、下段は重量(g)

第14表 長須賀条里制遺跡 非掲載遺物重量表 (単位:g)

調査地区	遺構・グリッド	共生土器	土器検査 高杯類	土器検査 鉢類	須恵器	灰陶器・ 中世陶器	近世 陶磁器	土製品 手理類	土器	瓦	石	合計
A区	ASD-1		110	52		9					2	173
	33O		243	207	287	115	5			42	899	
	32O		250	114	56		129			97	13	659
	30P		240	162	93	41	107					643
	31P		3,471	1,714	486	833	1,643		12	593		8,752
	32P		3,660	2,149	1,197	1,694	2,855			769	62	12,442
	33P		2,315	915	1,001	401	1,285		6	486	43	6,452
	30Q		37	11		6	16			38		108
	31Q		482	327	81	218	167			150	17	1,442
	32Q		264	114	98	75	163			182	113	1,009
	33Q		295	146	222	121	479			127	94	1,484
	一括		2,810	2,040	491	1,151	361		18	371	125	7,367
A区合計		56	14,177	7,951	4,012	4,655	7,219	0	36	2,813	511	41,430
	BSD-2		23	180	23		132	1			59	418
	BSD-3			16								16
	BSD-4				7			1				8
	BSD-5			3	13			5				21
	BSD-6				9					6		15
	BSD-7					9		8				17
B区	BSD-8			19				8				27
	BSD-9				3							3
	26Q		133	54	11	132	17			101		448
	27Q		359	293	66	671				261		1,650
	28Q		304	106	66	99				142		717
	26R		128	66	43	106				16		356
	27R		320	129	163	97	86			68		863
	一括		426	312	182	313				7		1,240
B区合計		23	1,688	1,024	531	1,550	126	0	6	16	638	5,802
	IT		191	42	103		89					425
	ZT		21	1,678	1,724	177	1,068	2,446		134	94	7,342
	ST			231	141		41	1,190			9	1,612
	4T		39	38	23							100
	5T				57		171	325				553
	6T				1,285	158	174	155	39			1,811
	7T				2,567	470	245	485	200			3,979
	8T				65	29			5			99
	9T				14,718	2,145	2,890	2,322	179	47	1,453	23,754
	10T				2,546	382	58	446	84		47	3,563
	11T				2,543	477	118	406		4		3,874
	一括		27	354	100	9	120	27		3	104	744
AB区合計		48	26,274	5,705	3,968	5,368	4,259	0	54	193	1,986	47,856
	CSD-1		63,806	8,189	730	12			316			5,968
	CSD-2a・2b・3		49,585	15,060	2,819	56	7	405			12,649	80,581
	CSD-4		9,894	2,388	227			95			731	13,335
	CSD-5		48,645	9,118	1,237	148	16	468		8	2,641	62,281
	CSD-6		560	195	8					64	7	834
	CSD-7		2,779	485	14	61	4	28			346	3,717
	CSD-8		31		26							57
	CSD-9			3,600	816	283		835			317	5,851
	CSD-10		2,669	319	159	904	23				1,309	5,583
	CSK-1		7,721	802	759	2,779	17				2,981	15,069
	CSK-2		15,444	2,304	194						902	18,844
	CSK-3		144	106	9							259
	CSK-4		1,135	141	73							48
	CSK-5		2,219	823	28			393			4,310	7,773
	CSK-16		82	8							1,086	1,176
	CSK-17		311	31							46	388
	CSK-18		1,509	471	10			31			1,611	3,632
	CSK-19		343	66				74			186	669
	CSK-20		922	425	95	175		39			7,200	8,856
	CSK-22		2,550	744	191	427		16			965	4,893
	Pit群		22,454	3,339	931	2,799	212	21	16		4,478	34,250
C区合計		0	236,623	45,830	7,793	8,196	279	1,886	16	72	47,781	348,476
	DSD-1		12,963	130,306	98,224	6,169	902	207	3,771	5	243	265,683
	DSD-2			4,645							600	5,245
	3Y		676	42	4						158	880
	4Y				180						198	378
	5Y			96							291	387
	6Y			39							19	58
D区合計		12,963	135,762	98,446	6,173	902	207	3,771	5	243	266,949	523,421
	IT		470	13,124	4,754	404	762	384	488	16	3,583	23,985
	ZT		666	31,527	9,130	761	256	201	765	2	50	7,016
	ST			5,055	1,052	420	421	11			1,876	8,835
	4T			5,985	2,309	541	1,479	13	59		189	2,714
	5T			6,746	1,676	299	349				2,722	11,981
	6T			642	278						130	1,056
	2×1T			11,104	2,977	221	171	47	97	54	3,395	18,066
	2×2T			2,589	507	143	290	111		6	18	1,955
CD区合計		1,136	76,772	22,683	2,789	3,728	767	1,409	24	311	23,391	133,010

調査地区	遺構・グリッド	発生上部	土師容器 甕・鉢類	土師容器 甕・高杯類	須恵器	灰陶容器 半手陶器	近世 陶器	土製品 手捏類	上 糞	瓦	石	合計
ESD-1 (D2)	4	524	198	64								790
ESD-1 (D4)		125	235									360
ESD-1 (D1・K1)	63	1,070	95								22	1,250
ESD-1 (K2)		229	331								5	565
ESD-1 (K3)		388	189								899	1,476
ESD-1 (K4)	61	1,785	1,665	293							6,903	10,707
EDS-1 (K5)		129	84								27	240
ESD-1 (K7)		304	132									436
ESD-2	80	757	295									1,132
ESD-5	511	76	47	28			18				300	980
ESD-6	35	233	144	4								436
ESD-7	77	2,600	1,321	9			39				11	4,057
ESD-8	577	8,264	4,568		19		17				122	13,567
ESD-10	40	387	19								7	453
ESK-1			36			166					46,100	46,304
ESK-4			54									54
ESK-10		2,204	1,538								3,900	7,642
ESK-11	72	4,397	3,208	30			9				134	7,850
ESK-12		1,714	166			32	31				9	1,952
ESK-13	244	3,373	1,467	16							5,716	10,816
ESK-14		385	104								441	930
ESK-15		369	20	98	105							592
ESK-16		21		2								23
ESX-1	36,031	4,158	1,757	18			65				1,805	43,824
Pt群-活		114	233								17	364
IAA	3,800	166,098	60,000	174			43				2,171	232,278
12AA	64	239	111	17								431
12AA	12	479	66	62	62							681
12AA			5		38							43
12AA	72	2,400	914	48	119	10	25				312	3,900
IV	373	17,472	5,630	494	220	125	80			35	1,154	25,583
125Y		673	139	135								947
1Z	5,000	6,048	2,000	138	96	6	26				36	13,350
2Z	3,200	52,617	14,000	379							1,913	72,109
123Z				27								27
124Z		1,073	56	93	55						99	1,376
125Z	902	5,700	1,590	58	95	132	45	15			627	9,164
一括	171	1,620	440		270						340	2,841
E 区 合計	51,389	288,091	102,803	2,187	1,279	321	340	15	35	73,070	519,530	
FSD-1		32	68								9	109
FSD-2		38	95			218						351
FSD-3		107	143								7	257
FSD-6		35	26			196						259
FSD-8		23	65	7								95
FSK-1		8			85							93
FSK-3		9									29,200	29,209
FSK-6			30		365						7,100	7,495
FSK-16			29									59
FSX-1		883	350	105	225			12			1,853	3,428
FSX-2		3,700	998	36			9				8	4,751
Pt群-活		29	78	985							2,358	3,450
一括		37	16	56	481	5						595
F 区 合計	0	4,872	1,849	282	2,557	5	9	12	0	40,535	50,121	
1T	687	7,100	3,700	125	41	3	53	3	57	308		12,077
2T		176									966	1,142
4T		1,088	152	35	222						76	1,573
5T		14										14
6T		13									251	264
8T		61	24	48								133
10T		94	25				24					143
11T					220	7						227
12T		9			99							108
13T		606	72	132	18	9	86	65			3,297	4,285
14T	73	223	471								130	897
15T	40	3,793	1,864	94	34	26					2,220	8,071
16T											93	93
17T		213	84		266			4				567
18T		25				3						28
20T		573	10			6					426	1,015
21T		18	69									67
22T			28									28
25T						28						28
26T		32									287	319
28T		283		38	283				25	195		824
115AC					54							54
EF 区 合計	800	14,288	6,483	473	1,285	82	163	72	82	8,249		31,977
合計	66,415	798,747	292,775	28,208	29,520	13,265	7,578	240	3,765	463,110	1,703,623	

第3章 北条条里制遺跡

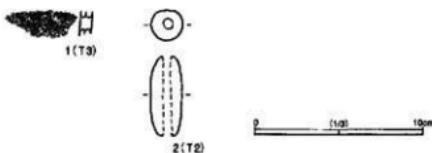
第1節 概要（第5図）

長須賀条里制遺跡F区の北約120mに位置する。T1～T3の計5本のトレンチを入れて調査を行ったが、既に宅地造成のため地山まで削平され、盛土されていることが明らかとなり、遺跡が営まれたと考えられる時期の面は確認できなかった。

なおこの調査区は、発掘調査当時は北条条里制遺跡とされていたが、「千葉県埋蔵文化財分布地図(4) -君津・夷隅・安房地区(改訂版)」(財団法人千葉県文化財センター2000)においては、長須賀条里制遺跡の範囲に括られることとなった。

第2節 出土遺物（第154図、図版54）

出土した遺物は2点のみで、2点とも図示した。いずれも盛土層中から出土したもので、明らかに混入品である。1は土師器である。T3から出土した。磨耗が著しいが、ハケ調整の窓の脛部片と考えられる。2は管状土錐である。T2から出土した。長さは47.0mm、幅は19.0mm、孔径は6.0mm、重量は14.2gである。



第154図 北条条里制造跡出土遺物

第4章 まとめ

長須賀条里制遺跡・北条条里制遺跡は長大な範囲にわたっており、各調査区毎に遺構・遺物の内容がかなり異なる。そのため本文では調査区毎に報告を行ってきたが、ここで改めて、調査区を超えて時代別に遺跡の様相を概観し、まとめとしたい。

第1節 弥生時代以前

長須賀条里制遺跡・北条条里制遺跡の立地する沖積段丘は、地質学的には約2,900年前に隆起したとされる沼面と考えられる¹⁾。当遺跡で今のところ確認できる遺構・遺物は弥生時代中期以降のものであり、土地の隆起後、地形環境の安定化を待って、この土地を利用し始めたことが窺える。

今回の調査の結果、弥生時代に存在していたと考えられる遺構は、DSD-1、ESX-1などである。いずれも古墳時代に至ってからの利用が主ではあるが、水際祭祀を伴う旧河道と考えられる遺構である。ESD-7、ESD-8についても、弥生土器の出土が少量であるためはっきりしたことは言えないが、遺構の方向や遺物の出土状況、上部が削平されている事実等、周辺の状況からESX-1と繋がっていた可能性がある。DSD-1とESX-1は、検出状態で30mほど離れているが、中州を挟んでいたのかもしれない。流路変更とみることもできるが、遺物からはほとんど時間差を窺うことはできない。

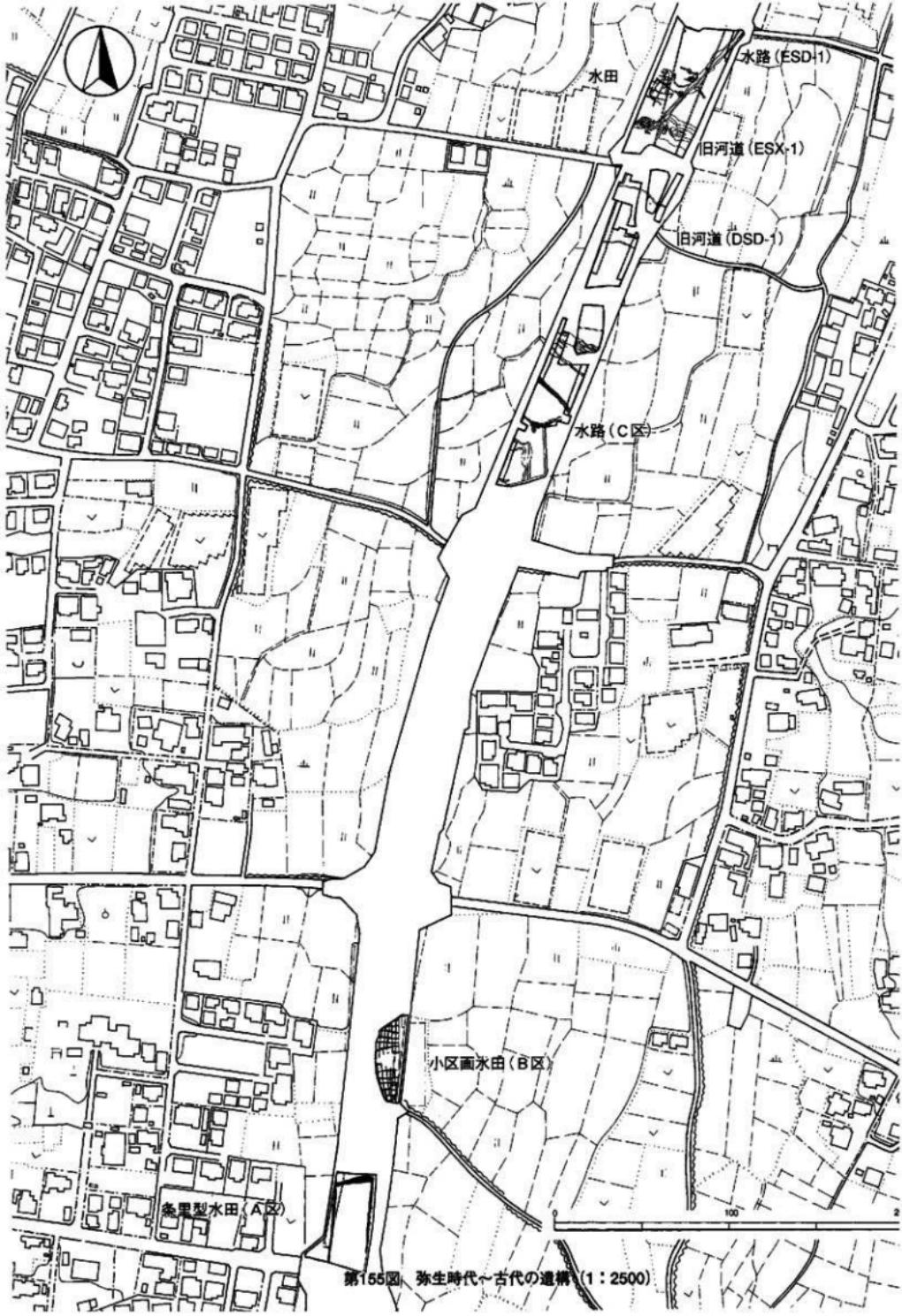
これらの旧河道には堰が築かれており、水路を通して水田に水を引いていたことが考えられるが、当該時期の水路や水田は検出されなかった。ただ、B区の小区画水田について、遺物を伴なわないのが削平のためであると考えれば、形態的な特徴などにより弥生時代の水田とみることは可能である。

ESX-1で出土した土器は、宮ノ台式に比定される壺と甕を中心で、いずれも磨耗が著しい。甕は特に、器面の磨耗にも関わらず、ほとんど例外なく内外面とも黒く焼け、炭化物の付着もみられるのが特徴である。当遺跡では弥生時代の集落域は検出されておらず、遺構周辺で煮炊き等が行われた痕跡も見つかっていない。付近にあると考えられる集落で使用され、ここに投棄されたものと考えられる。その他、再葬墓からも出土するとされる石庖丁状石器²⁾や実用品とは考えられない儀仗形木製品など、祭祀色の濃い遺物も集中して出土している。古墳時代とは異なる祭祀の存在が指摘できよう。

第2節 古墳時代

長須賀条里制遺跡・北条条里制遺跡において、一つの画期となる時代が古墳時代である。水際祭祀を伴う旧河道と水路を中心として、主として生産域として展開するのは弥生時代と同様ながら、遺物量や内容は他の時代に比して圧倒的である。

今回の調査において検出された古墳時代の遺構は、弥生時代の可能性もあるB区の小区画水田を除けば、C区～E区のほぼ300mの範囲に集中している。弥生時代から引き続き存在した旧河道DSD-1、ESX-1を挟んで、南側にはこれらとほぼ同じ軸方向の水路が数条造られ（C区）、北側にはほぼ直交方向の水路ESD-1が旧河道ESX-1に接して伸びている。ESD-1には扉板等を再利用した木樁が設置され、その先には水田が営まれる。集落域は、E区ピット群の中に竪穴住居跡が含まれている可能性もあるが、はっきりとは検出されな



第155図、弥生時代～古代の遺構 (1:2500)

かった。

検出された旧河道、水路は、全て水際祭祀を伴っている。水際祭祀には、大きく分けて主に土器を使用するもの、石製模造品を使用するもの、土製模造品を使用するものの3種類が認められ、分布が若干異なるようである。主に土器を使用しているのがDSD-1北西岸、ESD-1調査区北東側など、石製模造品を使用しているのがCSD-1、CSD-2a・2b・3の調査区東側、CSD-5など、土製模造品を使用しているのがCSD-2a・2b・3の調査区西側、DSD-1北西岸などである。土器については、土師器の杯や高杯が圧倒的多数を占め、旧河道の河岸に集中して置かれていたとみられる。壺も多数を占めるが、大型品は少なく、ほとんどは実用に向かない中型～小型品である。大型品では大甌など東海系のものが目立っている。甌も少なくないが、弥生土器同様、いずれも黒く煤けているのが特徴である。須恵器も出土しているが、いずれも陶邑座とみられ、5世紀半ば～後半に比定されるものである。石製・土製模造品については、それぞれ鏡、勾玉、劍などを象ったもののほか、小玉類も多い。その他、旧河道DSD-1で出土した子持勾玉や、ESD-1で出土した銅鏡などが特筆すべき祭祀遺物として挙げられよう。他にも、自然遺物で、魔よけにも通じるモモの種や劍形を呈するカジキの吻などが出土しており、祭祀に関連するものと考えられる。

土製模造品を用いた祭祀については、長須賀条里制遺跡の南に位置する東出遺跡で古墳時代後期に盛んに行われており、関連が窺われる⁶。

またこの時代、製鉄が行われていたと推定されることも特筆される。初期の陶邑座須恵器や東海系の遺物が入っていることなどと考え合わせ、この地域が畿内や東海地域と深い関わりを持っていた可能性が指摘できる。

第3節 古代以降

奈良・平安時代の遺構と考えられるのは、A区の条里型水田である。半折形の坪内地割りとみられる。遺跡周辺には「京ノ坪」「軽ノ坪」「大坪」といった条里制に由来すると考えられる地名が遺されているが、今回長大な調査区の中で条里型水田が検出されたのはA区だけであった。ただ、平成11年の館山大貫千倉線に伴う調査では条里型水田の南北畦畔とみられる遺構が検出されており⁷、注目されよう。

中世と考えられる遺構は、削平等により詳細が明らかでないものが多いが、主にC区南部とF区に集中する。C区南部付近は、クラムシェルの調査により、岩盤のレベルが高いことが明らかとなっている。より地盤のしっかりした場所を選んで、井戸や区画溝をもつ屋敷地を営なんだものと考えられる。時期的には、F区は13世紀頃を主体とし、C区南部付近は15世紀頃を主体とするようである。そのほか、井戸からクジラ骨が出土したことが特筆される。館山市周辺の海岸では時折クジラが打ち上げられるが、人為的な加工の施されたものが投棄されている。井戸の廃絶の祭祀に関係すると考えられる。

注1 財団法人千葉県史料研究財團編 1997 「千葉県の自然誌 本編2 千葉県の大地」

2 渡辺修一 2002 「石製農具特に石磨丁状石器についてー」『研究紀要』第23号 P121 財団法人千葉県文化財センター

3 城田義友・吉野健一 1998 「安房の古墳時代祭祀」『研究速報誌』第53号 財団法人千葉県文化財センター

4 財団法人千葉県文化財センター編 2000 「千葉県文化財センター年報」No.25

付 章

長須賀条里制遺跡の稲作について

パリノ・サーヴェイ株式会社考古学研究室

1 はじめに

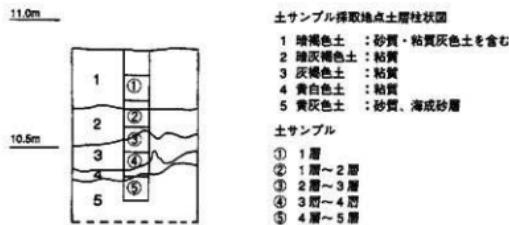
長須賀条里制（館山市長須賀所在）は、隆起海岸平野の北東縁辺に立地する。この隆起海岸平野は、標高によって平野面が分けられ、砂がちの堆積物と泥がちの堆積物が南北方向に列状に並ぶ¹⁾。遺跡範囲内には、現地表上に南北方向を主軸とする地割りが認められる。

発掘調査の結果、土層断面に弥生～中世および近世の水田層の存在が示唆された。そこで、これらの層での稲作の有無を明らかにする目的で植物珪酸体分析を実施した。

2 試料

試料は、調査区土層断面より採取された（27R-00）。土層断面には、砂がちの堆積層が認められ、層相などから1層～5層に区分されている。このうち、5層は縄文時代の海成砂層、4層は弥生時代～中世の水田層、3・2層は近世の水田層、1層は現代の水田層である。5層と4層、4層と3層の層界は波状に乱れている。

これらの層から、層厚10cmの連続試料が採取された。これを室内で観察し、1層～5層より各層1点ずつ、合計5点の分析結果を採取した。



第156図 土サンプル採取地点土層柱状図

3 分析方法

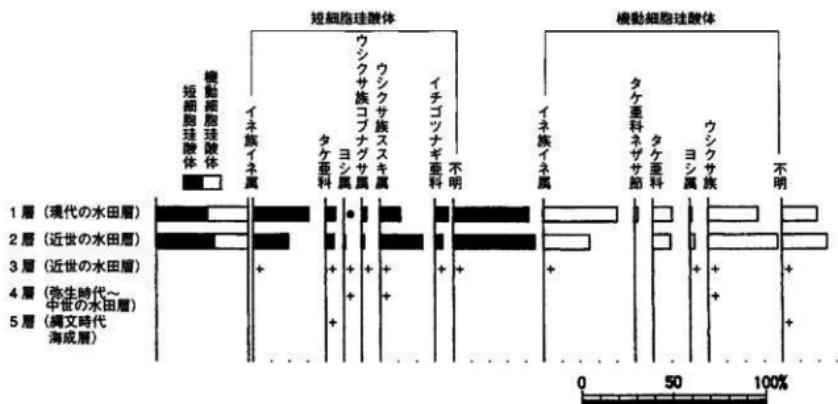
湿重5g前後の試料について、過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理、沈定法、重液分離法の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥する。乾燥後、ブリュウラックで封入しプレパラートを作成する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の単細胞珪酸体および複数細胞珪酸体を近藤・佐瀬（1986）²⁾の分類に基づいて同定・計数する。

4 植物珪酸体の産状

結果を第15表、各層の植物珪酸体組成を第157図に示す。植物珪酸体は3・4・5層では検出個数が少なく、保存状態も悪い。1・2層では、良好に検出される。4・5層では、タケ亜科やヨシ属、ウシクサ族が稀に認められるに過ぎない。3層は、下位の4・5層よりも種類数が多くなり、栽培植物のイネ属、タケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族などが認められる。2層では、イネ属やウシクサ族の割合が高く、タケ亜科、ヨシ属、イチゴツナギ亜科などがこれに統く。1層も2層と同様な種類が認められ、イネ属が優先する。2・1層では、組織片も検出されており、特に1層で稻初に形成されるイネ属短細胞珪酸体の検出個数が多い。

第15表 長須賀条里制遺跡の植物珪酸体分析結果

種類	試料番号	1層	2層	3層	4層	5層
イネ科葉部短細胞珪酸体						
イネ族イネ属	68	51	2	—	—	—
タケ亜科	12	12	2	—	1	—
ヨシ属	1	3	4	1	—	—
ウシクサ族コブナグサ属	6	4	1	—	—	—
ウシクサ族ススキ属	25	61	5	1	—	—
イチゴツナギ亜科	16	11	2	—	—	—
不明キビ型	40	52	3	—	—	—
不明ヒゲシバ型	20	27	1	—	—	—
不明ダンチク型	33	39	2	—	—	—
イネ科葉身機動細胞珪酸体						
イネ族イネ属	72	39	5	—	—	—
タケ亜科ネザサ節	3	—	—	—	—	—
タケ亜科	19	15	—	—	—	—
ヨシ属	2	4	2	—	—	—
ウシクサ族	48	58	3	1	—	—
不明	35	38	7	—	2	—
合計						
イネ科葉部短細胞珪酸体	221	260	22	2	1	—
イネ科葉身機動細胞珪酸体	179	154	17	1	2	—
総計	400	414	39	3	3	—
組織片						
イネ属短細胞珪酸体	36	4	—	—	—	—
イネ属短細胞列	8	5	—	—	—	—
イネ属機動細胞列	1	—	—	—	—	—
ネザサ節機動細胞列	1	—	—	—	—	—
ウシクサ族機動細胞列	1	—	—	—	—	—



出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基準として百分率で算出した。なお、●は1%未満の種類、十はイネ科葉部短細胞珪酸体で200個未満、イネ科葉身機動細胞で100個未満の試料で検出された種類を示す。

第157図 各層の植物珪酸体組成

5 考察

縄文時代の海成層とされる5層では、植物珪酸体の検出個数が少なく、稻作や植生に関する情報は得られなかった。また、弥生時代～中世の水田層とされる4層でも検出個数が少なく、稻作が行われていたか否かの判別はつかない。このような産状を理解する上では堆積環境が重要と思われる。そのため、これらの層の堆積環境を明らかにした上で、珪藻分析の実施が望まれる。

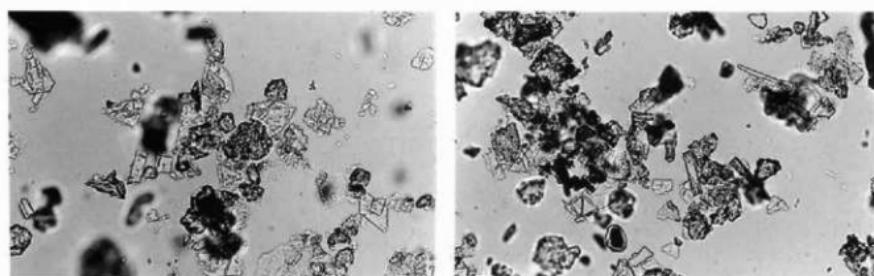
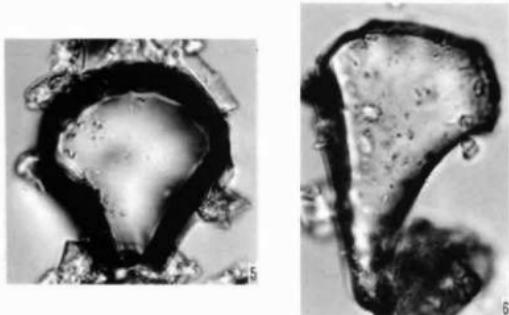
近世の水田層とされる2・3層ではイネ属が認められた。特に2層での出現率は現水田層の1層よりは低いものの、約25%と高い。これより、今回の結果は2層での稻作を裏付けるものと考える。また、近世の水田耕作が行われていた頃は、微高地上にタケア科やススキ属など、湿润な場所にはヨシ属やコブナグサ属等のイネ科植物が育成していたと推定される。

なお、今回の調査は調査範囲の一部について検討したものであり、局地的な情報が得られたに過ぎない。今後、今回検討した縄文時代、弥生時代～中世、近世の各水田層での稻作についてさらに資料を蓄積して検討する必要があり、各水田層を対象として複数地点で試料採取を行い、面的に珪藻・花粉・植物珪酸体分析などの調査をすることが望まれる。

注1 千葉県地学のガイド編集委員会編 1987 5・館山、『千葉県地学のガイド千葉県の地質とそのおいたち』

P60～70 コロナ社

2 近藤鉢三・佐瀬隆1986「植物珪酸体分析、その特性と応用」『第四紀研究』25 P36～64



50 μm

1. タケ亜科短細胞珪酸体（試料番号1）
2. コブナグサ属短細胞珪酸体（試料番号1）
3. ススキ属短細胞珪酸体（試料番号1）
4. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体（試料番号1）
5. イネ属機動細胞珪酸体（試料番号1）
6. ウシクサ族機動細胞珪酸体（試料番号1）
7. 状況写真（試料番号4）
8. 状況写真（試料番号5）

第158図 植物珪酸体

写 真 図 版



図版1 沖縄市役所地区 (昭和12年撮影 1:10,000)



A 区全景



A区全景（南から）



A区条里型水田畦畔
(南から)



A区条里型水田畦畔
(西から)



B 区 全景



B区全景(南東から)



B区小区画水田
(北から)



B区小区画水田
(南西から)



C区1次全景



C区1次全景
(南東から)



CSD-1
(東から)



CSD-1
(西から)



CSD-2a 杣列
(南東から)



CSD-2a・2b・3
(南東から)



CSD-2a・2b・3
(北西から)



CSD-4
(北東から)

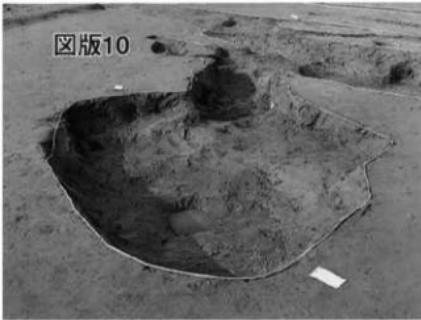


CSD-5
(南東から)



CSD-5
(北西から)

図版10



CSK-2



CSK-4 と CSD-7



CSK-5



CSK-13 土層断面



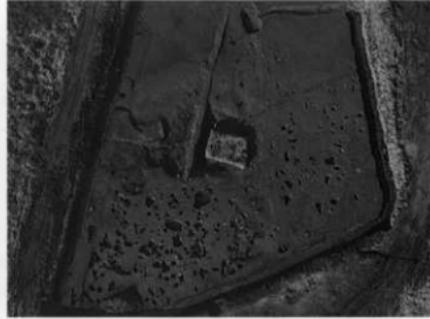
CSK-13



CSK-22 検出状況

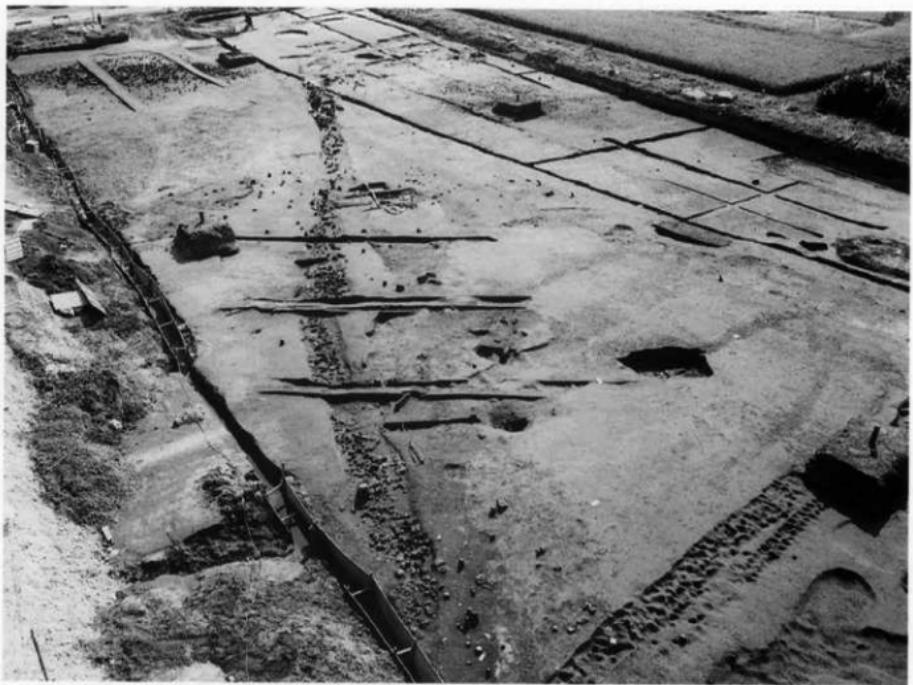


C区ピット群 (東から)



C区ピット群





ESD-1 (北東から)



ESD-1 新段階遺物出土状況（北東から）



ESD-1 旧段階遺物出土状況（北から）



ESD-1 東側
(南から)



ESD-1 西側
(東から)



ESD-1 土層断面



ESD-1 遺物出土状況



ESD-1 銅鏡出土状況



ESD-1 (K1・D1)



ESD-1 (K1·D1)
(北西から)



ESD-1 (K1·D1)と水田域
(北東から)



ESD-1 (K1·D1) 木柵本体
(北東から)



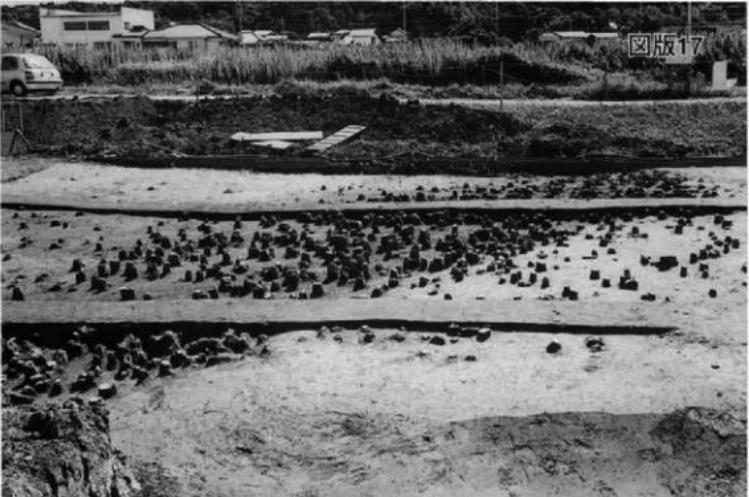
ESD-5・ESD-6
(南東から)

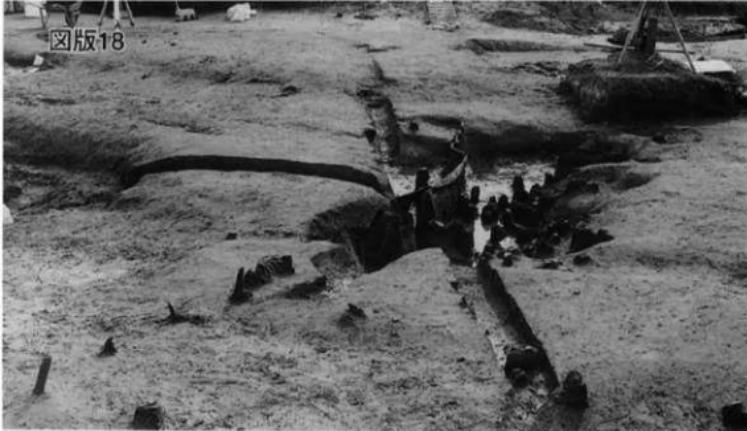


ESD-7・ESD-8
(東から)



ESD-8
(東から)







ESK-1



ESK-3



ESK-5



ESK-10



ESK-11



ESK-12



ESK-13



E区ピット群 (南から)



FSB-1（東から）



FSB-2（東から）



FSB-4（南西から）



FSD-6（北東から）



FSD-8（北西から）



FSD-8（東から）



FSD-9（西から）



FSD-10（東から）



FSK-1・2



FSK-3



FSK-4



FSK-6



FSK-8



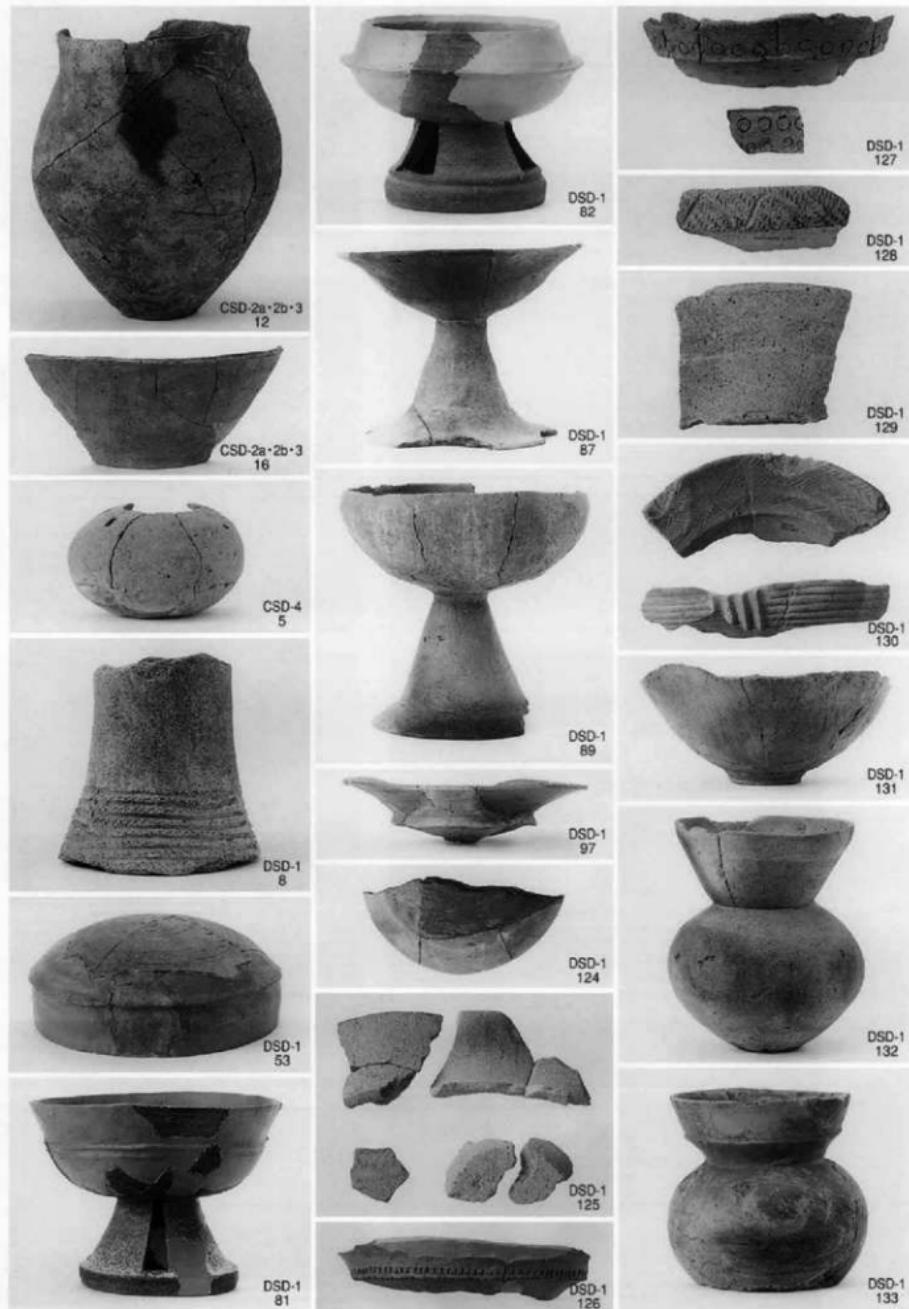
FSK-10



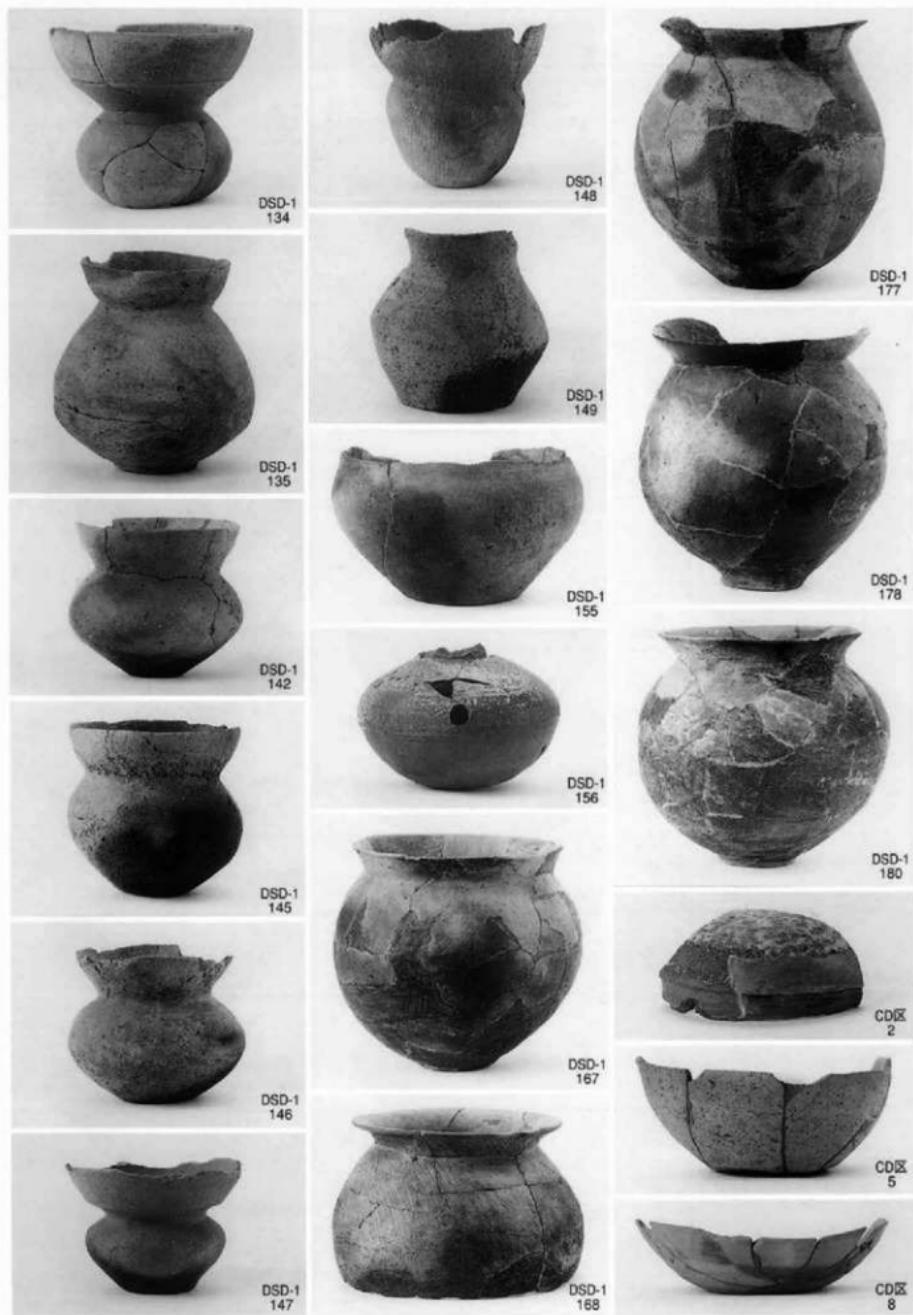
FSK-11



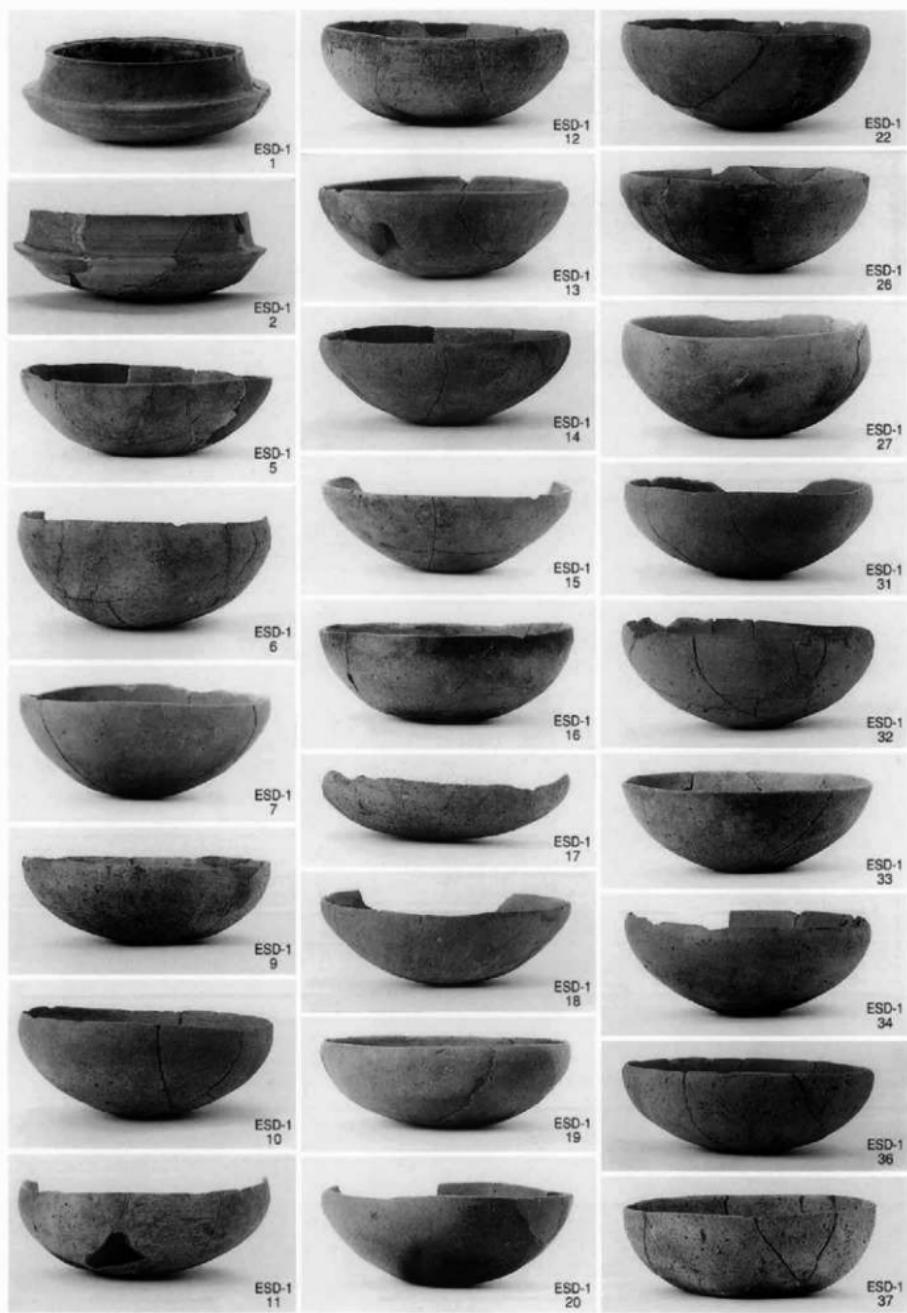
FSK-15



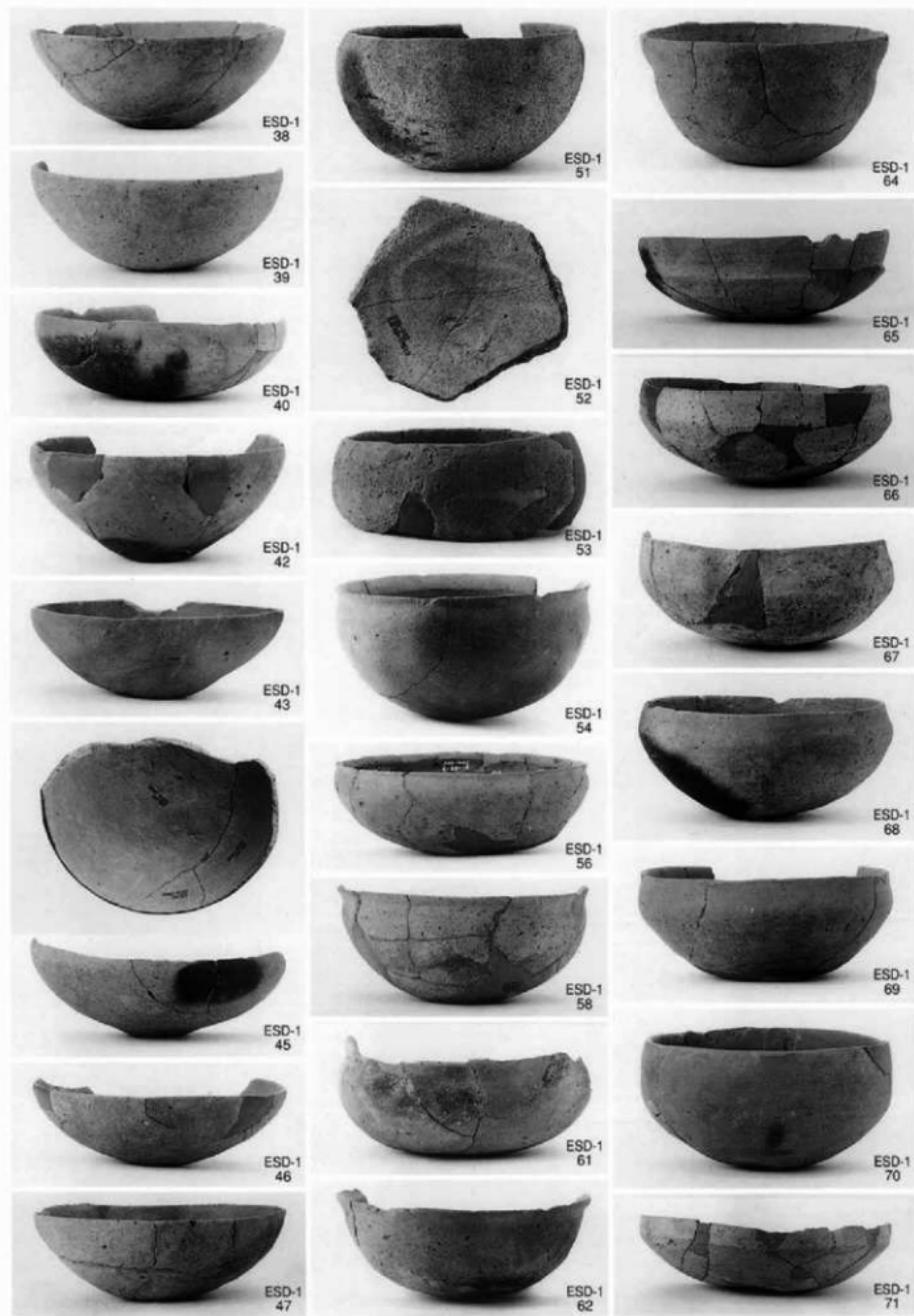
出土土器(1)



出土土器(2)



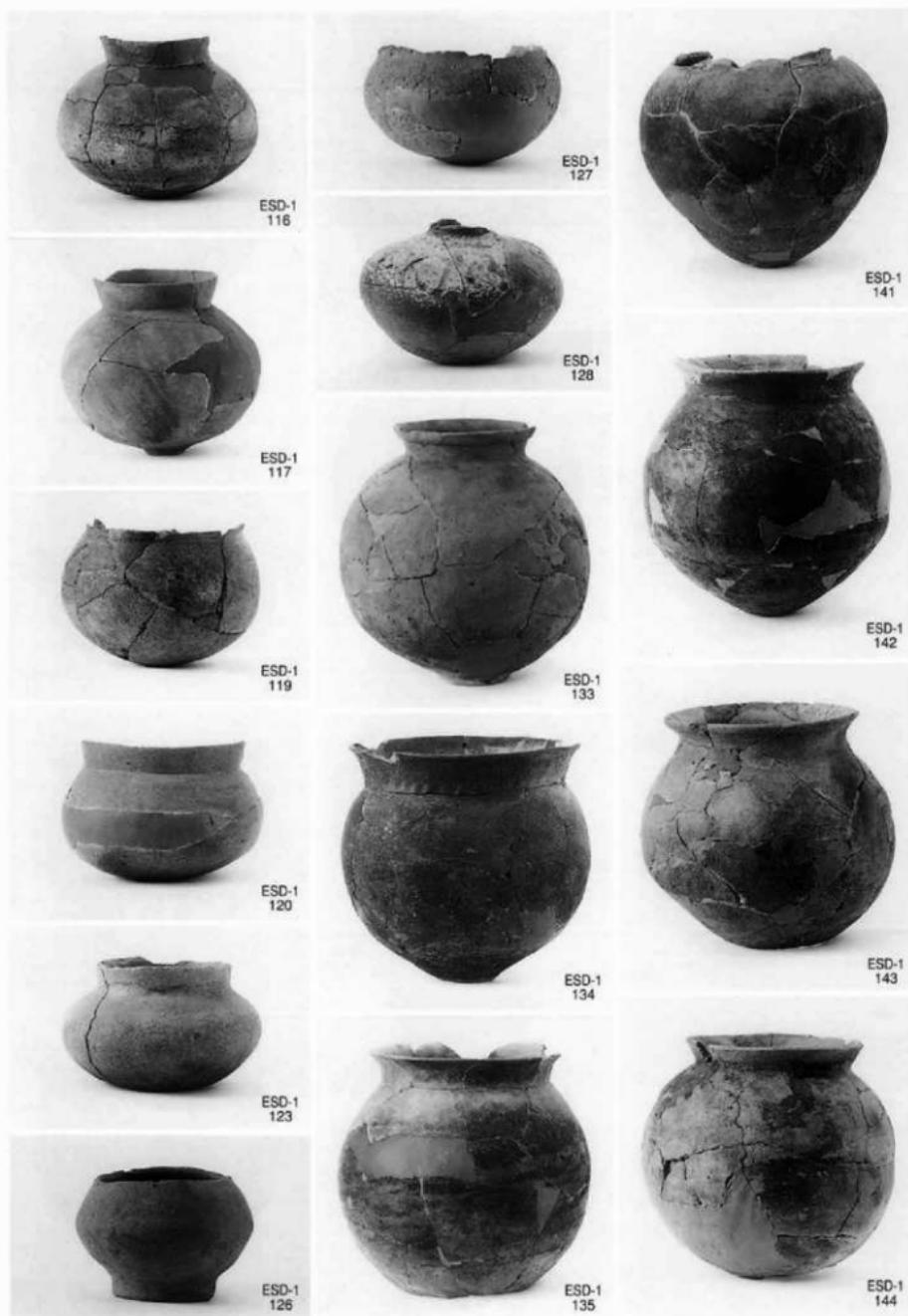
出土土器(3)



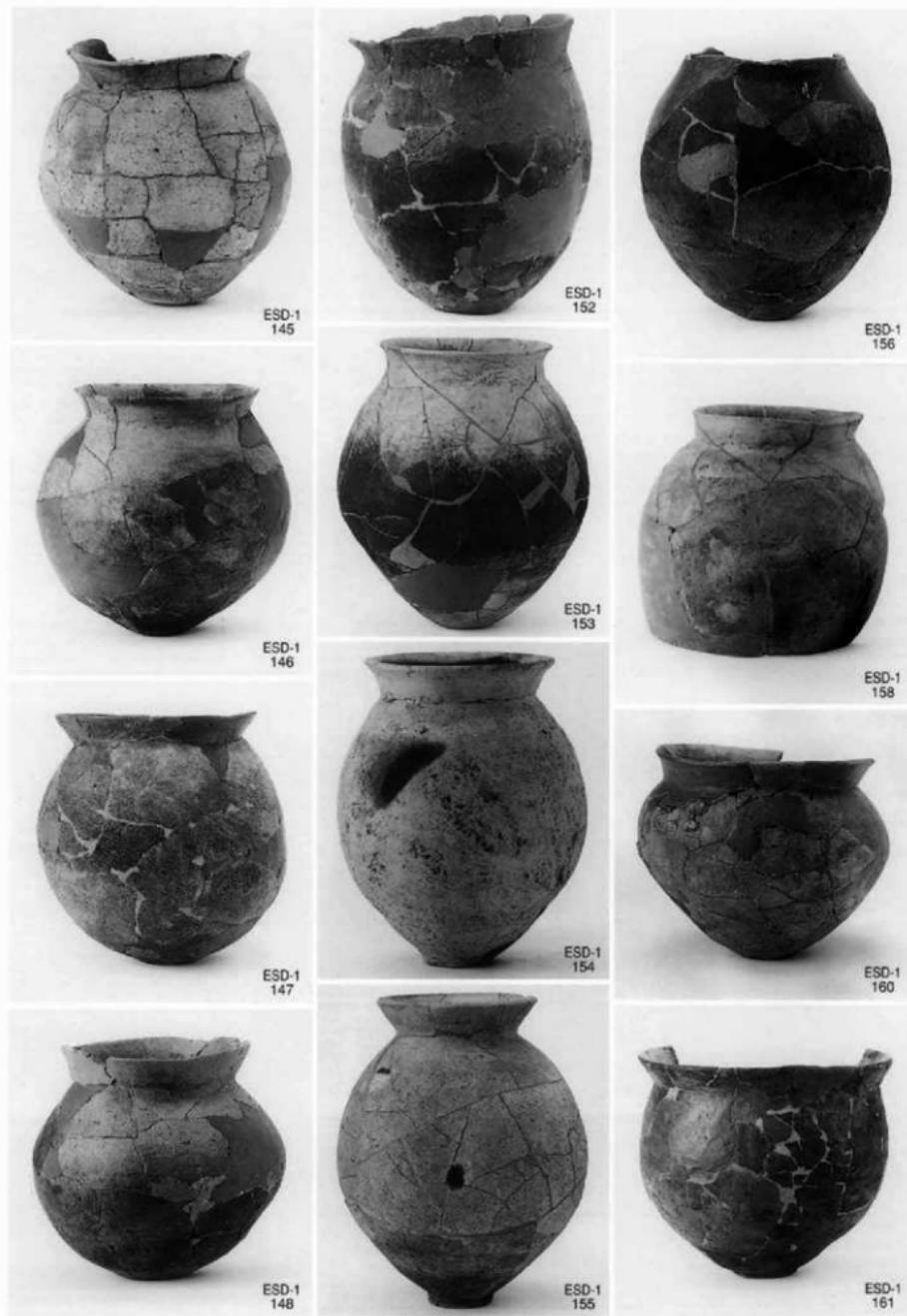
出土土器(4)



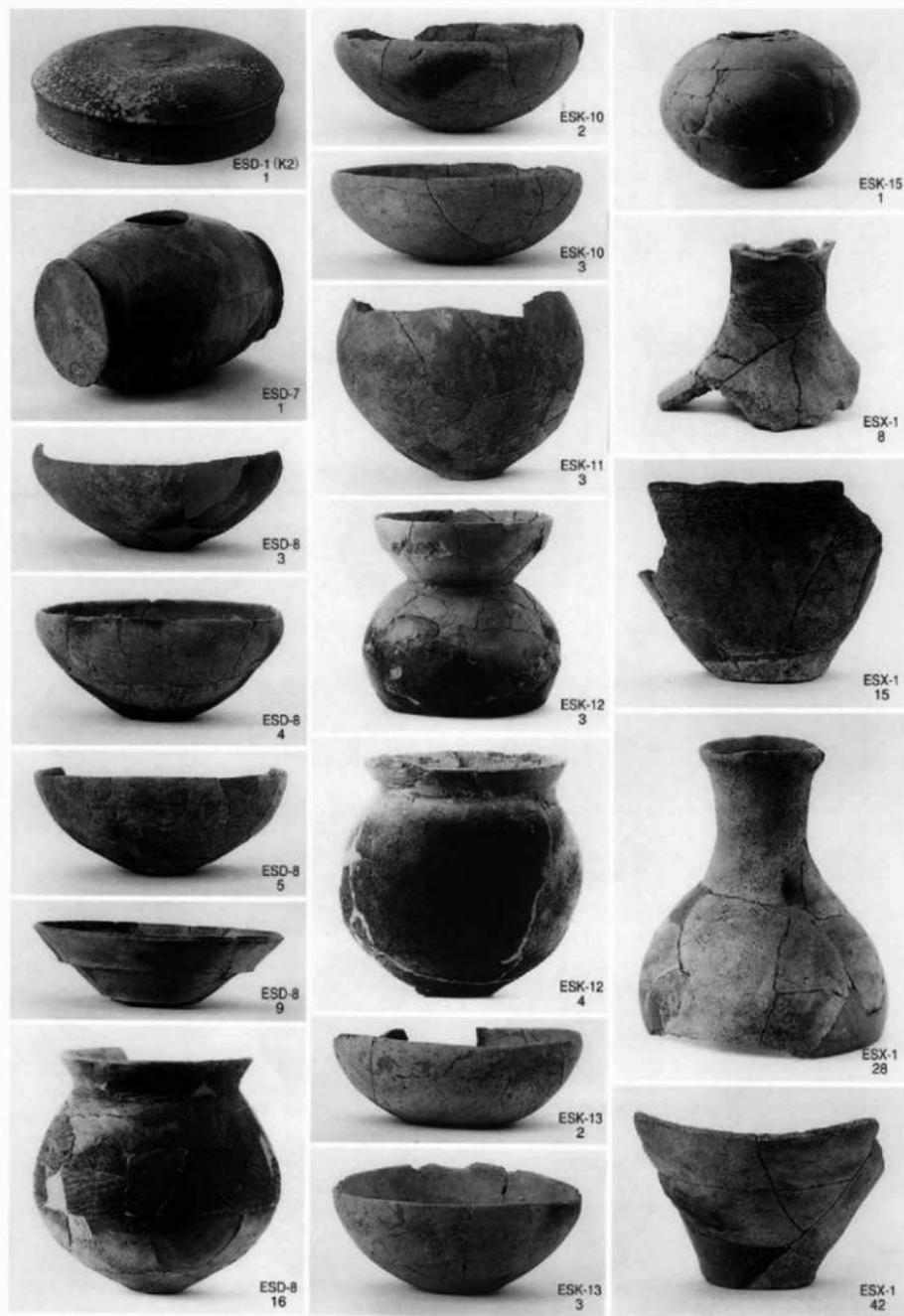
出土土器 (5)



出土土器 (6)



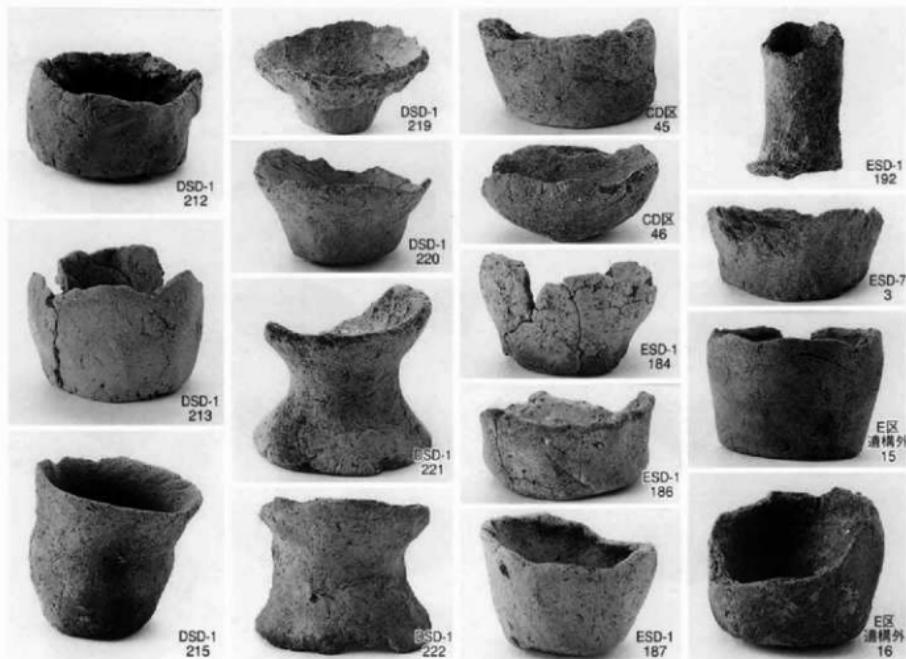
出土土器(7)



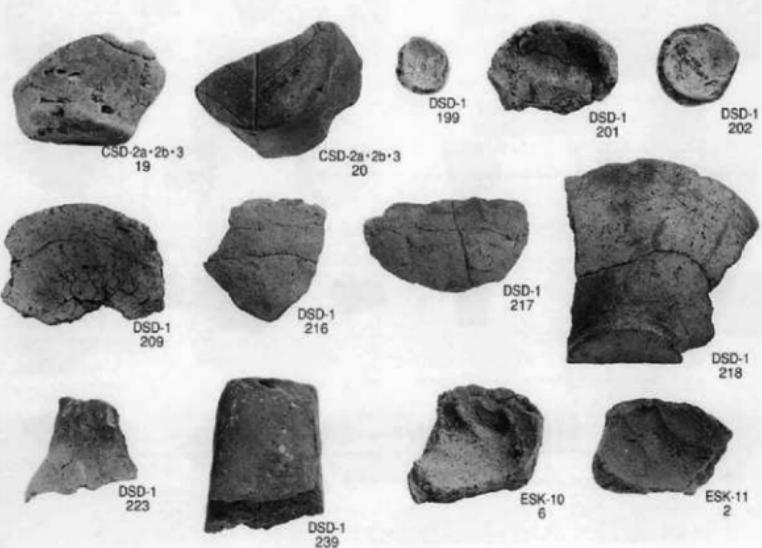
出土土器 (8)



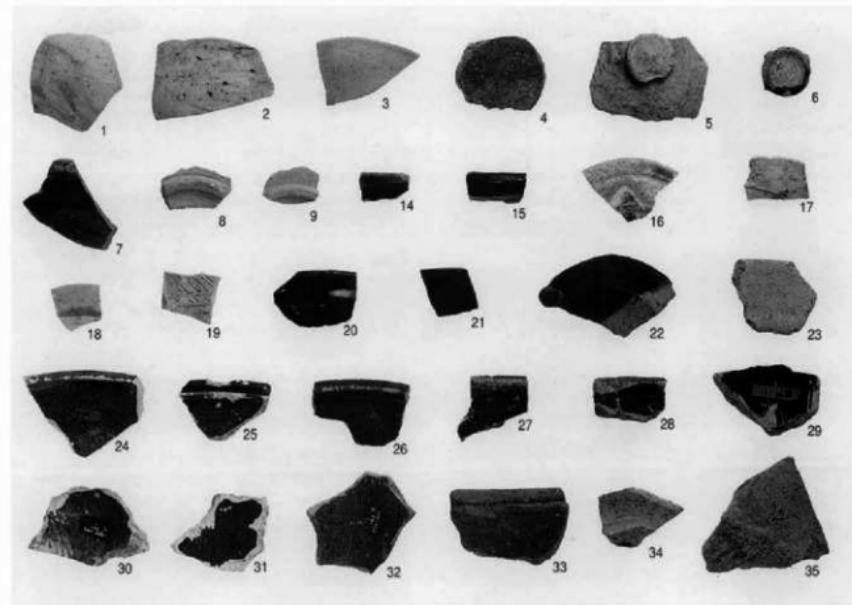
出土土器(9)・出土手捏類(1)



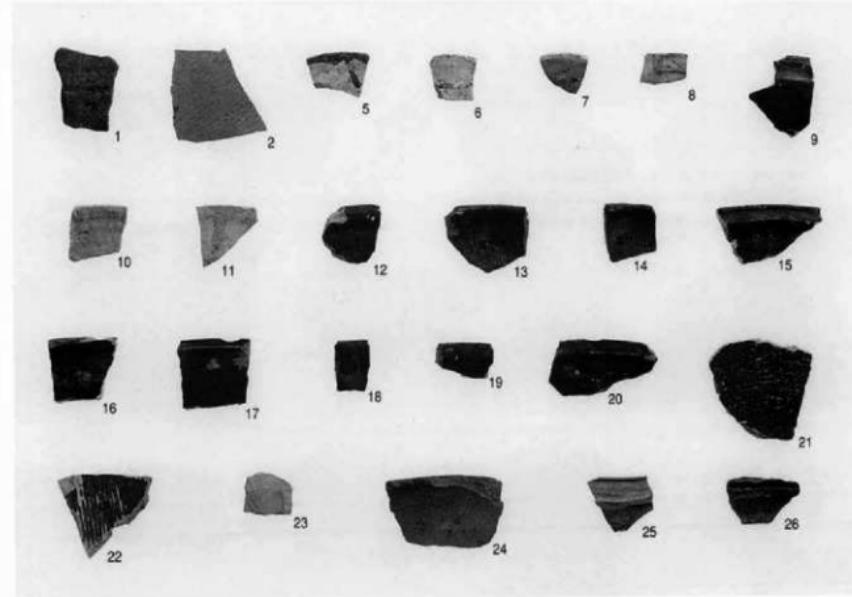
出土手捏類(2)



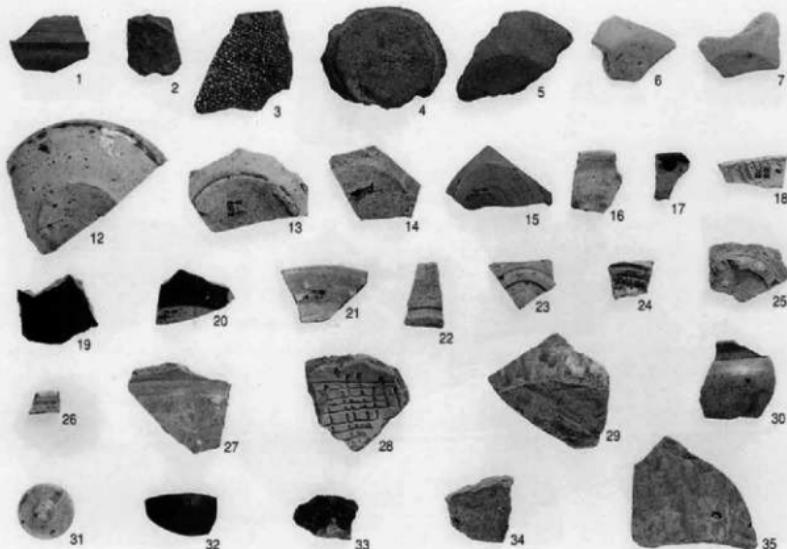
出土手捏類(3)



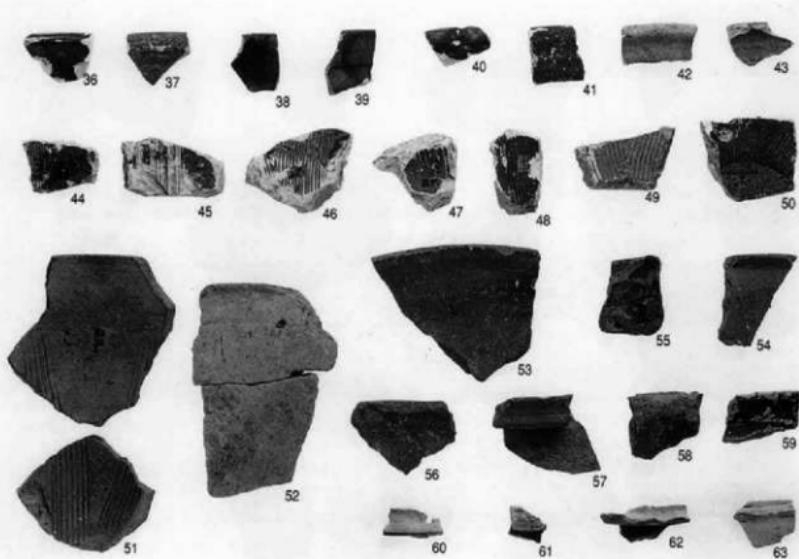
A区出土土器・陶磁器



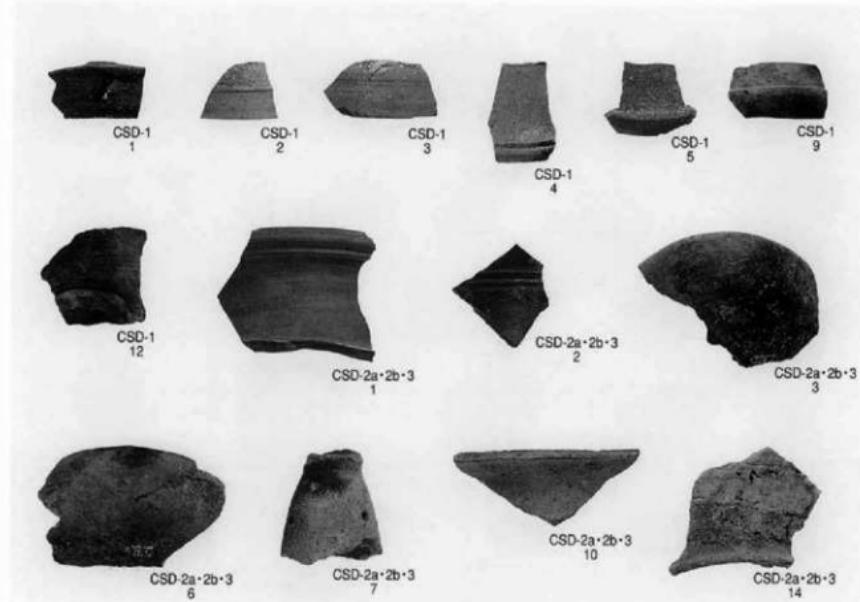
B区出土土器・陶磁器



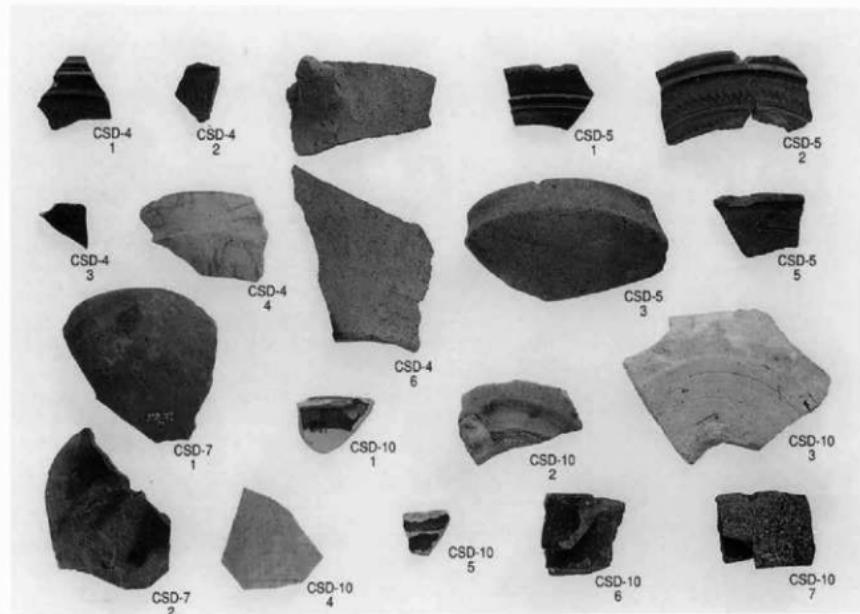
AB区出土土器・陶磁器(1)



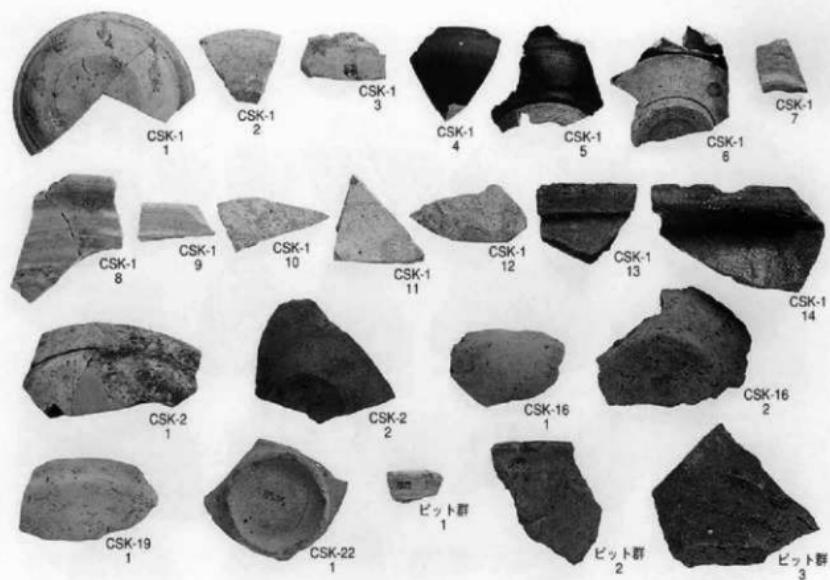
AB区出土土器・陶磁器(2)



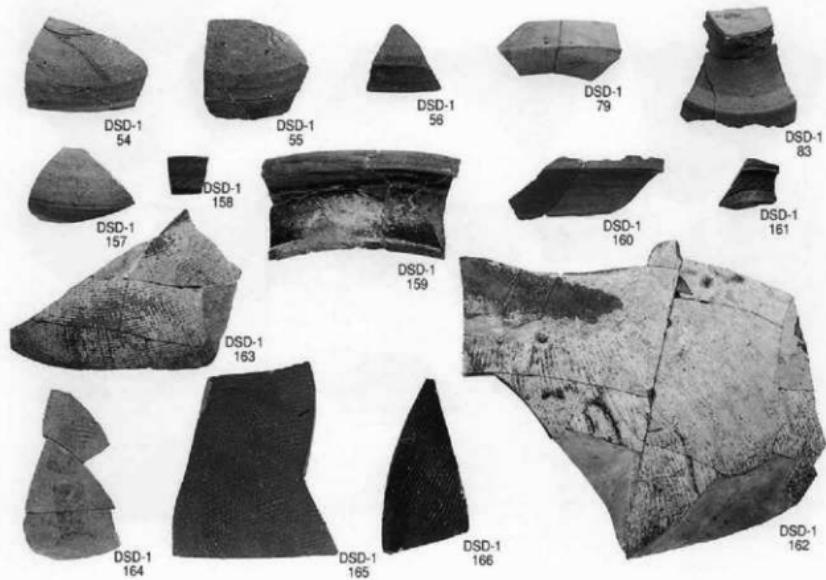
C区出土土器・陶磁器(1)



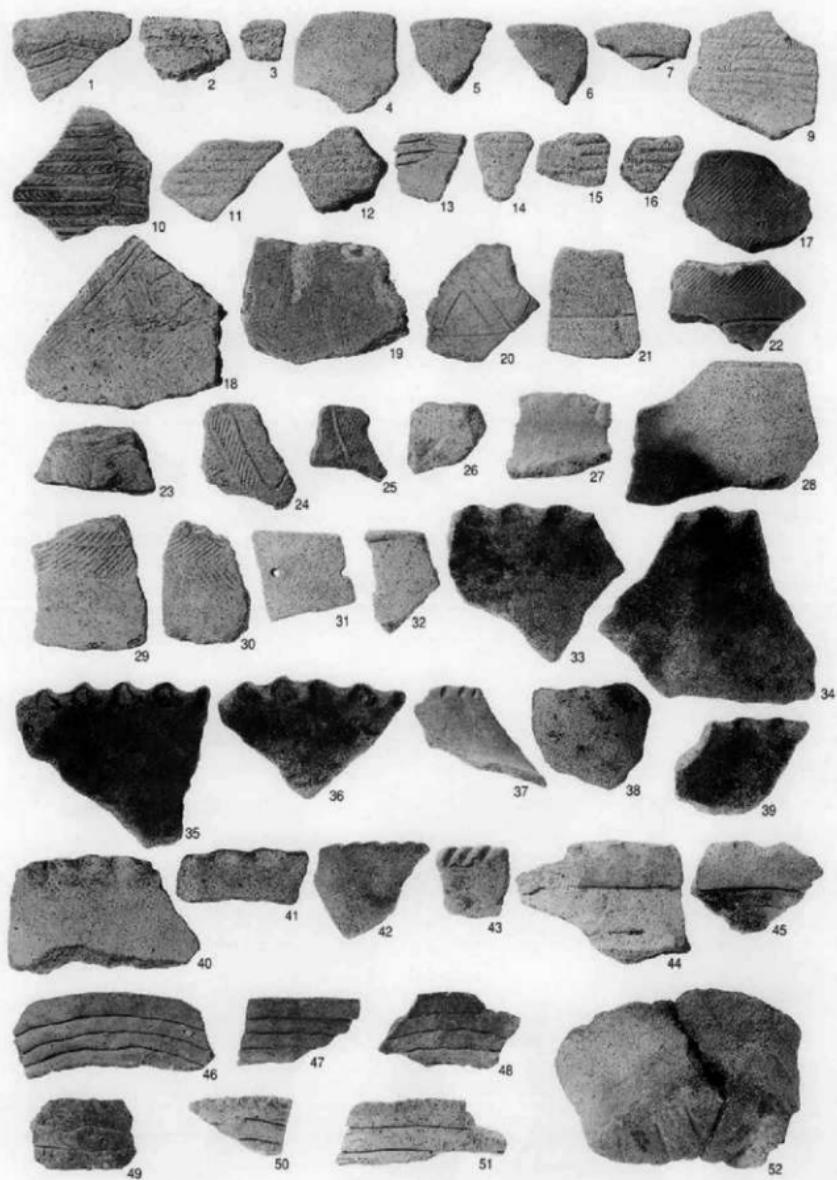
C区出土土器・陶磁器(2)



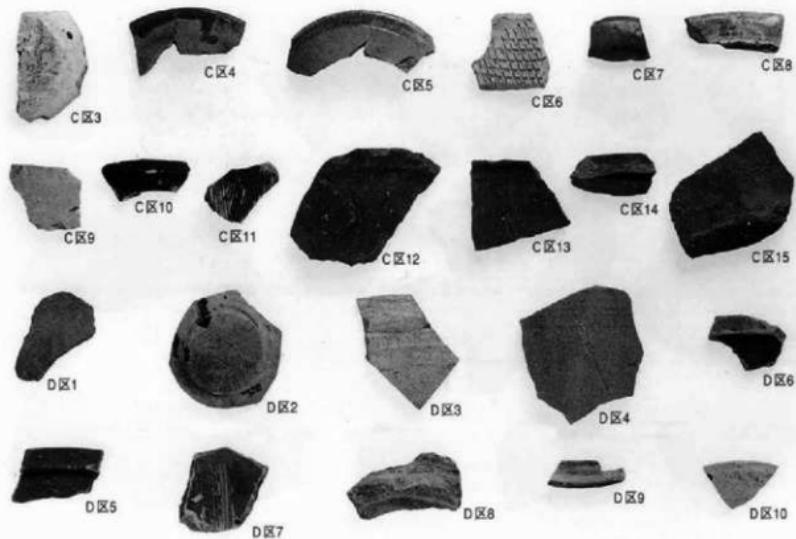
C区出土土器・陶磁器(3)



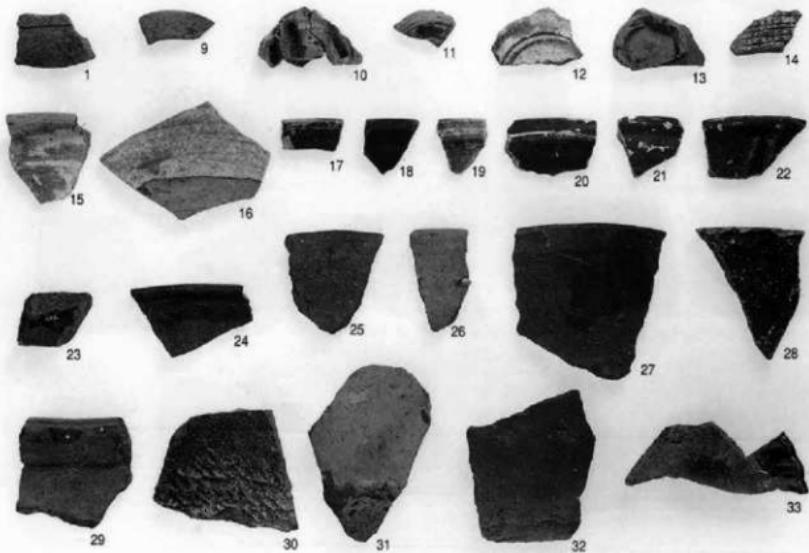
D区出土土器



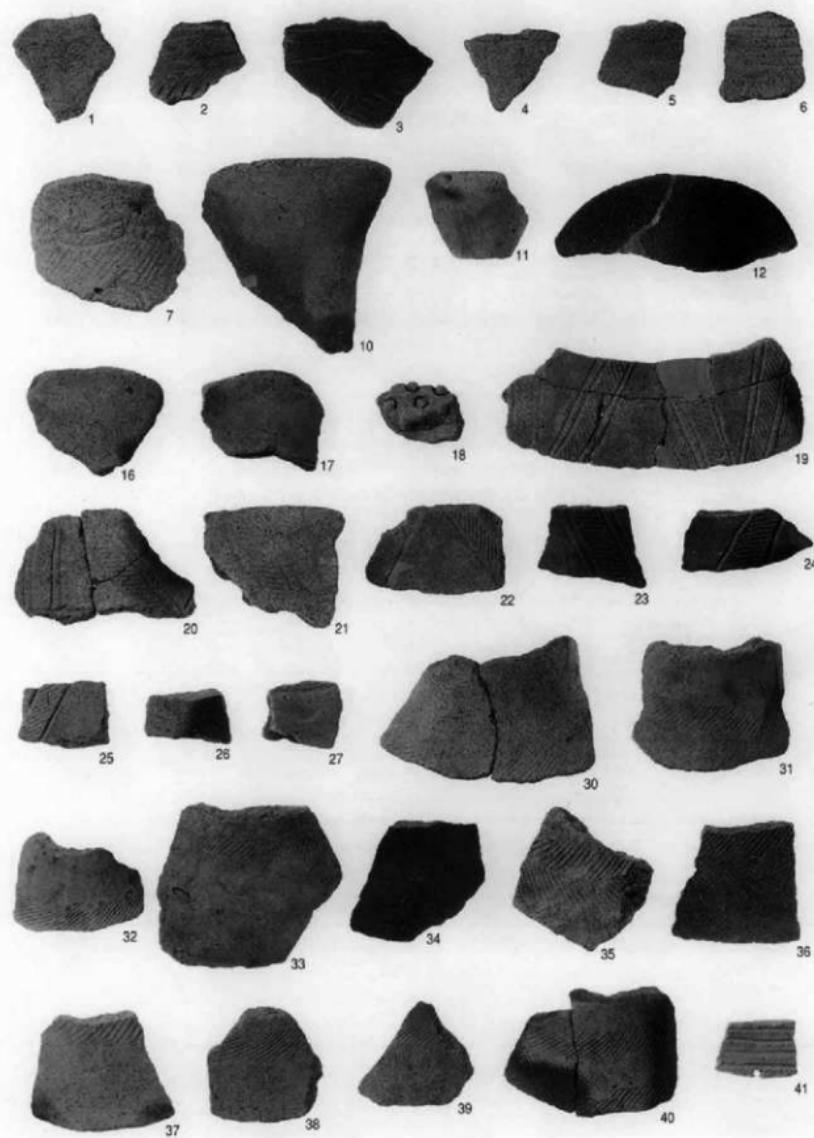
DSD-1 出土弥生土器



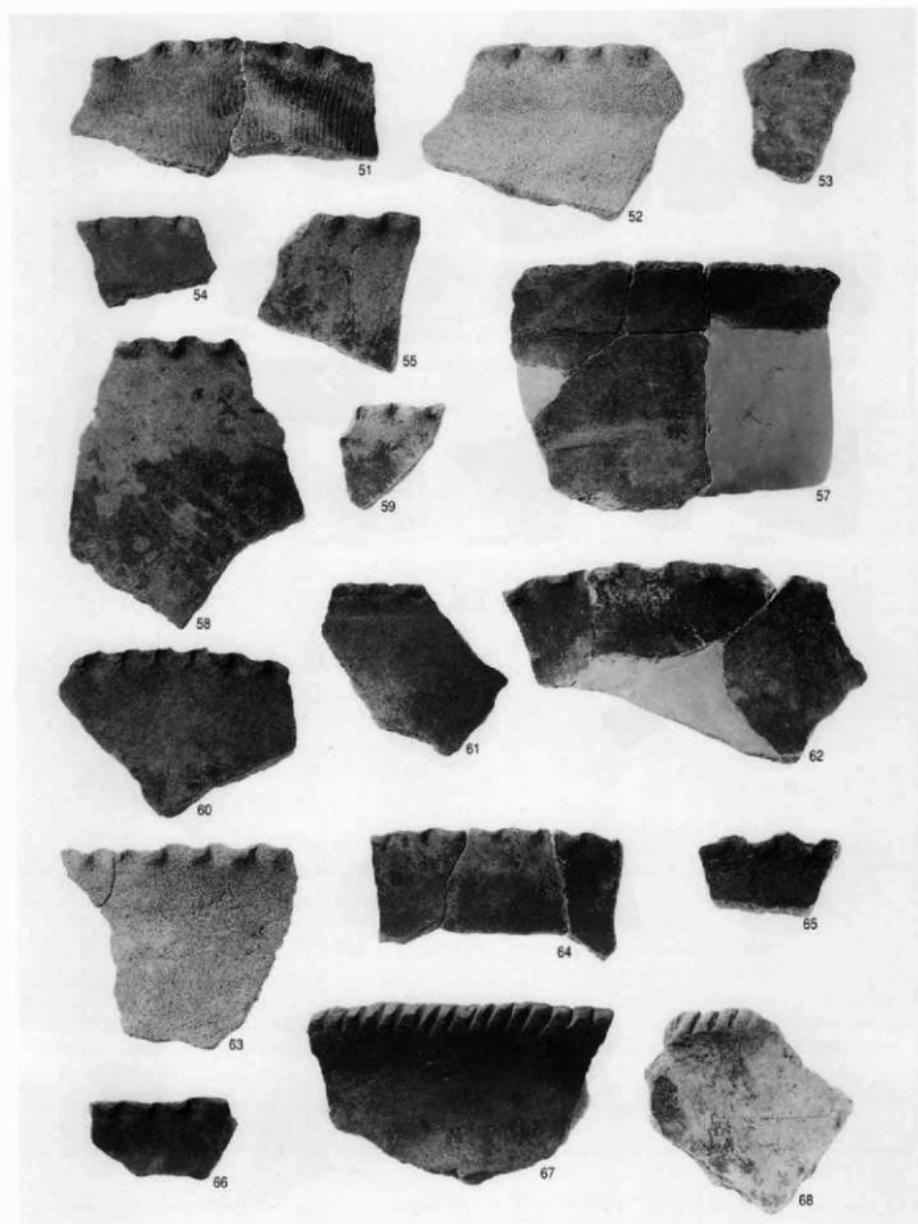
C区, D区遺構外出土土器・陶磁器



CD区出土土器・陶磁器



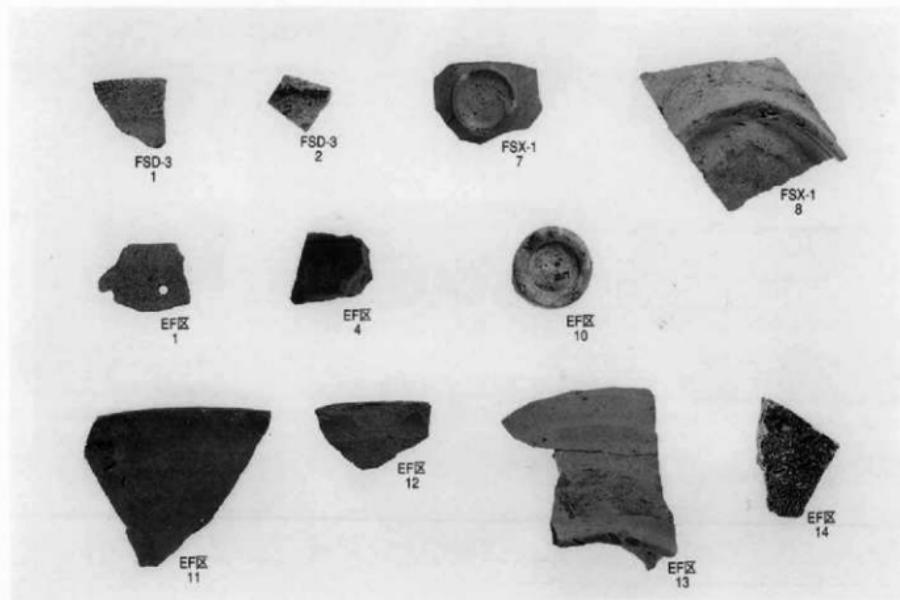
ESX-1 出土弥生土器 (1)



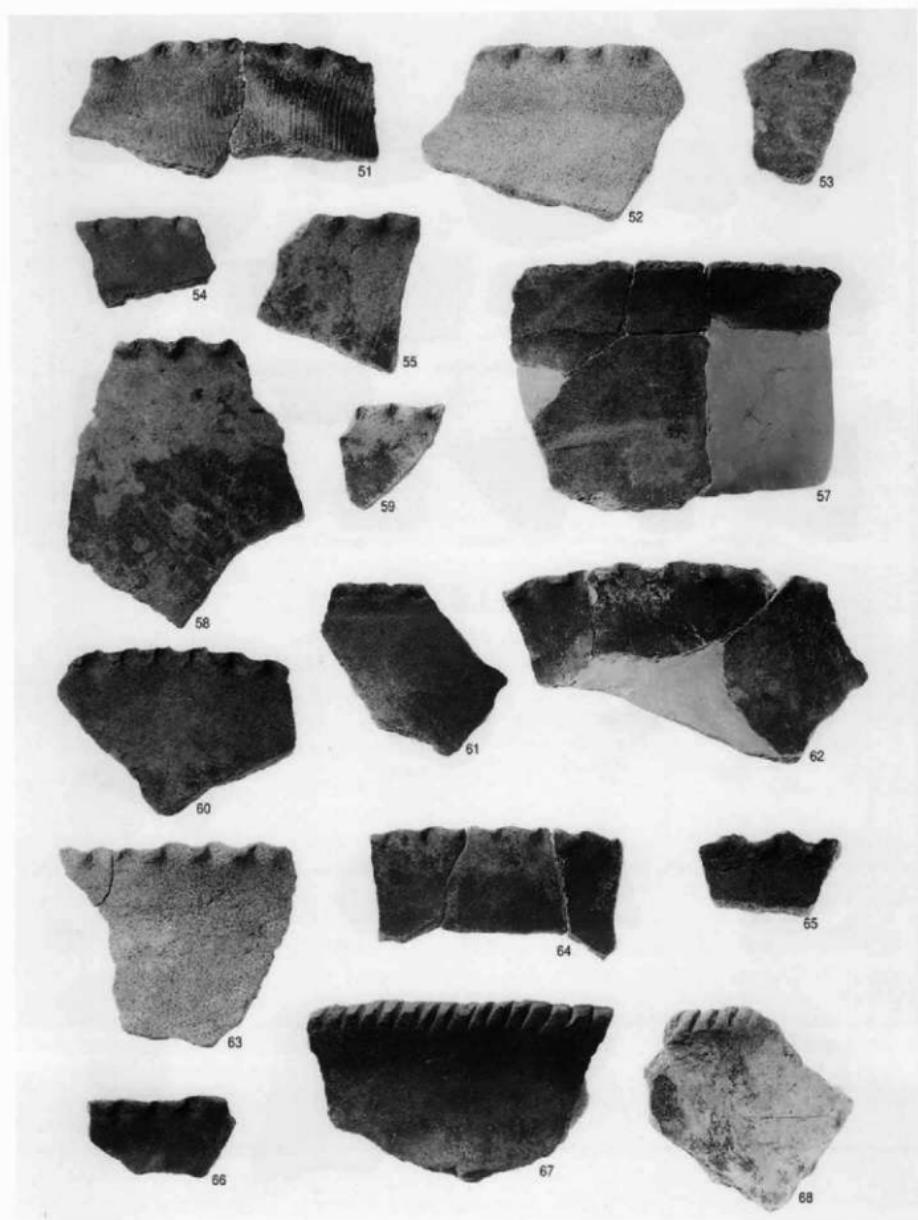
ESX-1 出土弥生土器 (2)



E区出土土器・陶磁器



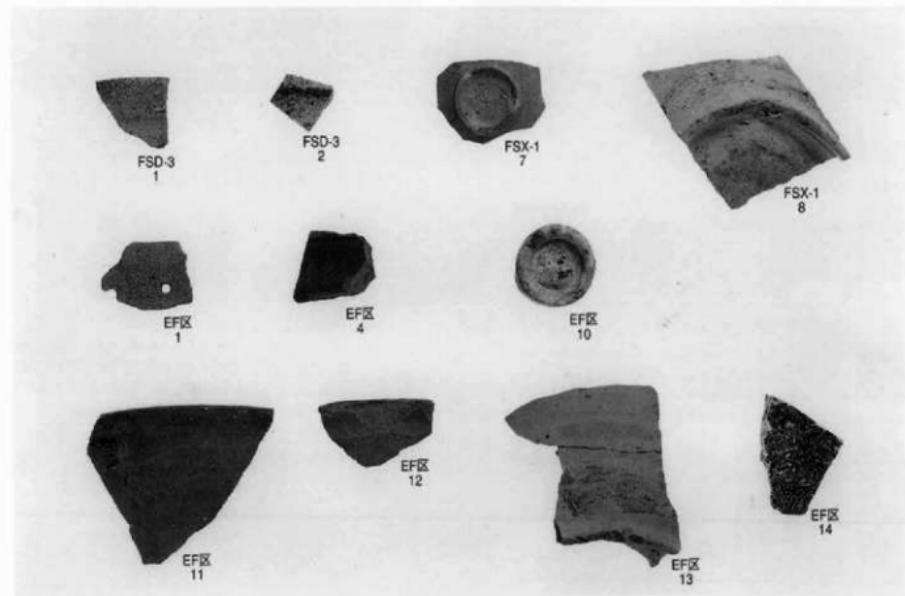
F区, EF区 出土土器・陶磁器



ESX-1 出土弥生土器 (2)



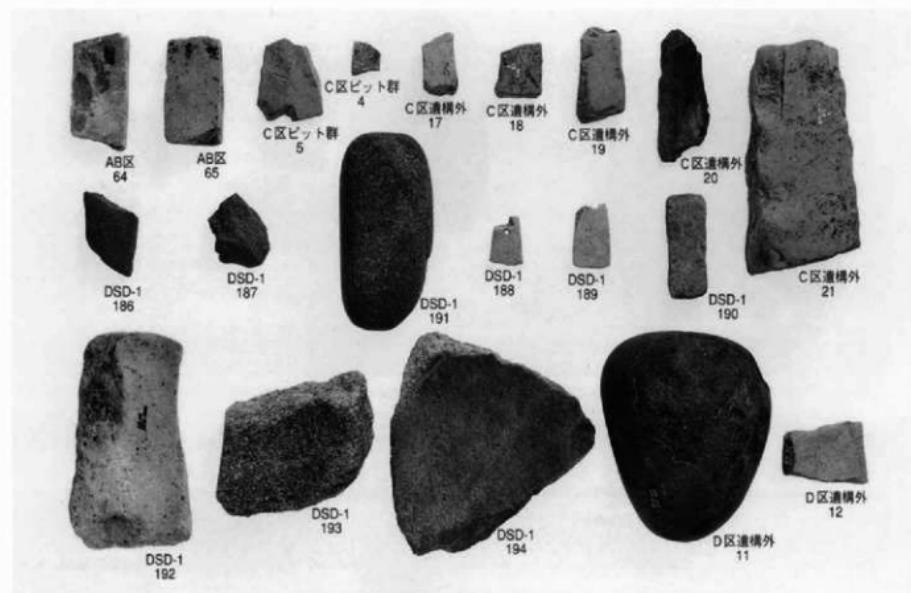
E区出土土器・陶磁器



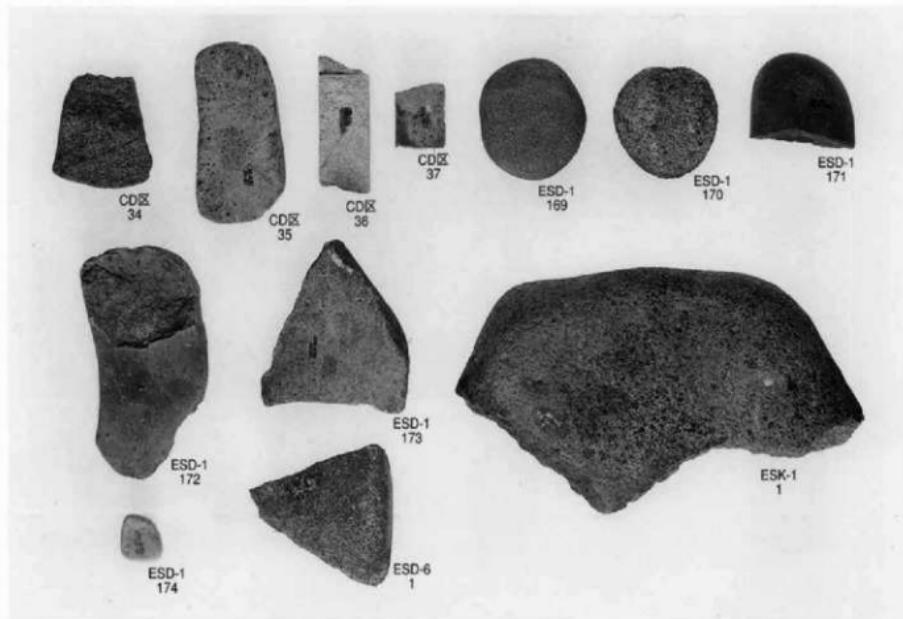
F区, EF区 出土土器・陶磁器



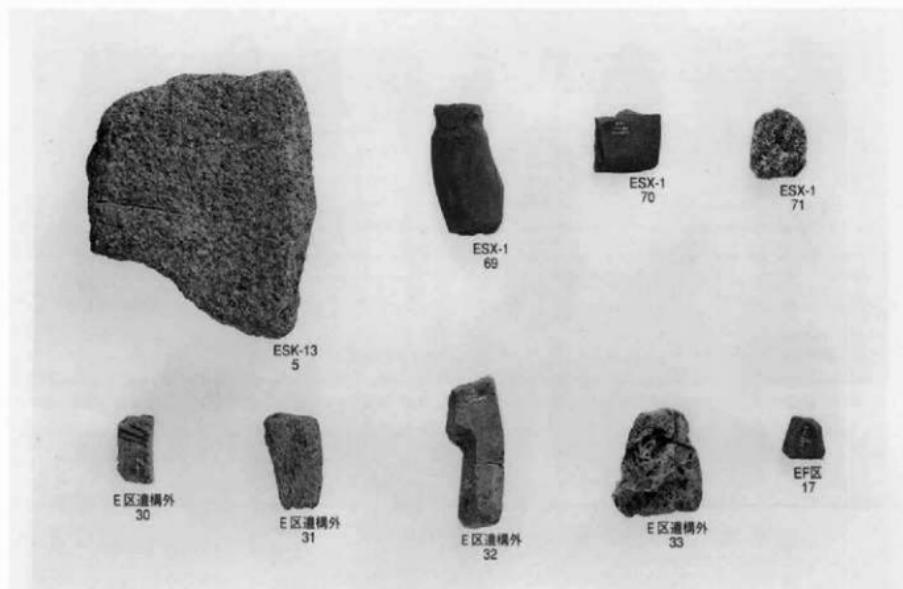
出土火打石・剥片石器類



AB区, C区, D区 出土石器



CD区, E区 出土石器



E区, EF区 出土石器



AB区
75



CSD-2a, 2b, 3
17



DSD-1
195

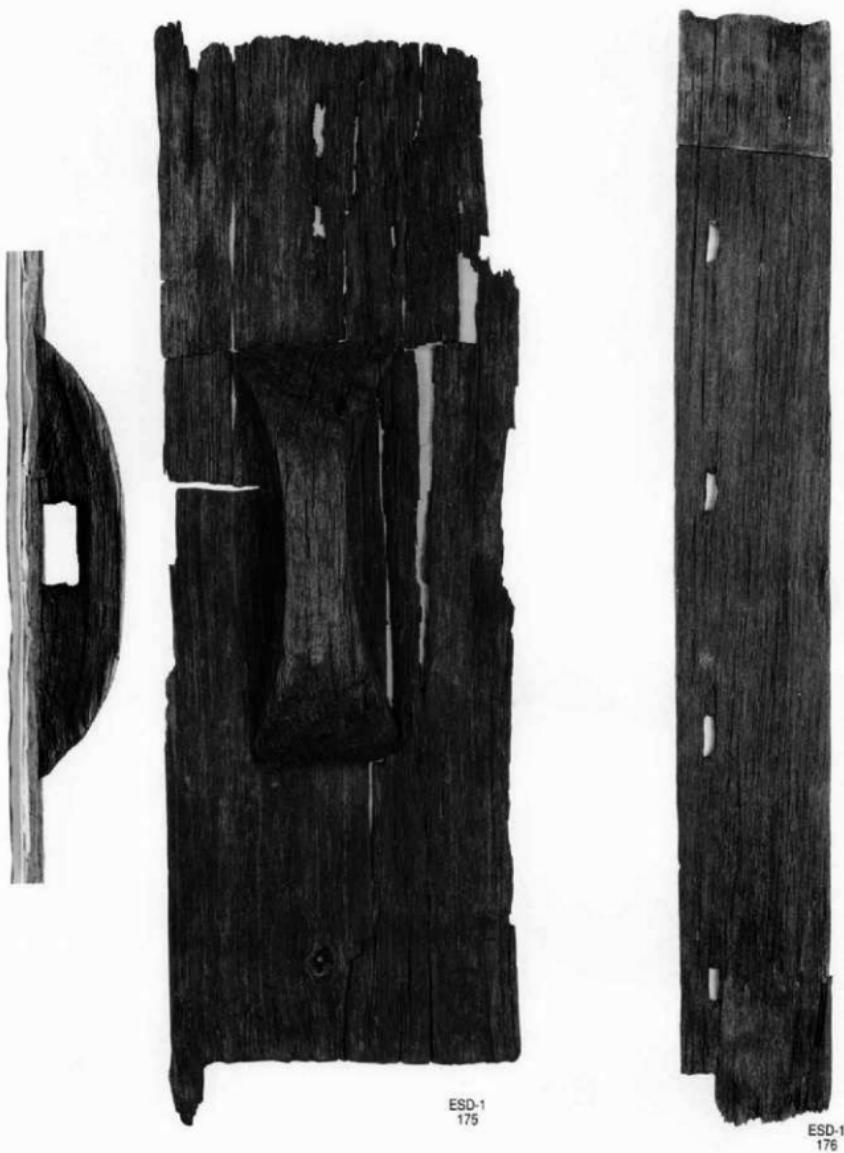


DSD-1
197



DSD-1
196

出土木製品(1)



出土木製品(2)



出土木製品(3)



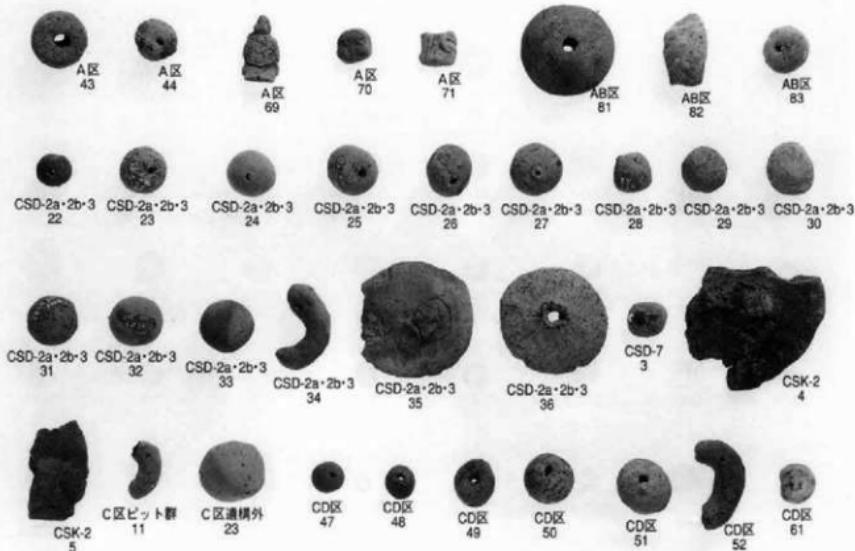
出土木製品(4)



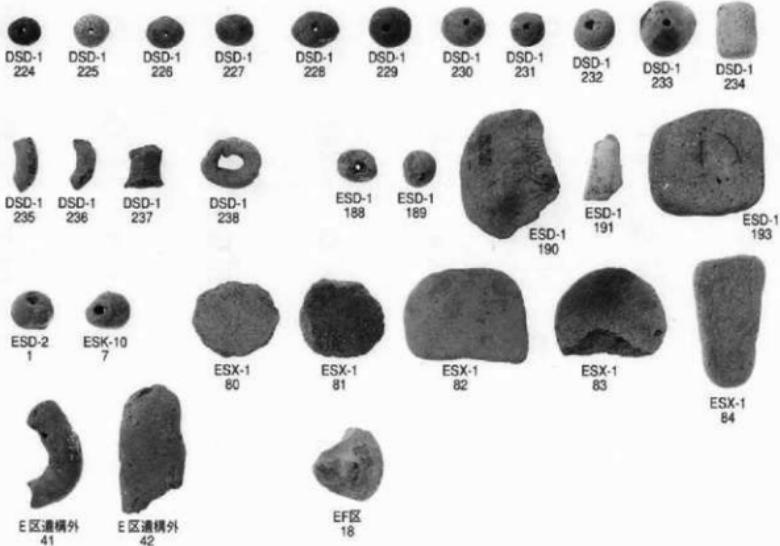
出土木製品(5)



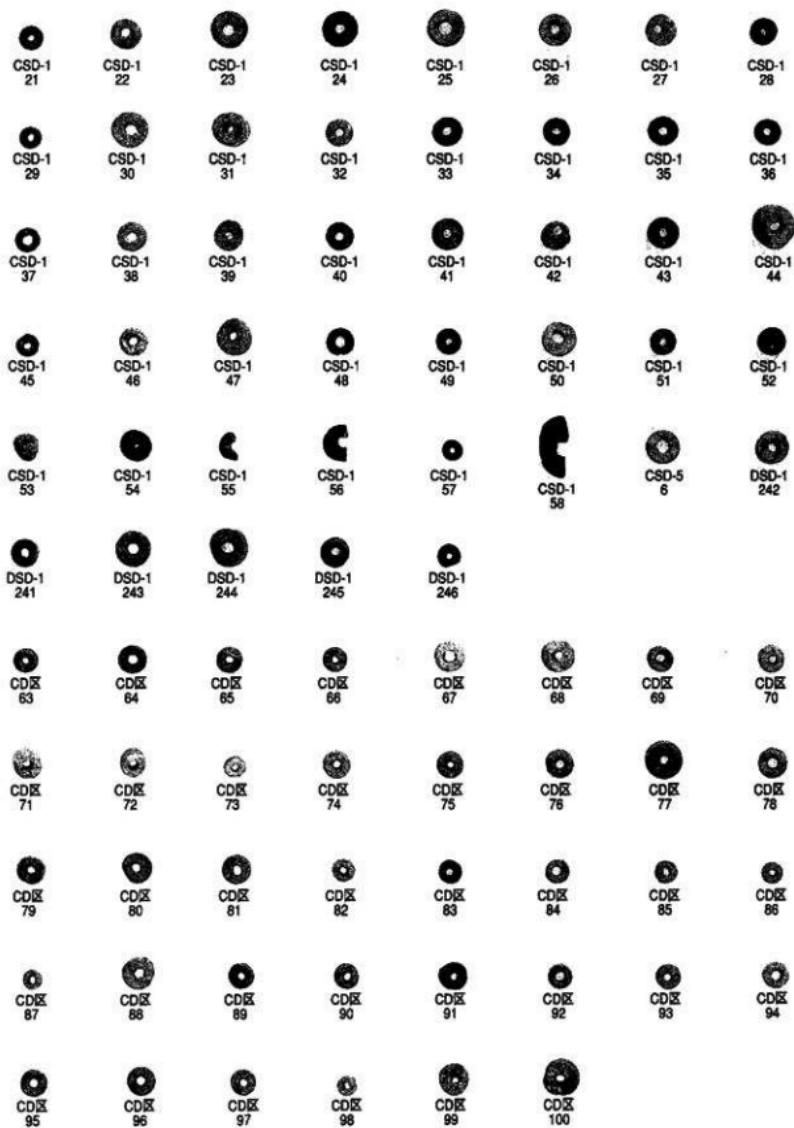
出土木製品(6)・金属製品・骨製品類・石器



出土土製品(1)



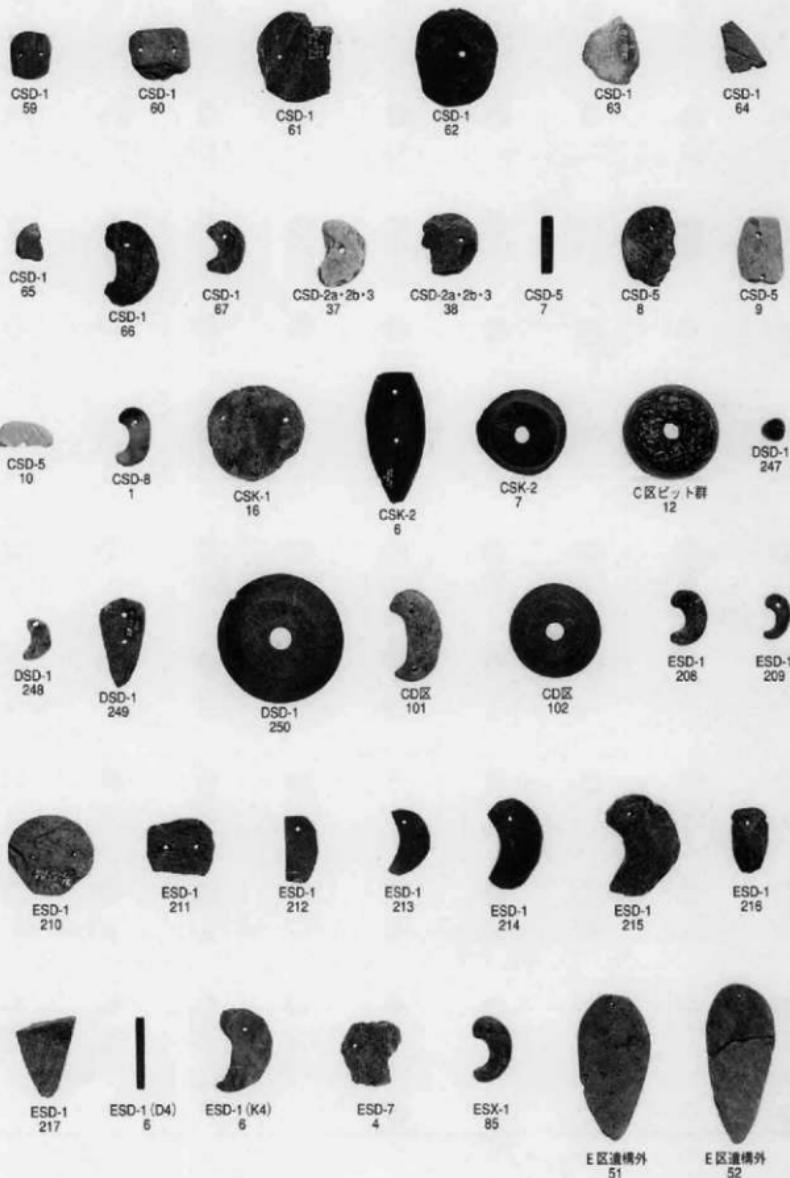
出土土製品(2)



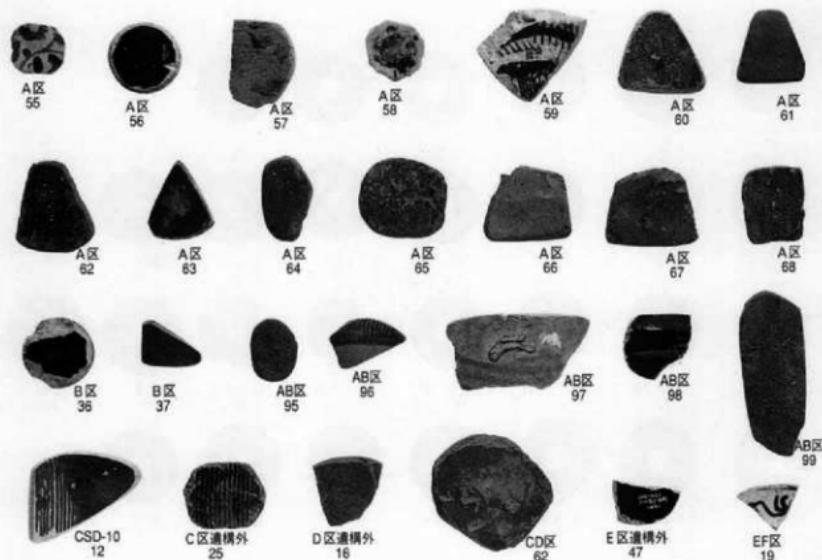
出土小玉類(1)

ESD-1 194	ESD-1 195	ESD-1 196	ESD-1 197	ESD-1 198	ESD-1 199	ESD-1 200	ESD-1 201	ESD-1 202
ESX-1 88	ESX-1 89	ESX-1 90	ESX-1 91	ESX-1 92	ESX-1 93	ESX-1 94	ESX-1 95	ESX-1 96
ESX-1 97	ESX-1 98	ESX-1 99	ESX-1 100	ESX-1 101	ESX-1 102	ESX-1 103	ESX-1 104	ESX-1 105
ESX-1 106	ESX-1 107	ESX-1 108	ESX-1 109	ESX-1 110	ESX-1 111	ESX-1 112	ESX-1 113	ESX-1 114
ESX-1 115	ESX-1 116	ESX-1 117	ESX-1 118	ESX-1 119	ESX-1 120	ESX-1 121	ESX-1 122	ESX-1 123
ESX-1 124	ESX-1 125	ESX-1 126	ESX-1 127	ESX-1 128	ESX-1 129	ESX-1 130	ESX-1 131	ESX-1 132
ESX-1 133	ESX-1 134	ESX-1 135	ESX-1 136	ESX-1 137	ESX-1 138	ESX-1 139	ESX-1 140	ESX-1 141
ESX-1 142	ESX-1 143	ESX-1 144	ESX-1 145	ESX-1 146	ESX-1 147	ESX-1 148	ESX-1 149	ESX-1 150
ESX-1 151	ESX-1 152	ESX-1 153	ESX-1 154	ESX-1 155	ESX-1 156	ESX-1 157	ESX-1 158	ESX-1 159
ESX-1 160	E区遺構外 48	E区遺構外 49	E区遺構外 50	FSD-3 3				

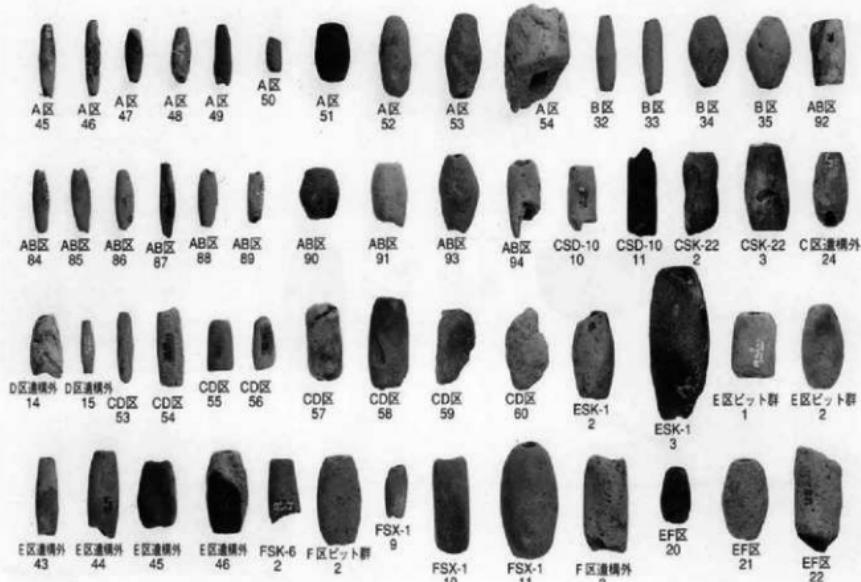
出土小玉類(2)



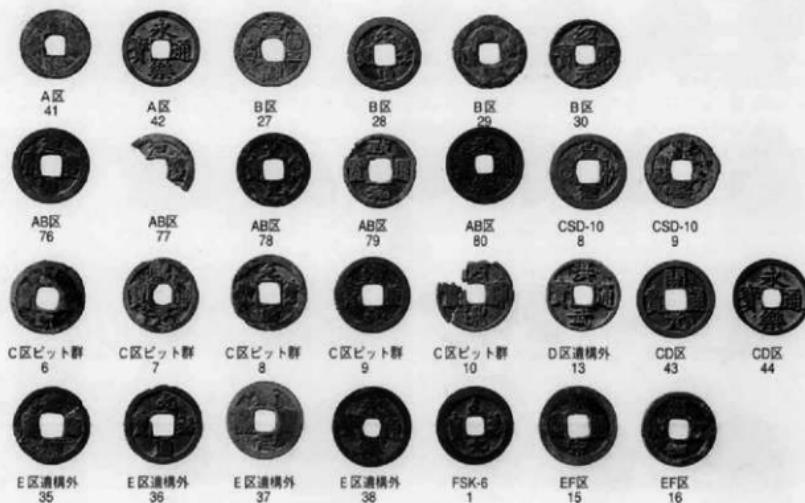
出土石製品



出土転用砥石



出土土錐



出土錢貨



1



2

北条条里制遺跡出土遺物



金属器生産資料



粘土質滓・黒色緻密質滓

報告書抄録

ふりがな 書名 副書名 卷次 シリーズ名 シリーズ番号 編著者名 編集機関 所在地 発行年月日	たてやましながすかじょうりせいいせき・ほうじょうじょうりせいいせき 館山市長須賀条里制遺跡・北条条里制遺跡 国道410号(北条)埋蔵文化財調査報告書 1 財團法人千葉県文化財センター調査報告 第474集 土屋 治雄・城田 義友・高梨 友子 財團法人 千葉県文化財センター 〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2 043-422-8811 西暦 2004年3月25日						
ふりがな 所取遺跡名 所取遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村 遺跡番号	北 緯	東 綏	調査期間	調査面積	調査原因
長須賀条里制 105ほか	館山市下真倉字舞台	12205 002	34度 58分 48秒	139度 52分 25秒	199311011~ 19931224 19941201~ 19950320 19951201~ 19960226 19961001~ 19961227 19970401~ 19970430 19980401~ 19980930	35,850m ²	道路建設に伴う 埋蔵文化財調査
北条条里制	館山市北条951ほか	12205 004	34度 59分 5秒	139度 52分 29秒	19981001~ 19981030	1,000m ²	
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
長須賀条里制	祭祀	弥生	旧河道	赤生土器(中期・後期), 石器, 木製品	旧河道には堰が築かれていた。多量の土器や木製品などが出土した。		
	祭祀	古墳	木橋・水路・土坑・水田・旧河道	土師器, 須恵器, 上製品, 石製品, 予持勾玉, 小玉類, 銅鏡, 木製品, 突口	水路から水田城に向かって、厚板を使った木橋が検出された。旧河道, 水路は全て多量の土器や土製品, 石製品などの祭祀遺物を伴う。古墳時代後半の製鉄関連遺物も出土した。		
	生産	奈良・平安	水田	土師器, 須恵器, 灰釉陶器	条里型水田の畦壁が検出された。		
	生産 集落跡	中世	掘立柱建物跡・土坑・ 畝状遺構	貿易陶磁器, 国産陶磁器, 木製品, 砥石, 釣針, 錢貨, 土鍬, 輪用砥石	貿易陶磁器, 国産陶磁器とともに, まとまった量が出土している。軒用砥石も多い。		
北条条里制		古墳		土師器・土鍬			

千葉県文化財センター調査報告第474集
館山市長須賀条里制遺跡・北条条里制遺跡
——国道410号(北条)埋蔵文化財調査報告書1——

平成16年3月25日発行

編 集 財団法人 千葉県文化財センター
発 行 千葉 県 土木部
千葉市中央区市場町1-1
財団法人 千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809-2
印 刷 株式会社 集 贊 舍
千葉市中央区生実町2498-8